



DIAVEL

オーナーズマニュアル

日本語

DIVEL
1260 *Lamborghini*

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要 7

安全性ガイドライン 7

本マニュアルで使用されている警告シンボル 8

用途 9

ライダーの義務 10

ライダーの教育 11

服装 12

安全のための"ベストプラクティス" 13

燃料の補給 15

最大積載時の運転 16

車両への積載に関する注意 16

危険物 - 警告 17

車両識別番号 19

エンジン識別番号 20

シリアル番号 21

インストルメントパネル(ダッシュボード) 22

インストルメントパネル 22

取扱説明書内で使用される頭字語および略語 27

技術用語集 27

機能ボタン 30

パラメーターの表示 32

主な機能とサブ機能 52

車両速度表示 53

ギア表示 55

エンジン回転数表示 56

時計 60

エンジンクーラント温度 61

燃料レベル 63

ライディングモード (RIDING MODE) 64

DTC 表示 71

ABS 表示 76

DWC 表示 80

DQS 表示 85

機能メニュー 87

オドメーター (TOT) 89

トリップメーター 1 (TRIP 1) 90

トリップメーター 2 (TRIP 2) 91

航続可能距離 (RANGE) 92

平均燃費 (CONS. AVG) 93

瞬間燃費 (CONS.) 95
平均スピード (SPEED AVG) 97
トリップタイム (TRIP TIME) 99
外気温 (T AIR) 101
設定メニュー (SETTING MENU) 103
設定メニュー - ライディングモード (RIDING MODE) 107
設定メニュー - ライディングモード - エンジン設定 (ENGINE) 110
設定メニュー - ライディングモード - DTC 設定 (DTC) 113
設定メニュー - ライディングモード - ABS の設定 (ABS) 116
設定メニュー - ライディングモード - DWC 設定 (DWC) 119
設定メニュー - ライディングモード - DQS 設定 (DQS) 122
設定メニュー - ライディングモード - 各ライディングモードの初期値の回復 (DEFAULT) 125
設定メニュー - ライディングモード - 初期値の回復 (ALL DEFAULT) 127
設定メニュー - 表示モード設定 (INFO MODE) 128
設定メニュー - ラップタイム (LAP) 131
設定メニュー - PIN コードの登録 (PIN CODE) 137
設定メニュー - PIN コードの変更 (PIN CODE) 141

設定メニュー - DRL モード設定 (DRL CONTROL) 146
設定メニュー - タイヤおよび減速比のキャリブレーション (TIRE CALIBRATION) 148
設定メニュー - バックライトの調整 (BACKLIGHT) 153
設定メニュー - 日付の設定 (DATE SET) 155
設定メニュー - 時間の設定 (CLOCK SET) 161
設定メニュー - サービス情報 (INFO SERTVICE) 165
設定メニュー - 単位の設定 (UNITS SETTING) 166
設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS) 172
設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 - アクセサリー (BLUETOOTH) 173
設定メニュー - 情報 (INFO) 184
ラップタイム (LAP TIME) 185
ローンチコントロール (DPL) ボタン 186
クルーズコントロール 194
インフォテインメント 197
メンテナンス表示 (SERVICE) 206
OIL SERVICE ゼロの表示 208
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示 209
OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示 210
ライトモード表示 (DRL) 211

サイドスタンドの状態の表示 212
注意 / 警告 (WARNING) 213
エラー表示 221
ライトコントロール 223
イモビライザーシステム 234
キー 235
アクティブキーのバッテリー交換 240
キーの複製 244
イモビライザ解除方法 245

運転時に必要なコマンド 248
コマンド類の配置 248
Hands Free システム 249
ハンドルバー左側スイッチ 262
クラッチレバー 266
ハンドルバー右側スイッチ 267
スロットルグリップ 269
フロントブレーキレバー 270
リアブレーキペダル 271
ギアチェンジペダル 272
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整 273

主要構成部品 / 装備 274

車両上の配置 274
燃料フィラープラグ 275
シートロック 276
サイドスタンド 278
パッセンジャーハンドル 280
Bluetooth コントロールユニット 281
フロントフォーカジャスター 283
リアショックアブソーバーアジャスター 285

運転の方法 287
慣らし運転の方法 287
走行前の点検事項 289
エンジンの始動 / 停止 292
車両の発進 296
ブレーキ操作 297
ABS システム 298
車両の停止 300
パーキング 301
燃料の補給 302
付属アクセサリー 304

主な整備作業とメンテナンス 305
エアフィルターの交換 305
クーラントレベルの点検および補充 306

クラッチ / ブレーキフルードレベルの点検	308	重量	344
ブレーキパッドの摩耗点検	310	サイズ	345
バッテリーの充電	311	補給	346
バッテリー充電の維持	316	エンジン	348
トランスマッisionチェーン張力の点検	318	タイミングシステム	349
チェーンの潤滑	320	性能データ	350
ハイビーム/ロービーム電球の交換	325	スパークプラグ	350
ヘッドライトの光軸調整	326	燃料供給	350
リアビューミラーの調整	328	ブレーキ	350
タイヤ	329	トランスマッision	351
エンジンオイルレベルの点検	331	フレーム	352
スパークプラグの清掃と交換	333	ホイール	352
車両の清掃	334	タイヤ	352
長期間の保管	336	サスペンション	352
重要注意事項	337	エキゾーストシステム	353
車両の運搬	338	カラーバリエーション	353
メンテナンスプログラム	339	エレクトリカルシステム	354
メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス	339	定期点検メモ	358
メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス	343	定期点検メモ	358
テクニカル仕様	344		

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様を ドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しめることと思います。

Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべ

ての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします（「定期点検メモ」参照）。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載さ

れているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーや他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中的「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

!**警告**

本モーターサイクルはオンロードと軽度のオフロードでの使用が可能です。程度の激しいオフロードでの走行は推奨されません。車両のコントロールを失い事故を招く危険が高くなります。

!**警告**

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

!**警告**

ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が440kgを超えないようにしてください。

!**警告**

パッセンジャーシートは中程度の速度で走行する近距離の移動においてのみご使用ください。

!**重要**

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告

事故が起ったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。



警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットはページ 10 に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要

! 慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告

! 運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子の "エンジン始動前の点検" の章で定める点検を必ず実施してください。

警告

! これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告

! エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要

! ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要

! 走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要

! パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要

! 私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

! 重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

! 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

! 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

! 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

! 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

!**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。

!**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

!**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

!**警告**

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

!**重要**

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

!**重要**

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

!**重要**

バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

!**重要**

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

!**警告**

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

"タイヤ" の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレングリコール)は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

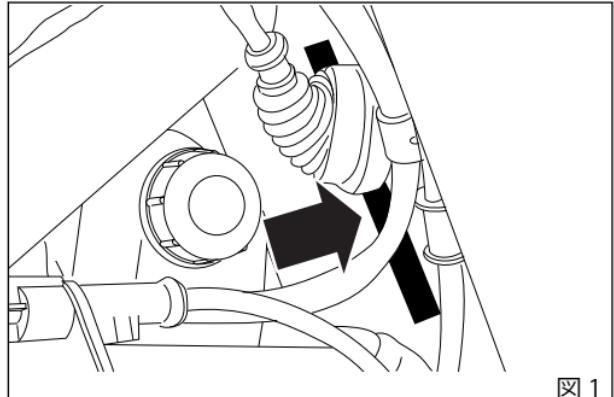
車両識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.



エンジン識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.

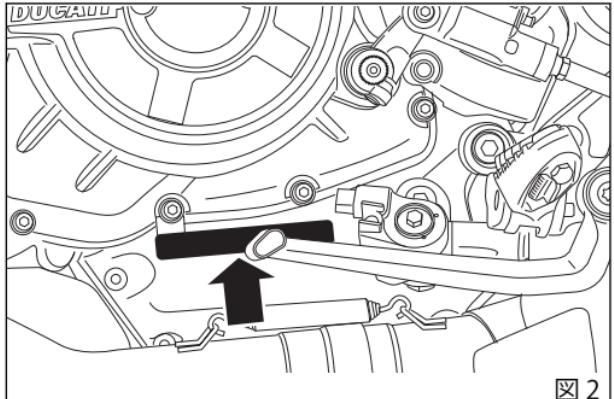


図 2

シリアル番号

本モデルはその特殊性から、限定数のみの生産となっております。

各モーターサイクルは車両右側のトレリスに印されているシリアル番号とモデル名で識別されています。

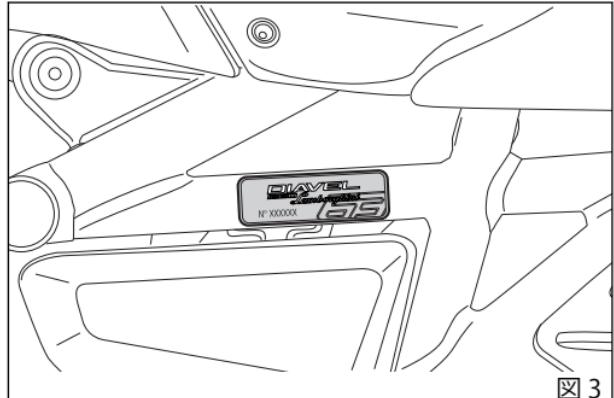


図 3

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ
- 2) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
- 3) クルーズコントロールランプ (緑)
クルーズコントロールシステムの作動時に点灯します。
- 4) ハイビーム表示灯 □ (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
- 5) リザーブ燃料警告灯 □ (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します(「補給」をご覧ください)。
- 6) ターンインジケーター表示灯 ⇄ (緑)
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
- 7) エンジンオイル圧警告灯 サ (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場

合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。



重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DTC ランプ (琥珀色)

DTC システムの起動または解除を表示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
DTS 機能作動中	初期化中または性能制限により、DTC は起動しているがまだ作動していない	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC は解除されているか作動していない
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
DTS 機能作動中	DTC は起動しているが、システムの異常により性能が制限されている	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC は解除されているか作動していない

9) "エンジン/車両診断 - MIL" ランプ  (琥珀色)

- エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。
- 警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能であれば Ducati 正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けでゆっくりと走行してください。

10) ABS ランプ (琥珀色)
ABS 機能の状態を示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	初期化中であるかIMU コントロールユニットに異常が発生したため、ABS は起動しているがまだ作動していない	ABS コントロールユニット不具合のため、ABS は解除され作動していない
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能作動中	ABS は起動しているが、IMU コントロールユニットが異常を検知	ABS コントロールユニット不具合のため、ABS は解除され作動していない

11) 一般的エラー警告灯 (琥珀色)
車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。

12) OVER REV / DTC 介入 / イモビライザー停止 (赤)

	DTC
介入なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

	Over rev
介入なし	ランプ OFF
第一起点値 (リミッタ ーに到達前 N RPM)	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅



エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF
車両 KEY-OFF	ランプ ON 点滅

1 時間以上車両 KEY-OFF	ランプ OFF
------------------	---------

13) DRL ランプ (緑)
DRL ステータスを示します。

	DRL
機能していない	ランプ OFF
機能している	ランプ ON
機能しているがエラー が存在する	ランプ ON 点滅



ディスプレイに“TRANSPORT MODE”的文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

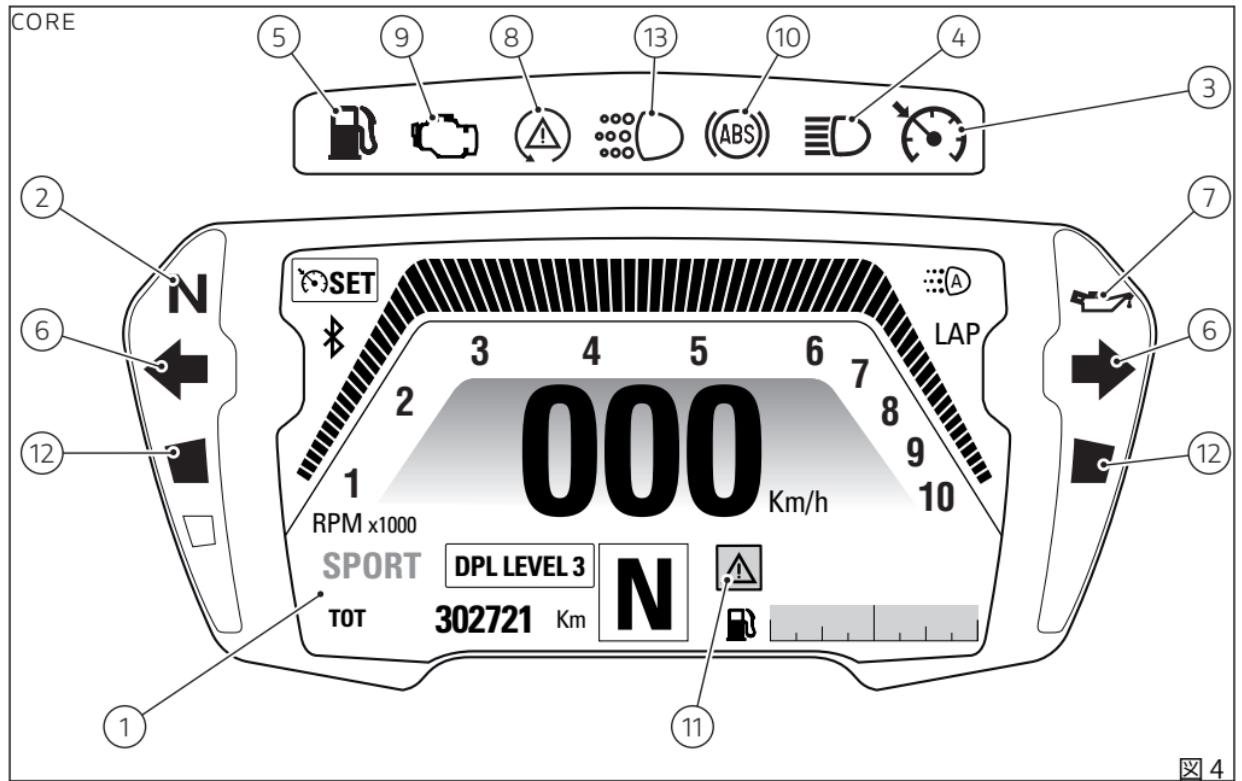


図 4

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

語

ABS

アンチロックブレーキシステム

BBS

ブラックボックスシステム

CAN

コントローラーエリアネットワーク

ECU

エンジンコントロールユニット

DPL

ドゥカティパワーローンチ

DQS

ドゥカティクイックシフト

DRL

デイタイムランニングライト

DSB

インストルメントパネル

DTC

ドゥカティトラクションコントロール

DWC

ドゥカティウィリーコントロール

IMU

慣性計測ユニット

LIN

ローカルインターネットワーク

技術用語集

Riding Mode

ライダーは3つの初期設定(ライディングモード)からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードからエンジン出力(パワーモード)、およびABS、DTCの各介入レベルを瞬時に変更することができます。

選択可能な設定は、SPORT、TOURING、URBANです。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

3つのパワーモードがあり、それがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ(RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エン

ジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。

ライドバイワイヤにより選択したライディングモード(パワーモード)に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ(EBC)のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御(DTC)に貢献します。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN機能を備えるDQSシステムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

ドゥカティウィリーコントロール (DWC)

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行いま

す。熟練ライダー専用のレベル1ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

Diavel 1260が搭載するABSは、バイクの直立走行中に車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。さらに、Diavel 1260が搭載するABSは「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。ブレーキング時の短い制動距離に加えて、可能な限り高い安定性を確保するために、Diavel 1260のABSは後輪のリフトアップ制御を実行します。

この機能には3通りのレベルが設定され、それぞれがひとつのライディングモードと連動しています。ABSシステムは解除が可能です。

慣性計測ユニット (IMU)

Diavel 1260 は慣性計測ユニット (IMU) を装備する Bosch 慣性センサーを搭載しています。IMU は車両の横傾斜角および縦傾斜角を継続して監視します。ABS とのインターフェースとして機能し、バイクのポジションに関係なくこれらのシステムが最大効率で動作できるようにします。

ドゥカティクルーズコントロール

Diavel 1260 は走行速度を一定に維持するドゥカティクルーズコントロールを搭載します。ギアを 2 速以上に入れて速度 50 Km/h (30 mph) ~ 200 Km/h (125 mph) で走行している状態で、システムを作動させることができます。

デスマドロミック可変タイミング (DVT)

DVT システムは、エンジン負荷と速度に応じて、カムシャフトの回転を調整してエキゾーストバルブとインテークバルブのタイミングを継続的に進角または遅角することで最善のタイミングに調節することができます。これにより低回転域においても最善のトルク曲線を実現し、あらゆる回転域での最大効率を確保しながら、高速走行時に極限の性能を発揮します。

ドゥカティパワーローンチ (DPL)

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能してくれます。

DPL システムは 3 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP "▲"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▲"。

2) コントロールボタン DOWN "▼"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▼"。

3) ランプ起動および切り替え (ハイビーム / ロービーム) ボタン (図 6)

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) メニュー決定 / 設定メニューに入るボタン

メニュー操作および決定に使用するボタン。

5) クルーズコントロールボタン ON/OFF

クルーズコントロール機能の起動 / 解除に使用するボタン。

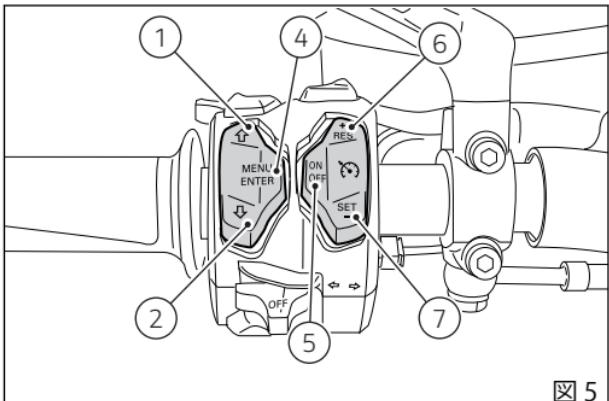


図 5

6) クルーズコントロールボタン RES (レジューム) / + (増速) (図 5)
クルーズコントロール機能の設定速度を増速する場合に使用するボタン。

7) クルーズコントロールボタン SET (設定) / + (減速) (図 5)
クルーズコントロール機能の速度を設定、および設定速度を減速する場合に使用するボタン。

8) ハザードボタン
4つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン (ハザード機能)。

9) DRL ボタン
このボタンで DRL ライトを起動 / 解除します。

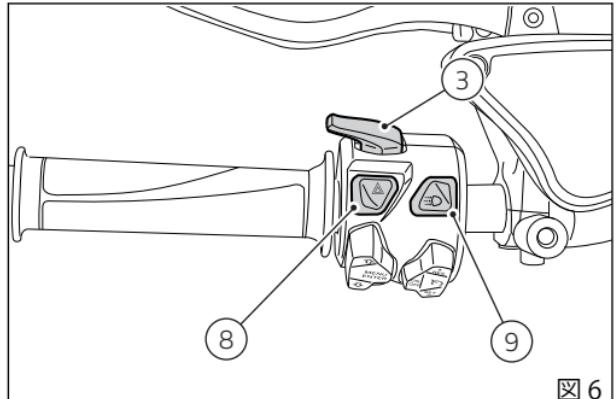


図 6

パラメーターの表示

起動時、インストルメントパネルにDUCATIのロゴが表示され、LEDランプが2ステップで点灯します（「初期点検」）。

点検が終了すると、インストルメントパネルはすべてのライディングモードにおいてデフォルト設定であるCOREモードでメイン画面を表示します。

表示モードは設定メニューのINFO MODE機能から変更することができます。

点検中に車両速度が10 km/h (6 mph) (実速度)を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

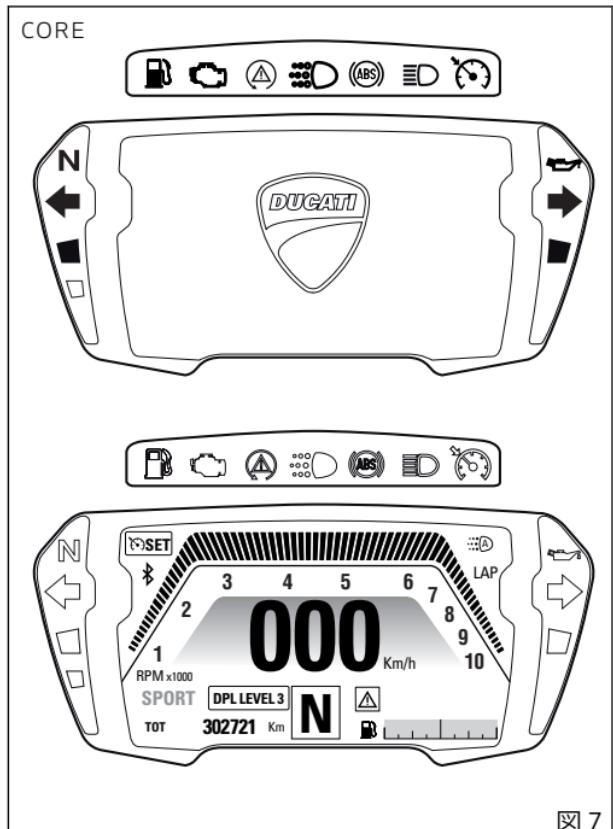
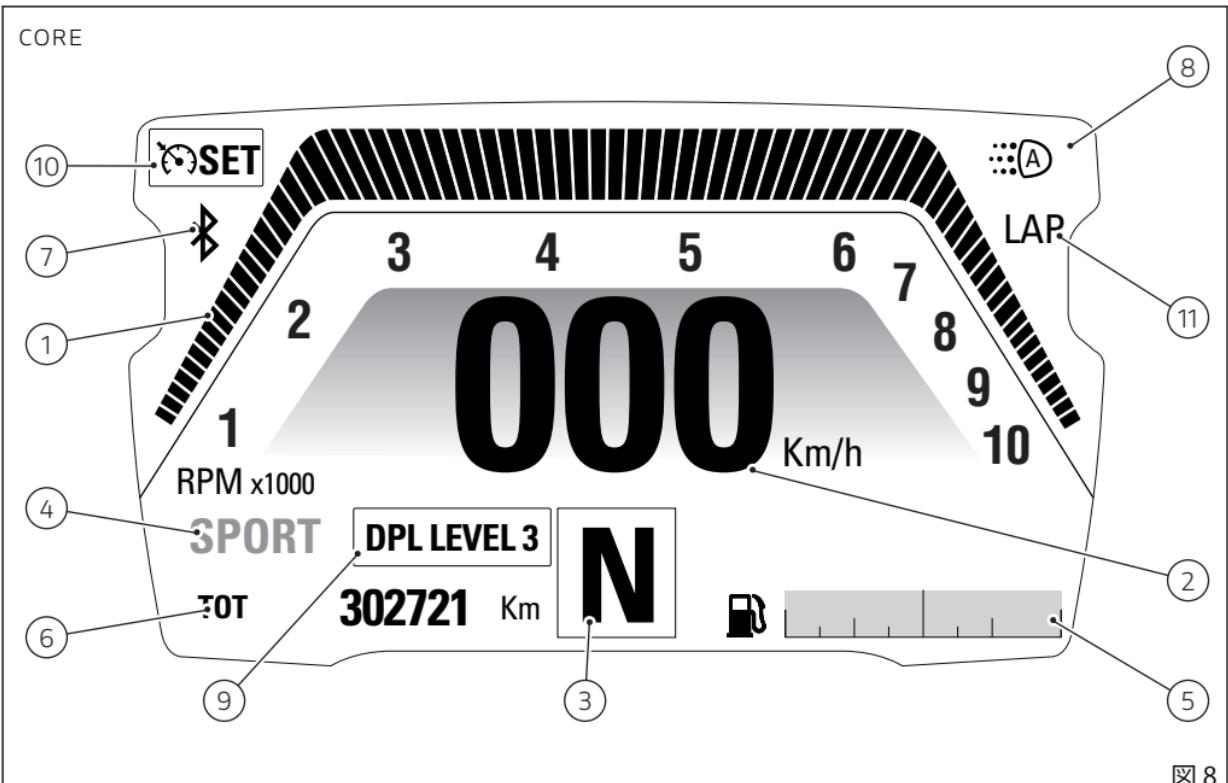


図 7

メインスクリーンのレイアウトには次の4種類があります。CORE、TRACK、FULL、CITY。

CORE表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) タコメーター (RPM)
- 2) 車両スピード
- 3) ギア表示
- 4) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 5) 燃料レベル
- 6) メニュー1：オドメーター、クーラント温度、トリップメーター1、トリップメーター2、航続可能距離、平均燃費、瞬間燃費、平均速度、トリップタイム、外気温
- 7) Bluetooth 表示
- 8) DRLステータス (オート / マニュアル)
- 9) DPL (ローンチコントロール) レベル表示：ローンチコントロール時のみ。
- 10) クルーズコントロール表示
- 11) LAP



TRACK表示モードのメインスクリーンには以下の情報
が表示されます。

- 1) タコメーター (RPM)
- 2) 車両スピード
- 3) ギア表示
- 4) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 5) ABS レベル
- 6) DTC レベル
- 7) DWC レベル
- 8) DQS ステータス
- 9)
- 10) メニュー 1: オドメーター、LAP (起動している場合のみ)、クーラント温度、トリップメーター 1、トリップメーター 2、航続可能距離、平均燃費、瞬間燃費、平均速度、トリップタイム、外気温
- 11) クルーズコントロール表示
- 12) Bluetooth 表示
- 13) DRL ステータス (オート / マニュアル)
- 14) DPL (ローンチコントロール) レベル表示: ローンチコントロール時のみ。
- 15) LAP

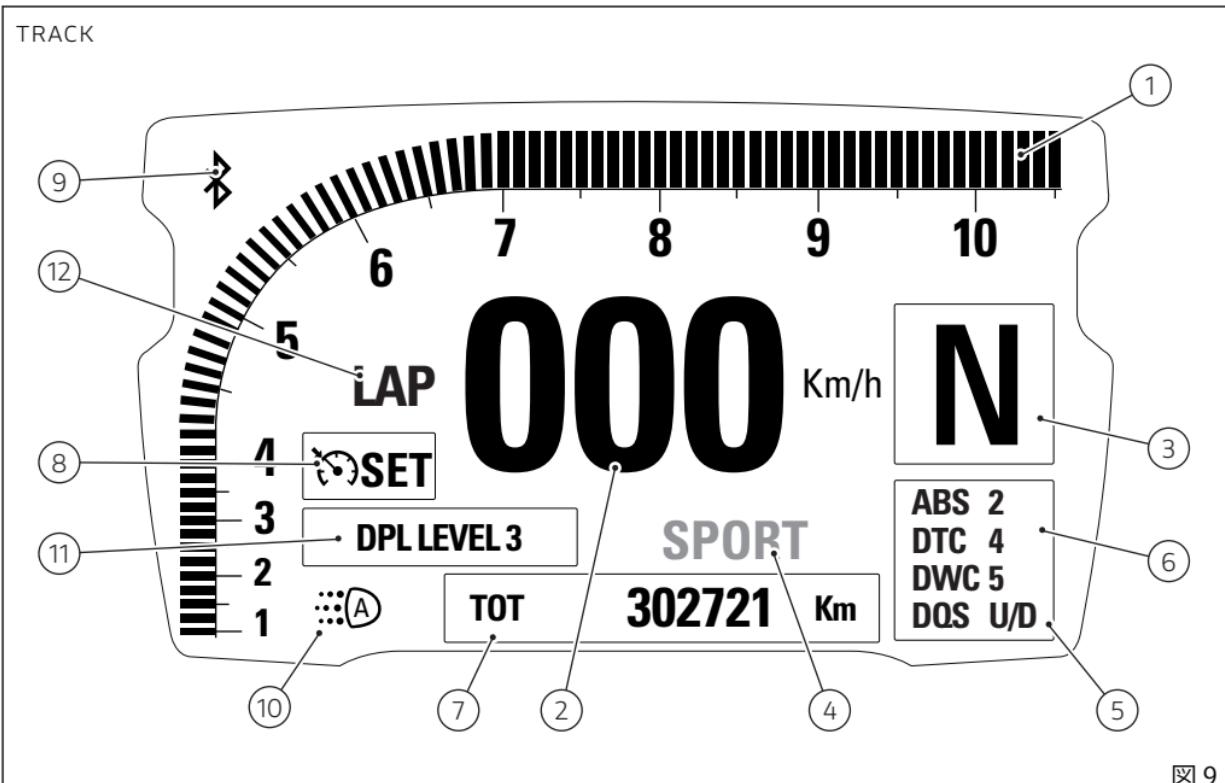


図 9

FULL 表示モードのメインスクリーンには以下の情報 15) LAP
が表示されます。

- 1) タコメーター (RPM)
- 2) 車両スピード
- 3) ギア表示
- 4) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 5) 燃料レベル
- 6) 時計
- 7) メニュー 1：オドメーター、クーラント温度、
プレイヤー On / Off (Bluetooth モジュールが搭
載されており、最低 1 台のスマートフォンが接
続されている場合のみ)、航続可能距離、トリッ
プメーター 1、トリップメーター 2
- 8) メニュー 2：平均燃費、瞬間燃費、平均速度、
トリップタイム、外気温
- 9) クルーズコントロール表示
- 10) Bluetooth 表示
- 11) インフォテインメント：スマートフォン接続、
ヘルメット 01 接続、ヘルメット 02 接続、ナビ
ゲーター接続
- 12) DRL ステータス (オート / マニュアル)
- 13) DPL (ローンチコントロール) レベル表示：ロー
ンチコントロール時のみ。
- 14) インフォテインメント：メッセージ受信、不在
着信

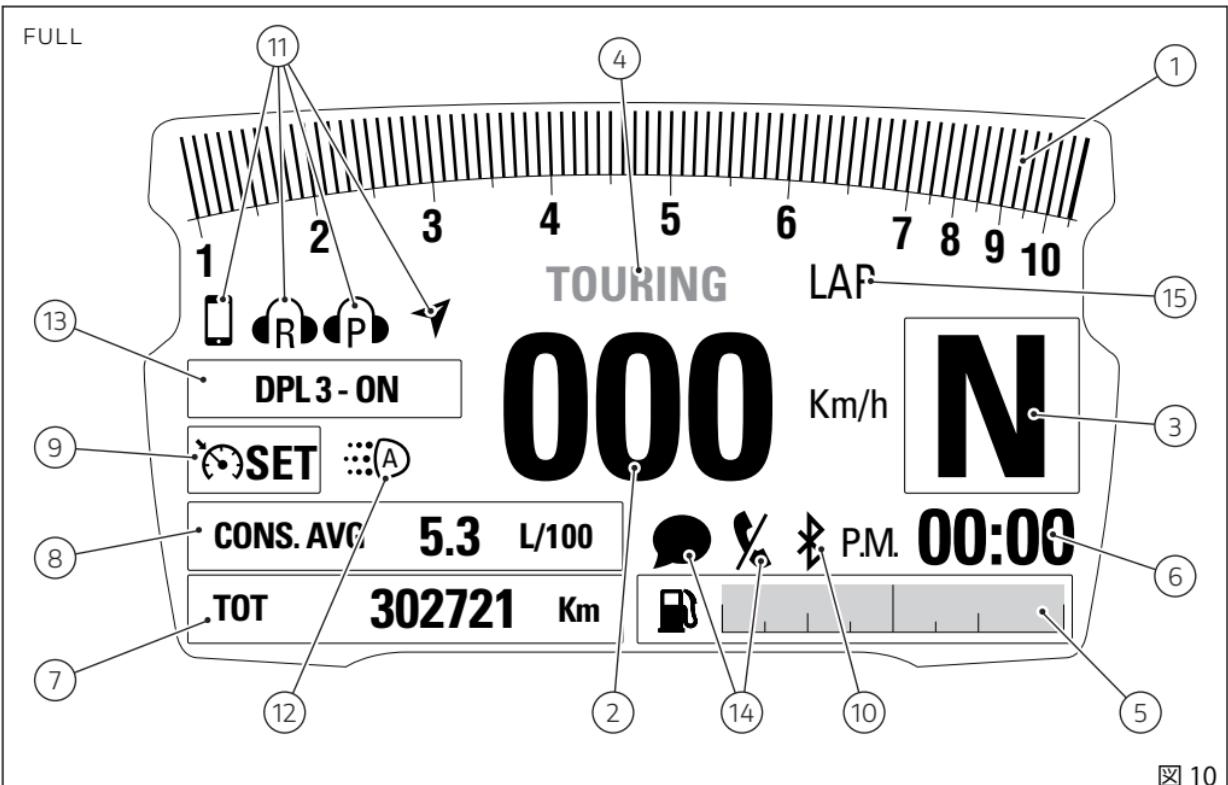


図 10

CITY表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) ギア表示
- 3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 4) 燃料レベル
- 5) 時計
- 6) メニュー 1：オドメーター、クーラント温度、プレーヤーON/OFF(Bluetoothモジュールが搭載されており、少なくとも1台のスマートフォンが接続されている場合のみ)、トリップメーター1、トリップメーター2、航続可能距離、平均燃費、瞬間燃費、平均速度、トリップタイム、外気温
- 7) Bluetooth 表示
- 8) インフォテインメント：スマートフォン接続、ヘルメット01接続、ヘルメット02接続、ナビゲーター接続、メッセージ受信、不在着信、プレーヤー+ボリューム、着信コール、トラック名
- 9) DRLステータス(オート/マニュアル)
- 10) クルーズコントロール表示
- 11) LAP

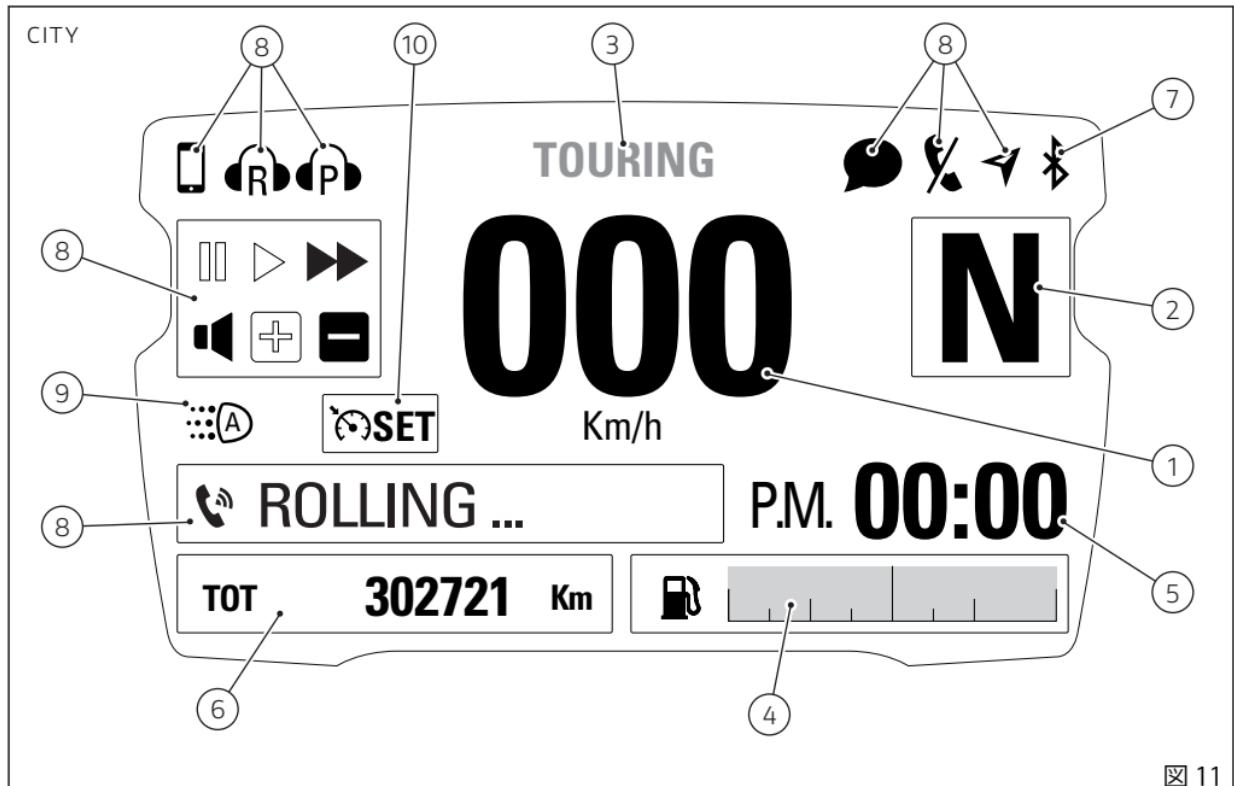


图 11

左側スイッチのボタン(1)を押すと、CORE モードの
メインスクリーンにメニュー1の情報を表示すること
ができます。

- オドメーター
- エンジンクーラント温度
- TRIP 1
- TRIP 2
- RANGE
- 平均燃費 (CONS AVG)
- 瞬間燃費 (CONS)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 外気温 (T-AIR)

CORE

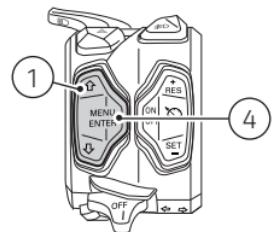


図 12

左側スイッチのボタン(1)を押すと、TRACK モードの
メインスクリーンにメニュー1の情報を表示すること
ができます。

- オドメーター
- ラップタイム (起動時のみ)
- エンジンクーラント温度
- TRIP 1
- TRIP 2
- RANGE
- 平均燃費 (CONS AVG)
- 瞬間燃費 (CONS)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 外気温 (T-AIR)

TRACK

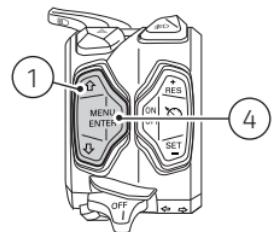
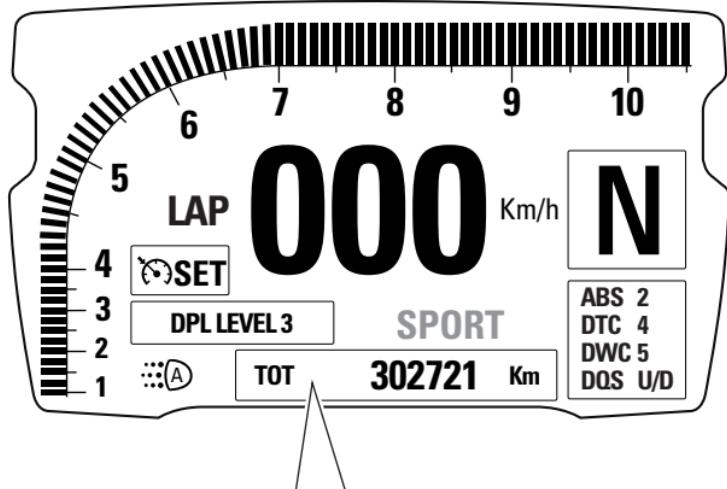


図 13

左側スイッチのボタン(1)を押すと、FULL モードのメインスクリーンにメニュー1の情報を表示することができます。

- オドメーター
- エンジンクーラント温度
- PLAYER ON/OFF (スマートフォン接続時のみ)
- RANGE
- TRIP 1
- TRIP 2

左側スイッチのボタン(2)を押すと、メニュー2の情報を表示することができます。

- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- トリップタイム
- 外気温 (T-AIR)

FULL

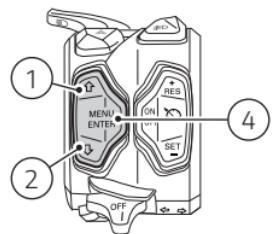
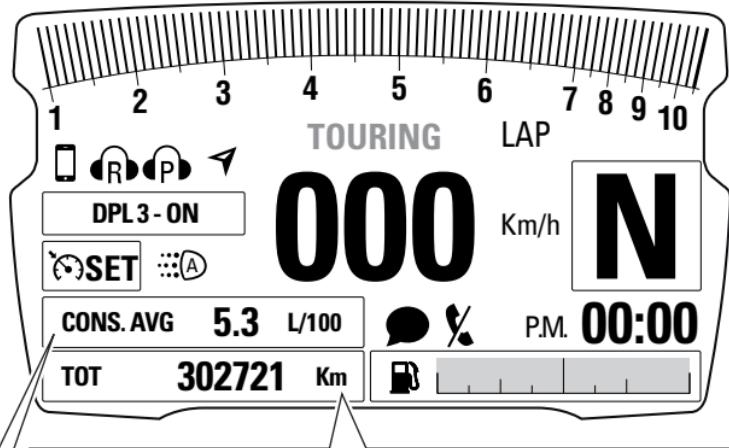
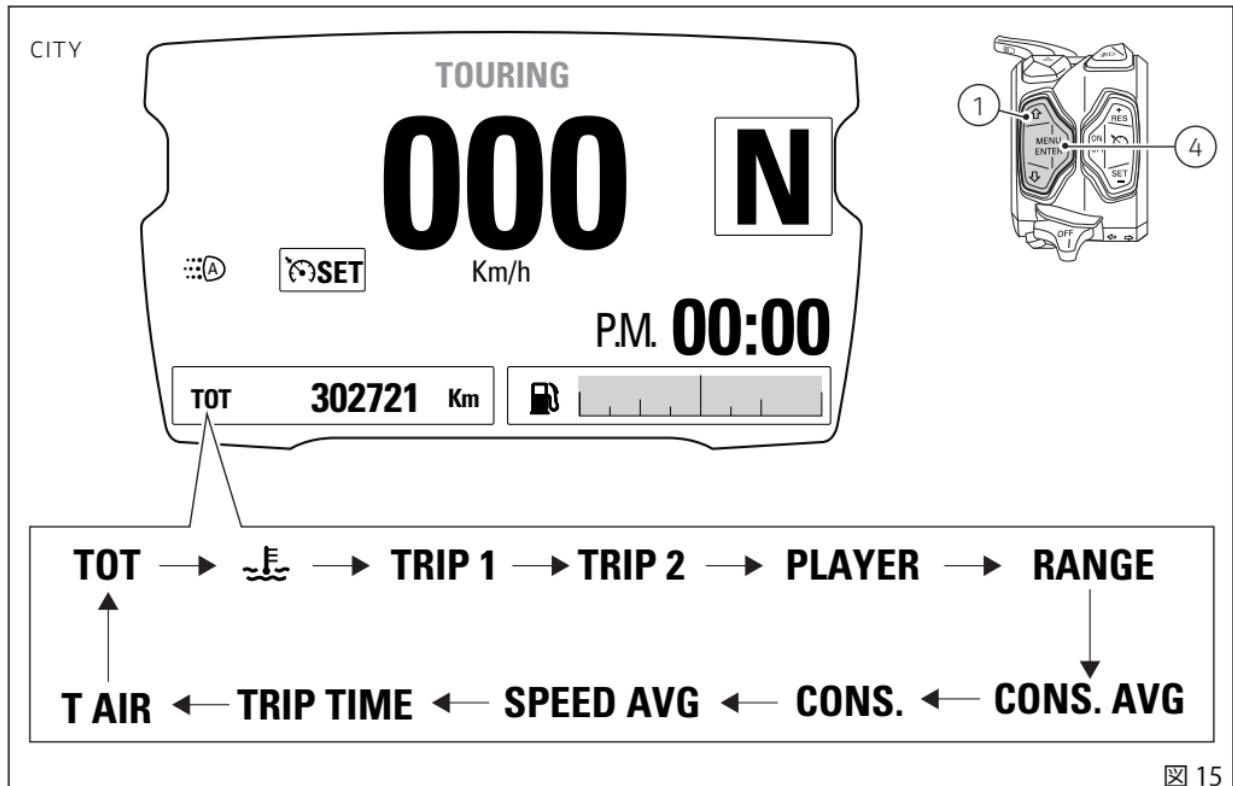


図 14

左側スイッチのボタン(1)を押すと、CITY モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター
- エンジンクーラント温度
- プレーヤー ON / OFF (Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ)
- TRIP 1
- TRIP 2
- RANGE
- 平均燃費 (CONS AVG)
- 瞬間燃費 (CONS)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 外気温 (T-AIR)



表示モード FULL では、インストルメントパネルに KEY-OFF 時に使用していたメニュー 1 とメニュー 2 の設定が記憶されます。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 およびメニュー 2 のページが表示されます。急な KEY-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合は、次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次のメニュー 1 とメニュー 2 のデフォルト設定が表示されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = TOT (オドメーター)
- メニュー 2 デフォルトページ = RANGE (航続可能距離)

表示モード CORE、TRACK、CITY では、インストルメントパネルに KEY-OFF 時に使用していたメニュー 1 の設定が記憶されます。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 のページが表示されます。急な KEY-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合、次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次のメニュー 1 のデフォルト設定が表示されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = TOT (オドメーター)。

設定モードのスタンダードスクリーンが表示されている時にボタン(4)を2秒間押すと、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。



参考

車両の実速度が5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、設定メニューに入ることができます。設定メニューが表示されているときに車両の実速度が5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、スタンダードスクリーンを表示します。

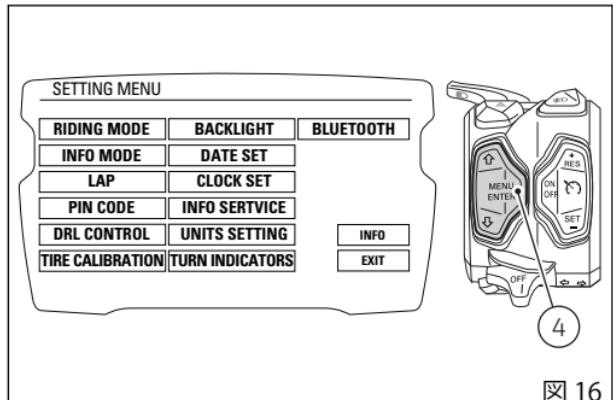


図 16

点検終了時にKEY-ON した時キーが認識されなかった場合、PIN CODE が有効になっていればロック解除コード PIN CODE を入力する画面が表示されます。ボタン(1)およびボタン(2)を使用してコードの各桁を入力し、(4)を押して決定します。

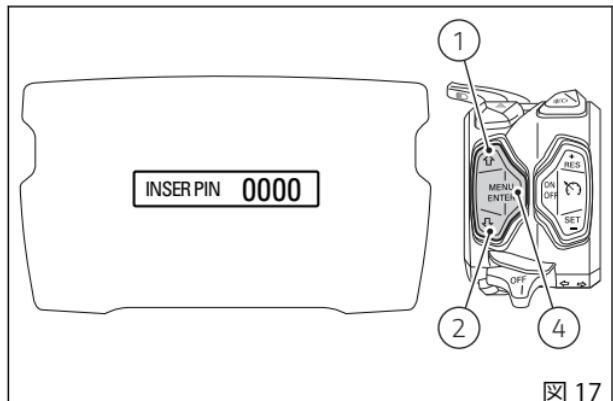


図 17

主な機能とサブ機能

選択した表示モード (CORE、TRACK、FULL、CITY) の
スタンダードスクリーンに表示される機能は以下の通りです。

メイン機能

- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- 燃料レベル
- ライディングモード (Riding Mode)
- ABS
- DTC
- DWC
- DQS
- ギア
- 時計
- メニューには以下の機能が表示されます。
 - オドメーター (TOT)
 - エンジンクーラント温度
 - 航続可能距離 (RANGE)
 - トリップメーター 1 (TRIP1)
 - トリップメーター 2 (TRIP2)
 - トリップタイム (TRIP TIME)
- 瞬間燃費 (CONS)
- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温

- ラップタイム (LAP time)

ラップタイム (起動時のみ)

プレーヤー ON / OFF (Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ)

サブ機能

- DRL ステータス
- DPL レベル
- インフォテインメント — Bluetooth
- クルーズコントロール
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告表示 (Warning)

車両速度表示

インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。

以下の場合には "----" と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h か 186 mph の場合、または インストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合 ("----" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("----" 点滅)

この機能の表示については CORE 表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY 表示モードでも CORE 表示モードと類似した表示になります。



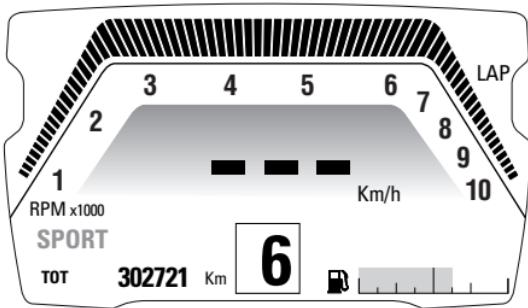
インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

CORE



186 mph

CORE



CORE



图 18

ギア表示

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。

ギアが挿入されている時は1から6の値が表示され、ニュートラルの時はNの文字が表示されます。

ギアの学習が実施されていない場合やインストルメントパネルがギアデータを受信できない場合は、"--"が点滅表示されます。

ギアセンサーホーラーの場合は、"--"が固定表示されます。

この機能の表示についてはCORE表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY表示モードでもCORE表示モードと類似した表示になります。

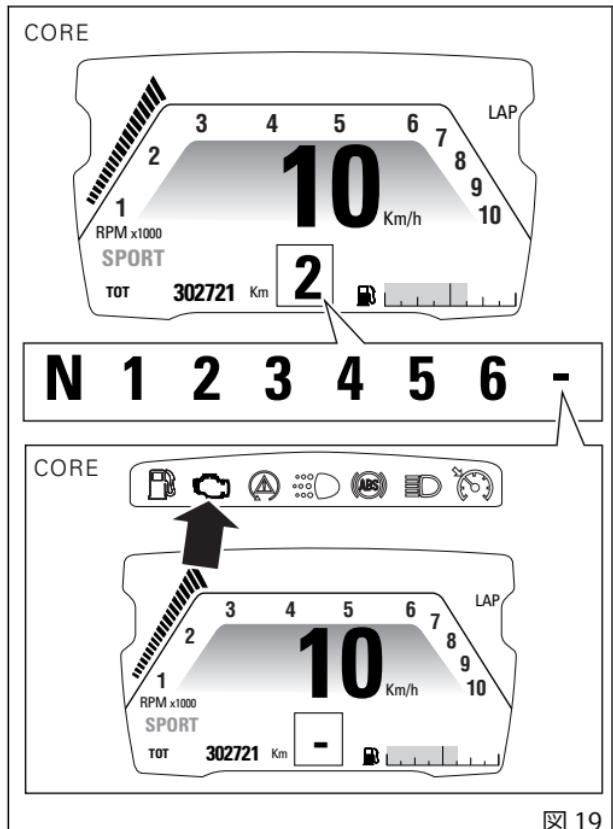


図 19

エンジン回転数表示

インストルメントパネルがエンジン回転数情報を受信すると、そのデータをディスプレイに棒グラフで表示します(表示モードがTRACK、FULL、COREの場合のみ)。データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフの目盛りと、千単位の数字(例えばRPMの値が"8000"以上の場合、数字"8"が大きい文字で表示)で表示されます。

回転数が9000から10000の場合(予告ゾーン)、棒グラフの目盛りと数字"9"がディスプレイにオレンジ色で表示されます(オレンジゾーン)。

回転数が10000から10500の場合(警告ゾーン)、棒グラフの目盛りと数字"10"がディスプレイに赤色で表示されます(レッドゾーン)。

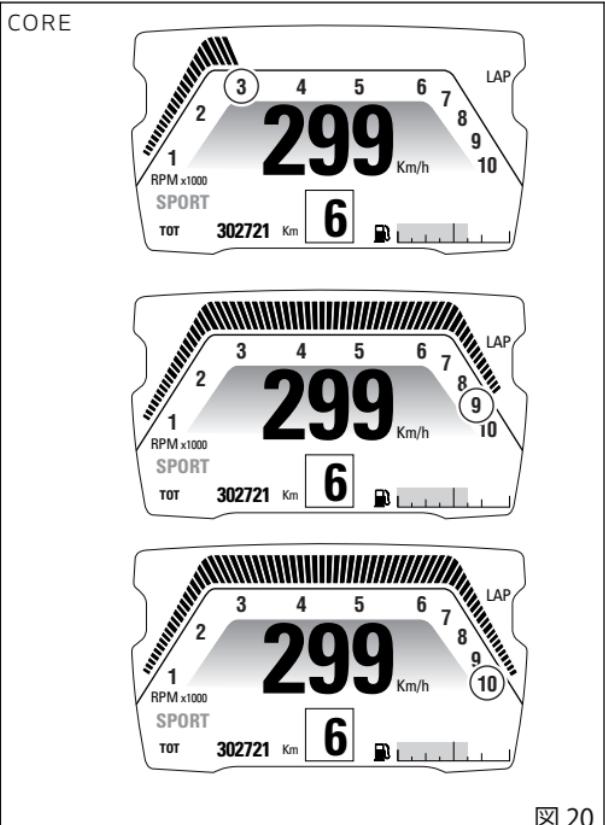


図 20

CORE 表示モードのエンジン回転数表示は TRACK および FULL 表示モードのエンジン回転数表示とは異なります。

CITY 表示モードにはエンジン回転数表示はありません。

FULL



TRACK



リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯が点灯します。

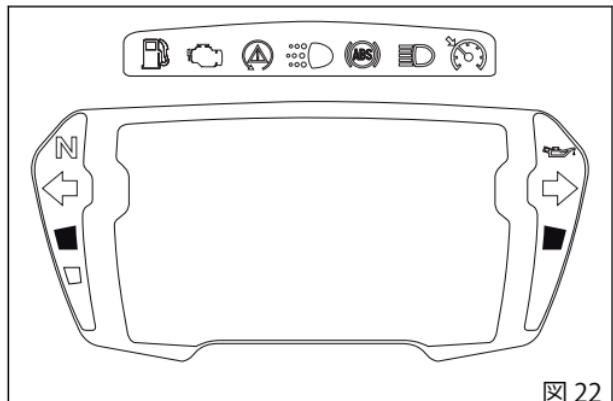


図 22

時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- hh (時間) : mm (分)
- "a.m."(12:00 から 11:59)、または "p.m."(12:00 から 11:59)。

電源供給が中断された場合 (Battery OFF) は、次回の Key-ON 時に 4 本の点線 "---" が表示され、設定メニューから時計が設定されるまで中央のコロンが点滅します。

この機能の表示については FULL 表示モードを例にあげています。CITY 表示モードでも FULL 表示モードと類似した表示になります。CORE 表示モードおよび TRACK 表示モードではこの機能は表示されません。

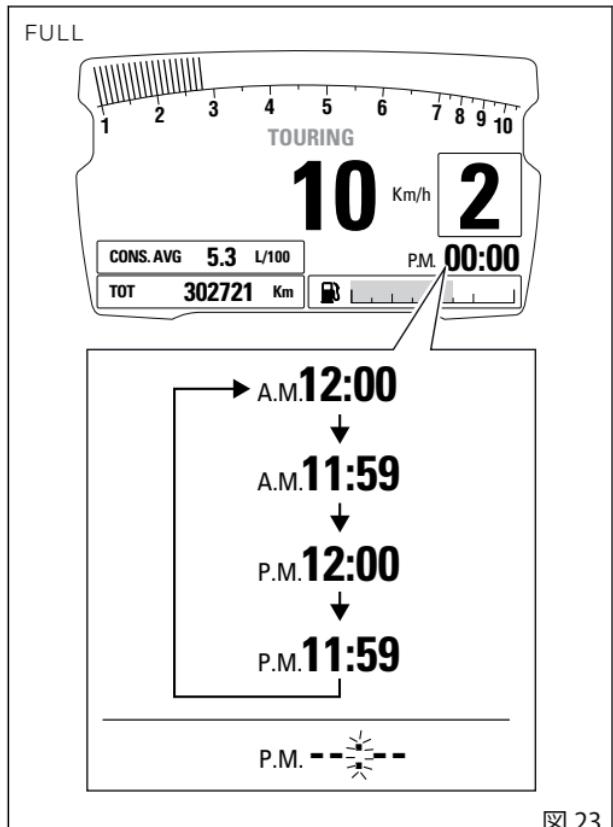


図 23

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報 (° C) を受信し、設定単位 (° C または ° F) に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ~ +120 ° C (+104 ° F ~ +248 ° F) です。

データが以下の場合：

- -40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、"---" が点滅表示されます。
- -39 ° C (-38 ° F) ~ +39 ° C (+102 ° F) の場合、"LOW" が点灯します。
- +40 ° C (+104 ° F) ~ +120 ° C (+248 ° F) の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、"HIGH" が赤色で点滅します。また、クーラント温度マークが赤色に点灯します。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に "---" が点滅表示されます。さらに MIL ランプが点灯します。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に "---" が固定表示されます。

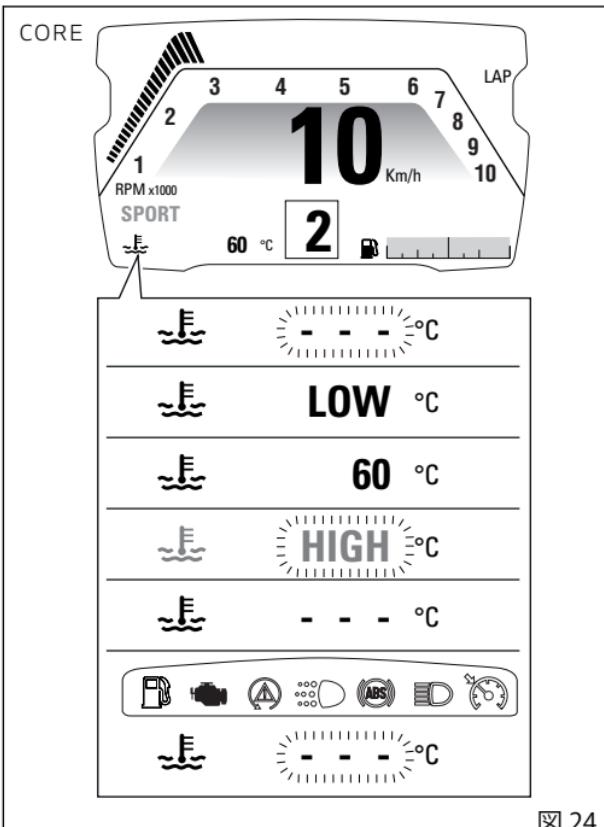


図 24



参考
インストルメントパネルが単位情報を受信でき
ない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。

燃料レベルが2目盛りまで下がるとリザーブランプが点灯します。また目盛りがオレンジ色に変わり、燃料ポンプマークがオレンジ色に点灯します。

レベルがさらに下がると、最後の目盛りが赤色に点滅し、燃料ポンプマークが赤色に点灯します。

この機能の表示についてはCORE表示モードを例にあげています。FULL、CITY表示モードでもCORE表示モードと類似した表示になります。TRACK表示モードではこの機能は表示されません。



レベルセンサーにエラーや異常が発生した場合、目盛りは表示されません。燃料ポンプマークが赤色に点滅し、燃料リザーブランプが点滅します。

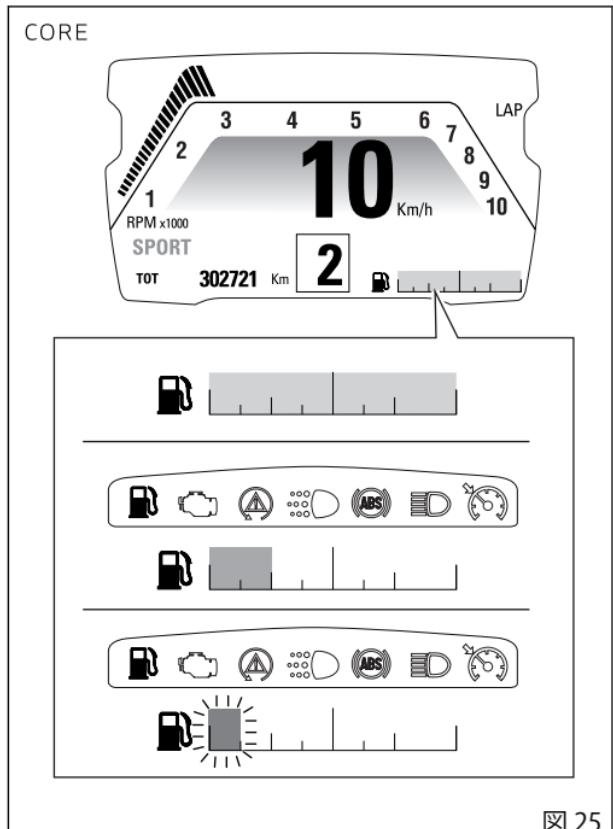


図 25

ライディングモード (RIDING MODE)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された次の3通りのライディングモード SPORT、TOURING、URBAN。

現在設定されているライディングモードはディスプレイに表示されます。この表示は4通りの表示モードすべてに共通します。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

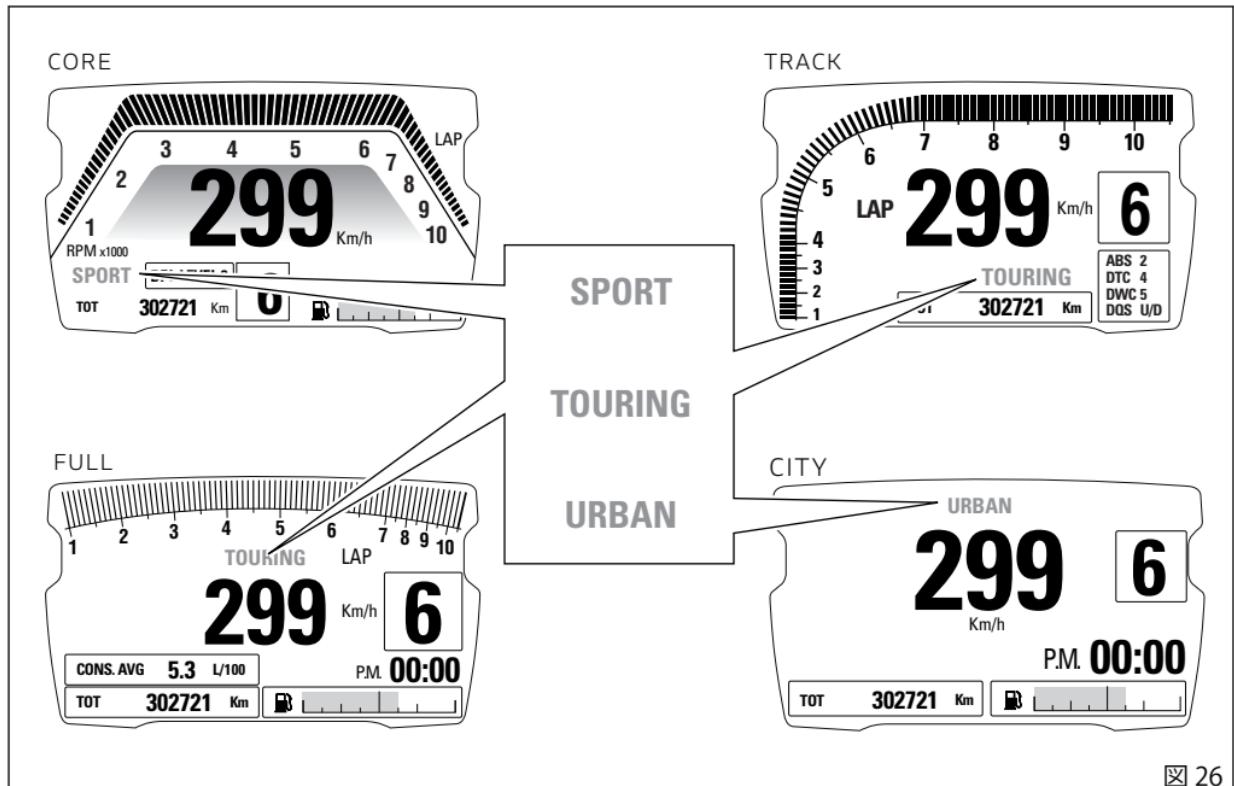
- スロットル作動を変更するエンジン出力 (HIGH、MED、LOW)
- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- ABS システムのキャリブレーション (1、2、3)
- DWC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- DQS システムのステータス (U/D、OFF)

各ライディングモードには情報を表示する4通りの表示モード (TRACK、FULL、CORE、CITY) が用意されています。これらの表示モードは設定機能ページから変更することができます。ドゥカティ社の初期設定モードは CORE 表示モードです。



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください (低速での変更をお勧めします)。



ライディングモードの選択

メニュー決定ボタン(4)を押し、ライディングモード選択メニューを表示します(A)。インストルメントパネルには速度が表示(ディスプレイの右側)されたまま、ライディングモード名(ディスプレイの左側)が表示されます。

- SPORT
- TOURING
- URBAN

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が強調表示されます。

強調表示されたライディングモードには、それに運動したいいくつかの以下のパラメーターに関連する情報が必ず表示されます。

- エンジン出力(ENGINE)："ENGINE"の文字に続いて設定エンジン出力(HIGH、MED、LOW)。
- DTCシステム：DTCシステムがONの場合は"DTC"の文字に続いて設定介入レベル(1、2、3、4、5、6、7、8)、DTCシステムがOFFの場合は"DTC"の文字に続いて"OFF"の文字。
- ABSシステム："ABS"の文字に続いてキャリブレーション設定レベル(1、2、3)。
- DWCシステム：DWCシステムがONの場合は"DWC"の文字に続いて設定介入レベル(1、2、3、

4、5、6、7、8)、DWCシステムがOFFの場合は"DWC"の文字に続いて"OFF"の文字。

- DQSシステム：DQSシステムがONの場合は"DQS"の文字に続いて設定ステータス(U/D、OFF)、DQSシステムがOFFの場合は"DQS"の文字に続いて"OFF"の文字。

メニュー決定ボタン(4)を押す度に、表示可能な関連するパラメーター(A、図27)と一緒にライディングモードが強調表示されます。

選択したいライディングモードが強調されたら(A、図27)、メニュー決定ボタン(4)を2秒間押し続け、希望のライディングモードを決定します。ライディングモードの変更が保存され、選択したライディングモードの標準画面(C、図27)に戻ります。

選択したいライディングモードが強調されても5秒以内にメニュー決定ボタン(4)を押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

CORE

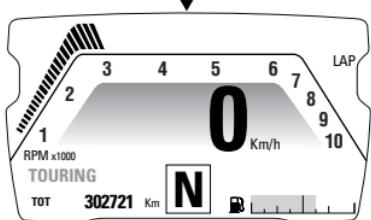
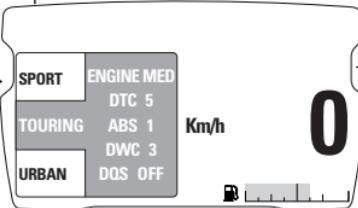
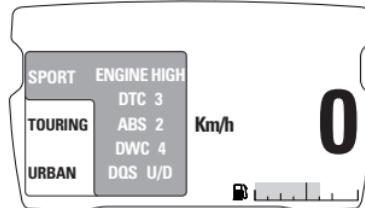
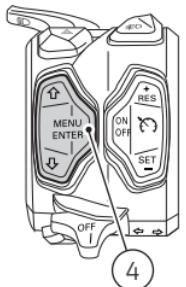
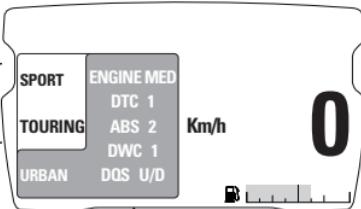
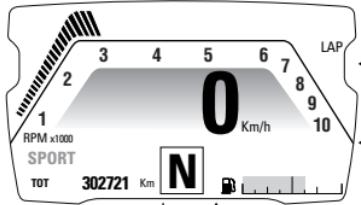


图 27

表示される情報は、各ライディングモード毎に記憶されている値です。保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがパーソナライズした値です。

ライディングモードの変更画面には、各ライディングモードに関連する情報(ENGINE、DTC、ABS、DWC、DQS)に加え、設定されている表示モードでは表示されない起動している他の機能も表示されます。例えば、燃料レベルはTRACK表示モードでは表示されませんが、ライディングモード変更画面では表示されます。

次の情報を見ることができます。

- 燃料レベル (L)
- DRL ライトのステータス (D) : DRL ライトが起動している場合に表示
- クルーズコントロールのステータス (E) : クルーズコントロール機能が起動している場合にのみ表示
- サービス表示 (F) : サービス機能 (OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE) のいずれかが起動している場合にのみ表示
- インフォテインメント表示(通話 / トランク)(G) : Bluetooth 機能が搭載されており、起動している場合にのみ表示

- インフォテインメント表示(ペアリングデバイス)(H) : Bluetooth 機能が搭載されており、起動している場合にのみ表示

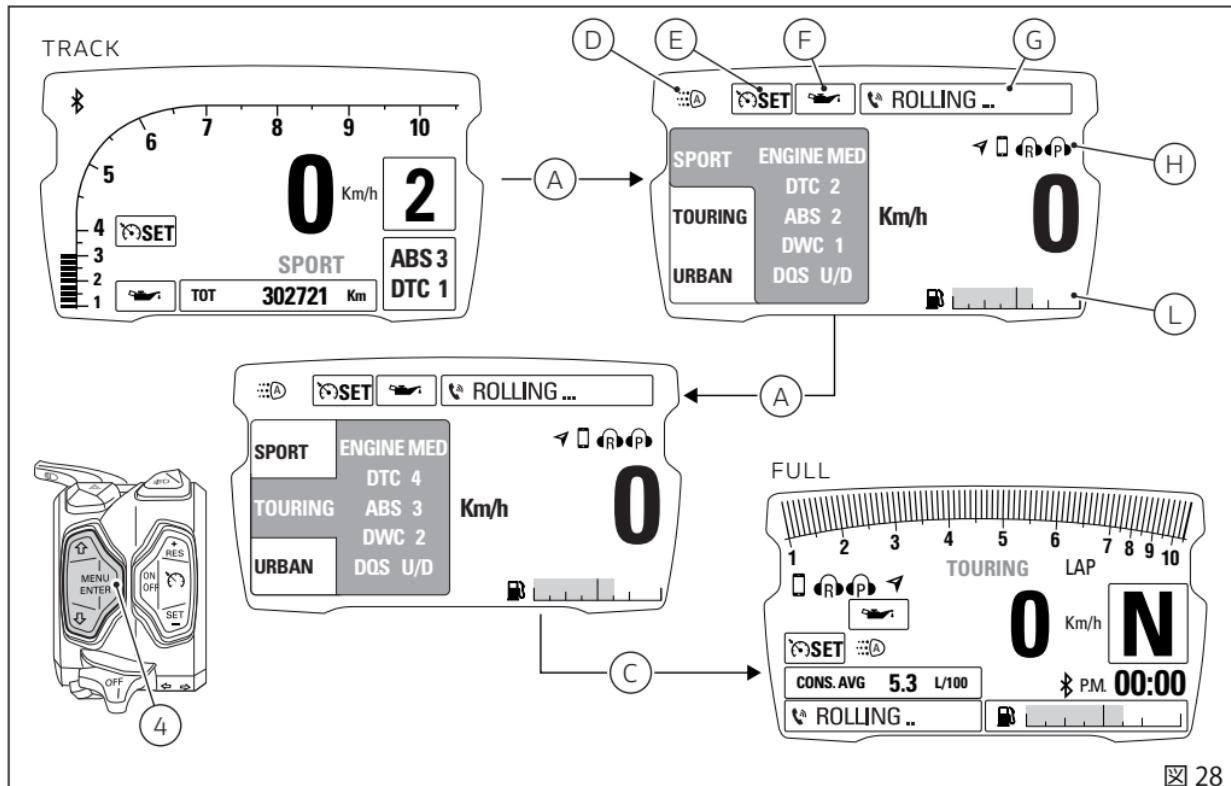


图 28

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

- 停車している場合、インストルメントパネルはスロットルコントロールが閉じているか開いているかどうかのみを確認し、必要に応じて "CLOSE THROTTLE" (スロットルを閉じてください) と表示します。
- 車両が動いている場合、インストルメントパネルはスロットルコントロールが開いているか閉じているかどうか、またはブレーキが踏み込まれているかどうかを確認します。この場合は、"CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES" (スロットルを閉じてブレーキを放してください)、"CLOSE THROTTLE" (スロットルを閉じてください)、あるいは"RELEASE BRAKES" (ブレーキを放してください) のいずれかのメッセージが表示されます。

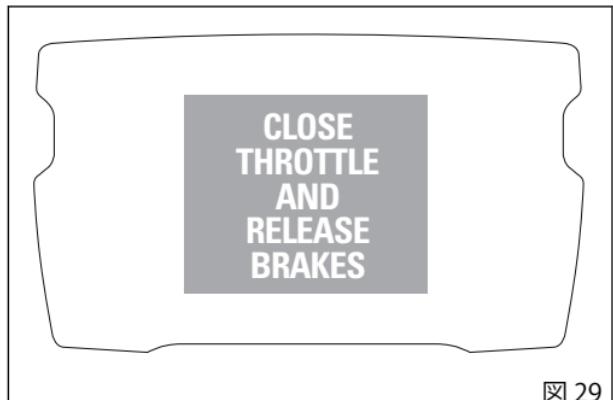


図 29

DTC 表示

インストルメントパネルはディスプレイにDTC機能の状態を以下のように表示します。

- DTCがONの場合、DTCの文字とトラクションコントロール介入レベル1から8までの数値
- DTCがONの時に異常が発生したためシステムが機能制限モードである場合は、"DTC"の文字とトラクションコントロール介入レベル1から8までの数値(点滅)、さらにDTCランプが点滅します。
- DTCがOFFの場合、DTC OFFの文字
- システムに異常が発生した場合は、"DTC"の文字と介入レベル1から8までの数値(オレンジ色)

DTC機能の状態はTRACK表示モードでのみ表示されます。

DTCのエラーもしくはBlack Boxエラーの場合は、インストルメントパネルは"DTC Err"の文字を表示し、DTCランプを点灯します。

! 警告

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

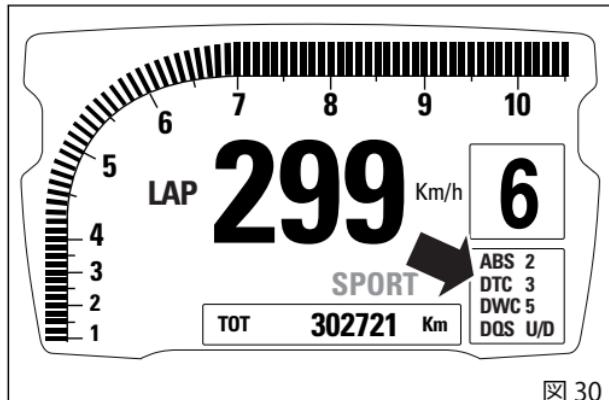


図 30



警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時、オフロード走行時のすべてにおいて使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で

確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたる、合理的に許容されるスピードを超えたるするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
OFF			
1	SPORT	非常に熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	NO
2	SPORT	熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	NO
3	SPORT	中程度に熟練したライダー向けスポーツ走行。スキッドします。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
4	TOURING	高速ツーリングドライブ用。	ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル
5	TOURING	ツーリングドライブ用。	NO
6	URBAN	あらゆる種類の行程での "セーフティドライブ" 用。	ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル
7	RAIN	若干濡れた路面または湿った路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用を推奨。	NO
8	HEAVY RAIN	濡れた路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用を推奨。	NO

レベルの選択に際しての注意事項



警告

お客様の車両のDTCシステムの全レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤで実施されたものです。フロント：TL PIRELLI Diablo Rosso III D、サイズ120/70 ZR17 M/C (58W)、リア：TL PIRELLI Diablo Rosso III、サイズ 240/45 ZR17 M/C (82W)。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ(フロント=120/70-17-リア=240/45-17)など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには選択可能なレベルから適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システムの機能が影響を受けるため、設定可能な8レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル8を選択すると、DTCシステムはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、その他に中間の介入レベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。

レベル1、2、3ではリアタイヤをスピンやスキッドさせることができます。これらのレベルは熟練ライダーにのみ推奨されます。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/アスファルトのグリップ(タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) レイアウト/行程(類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
- 3) ライディングスタイル(より"スムーズ"に、またはより"シャープ"に)

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述の一般道での使用時のアドバイスを参照)。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当なDTC介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

乾いた一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 5、4 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル 5 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 4 に、レベル 5 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6 に変更します)。

濡れた一般道での使用時のアドバイス

若干濡れた一般道または湿った一般道ではレベル 7、濡れた一般道ではレベル 8 の使用が推奨されます。同時に ENGINE LOW レベルを選択してください。

ABS 表示

車両には ABS システムが搭載されています。インストルメントパネルは ABS ランプを消灯、点滅、点灯させて ABS 機能のステータス (ON または OFF) を表示します。

インストルメントパネルの表示：

- ABS が ON の場合、"ABS" の文字と設定介入レベル 1 から 3 までの数値 (固定表示)
- ABS が ON の時に異常が発生したため ('コーナリング' 機能がない) システムが機能制限モードである場合は、"ABS" の文字と ABS 介入レベル 1 から 3 までの数値 (点滅)、さらに ABS ランプ点滅
- システムに異常が発生した場合は、"ABS" の文字と介入レベルの数値 (オレンジ色)

ABS 機能の状態は TRACK 表示モードでのみ表示されます。

ABS エラーの場合は、インストルメントパネルは "ABS Err" の文字を表示し、ABS ランプを点灯します。

警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだ

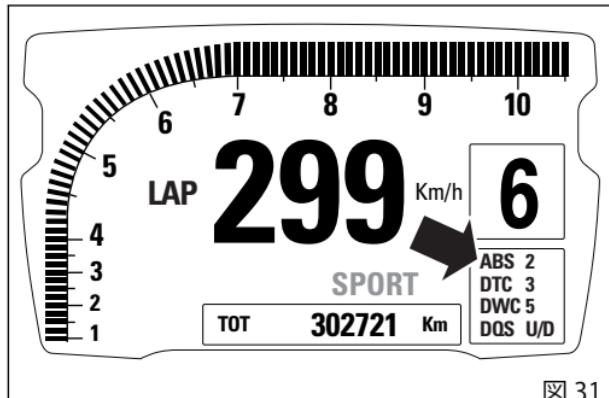


図 31

り事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイー

ルを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Diavel 1260が搭載するABSは、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABSには3通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

さらに、Diavel 1260が搭載するABSは「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は、ABSレベル2および3で作動します。

Diavel 1260のABS設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。これは、レベル2および3で作動します。

警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適したABSレベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
1	EXPERT	このレベルは特に熟練したライダー向けに設計されています。このレベルでは、ABSはフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、コーナリング機能は作動しません。	
2	SPORT	このレベルはグリップの良い路面での走行用に設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能が作動し、リフトアップを制御します。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先されます。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
3	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。このキャリブレーションにおいては車両の安定性が優先されます。	ライディングモード "TOURING" および "URBAN" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適な動作が保証されるものです。特に、標準装備タイヤは、フロントが TL PIRELLI Diablo Rosso III D (120/70 ZR17 M/C (58W))、リアが TL PIRELLI Diablo Rosso III (240/45 ZR17 M/C (82W)) です。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムは非常に安定したブレーキングとリフトアップ制御も行い、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。レベル3において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

レベル2を選択すると、ABSシステムは安定性より制動力を優先させます。レベル2において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能によ

り、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

ABSシステムのレベル1の使用は極めて熟練したライダー向けになります。パフォーマンスを重視してABSはフロントホイールにのみ作用します。このレベルではリフトアップ制御およびコーナリング機能は作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル3の使用が推奨されます。

DWC 表示

インストルメントパネルはディスプレイに DWC 機能の状態を以下のように表示します。

- DWC が ON の場合、"DWC" の文字と設定介入レベル 1 から 8 までの数値。
- DWC が ON の時に機能制限モードである場合は、"DWC" の文字と数値が点滅、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、が点滅します。
- DWC エラーの場合は、"DTC" の文字と "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、が点灯します。
- DWC が OFF の場合、"DWC" と "OFF" の文字。

!**警告**

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

○**参考**

DTC が OFF に設定されている場合は、DWC も強制的に OFF に設定されます。

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじ

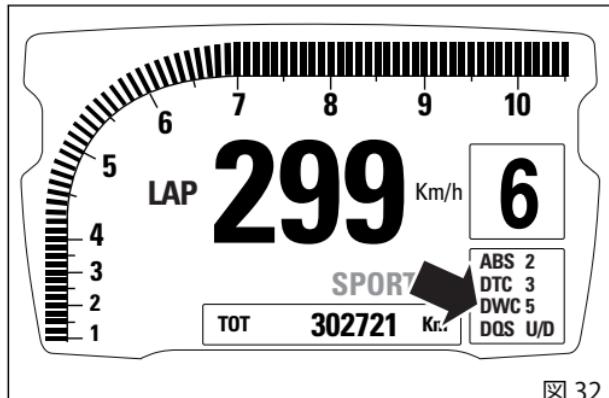


図 32

め設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。



警告

DWCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサークット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく扱うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたとき、合理的に許容されるスピードを超えたときのような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDWC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC レベル	用途		DEFAULT
OFF		DWC システム解除	NO
1	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けレベル。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	PERFORMANCE	熟練ライダー向けレベル。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
3	SPORT	熟練ライダー向けレベル。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
4	SPORT	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	NO
5	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル

DWC レベル	用途	DEFAULT
6	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を抑え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行います。
7	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を抑え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行います。
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは ウィリーが発生する傾向を最小限に抑 え、 ウィリー発生時には大幅な介入を行 います。

レベルの選択に際しての注意事項

!**警告**

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比および標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

DWCのレベル8を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル8からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2、3ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験

- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2、3を適切に利用するためには高い能力が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必要があります。逆に高速の行程などではより高いレベルを選択することが可能です。

一般道での使用時のアドバイス

DWCを起動した後、レベル8を選択し、好みのスタイルで運転します。DWCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを7、6と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル7ではDWCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7ではDWCの介入が全くないと感じる場合はレベル8に変更します)。

DQS 表示

インストルメントパネルはディスプレイにDQS機能の状態を以下のように表示します。

- DQSシステムが起動している場合は、シフトチェンジを "DQS U/D" の文字で示します。
- DQSシステムが機能制限モードにある場合は、シフトチェンジの "DQS U/D" の文字が点滅します。
- DQSシステムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合は、"DQS Err" の文字が赤色で表示されます。
- DQSシステムが解除されている場合は、"DQS OFF" の文字で示されます。

UP/DOWN機能を備えるDQSシステムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

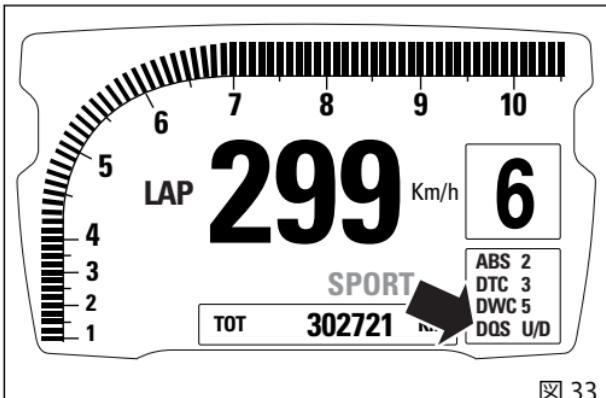


図 33

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。
ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。
- ギアをチェンジする時(シフトアップまたはシフトダウン)は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギ

- アレンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。
- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。
 - クラッチレバーを引いているときは、ドゥカティクイックシフトは作動しません。
 - スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
 - 万ードゥカティクイックシフトのストラテジーが正常に作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
 - ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に 30 秒以上押し続けると(誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、ペダルを放してインストルメントパネルを一旦切り、5 秒待ってからもう一度起動してください。
 - ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数 2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。
- クルーズコントロールシステムの作動中は、DQS システムによるシフトダウンはできません。

機能メニュー

3種類のライディングモード設定(SPORT、TOURING、URBAN)のそれぞれについて、メニュー機能が以下の4種類の表示モードのいずれかで表示されます。

- CORE
- TRACK
- FULL
- CITY

機能は以下の通りです。

- オドメーター (TOT)
- エンジンクーラント温度
- 航続可能距離 (RANGE)
- トリップメーター 1 (TRIP1)
- トリップメーター 2 (TRIP2)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 瞬間燃費 (CONS)
- 平均燃費 (CONS AVG)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温
- ラップタイム (LAP time) (起動時のみ)
- ラップタイム (起動時のみ)
- プレーヤー ON / OFF (Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも1台のスマートフォンが接続されている場合のみ)

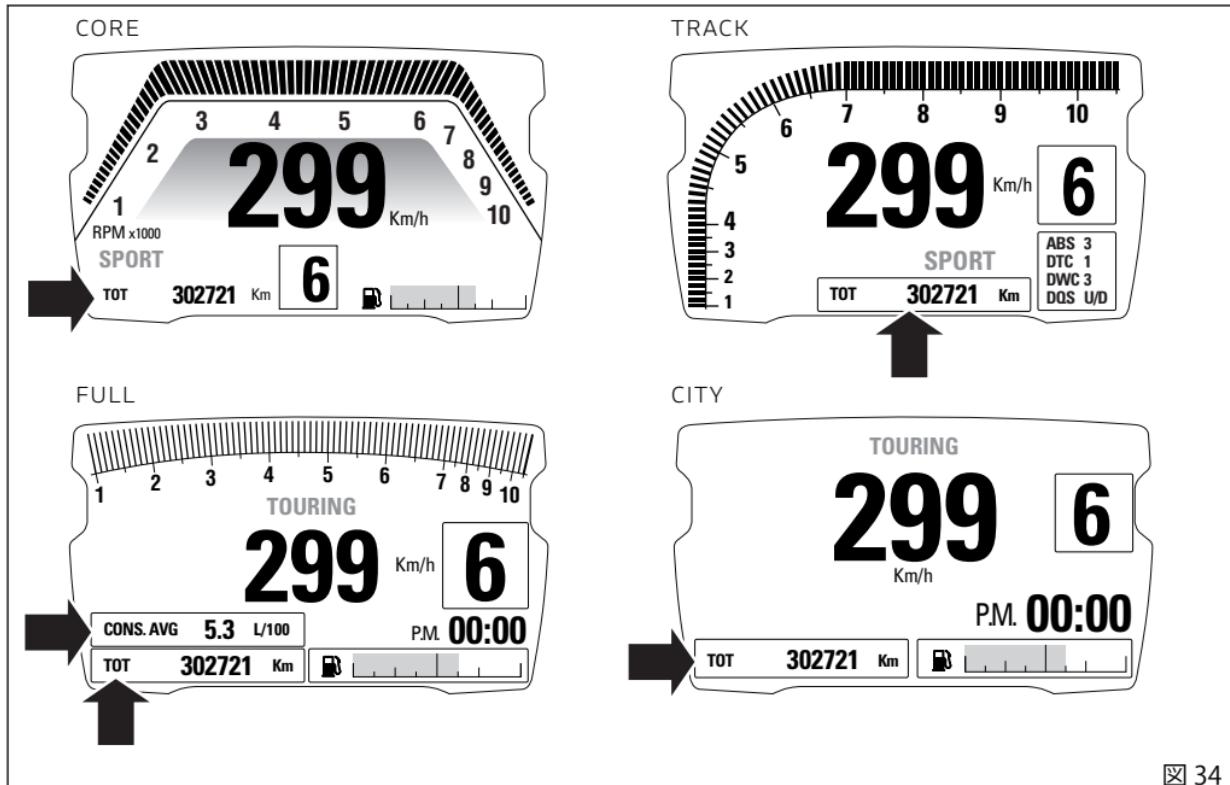


図 34

オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

オドメーターに対応する数値(キロまたはマイル)は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値(199999 km または 199999 mi)に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。

オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

この機能の表示については CORE 表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY 表示モードでも CORE 表示モードと類似した表示になります。

電源の供給が中断(バッテリー OFF)してもデータは消去されません。



オドメーター機能で点線 "----" が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

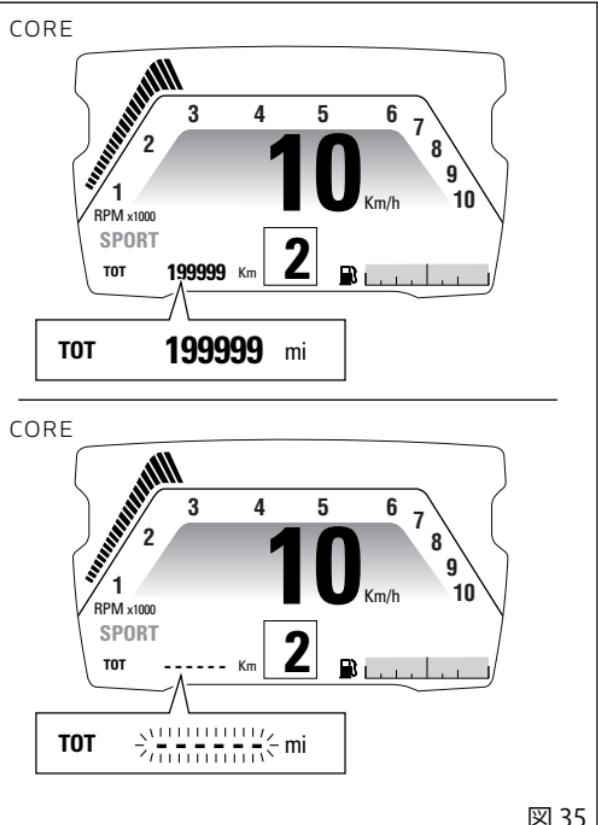


図 35

トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP1に対応する数値(キロまたはマイル)は、TRIP1の文字と単位で表示されます。

データが最大値9999.9 kmまたは9999.9 miを超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(1)を2秒間押すと、TRIP1のデータがリセットされます。TRIP1がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

この機能の表示についてはCORE表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY表示モードでもCORE表示モードと類似した表示になります。

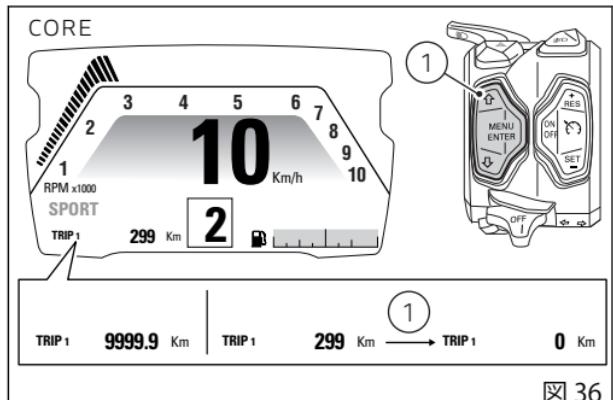


図 36

TRIP1のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。TRIP2に対応する数値(キロまたはマイル)は、TRIP2の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(1)を 2 秒間押すと、TRIP 2 のデータがリセットされます。

TRIP2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

この機能の表示については CORE 表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY 表示モードでも CORE 表示モードと類似した表示になります。

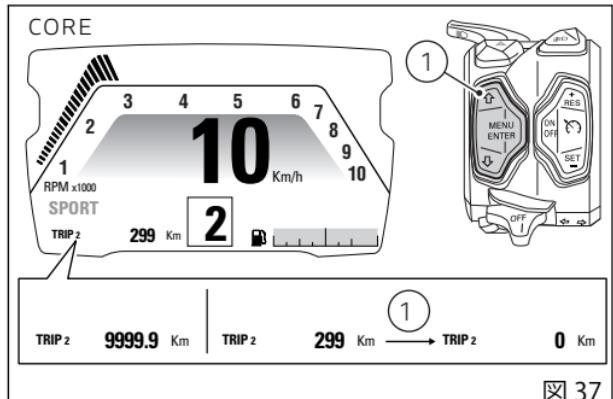


図 37

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料で走行できる航続可能距離を表示します。

データは "RANGE" の文字と設定単位で表示されます。この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは "---" を点滅させます。

インストルメントパネルが RANGE データを受信できない場合は、単位と共に "---" が固定表示されます。



参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

この機能の表示については CORE 表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY 表示モードでも CORE 表示モードと類似した表示になります。

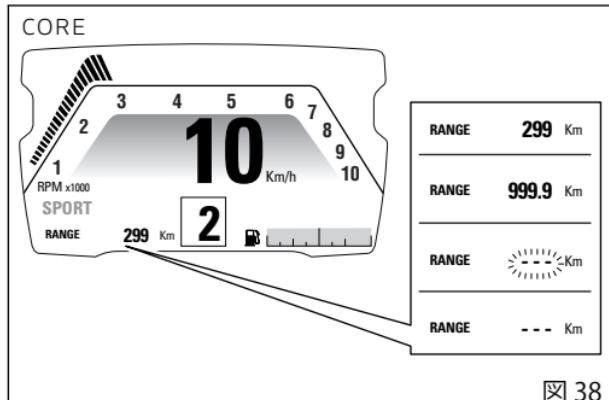


図 38

平均燃費 (CONS. AVG)

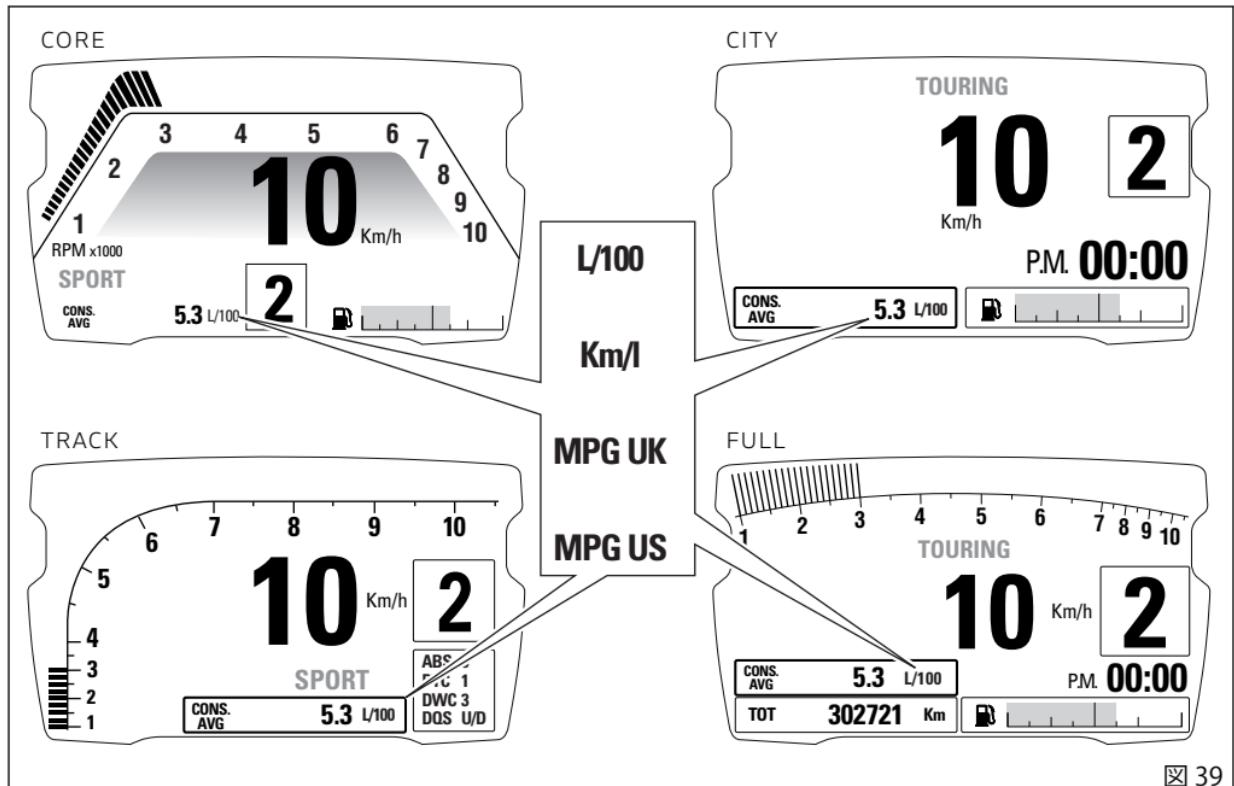
インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、"CONS. AVG" の文字を表示します。TRIP1 が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。



設定メニューの "UNITS SETTING" 機能から、燃費の単位を変更することができます(平均燃費および瞬間燃費)。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は "---" が平均燃費として固定表示されます。データは設定された単位(リットル/100 km、mpg UK、mpg US)で表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます(車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。



瞬間燃費 (CONS.)

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONS の文字を表示します。

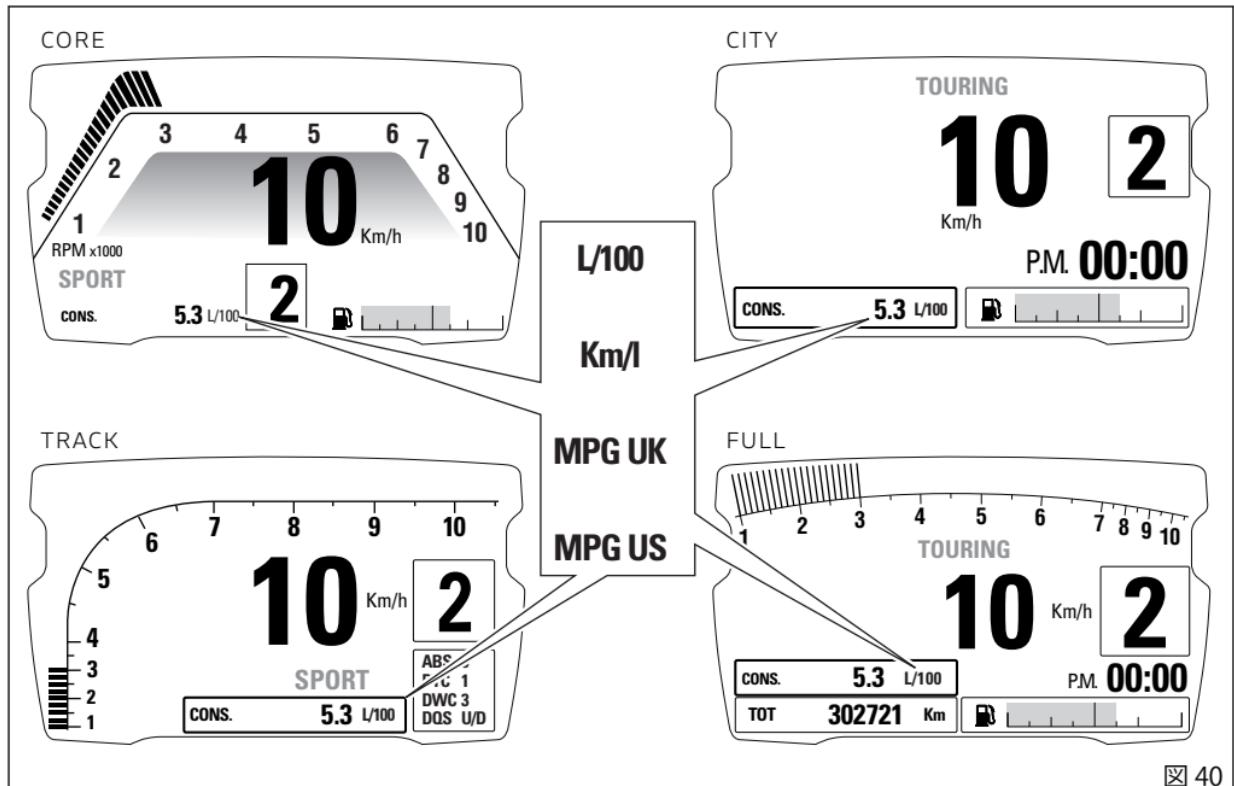
数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位 (リットル /100 km、mpg UK、mpg US) で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます (車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません)。算出されない場合は、ディスプレイ上に "---" が瞬間燃費として固定表示されます。



参考

設定メニューの “UNITS SETTING” 機能から、燃費の単位を変更することができます (平均燃費および瞬間燃費)。



平均スピード (SPEED AVG)

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、"SPEED AVG" の文字を表示します。

TRIP1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。

平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

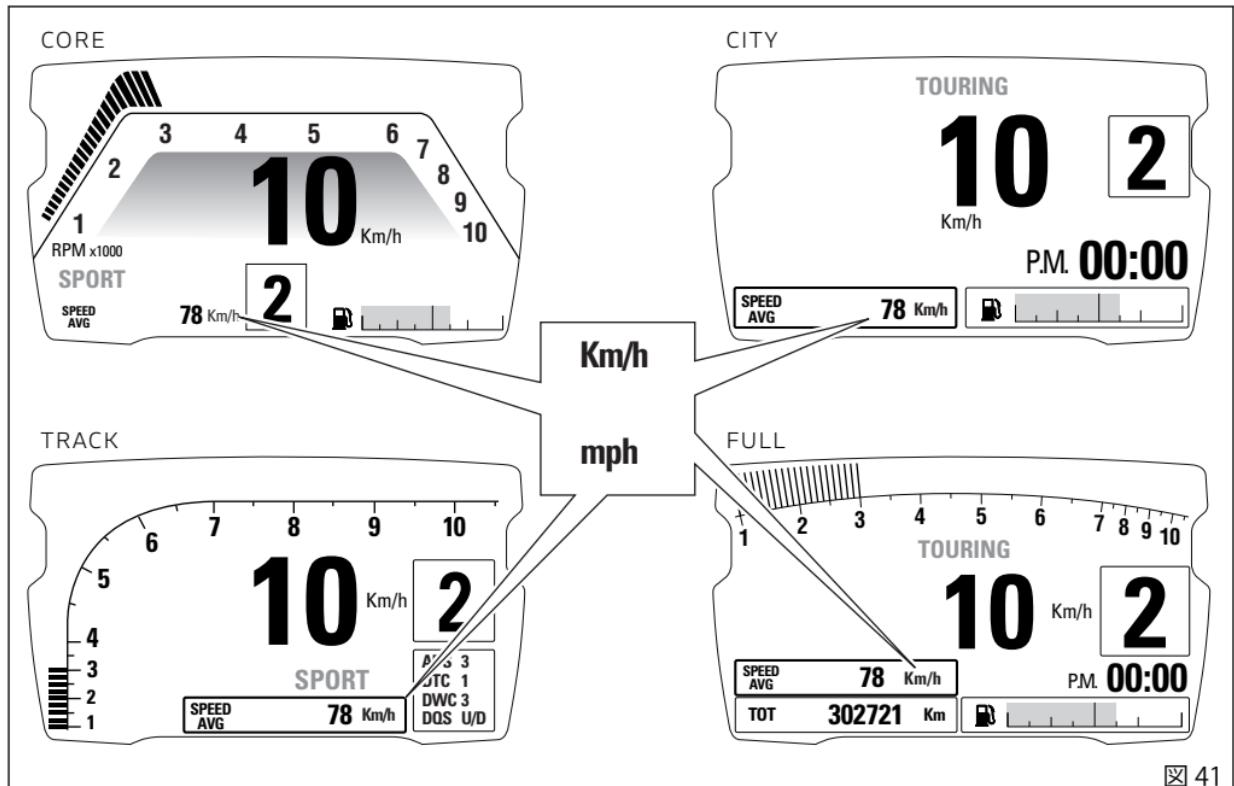


参考

設定メニューの "UNITS SETTING" 機能から、速度および走行距離の単位を変更することができます。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は "---" が平均スピードとして固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます (車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。



トリップタイム (TRIP TIME)

インストルメントパネルは走行時間を "hh:mm" 形式で算出し、"TRIP TIME" の文字と共に表示します。

TRIP1 が最後にリセットされて以降の走行時間から計算されます。TRIP1 がリセットされると、データもリセットされます。車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます(車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します)。

表示時間が "511:00" (511 時間 00 分) を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。



参考

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

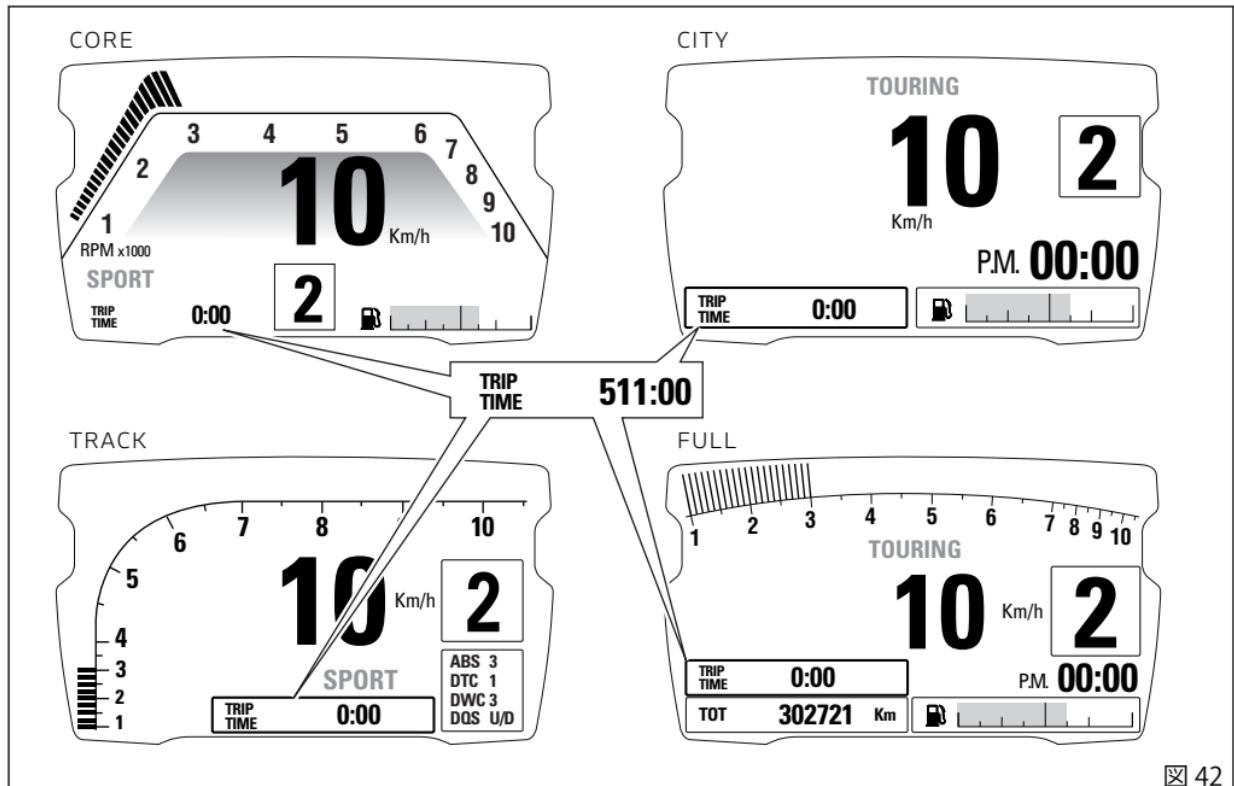


図 42

外気温 (T AIR)

インストルメントパネルは設定された単位(° C または ° F)に換算された外気温、設定単位、"T AIR"の文字、温度計記号を表示します。温度データは -39 ° C ~ +125 ° C (-38 ° F ~ +257 ° F)の場合に表示されます。それ以外の温度 (-39 ° C (-38 ° F) 未満か +125 ° C (+257 ° F) を超える場合) では "---" と単位が表示されます。

気温センサーホーの場合、インストルメントパネルには単位と共に "---" が点滅します。さらに一般的エラー警告灯が点灯します。



参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

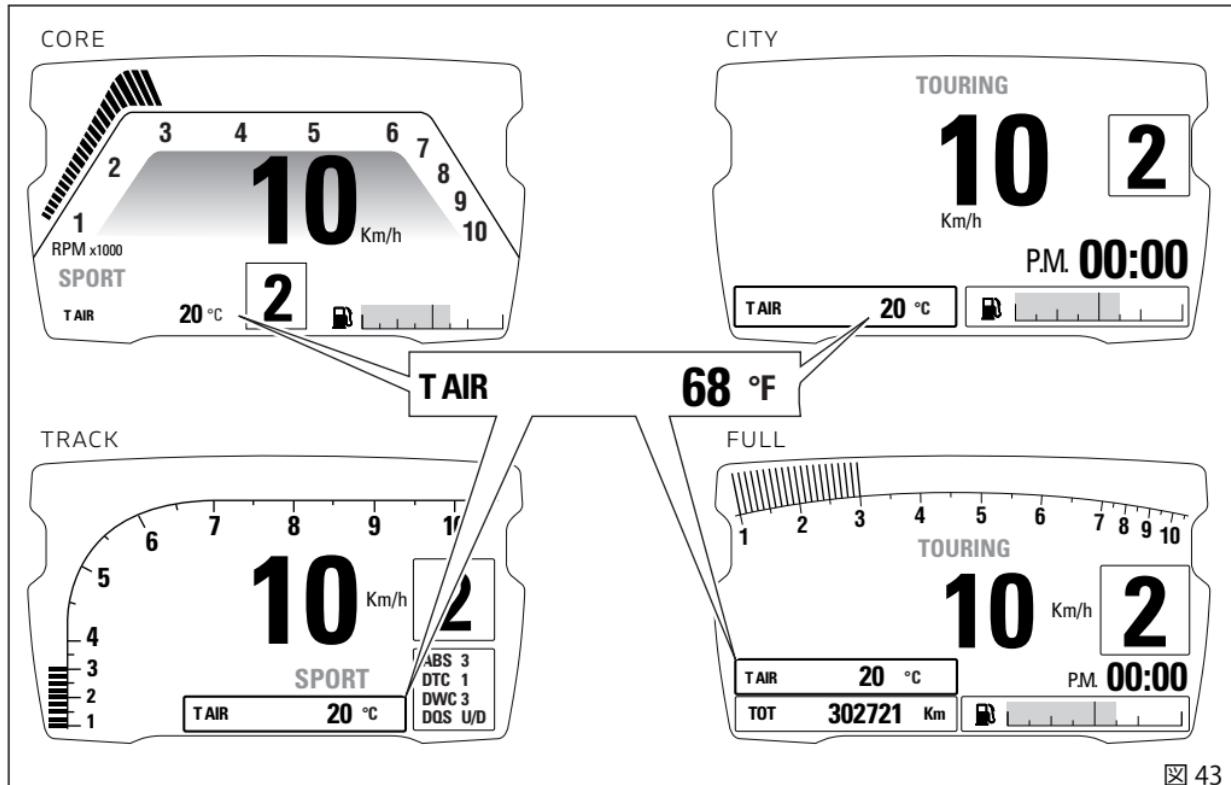


図 43

設定メニュー (SETTING MENU)

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。

設定メニューに入るには、KEY-ON の状態で車両実速度が 5 km/h (3.1 mph) 以下の時にボタン (4) を 2 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。

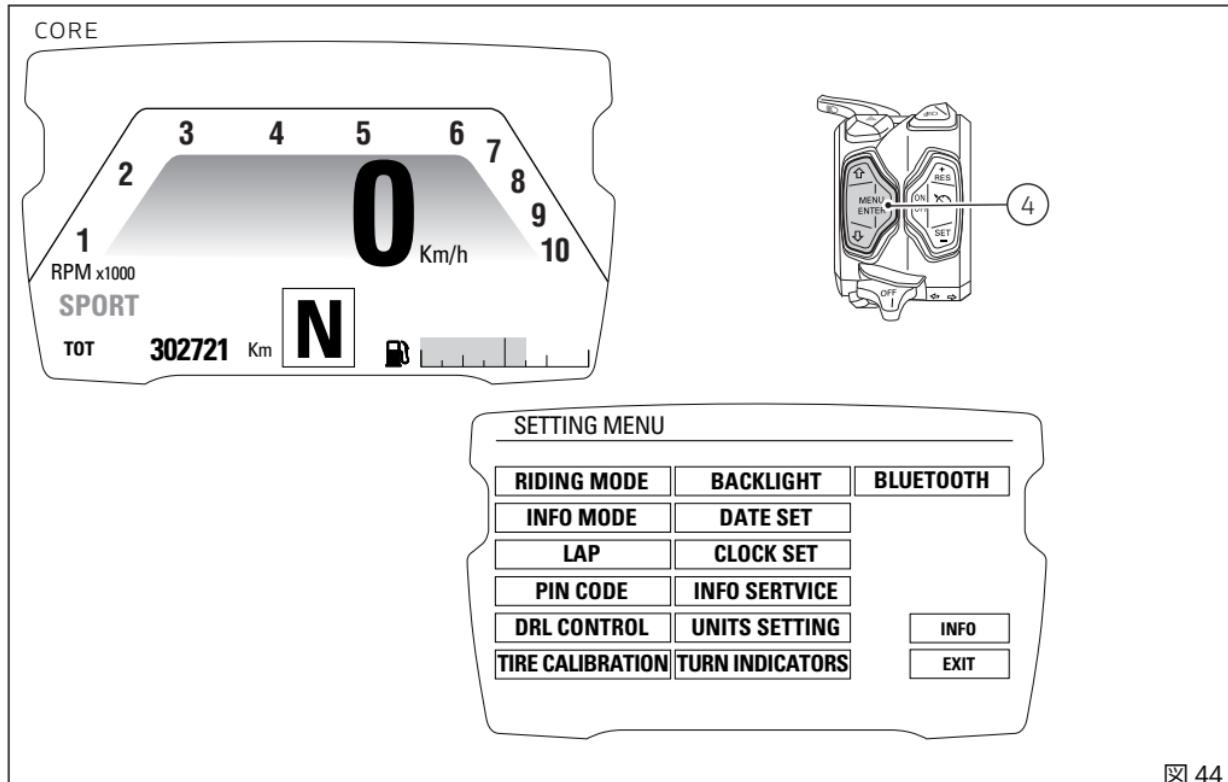
設定メニューには以下の機能が表示されます。

- RIDING MODE (ライディングモード)
- INFO MODE
- LAP
- PIN CODE (PIN コード)
- DRL CONTROL (DRL 機能を搭載している場合のみ)
- BACKLIGHT (バックライト)
- DATE SET
- CLOCK SET
- INFO SERVICE
- UNIT SETTING
- BLUETOOTH (Bluetooth モジュールを搭載している場合のみ)
- INFO
 - BATTERY
 - RPM
 - BLUETOOTH バージョン



重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。



ボタン(1)および(2)を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン(2)を押すと次のパラメーターが、ボタン(1)を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン(4)を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。

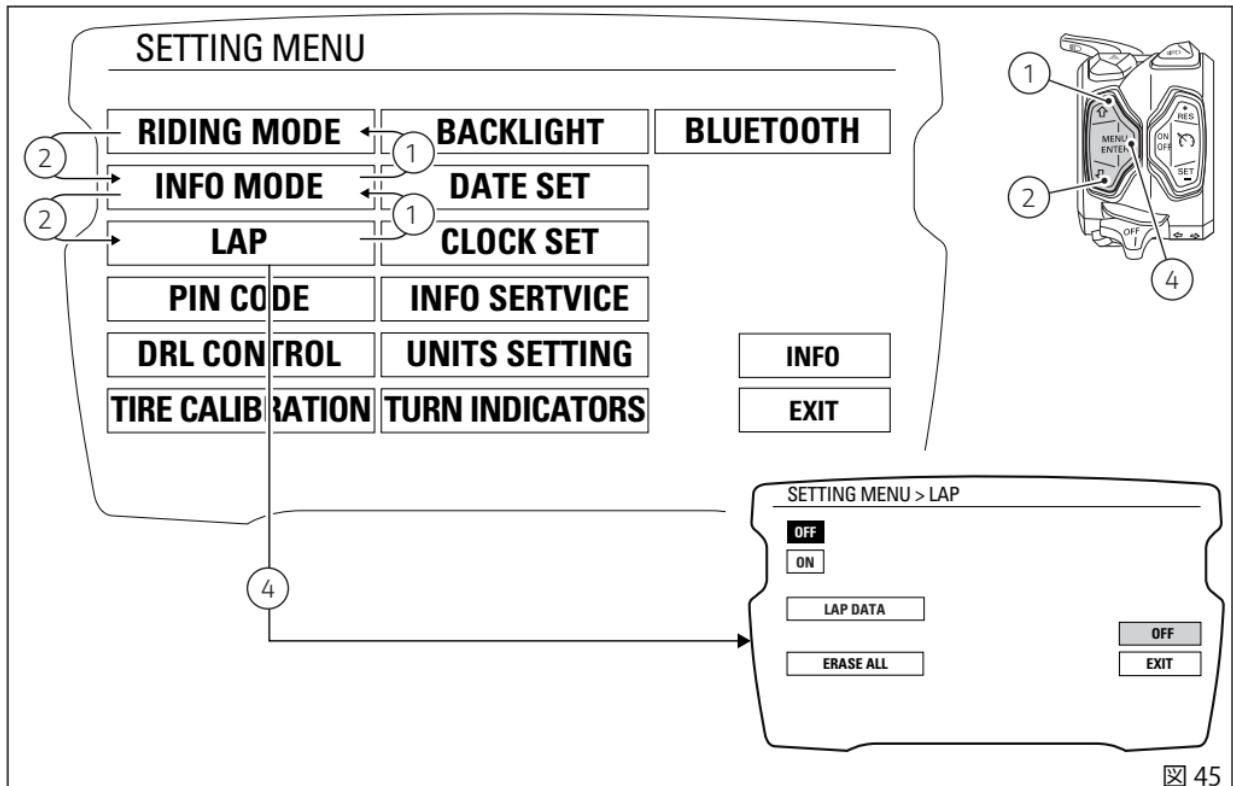
ディスプレイ上部には、設定中のメニューおよびサブメニューのルートが表示されます。

設定メニューを終了するには、"EXIT"を強調表示してボタン(4)を押します。

以下の機能についてはユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード(RIDING MODE)のパーソナライズ：パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
 - エンジン調整(ENGINE)
 - DTC レベルの設定(DTC)
 - ABS 調整(ABS)
 - DWC レベルの設定(DWC)
 - DQS ステータス設定(DQS)(装備されている場合)
 - デフォルト設定の回復(DEFAULT)
- 表示モード設定(INFO MODE)
- LAP (LAP の起動 / 表示 / 削除)
- PIN CODE (入力/変更)

- DRL CONTROL (AUTO / MANUAL 設定) (DRL が搭載されている場合のみ)
- ディスプレイの背景の設定(BACKLIGHT)
- 日付の調整(DATE SET)
- 時計の調整(CLOCK SET)
- サービス情報表示(INFO SERVICE) : Oil Service、Desmo Service、Annual Service の期限
- 単位の設定(スピード - 温度 - 燃費)(UNITS SETTING)
- Bluetooth 設定、ペアリングおよびペアリングデバイスの削除 - 装備されている場合にのみ作動(BLUETOOTH)



設定メニュー-ライディングモード (RIDING MODE)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

"EXIT" の文字が強調表示された状態でボタン(4)を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

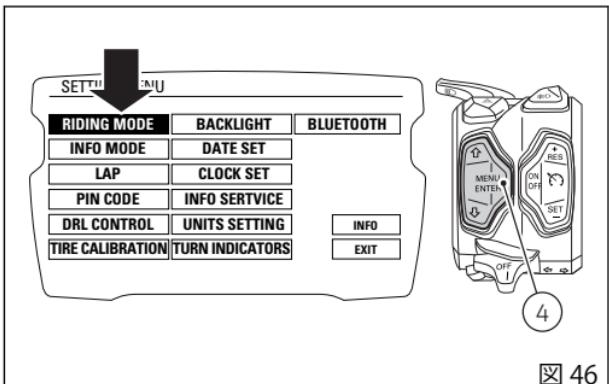


図 46

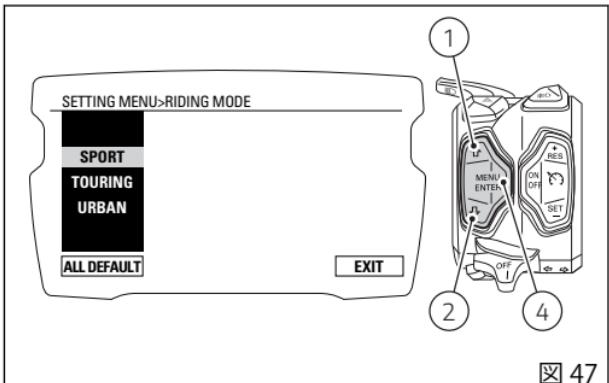


図 47

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ENGINE
- DTC
- ABS
- DWC
- DQS (装備する場合)

ボタン(1)および(2)を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次のパラメーターが、ボタン(2)を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン(4)を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。

それぞれのライディングモードをドゥカティ初期設定に戻すには、"DEFAULT"機能を使用します。

"EXIT"の文字が強調表示され、ボタン(4)を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。



警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT"または"All DEFAULT"機能を使用してパラメーターを修復してください。

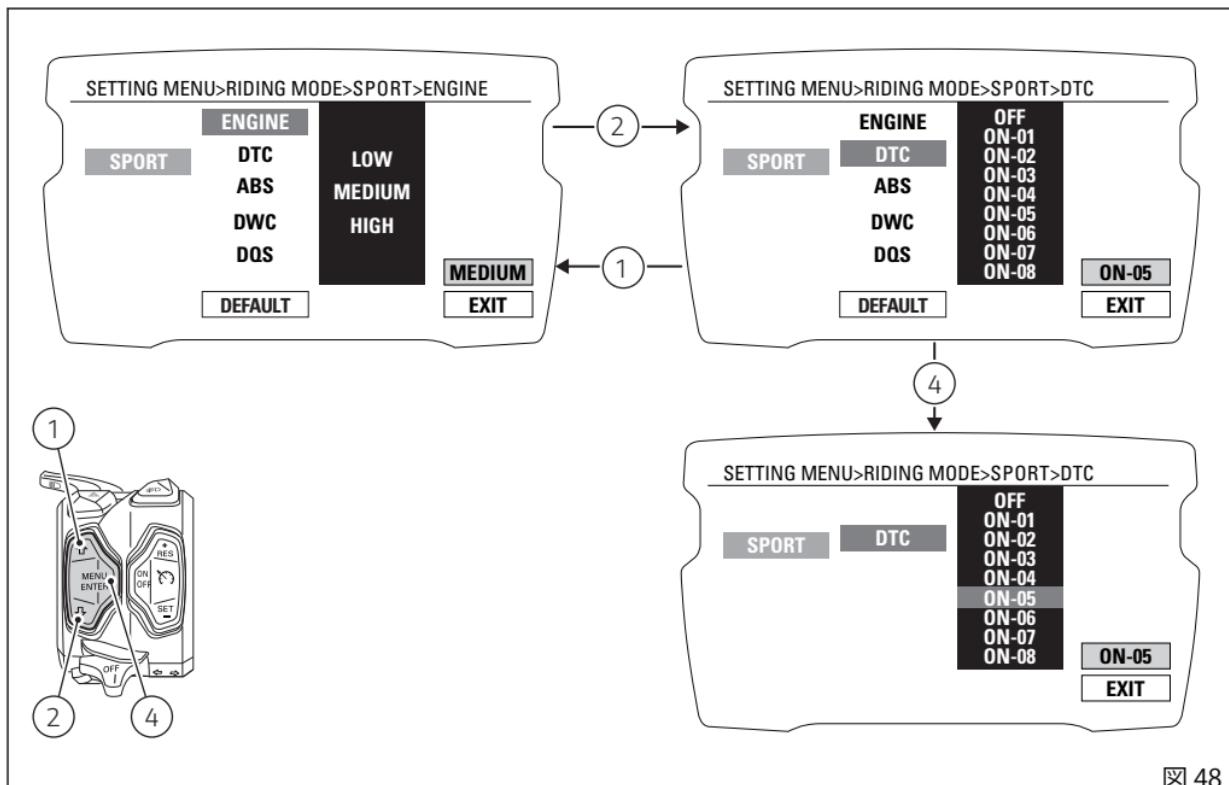


图 48

設定メニュー-ライディングモード-エンジン設定(ENGINE)

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プレダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プレダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (ENGINE) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

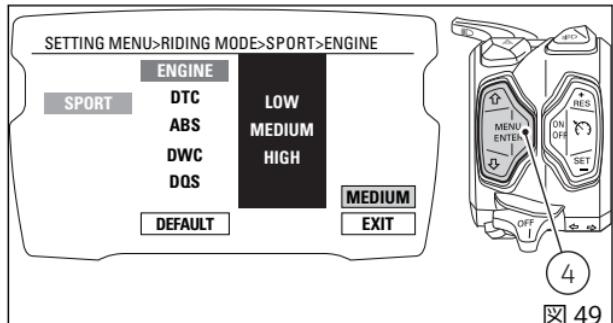


図 49

この機能に入ると、右側("EXIT"の上)に現在設定されているエンジン出力が表示されます(例: MEDIUM)。中央のプルダウンメニューにはパーソナライズ可能な一覧が表示されます。

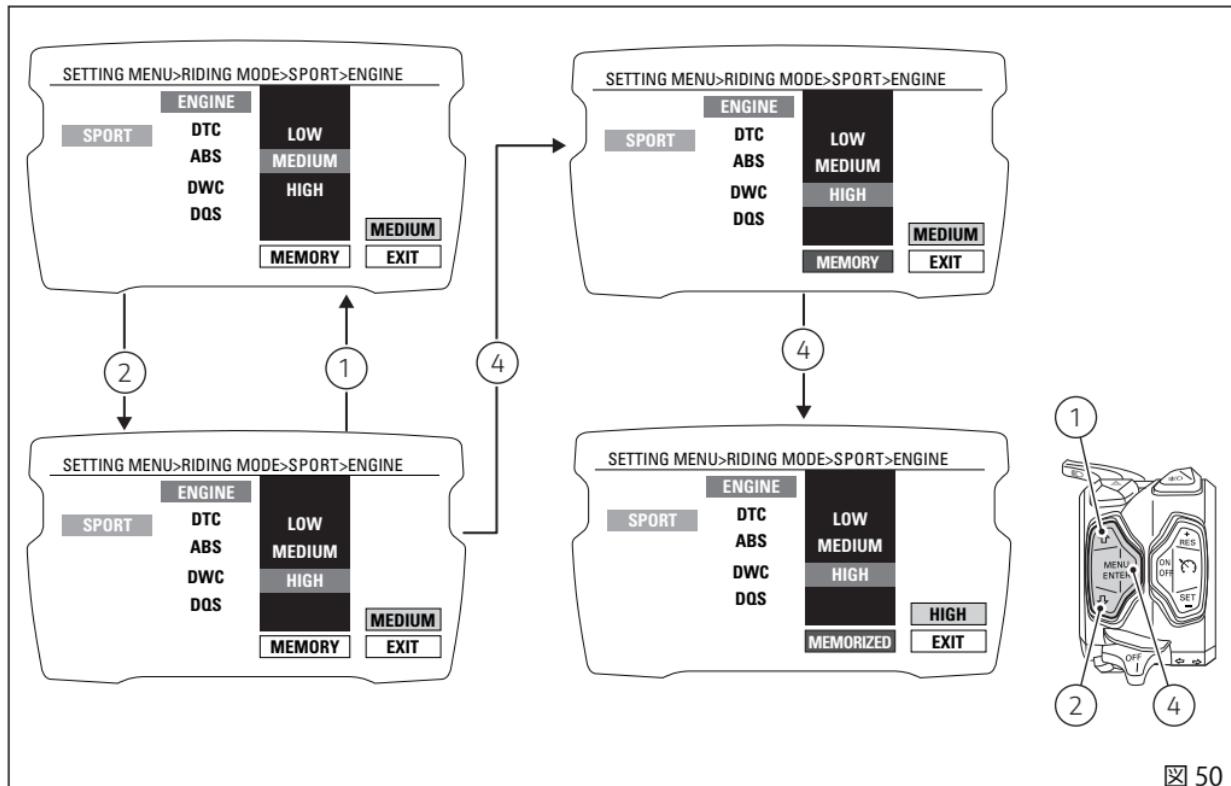
- LOW
- MEDIUM
- HIGH

ボタン(1)および(2)を押すと希望のエンジン出力を一つずつ強調表示することができます。ボタン(2)を押すと次のパラメーターが、ボタン(1)を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のエンジン出力を選択したら、ボタン(4)を押して"MEMORY"の文字をオレンジ色に強調表示します。新しい設定を保存するには、"MEMORY"の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を2秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED"の文字が2秒間緑色に強調され、新しいエンジン出力値に更新されます。その後"EXIT"の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。



設定メニュー-ライディングモード-DTC設定(DTC)

ここでは各ライディングモードに連動したDTC介入レベルの設定または解除を行うことができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (DTC) を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

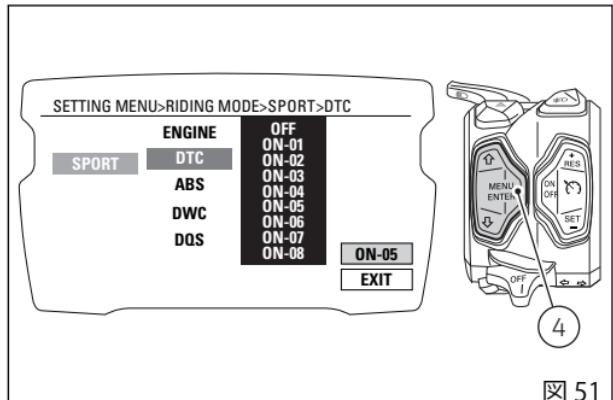


図 51

この機能に入ると、右側("EXIT"の上)に現在設定されているDTCレベル、または状態が表示されます(例:ON-05、すなわちレベル05)。中央のプルダウンメニューには、レベル1から8、およびOFFのパーソナライズ可能な一覧が表示されます。

参考

DTCをOFFに設定した場合、DWCも自動的にOFFに設定されます。したがって、DWCは灰色になり、選択できなくなります。

新しい設定を選択し、ボタン(4)を押して"MEMORY"の文字をオレンジ色に強調表示します。

新しい設定を保存するには、"MEMORY"の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を2秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED"の文字が2秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後"EXIT"の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

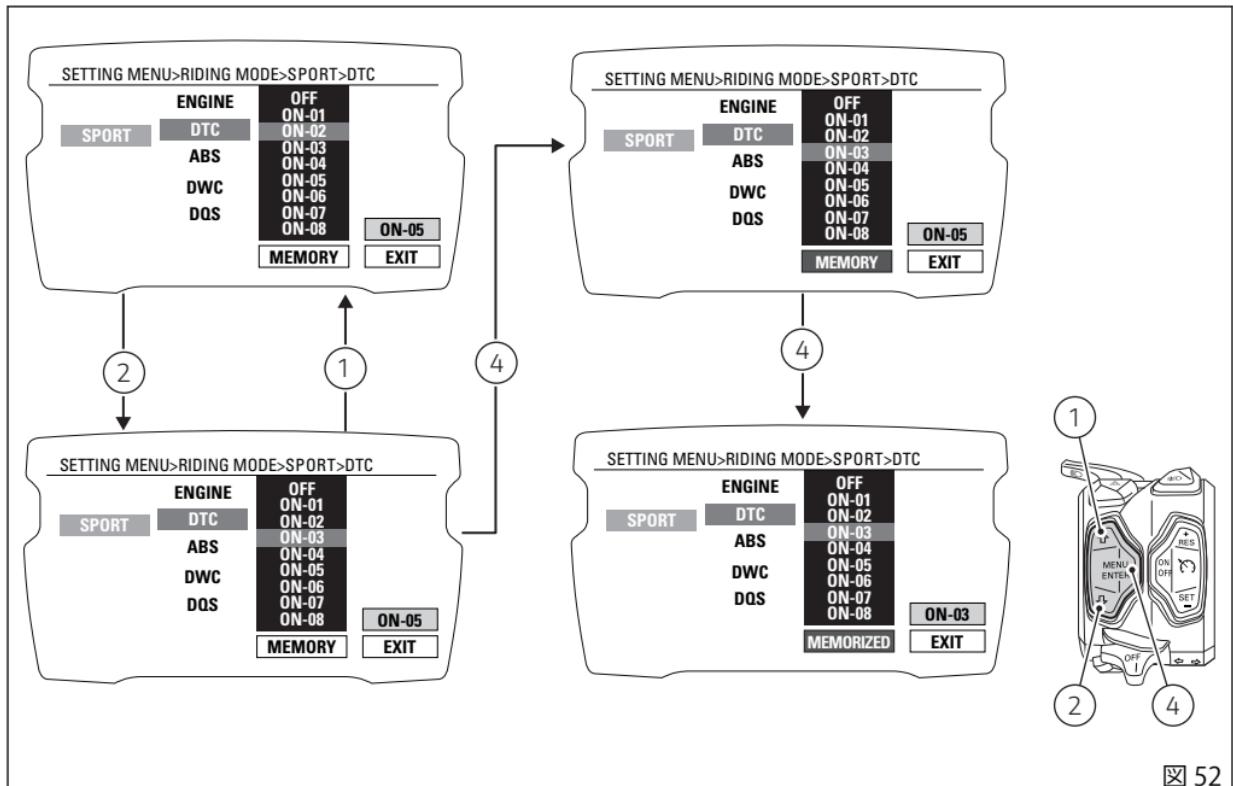


图 52

設定メニュー-ライディングモード-ABSの設定 (ABS)

この機能では一つのライディングモードのABSシステム介入レベルの設定、またはABSシステムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (ABS) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

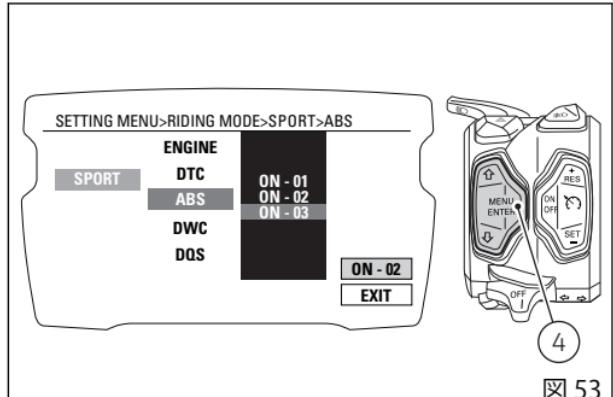


図 53

この機能に入ると、右側("EXIT"の上)に現在設定されているABSレベル、または状態が表示されます(例: ON - 03、すなわちレベル03)。

中央のプルダウンメニューには、レベル1から3のパーソナライズ可能な一覧が表示されます。

ボタン(1)および(2)を押すと希望の介入レベルを一つずつ強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次のレベルが、ボタン(2)を押すと前のレベルが強調表示されます。

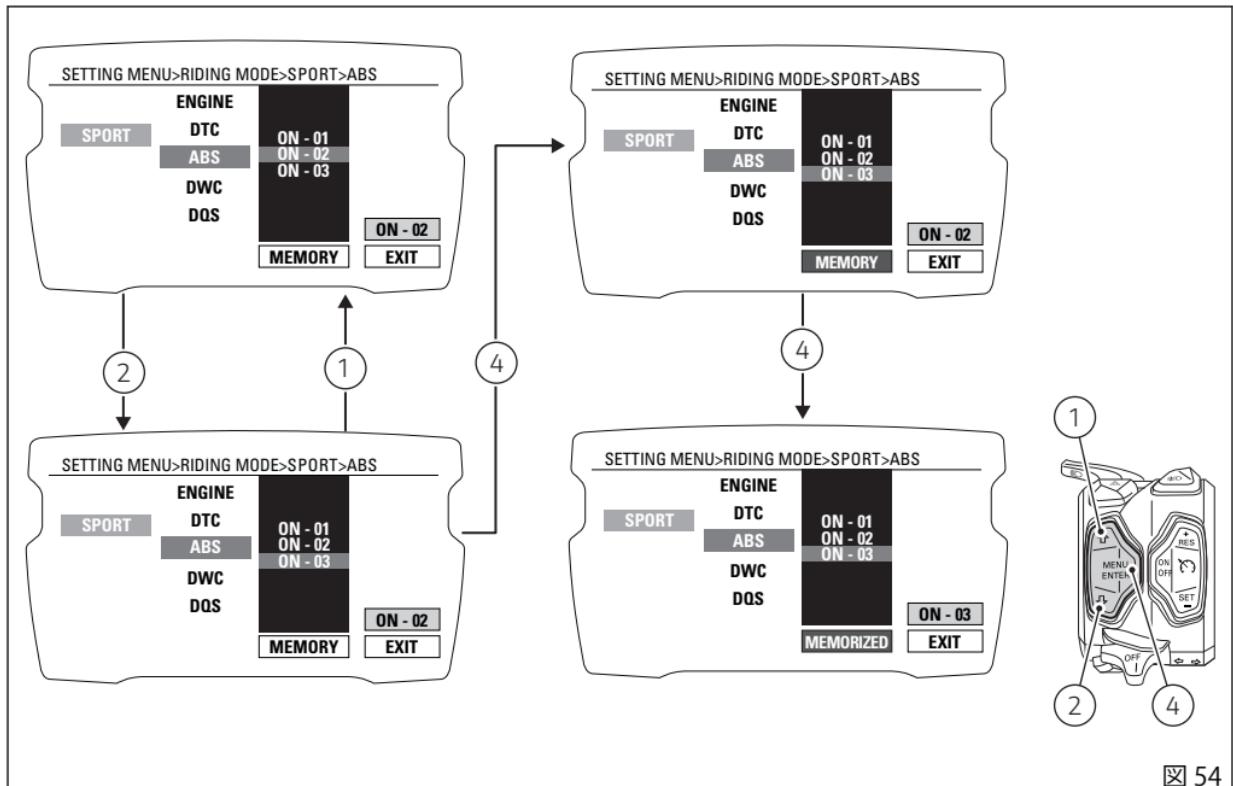
希望のレベルを選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して"MEMORY"の文字を強調表示します。

新しい設定を選択し、ボタン(4)を押して"MEMORY"の文字をオレンジ色に強調表示します。

新しい設定を保存するには、"MEMORY"の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を2秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED"の文字が2秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後"EXIT"の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。



設定メニュー - ライディングモード - DWC 設定 (DWC)

ここでは各ライディングモードに連動した DWC 介入レベルの設定または解除を行うことができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT, TOURING, URBAN) を選択します。

希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (DWC) を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

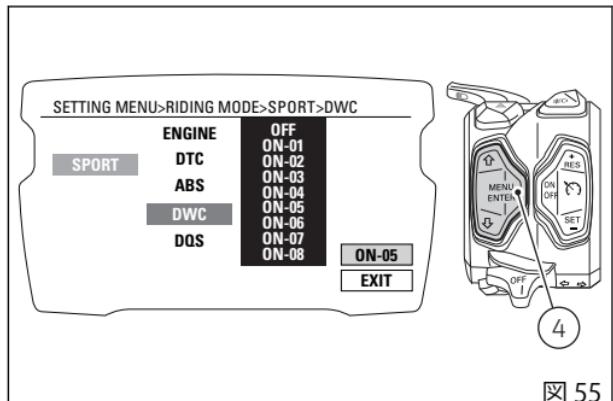


図 55

この機能に入ると、右側("EXIT"の上)に現在設定されているDWCレベル、または状態が表示されます(例: ON - 05、すなわちレベル05)。中央のプルダウンメニューには、レベル1から8、およびOFFのパーソナライズ可能な一覧が表示されます。

参考

DTCをOFFに設定した場合、DWCも自動的にOFFに設定されます。したがって、DWCは灰色になり、選択できなくなります。

新しい設定を選択し、ボタン(4)を押して"MEMORY"の文字をオレンジ色に強調表示します。

新しい設定を保存するには、"MEMORY"の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を2秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED"の文字が2秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後"EXIT"の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

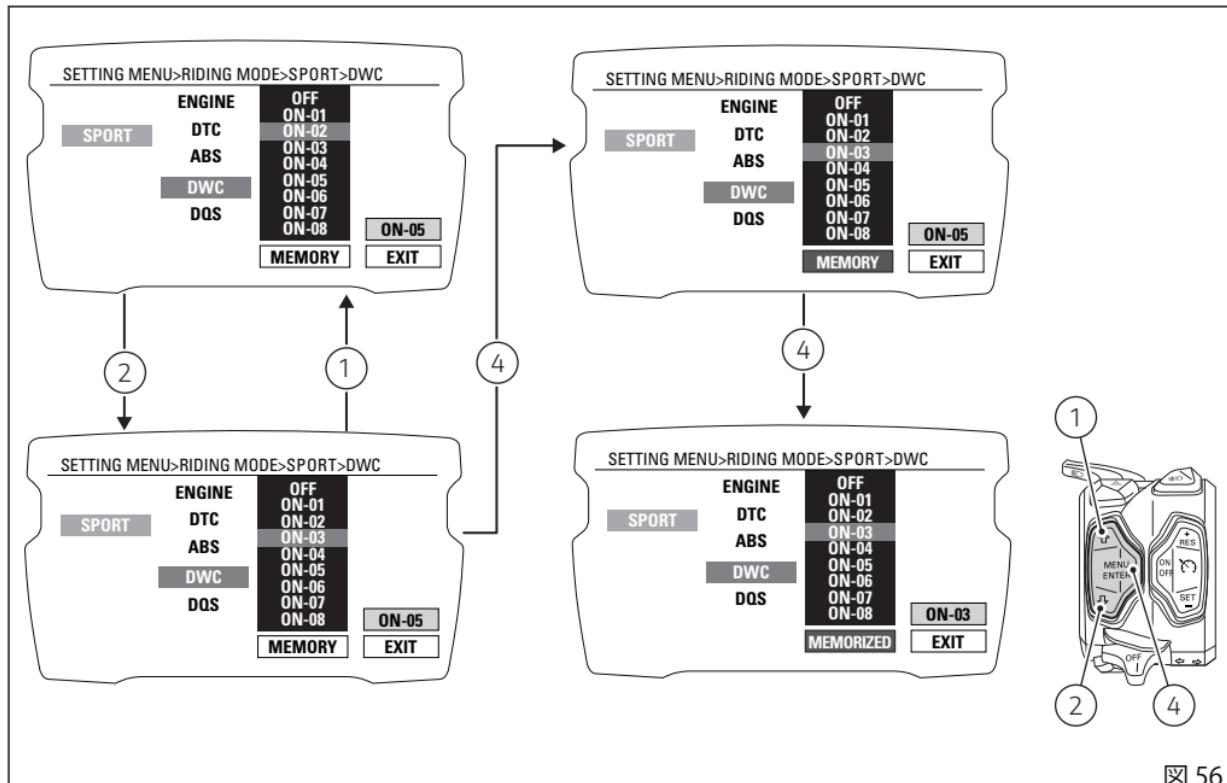


図 56

設定メニュー-ライディングモード-DQS設定(DQS)

この機能が車両に装備されている場合にのみ、各ライディングモード毎にDQSを解除したり起動したりすることができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (DQS) を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

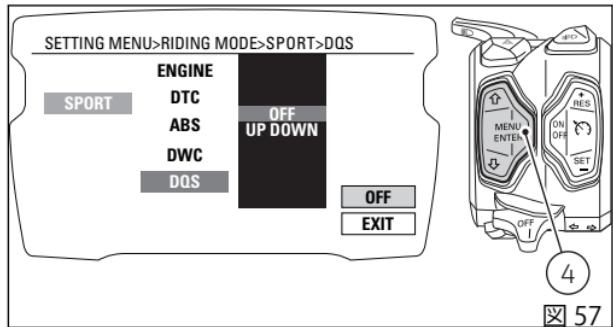


図 57

この機能に入ると、右側("EXIT"の上)に現在設定されているDQSレベル、または状態が表示されます(例: OFF)。

中央のプルダウンメニューにはパーソナライズ可能な一覧 ("OFF" および "UP/DOWN") が表示されます。

ボタン(1)および(2)を押すと、可能な項目を強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次の項目が、ボタン(2)を押すと前の項目が強調表示されます。

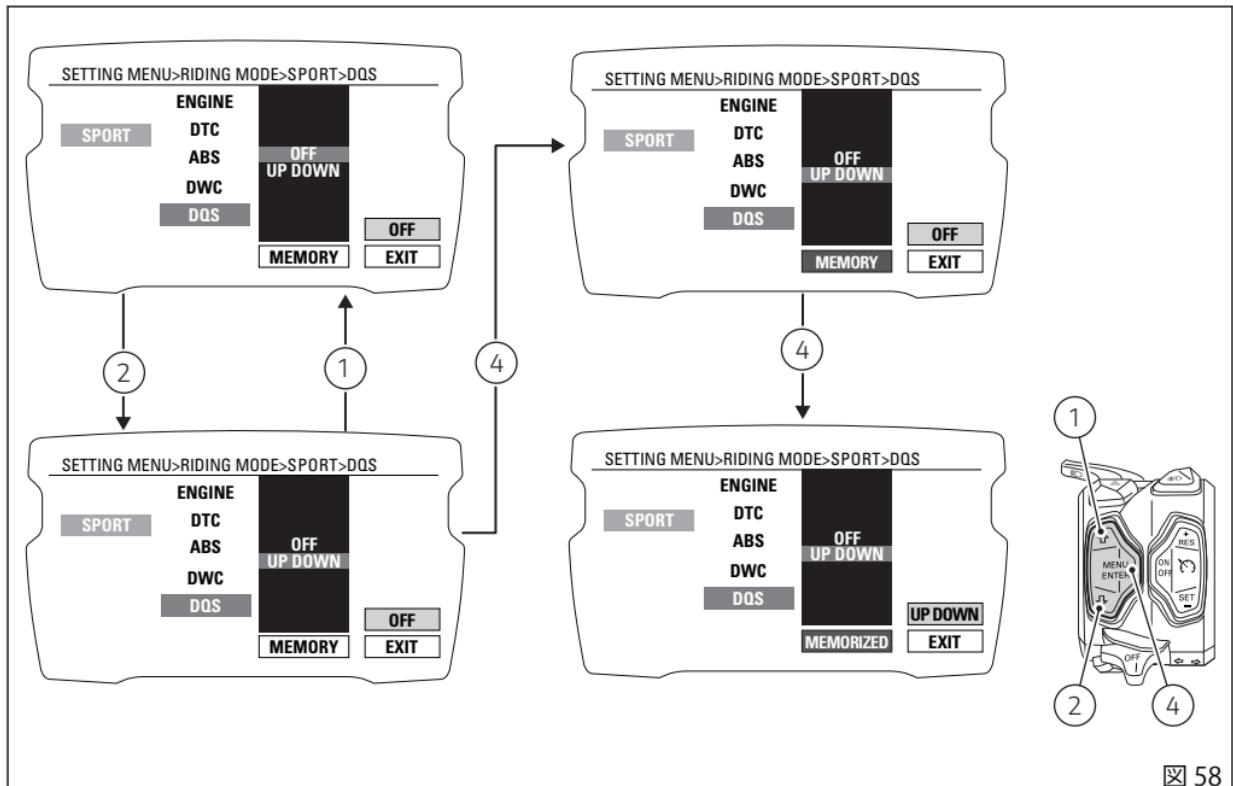
希望のレベルを選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して "MEMORY" の文字を強調表示します。

新しい設定を選択し、ボタン(4)を押して "MEMORY" の文字をオレンジ色に強調表示します。

新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を 2 秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。



設定メニュー-ライディングモード-各ライディングモードの初期値の回復(DEFAULT)

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "RIDING MODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"RIDING MODE" メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN)を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して、"DEFAULT" を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン(4)を2秒間押します。

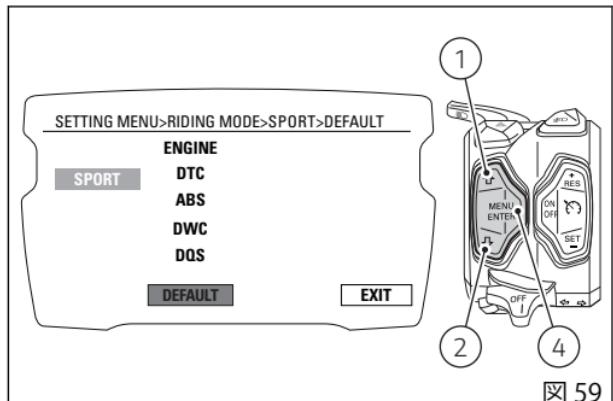


図 59

パラメーターの回復には3秒を要し、この間 "WAIT...."
の文字がディスプレイに表示されます。
手順が終了すると、ディスプレイに2秒間 "OK" の文字
が表示され、パラメーターが回復されたことを示しま
す。"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文
字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

参考

"DEFAULT" の表示が選択できない場合は、選択
したライディングモードの全パラメーターがすでに
"デフォルト" 値であることを示します。

設定メニュー-ライディングモード-初期値の回復 (ALL DEFAULT)

ここではすべてのライディングモードに連動する全パラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)で "RIDING MODE" を選択し、ボタン(4)を押します。ボタン(1)または(2)を押して "ALL DEFAULT" を選択し、ボタン(4)を2秒間押します。



"ALL DEFAULT" の表示が選択できない場合は、すべてのライディングモードの全パラメーターがすでに "デフォルト" 値であることを示します。

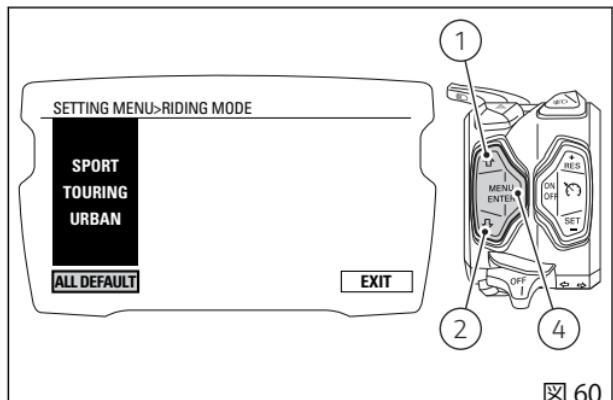


図 60

設定メニュー - 表示モード設定 (INFO MODE)

表示モードをパーソナライズすることができます。TRACK、FULL、CITY、COREの4種類の表示モードがあります。

ドゥカティ社の初期設定モードはCORE表示モードです。

設定されている表示モードと異なる表示モードを選択することができます。

希望のモードを選択するには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "INFO MODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

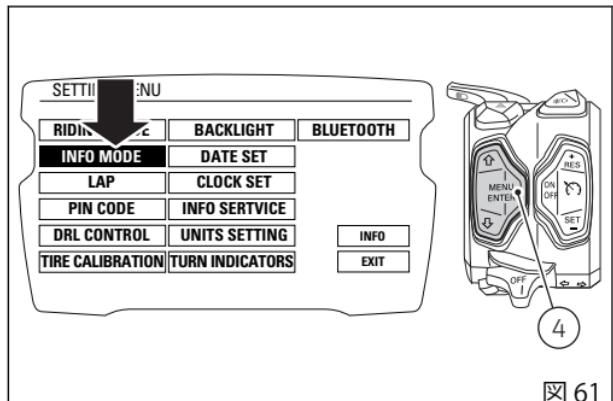


図 61

"INFO MODE" メニューに入ります。

ひとつの表示モードを選択するには、ボタン(1)または(2)を押します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン(4)を押します。選択内容が保存され、現在の表示モードが更新されます。自動的に "EXIT" ボタンが強調表示されます。

ボタン(4)を押すと前の表示に戻ります。

"DEFAULT" 設定を選択すると、すべてのライディングモードにおいて表示モードが CORE 表示モードに設定されます。

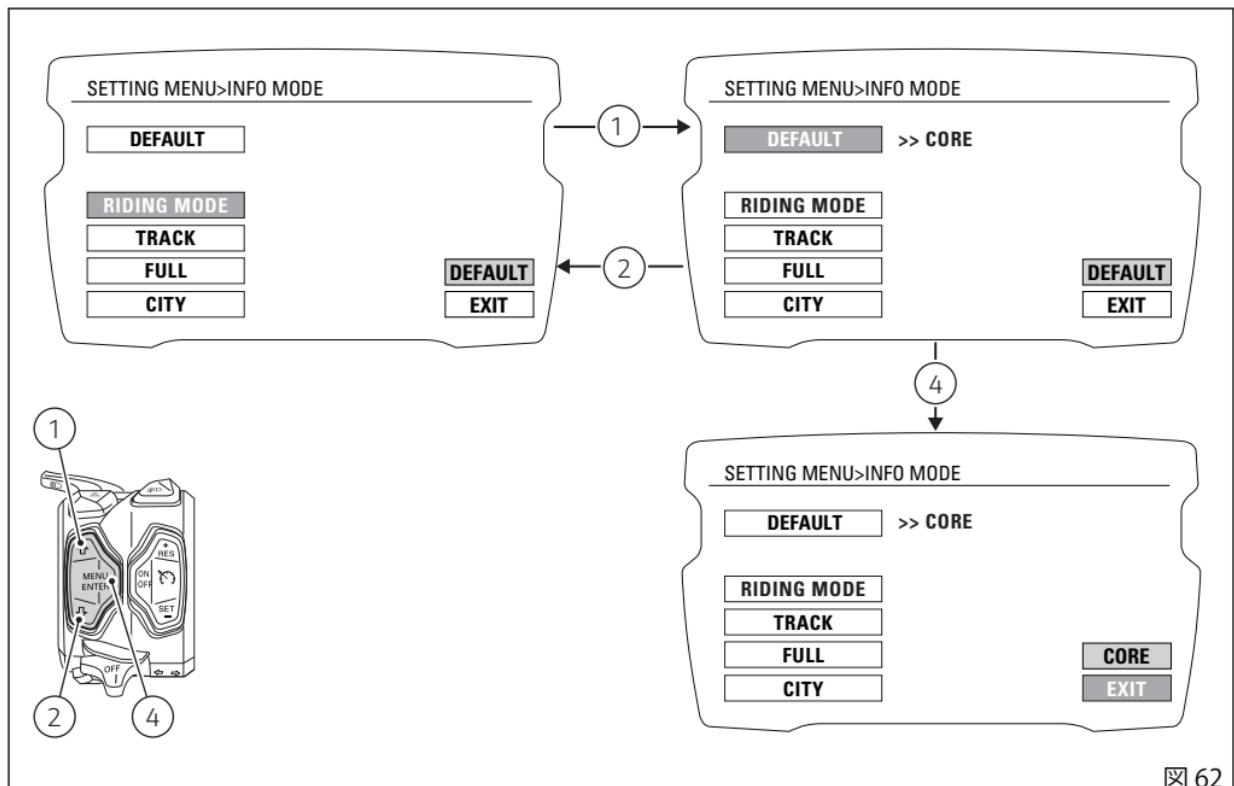
"RIDING MODE" 設定を選択すると、表示モードは次のようになります。

- ライディングモード SPORT では TRACK 表示モード
- ライディングモード TOURING では FULL 表示モード
- ライディングモード URBAN では CITY 表示モード

"TRACK" 設定を選択すると、すべてのライディングモードにおいて表示モードが TRACK 表示モードに設定されます。

"FULL" 設定を選択すると、すべてのライディングモードにおいて表示モードが FULL 表示モードに設定されます。

"CITY" 設定を選択すると、すべてのライディングモードにおいて表示モードが CITY 表示モードに設定されます。



設定メニュー - ラップタイム (LAP)

LAP 機能メニューに入るには、設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "LAP" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"LAP" メニューに入ります。

メニューでは以下の操作が可能です。

- OFF : LAP 機能を解除します。
- ON : LAP 機能を起動します。
- LAP DATA : "LAP の記録" 機能を使って記録した LAP 情報を表示します。
- ERASE ALL : LAP 記録を削除します。

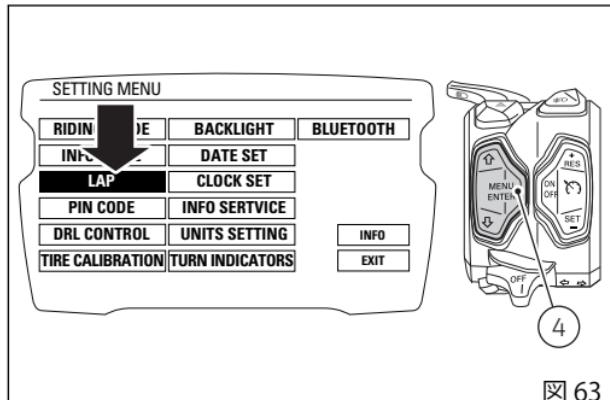
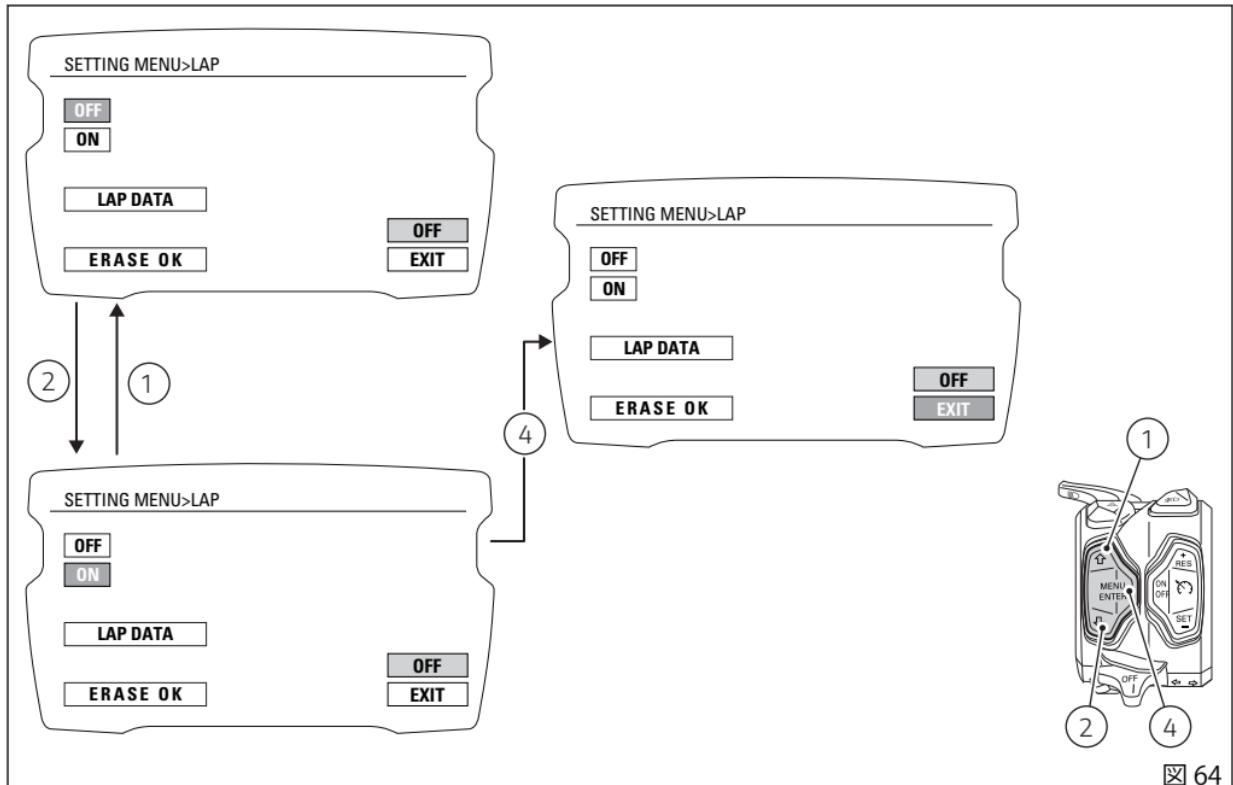


図 63



記録済み LAP の表示

記録済み LAP を表示するには、"LAP" メニューに入ります。

ボタン(1) または(2) を押して "LAP DATA" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4) を押します。機能に入ると以下の内容が表示されます。

- "TIME" の文字の後、記録済みラップタイム
- "SPEEDMAX" の文字の後、ラップ中に記録された最高速度
- "RPMMAX" の文字の後、ラップ中に記録された RPM 値
- "LAP" の文字の後、LAP 数 (例 : LAP 01)。

ボタン(1) および(2) を押すとメモリーされた LAP をひとつずつ表示することができます。特に以下のように表示されます。ボタン(2) を押すと、次のラップが表示されます (LAP 01 ... LAP 02 ... LAP 03 ... LAP 15 のようにラップを昇順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。ボタン(1) を押すと前のラップが表示され (LAP 15 ... LAP 14 ... LAP 13 ... LAP 01)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン(4) を押します。

参考

記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。

参考

メモリーにデータが記録されていない場合、トップウォッチ "----"、最大回転数 MAX = ----、最高スピード MAX = ---- が表示されます。

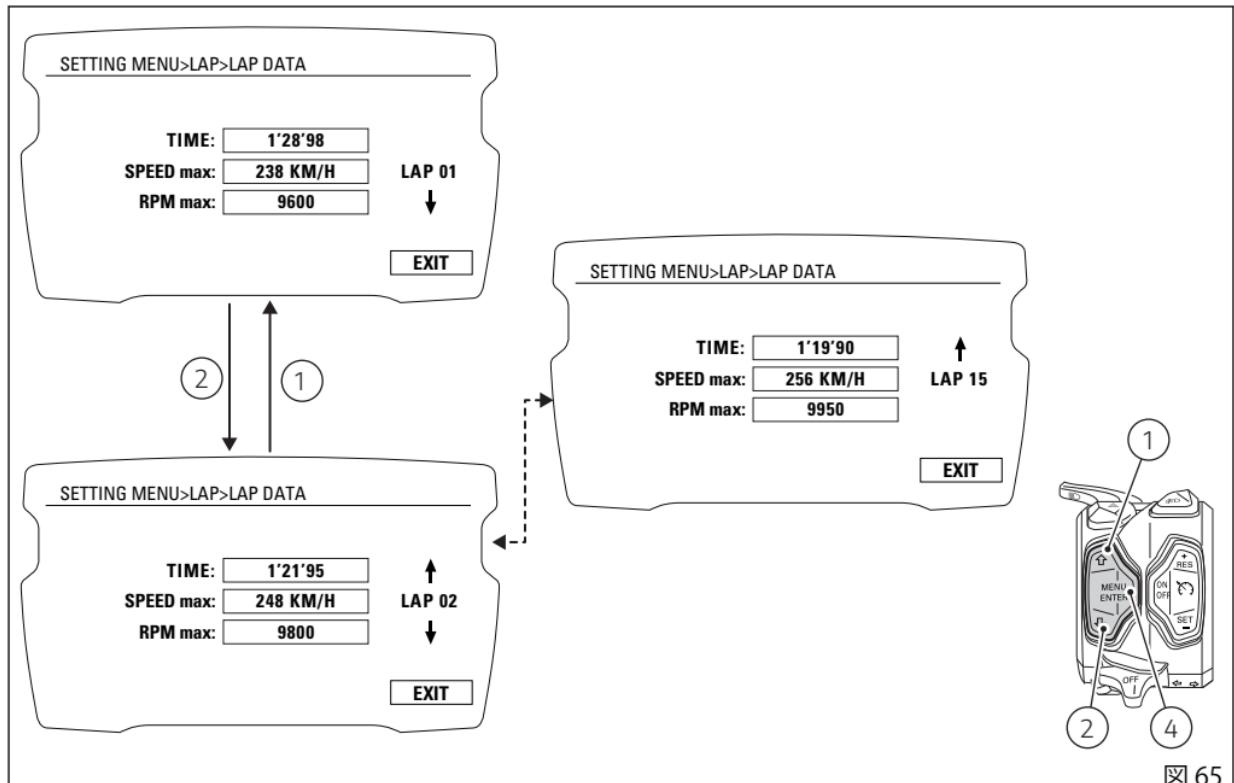


図 65

LAP 記録の削除

記録済み LAP を削除するには、"LAP" メニューに入ります。

LAP メニューまたは LAP 表示ページ (LAP DATA) に入ることで LAP を削除することができます。

ボタン(1)または(2)を押して "ERASE ALL" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

ボタン(4)を 2 秒間押して削除を決定します。

2秒後、インストルメントパネルのディスプレイには次のように表示されます。

- "WAIT..." (2 秒間)
- 続いて "ERASE OK" の文字が 2 秒間表示され、削除されたことを示します。

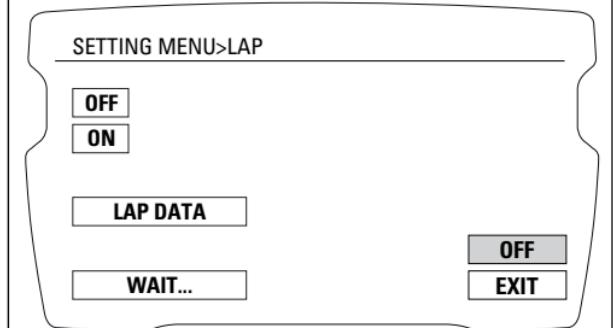
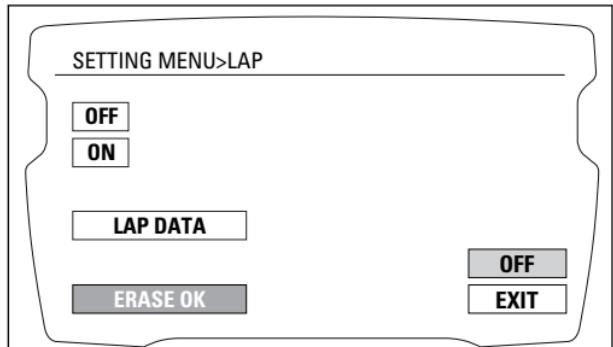


図 66

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。

削除終了後、ラップ01から15のパラメーターはすべて空白表示"-"されます(ラップタイム=---"---、回転数=-----、スピード=---)。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

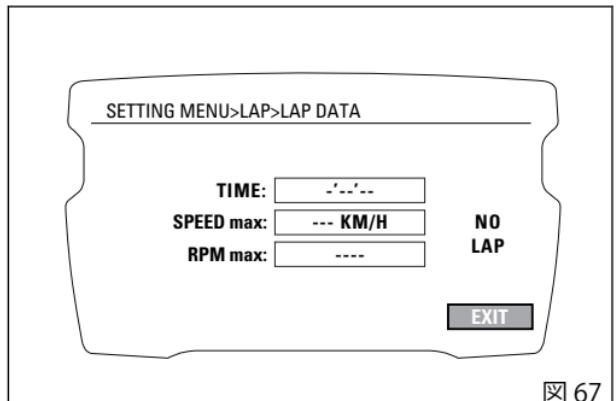


図 67

設定メニュー - PIN コードの登録 (PIN CODE)

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 衔の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。

起動するには "PIN CODE の入力" の手順に従います。PIN を変更するには "PIN CODE の変更" の手順に従います。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"車両のロック解除" の手順に従います ページ 245。



警告

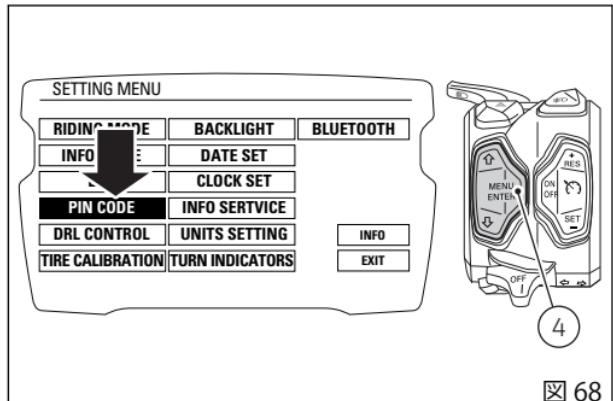
PIN CODE は車両の所有者が設定(登録)しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の登録

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "PIN CODE" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。
"PIN CODE" メニューに入ります。



この機能に入ると、ディスプレイに "INSERT NEW PIN CODE" の文字、その下に一桁目が緑色に強調された点線 "0---" が表示されます。

コードの入力：

- 1) ボタン(4)を押すと、"0"で表示される1桁のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が9までひとつずつ大きくなり(+1)、その後"0"に戻ります。
- 3) ボタン(1)を押す度に数字が1までひとつずつ小さくなり(-1)、その後"0"に戻ります。
- 4) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

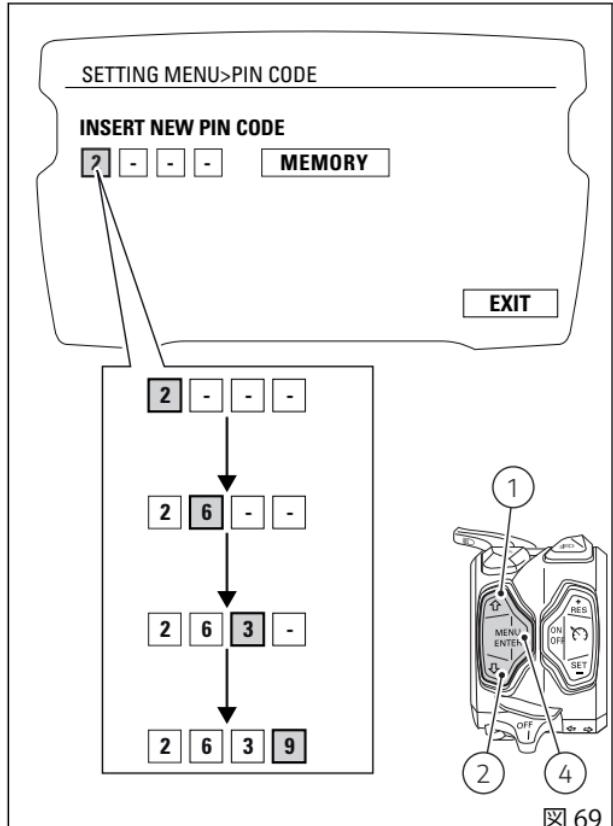


図 69

ボタン(4)を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY" の文字が強調表示されます。新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を 2 秒間押します。保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 1 秒間緑色に強調され、その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。最初の PIN CODE を設定して以降は、メニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更のページになります。PIN CODE 機能がリセットされた場合に限り、最初の PIN CODE の登録ページが有効になり、メニューから入ることができます。リセットは Ducati 正規サービスセンターでのみ実施が可能です。

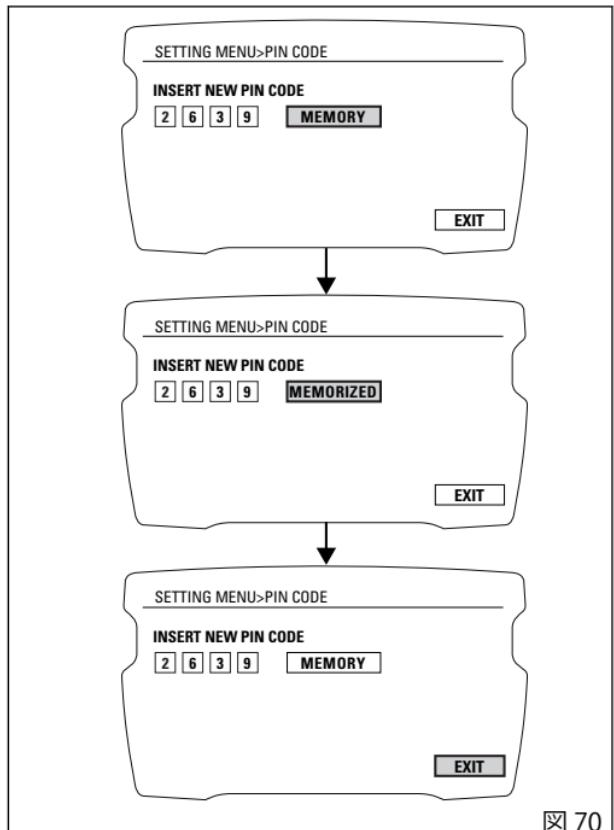


図 70

設定メニュー - PIN コードの変更 (PIN CODE)

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "PIN CODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。"PIN CODE" メニューに入ります。機能に入ると、ディスプレイに "INSERT OLD PIN CODE" と点線 "0--" ("0" は緑色で強調表示) が表示されます。

旧コードの入力：

- 1) ボタン(4)を押すと、"0" で表示される 1 衍のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり (+1)、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン(1)を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり (-1)、その後 "0" に戻ります。
- 4) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 行すべての数字を決定します。

ボタン(4)を押して 4 行すべての数字を決定した際、

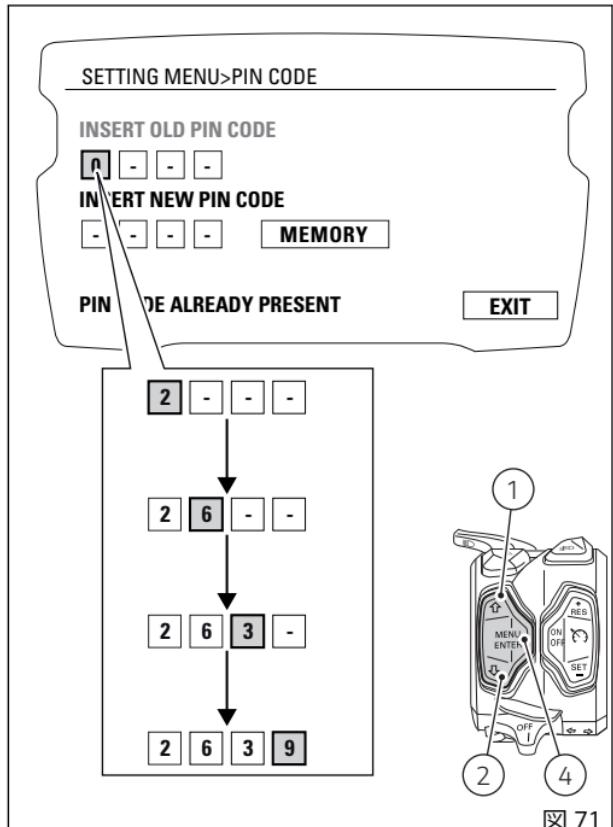


図 71

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WORNG" を 3 秒間表示し、その後 OLD PIN を入力する点線 "----" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 3 秒間表示します。その後 "INSERT NEW PIN CODE" と一桁目が緑色に強調された点線 "----" が表示されます。新しい PIN CODE を入力してください。

SETTING MENU>PIN CODE

INSERT OLD PIN CODE

INSERT NEW PIN CODE

PIN CODE ALREADY PRESENT

EXIT

SETTING MENU>PIN CODE

INSERT OLD PIN CODE

INSERT NEW PIN CODE

PIN CODE ALREADY PRESENT

EXIT

SETTING MENU>PIN CODE

INSERT OLD PIN CODE

INSERT NEW PIN CODE

PIN CODE ALREADY PRESENT

EXIT

SETTING MENU>PIN CODE

INSERT OLD PIN CODE

INSERT NEW PIN CODE

PIN CODE ALREADY PRESENT

EXIT

新しいコードの入力：

- 1) ボタン(4)を押すと、"0"で表示される1桁のみが緑色で強調表示されます。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が9までひとつずつ大きくなり(+1)、その後"0"に戻ります。
- 3) ボタン(1)を押す度に数字が1までひとつずつ小さくなり(-1)、その後"0"に戻ります。
- 4) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

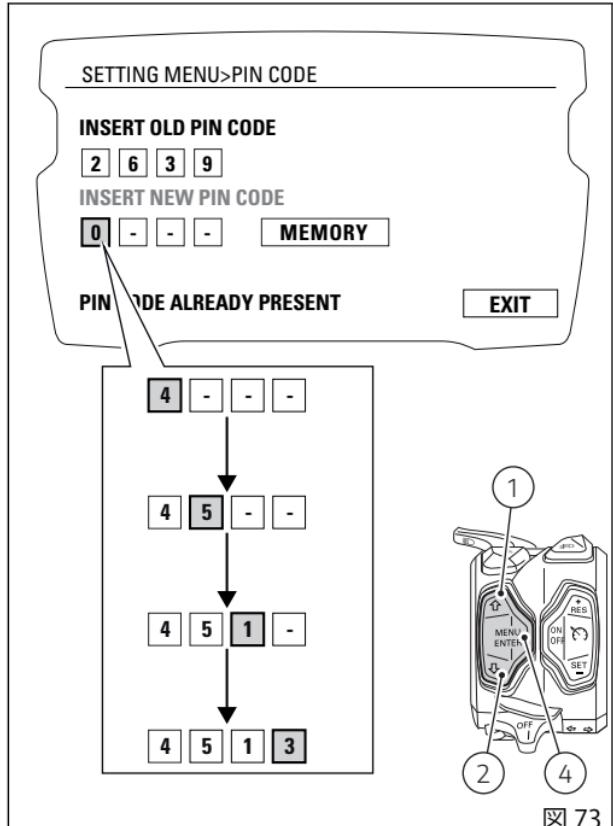


図 73

ボタン(4)を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY"の文字が強調表示されます。新しい設定を保存するには、"MEMORY"の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン(4)を2秒間押します。

保存が正しく完了すると、"MEMORIZED"の文字が2秒間緑色に強調され、その後"EXIT"の文字が緑色で強調表示されます。

保存に失敗した場合、インストルメントパネルはNEW PINを入力する点線"----"を強調表示します。もう一度新しいPIN CODEを入力してください。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

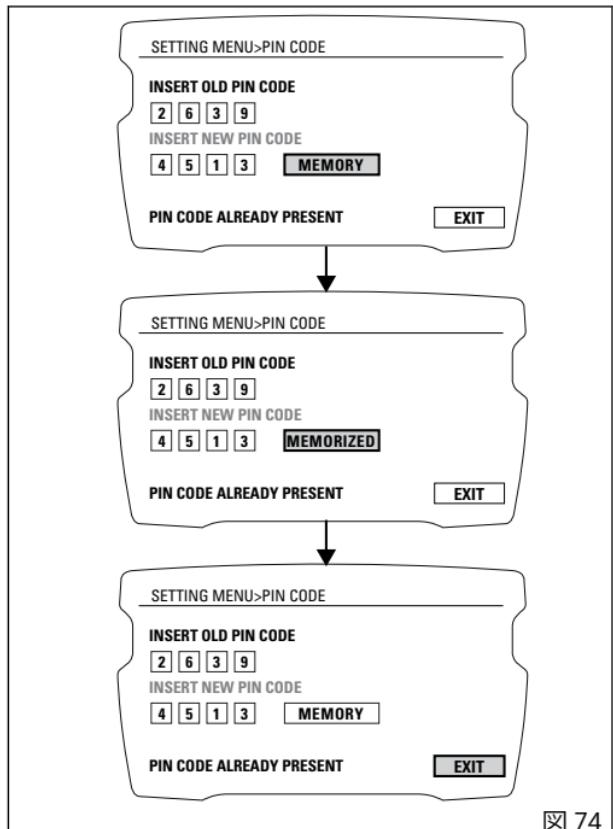


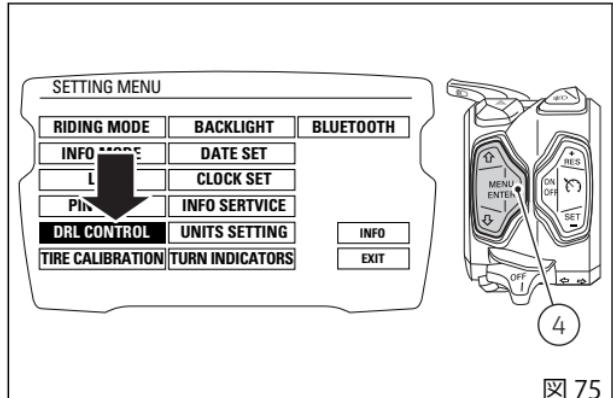
図 74

設定メニュー - DRL モード設定 (DRL CONTROL)

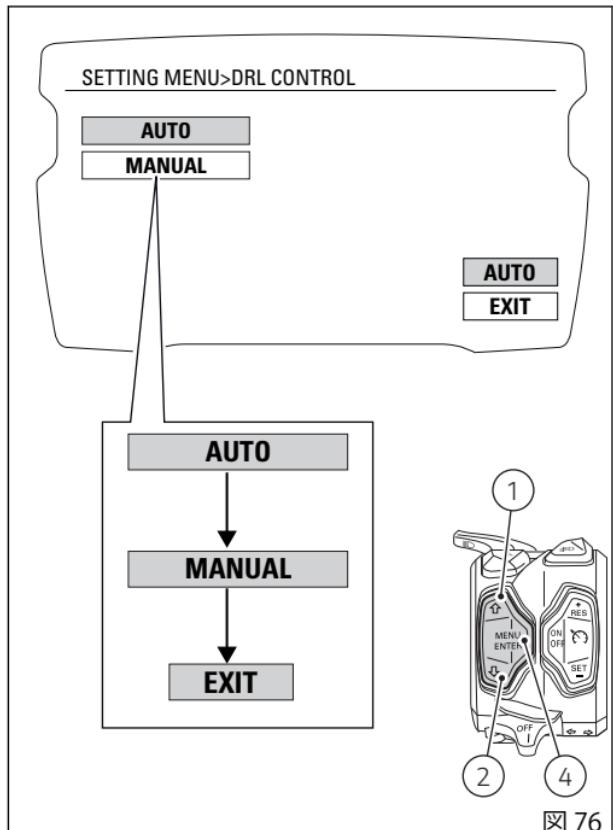
この機能では DRL ステータス : AUTO または MANUAL を選択します。DRL が搭載されている場合にのみ有効です。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "DRL CONTROL" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"DRL CONTROL" メニューに入ります。



この機能に入ると、左側に DRL の設定：AUTO、MANUAL が表示されます。一方、右側 ("EXIT" の上) には現在設定されているモードが表示されています。ボタン(1)および(2)を押すと希望の DRL ステータスタイプを一つずつ強調表示することができます。ボタン(2)を押すと次のパラメーターが、ボタン(1)を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望のタイプを選択したら、ボタン(4)を押して決定します。インストルメントパネルはユーザーが選択したモードを ON にし、該当する文字が強調表示されます。AUTO タイプを選択すると、DRL、ハイビームライト、ロービームライトは外光の明るさに応じて昼間モードと夜間モードの間で自動的に切り替わります。メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

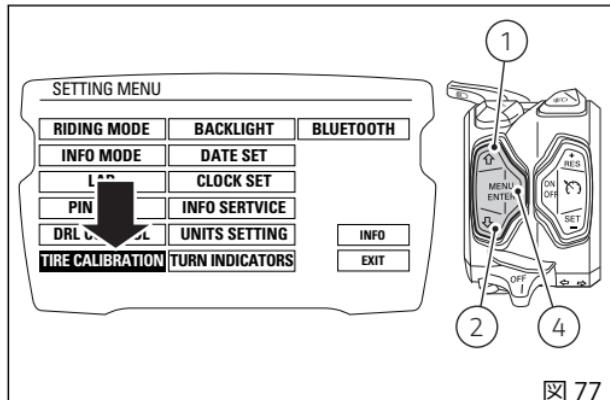


設定メニュー - タイヤおよび減速比のキャリブレーション (TIRE CALIBRATION)

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

設定メニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "TIRE CALIBRATION" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"TIRE CALIBRATION" メニューに入ります。



この機能に入ると、以下の項目が表示されます
(図 78)。

- START
- DEFAULT
- EXIT

“DEFAULT”は、使用中のキャリブレーションがデフォルトのキャリブレーションではない場合にのみ表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して、表示されている項目をスクロールすることができます。

新規キャリブレーションを行うには、“START”を強調表示し、ボタン(4)を2秒間押す必要があります。

この時点では、インストルメントパネルは左側に赤の文字で “READY”、“KEEP SPEED” の文字と自己学習を正常に完了するために維持すべき速度範囲とギアを表示します(図 79)。一方、右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。

!**重要**

走行速度49 Km/h (30 mph)～51 Km/h (32 mph)を維持し、ギアを2速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

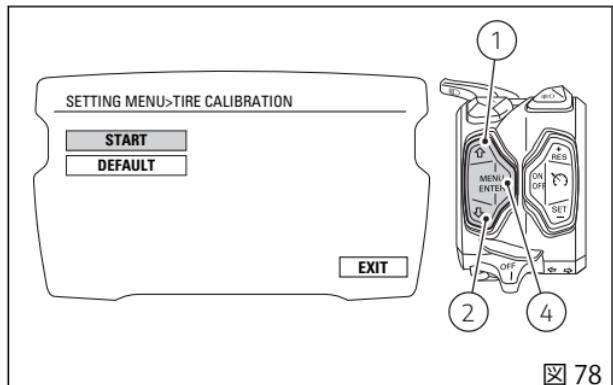


図 78



図 79

走行速度とギアがディスプレイに指定されている状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、“READY”の文字の代わりに“IN PROGRESS”的字が表示されます(図80)。

スピードとギアが指定のパラメーターに5秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに“COMPLETED”的字が表示され(図81)、数秒後に前の画面に戻ります。

参考

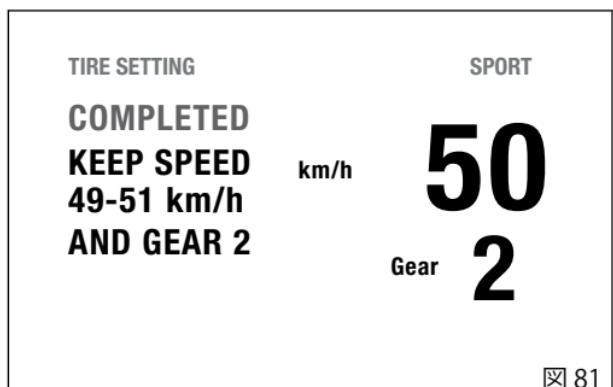
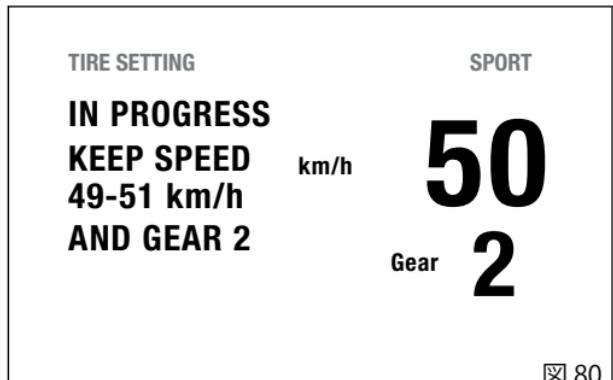
キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h(62 mph)を超えると、キャリブレーションは中断されます。

参考

キャリブレーションプロセス中にボタン(1)を2秒間押すと、キャリブレーションを中止してスタンダード画面に戻ることができます。

参考

キャリブレーションプロセス中に車両をKey-OFFした場合、プロセスは中止され完了せずに終了します。



ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに“ABORTED”的文字が表示され(図82)、数秒後に前の画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに“FAILED”的文字が表示され(図83)、数秒後に前の画面に戻ります。

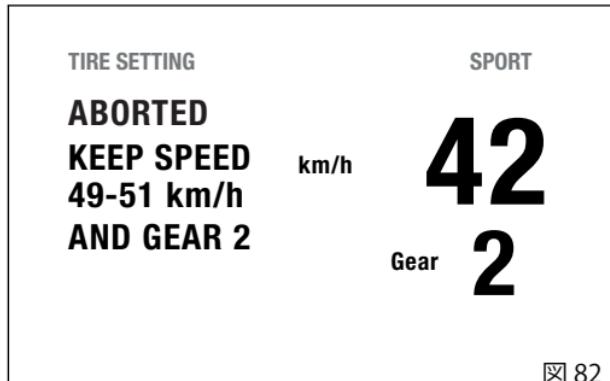


図82

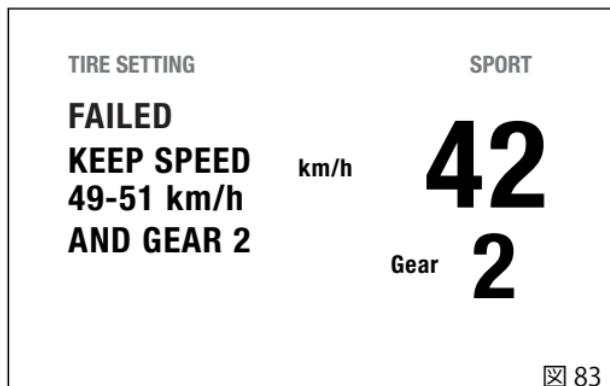


図83

初期設定を回復するには、ボタン(1)と(2)で
"DEFAULT"を選択し(図78)、ボタン(4)を押してください。

この時点では、インストルメントパネルに "DEFAULT PLEASE WAIT..." の文字が表示されます。(図84)そして、数秒後に "DEFAULT OK" の文字が2秒間表示されから(図85)、前の画面に戻ります。

TIRE SETTING

**DEFAULT
PLEASE WAIT...**

図 84

TIRE SETTING

**DEFAULT
DEFAULT OK**

図 85

設定メニュー - バックライトの調整 (BACKLIGHT)

この機能では、インストルメントパネルの背景を選択することができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "BACKLIGHT" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"BACKLIGHT" メニューに入ります。

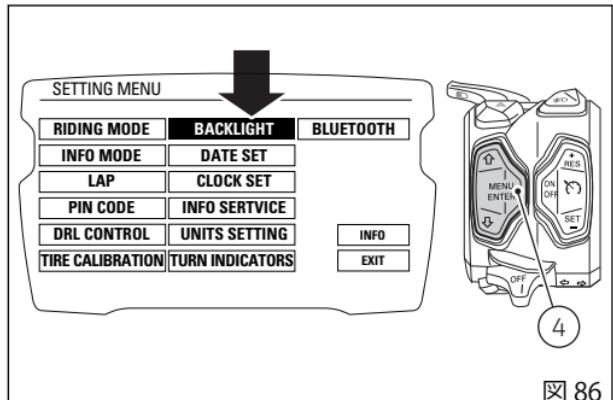


図 86

機能に入ると、左側に設定可能な背景 DAY、NIGHT、AUTO が表示されます。一方、右側 ("EXIT" の上) には現在設定されているモードが表示されています。

ボタン (1) および (2) を押すとインストルメントパネルの背景の種類を一つずつ強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次のパラメーターが、ボタン (1) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望の背景を選択したら、ボタン (4) を押して決定します。インストルメントパネルは直ちにユーザーが選択した表示モードを ON にし、該当する文字が自動的に強調表示されます。

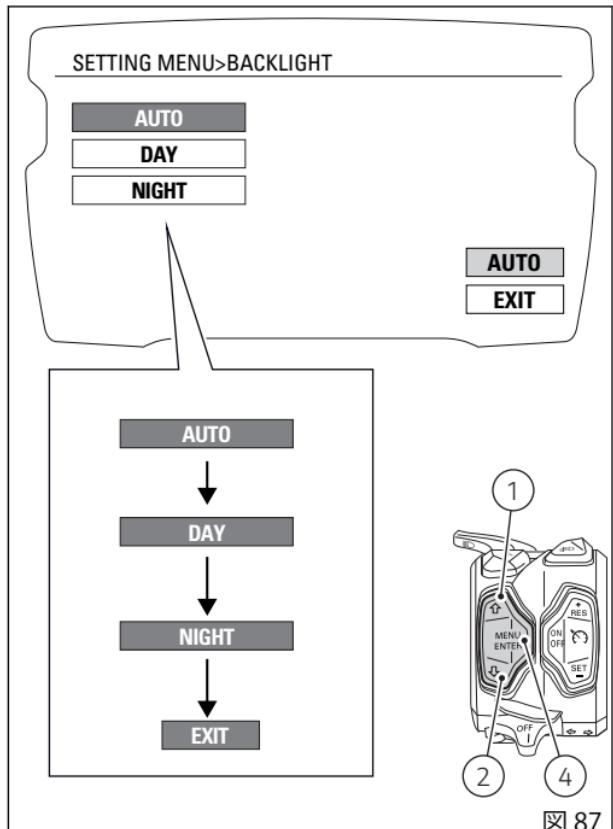
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

DAY 設定(昼間モード)を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい "白" に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

NIGHT 設定(夜間モード)を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの "黒" に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。

AUTO 設定(自動モード)を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ(センサーが感知)に応じて自動的に調整されます。

外光が強い場合はディスプレイの背景は白になります。外光が弱い場合はディスプレイの背景は黒になります。



設定メニュー - 日付の設定 (DATE SET)

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。

設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "DATE SET" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

重要

バッテリーが切り離されるたびに日付はリセットされますので、その都度設定する必要があります。

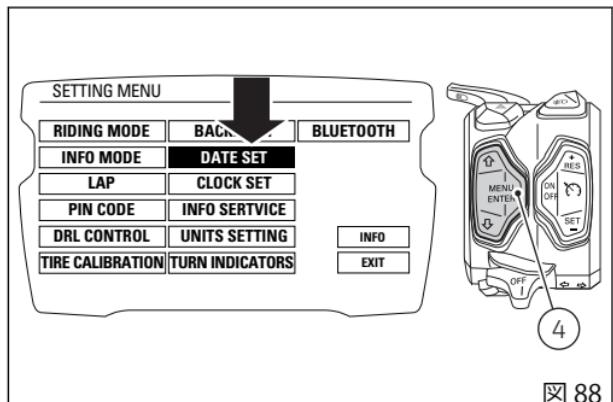


図 88

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、YEAR、MONTH、DAYが表示され、右側には設定された日付が表示されます(例：2014/08/02)。

年の調整

ボタン(1)または(2)を押して"YEAR"を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

年のデータが点滅し始めます。

ボタン(1)を押すと、年の値が以下のように1ずつ小さくなります。2099, 2098,...2000, 2099。

ボタン(2)を押すと、年の値が以下のように1ずつ大きくなります。2000, 2001,...2099, 2000。

希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定された年の値が固定表示に変わります。

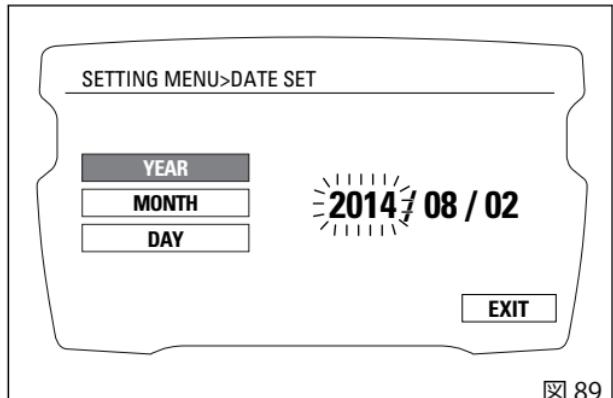


図 89

月の調整

ボタン(1)または(2)を押して "MONTH" を選択します。
強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

月のデータが点滅し始めます。

ボタン(1)を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。12, 11, ..., 01, 12。

ボタン(2)を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ..., 12, 01。

希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定された月の値が固定表示に変わります。

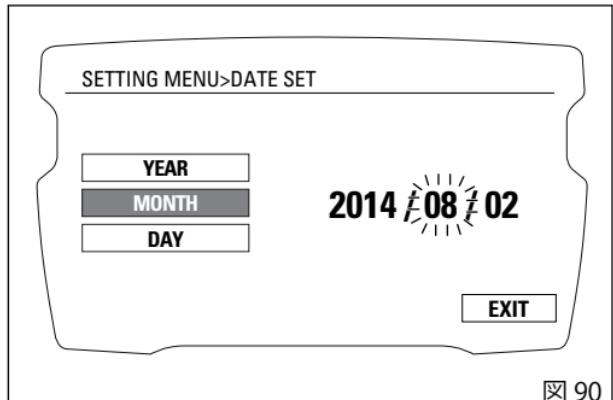


図 90

日の調整

ボタン(1)または(2)を押して "DAY" を選択します。

強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

日のデータが点滅し始めます。

ボタン(1)を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。31, 30, ..., 01, 31。

ボタン(2)を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ..., 31, 01。

希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定された日の値が固定表示に変わります。

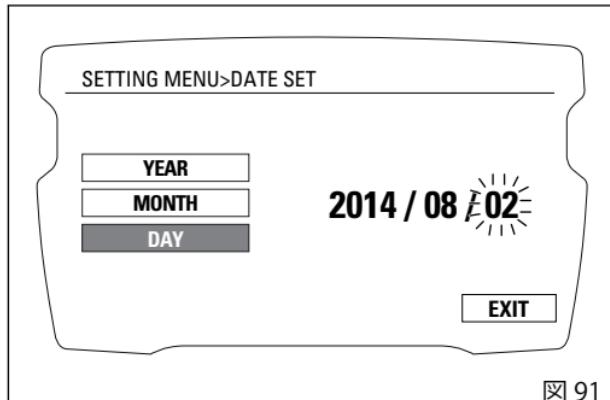


図 91

日付の保存

設定もしくは変更した日付を保存するには、ボタン(1)および(2)を押して "MEMORY" を選択し、ボタン(4)を2秒間押します。インストルメントパネルは "MEMORIZED" を2秒間表示し、自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。

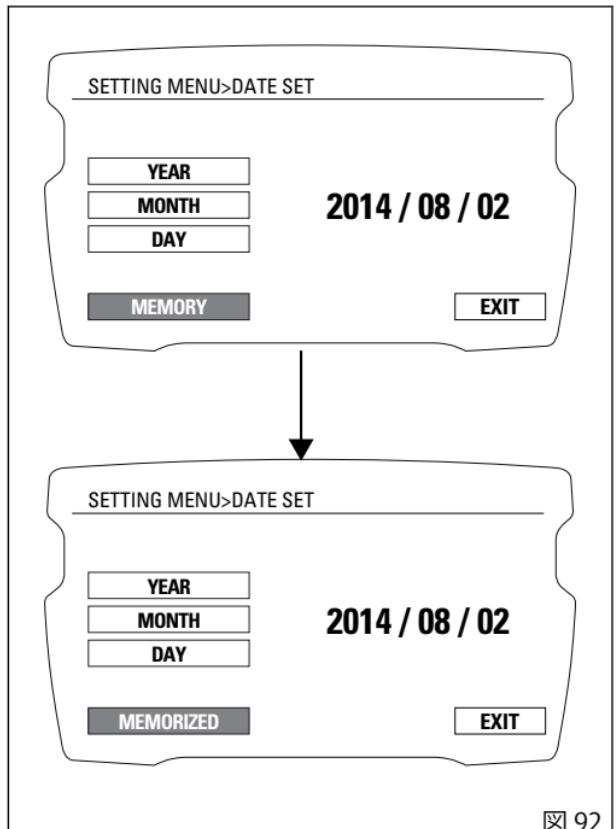


図 92

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG DATE" を3秒間点滅表示した後、日付に点線 "---- / -- / --" を表示して自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。この場合も新しく別の日付を設定することができます。

前の画面に戻るには、"EXIT" の文字が強調表示されている状態でボタン(4)を押します。

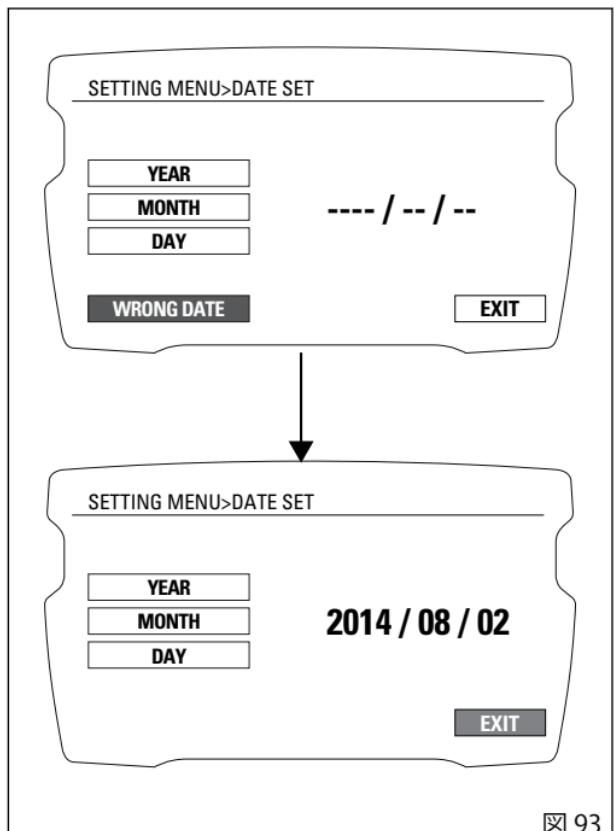


図 93

設定メニュー - 時間の設定 (CLOCK SET)

この機能は時計の調整/設定をします。

設定メニューに入ります。ボタン(1)または(2)を押して "CLOCK SET" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。
"CLOCK SET" メニューに入ります。



バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますので、ユーザーは再度設定する必要があります。

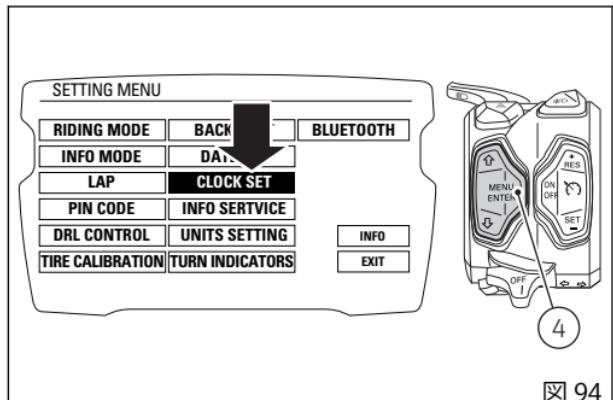


図 94

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、AM / PM、HOUR、MINUTES が表示され、右側には設定されている時間が表示されます(例：AM 10 : 30)。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

AM/PM の調整

ボタン(1)または(2)を押して "AM/PM" を選択します。強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

データが点滅し始めます。

ボタン(1)または(2)を押してそれぞれに対応する AM または PM を選択します。

希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定されたデータが固定表示に変わります。

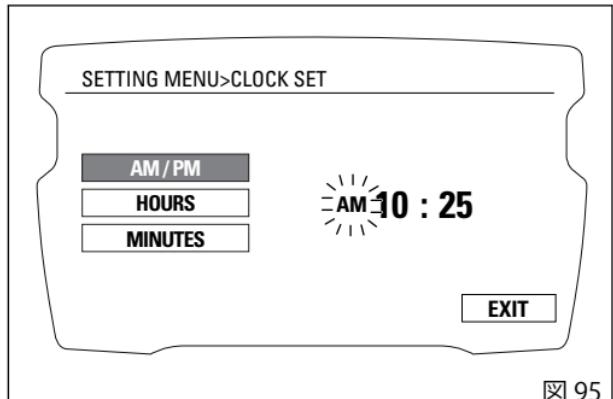


図 95

時間の調整

ボタン(1)または(2)を押して "HOURS" を選択します。強調表示されたら、ボタン(4)を押します。時間のデータが点滅し始めます。

ボタン(1)を押すと、時間の値が以下のように1ずつ小さくなります。12, 11, ..., 1, 12。

ボタン(2)を押すと、時間の値が以下のように1ずつ大きくなります。12, 1, ..., 12

希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定された時間の値が固定表示に変わります。

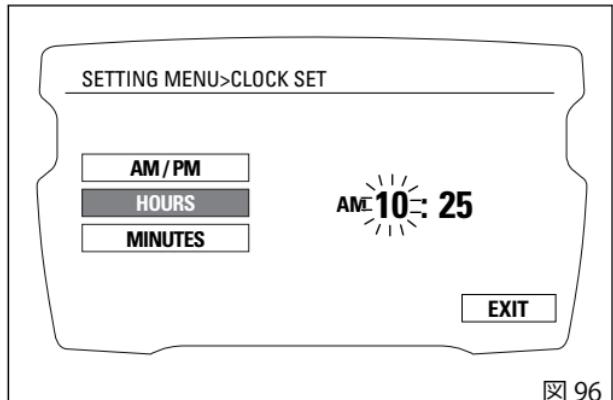


図 96

分の調整

ボタン(1)または(2)を押して "MINUTES" を選択します。

強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

分のデータが点滅し始めます。

ボタン(1)を押すと、分の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。59, 58, ..., 00, 59。

ボタン(2)を押すと、分の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。00, 01, ..., 59, 00。

希望の値に達したら、メニュー決定ボタン(4)を押します。設定された分の値が固定表示に代わります。

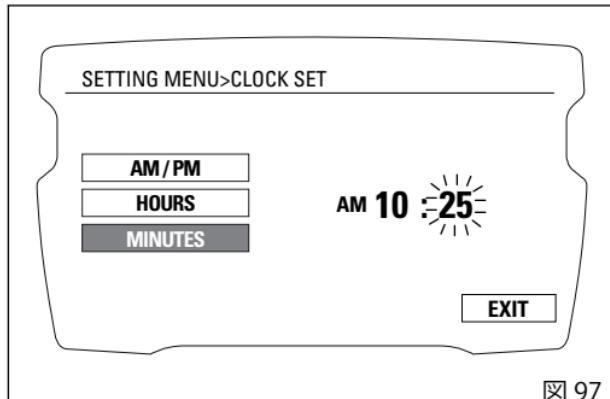


図 97

設定メニュー - サービス情報 (INFO SERVICE)

この機能では、定期点検Oil Service、Desmo Service、Annual Service 期限に関する情報を表示することができます。

サービスの期限を表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で "INFO SERVICE" を表示してボタン(4)を押します。

次の情報を見るることができます。

- DESMO SERVICE : DESMO SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロ または マイル)をカウントダウン表示します。
- OIL SERVICE : OIL SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロ または マイル)をカウントダウン表示します。
- ANNUAL SERVICE : ANNUAL SERVICE 期限の日付を表示します。

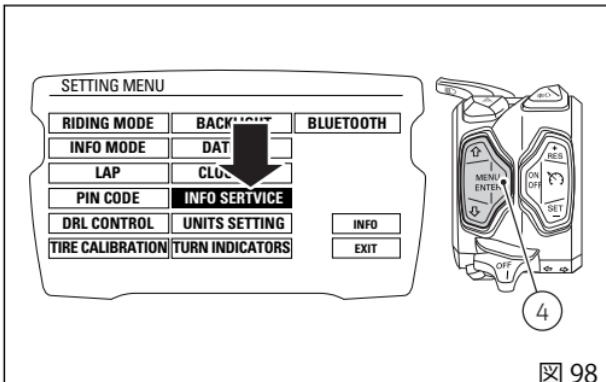


図 98

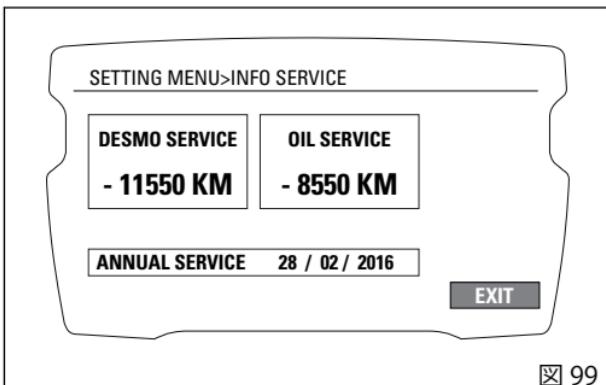


図 99

設定メニュー - 単位の設定(UNITS SETTING)

この機能では、使用する国に関わらず、表示される単位を変更することができます。

手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "UNITS SETTING" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

"UNITS SETTING" メニューに入ります。

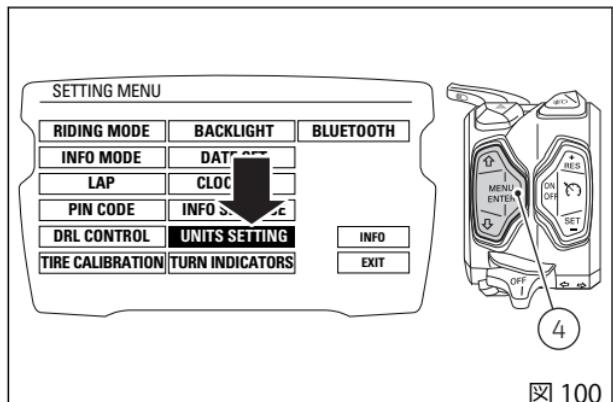
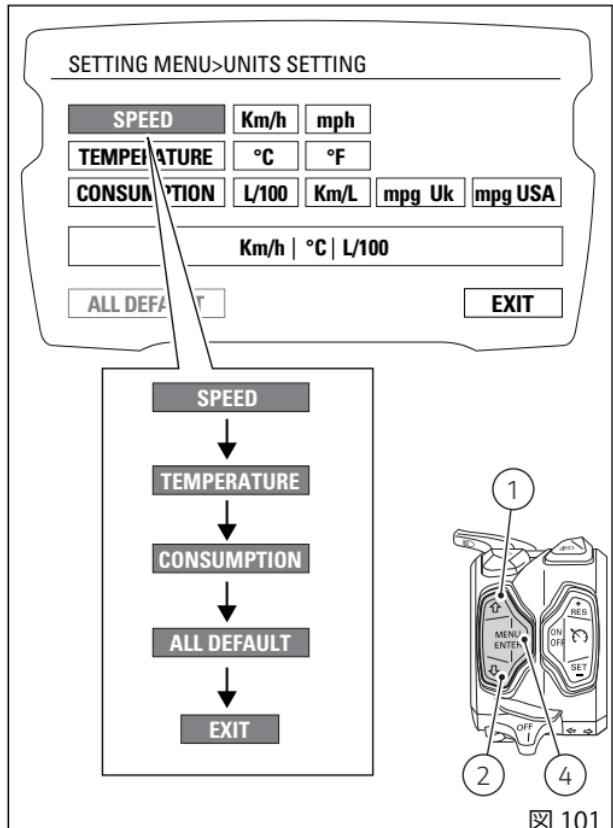


図 100

この機能に入ると、左側に単位の設定が可能な項目の一覧が表示されます。

- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMPERATURE)
- 燃費 (CONSUMPTION)
- 自動設定回復 (DEFAULT)

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。



単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます(走行距離の単位も同時に変更します)。

前のページの記載に従い、"UNITS SETTING" メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "SPEED" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。"SPEED" メニューに入ります。

機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト km/h, mph が表示されます。

ボタン(1)および(2)を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次の単位が、ボタン(2)を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して決定します。選択した単位は保存され、"EXIT" の文字が自動的に強調表示されます。

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード、平均スピード(km/h または mph)
- オドメーター、TRIP1、TRIP2、RANGE(km または mi)

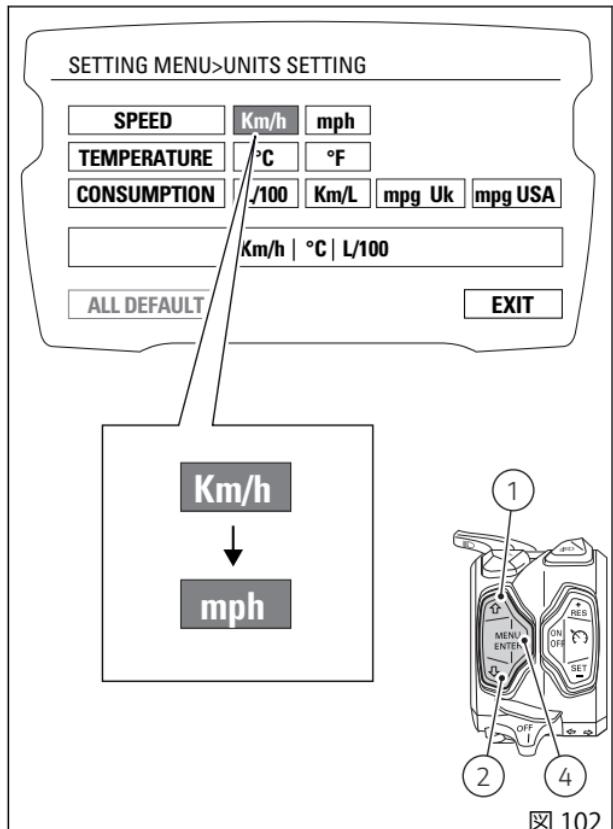


図 102

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。前のページの記載に従い、"UNITS SETTING" メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "TEMPERATURE" を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。

"TEMPERATURE" メニューに入ります。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト。°C、°F が表示されます。

ボタン(1)および(2)を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次の単位が、ボタン(2)を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して決定します。選択した単位は保存され、"EXIT" の文字が自動的に強調表示されます。

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- エンジンクーラント温度および外気温

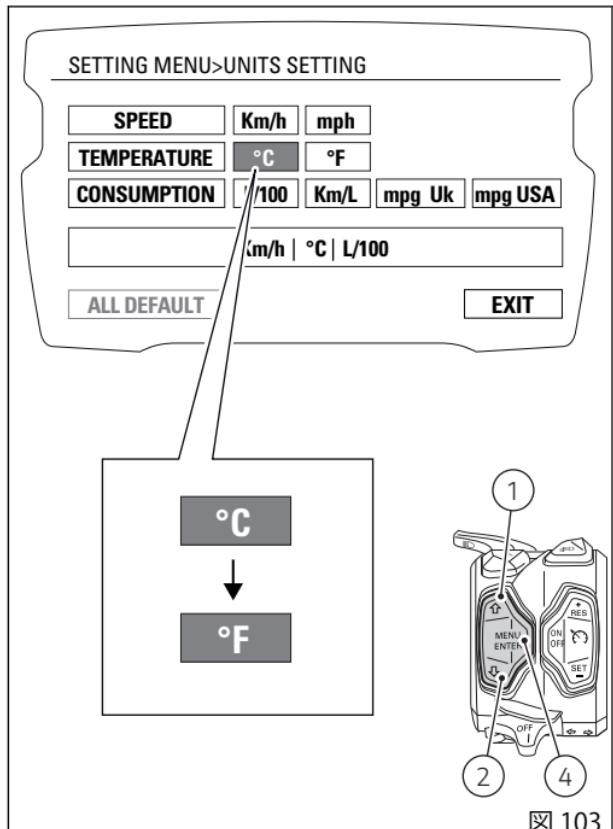


図 103

単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。前のページの記載に従い、"UNITS SETTING" メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "CONSUMPTION" を選択します。

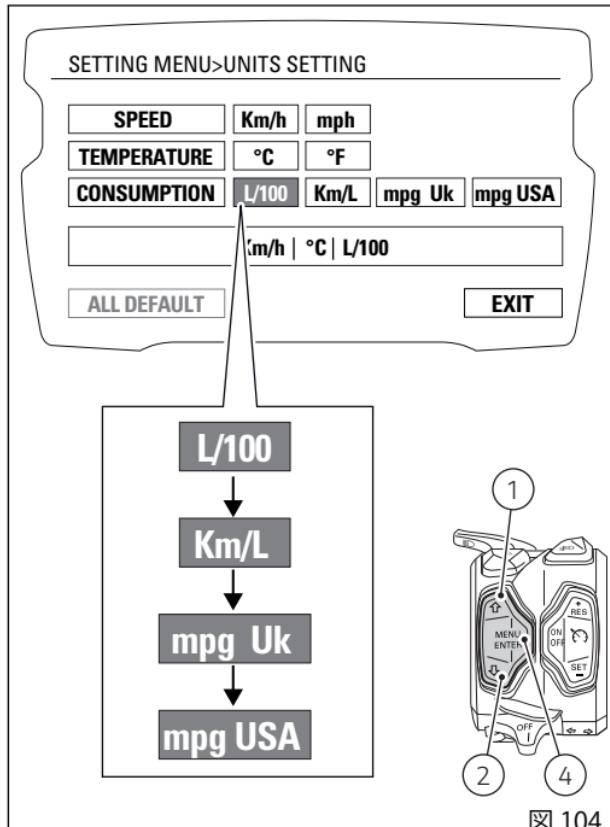
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。"CONSUMPTION" メニューに入ります。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト L / 100km, km / L, mpg (UK), mpg (USA) が表示されます。

ボタン(1)および(2)を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次の単位が、ボタン(2)を押すと前の単位が強調表示されます。

希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して決定します。選択した単位は保存され、"EXIT" の文字が自動的に強調表示されます。

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 瞬間燃費および平均燃費



単位の設定自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。

前のページの記載に従い、"UNITS SETTING" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "ALL DEFAULT" を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を2秒間押します。ディスプレイに "WAIT..." が2秒間表示され、その後 "UNITS SETTING" メニューページに移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

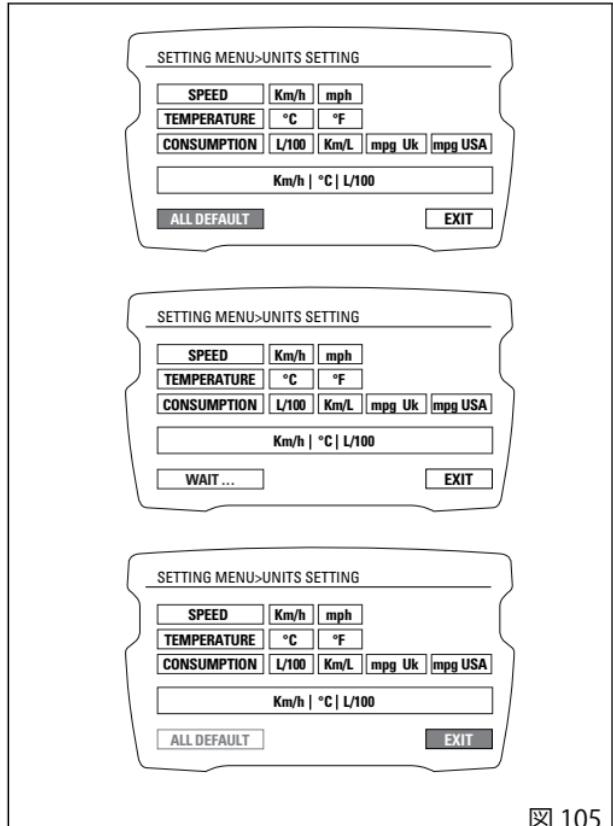


図 105

設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS)

この機能では、リーン角度、走行速度、走行距離を基にしたターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード、または手動モードに設定することができます。

設定メニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "TURN INDICATORS" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"TURN INDICATORS" メニューに入ります。

この機能に入ると、左側に "AUTO" および "MANUAL" が表示されます。一方、右側("EXIT" の上)には現在設定されているモードが表示されています。

ボタン(1)および(2)を使用して、好みの設定を選択します。

- "AUTO" を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーが起動します。
- "MANUAL" を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを停止します(ターンインジケーターの解除は専用ボタンを使って手動で行うことになります)。

設定したい表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択したモードを保存します。

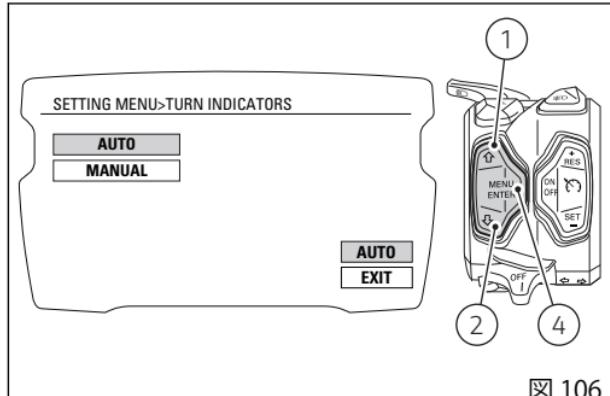


図 106

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考 保存した設定 ("AUTO" または "MANUAL") は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。



参考 ターンインジケーターをハザードモードで点灯している場合は、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーは作動しません。

設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 - アクセサリー (BLUETOOTH)

この機能ではBluetooth デバイスのペアリング、およびその解除を行います。

これらを実行するには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "BLUETOOTH" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

"BLUETOOTH" メニューには Bluetooth 機能が起動しているときのみ入ることができます。

プレーヤーの作動中や操作中、あるいは着信中、通話中、再呼び出し中には "BLUETOOTH" メニューに入ることはできません。

デバイスのペアリング方法は "新しいデバイスのペアリング" を参照してください。

デバイスのペアリング解除方法は "ペアリングデバイスの削除" を参照してください。

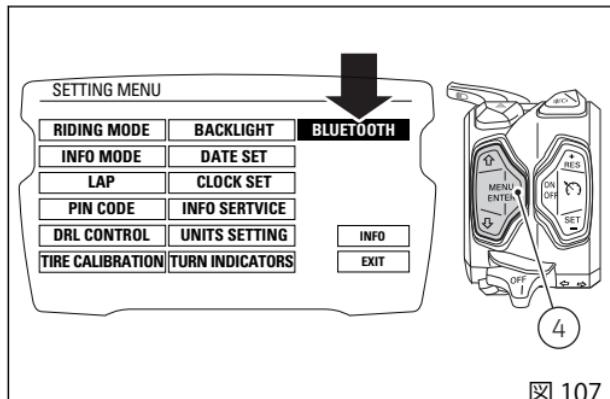


図 107

新しいデバイスのペアリング

この機能ではひとつ以上のBluetooth デバイスを "PAIRING" コマンドを使用してペアリングすることができます。

Bluetooth デバイスをコントロールユニットが検出してアクセスできるように設定します。

検出モードにあるとき、Bluetooth デバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようになります。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。

車両にはBluetooth コントロールユニットが装備されています。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

! 警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth 対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号: 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号: 981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

! 警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット(部品番号: 981029498)ではライダーヘルメットからパッセンジャーへルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます(詳しくは Ducati キット(部品番号: 981029498)に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号 : 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

初めてアクセスすると、最初にデフォルトとして "PAIRING" が強調表示されます。左側にはすでにペアリングされているデバイスのリストが表示されます。ボタン (4) を押してペアリング機能を起動すると、Bluetooth デバイスの検索を始めます。デバイス検索中のマークが点灯し、"WAIT..." の文字が表示されます。

近くにあるデバイスを検出した時点でペアリングは自動的に終了し、検出されたデバイスが右側に一覧表示されます。

ペアリングに失敗した場合は、"PAIRING LOST.PLEASE EXIT" の文字が表示されます。この場合は一旦終了し、もう一度メニューに入りペアリングをやり直してください。

ペアリングが正常に終了した場合は、Bluetooth デバイスを検出した時点でデバイス名が右側のデバイス一覧に表示されます。

ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、左側のリストに表示されているペアリング済みデバイスは表示されません。

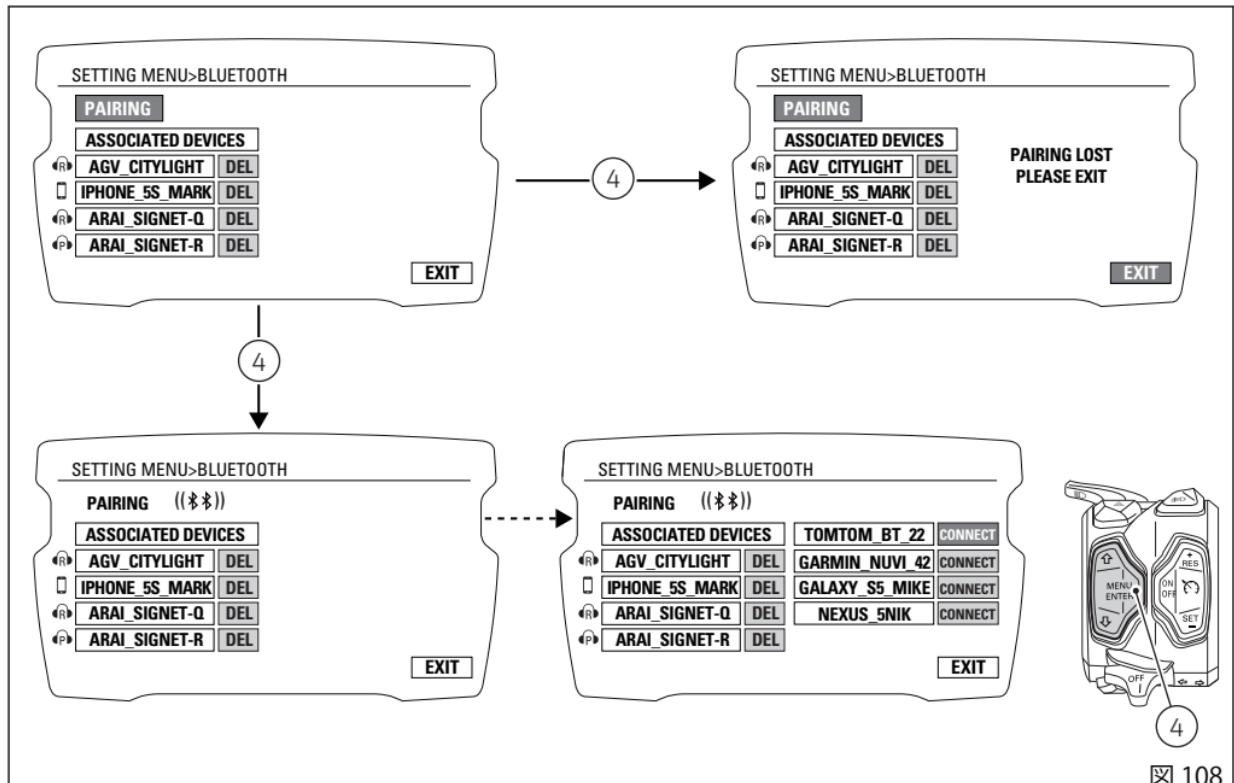
二つ以上のデバイスが同じデバイス名を持っている場合は、検出デバイス一覧には同じ名前のラベルが二つ以上表示されます。

検出されたデバイスにデバイス名が存在しない場合は、検出デバイス一覧には表示されません。

ボタン (1) および (2) を押して、検索中に右側の検出デバイス一覧をスクロールすることができます。

ペアリングしたいデバイスに該当するラベル "CONNECT" を選択し、ボタン (4) を押してペアリングを実行します。

ペアリングを終了するには "EXIT" の文字を選択し、ボタン (4) を押します。



ペアリングが可能な最大デバイス数は以下のとおりです。

- スマートフォン 2台
- ナビゲーター 1台
- ライダーヘルメット 1個
- パッセンジャーへルメット 1個

すでに5つのデバイスがペアリングされている場合にユーザーが新たにペアリングしようとするとき、"MAX 5 DEVICES CAN BE ASSOCIATED" と "REFER TO USER MANUAL" の文字が表示されます。

最初のペアリングデバイスの "DELETE" が自動的に強調表示されます。ひとつ以上のデバイスを解除するか ("ペアリングデバイスの削除" を参照)、もしくは "EXIT" で終了することができます。

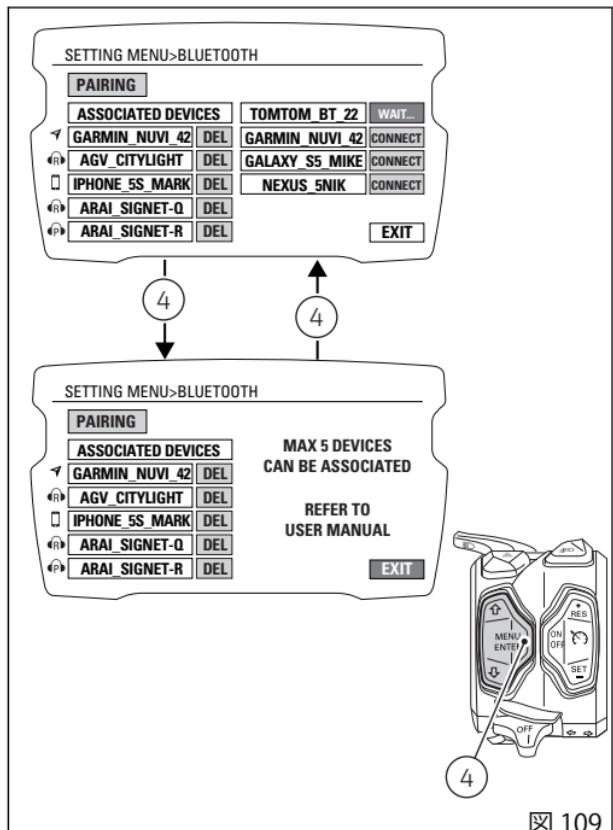


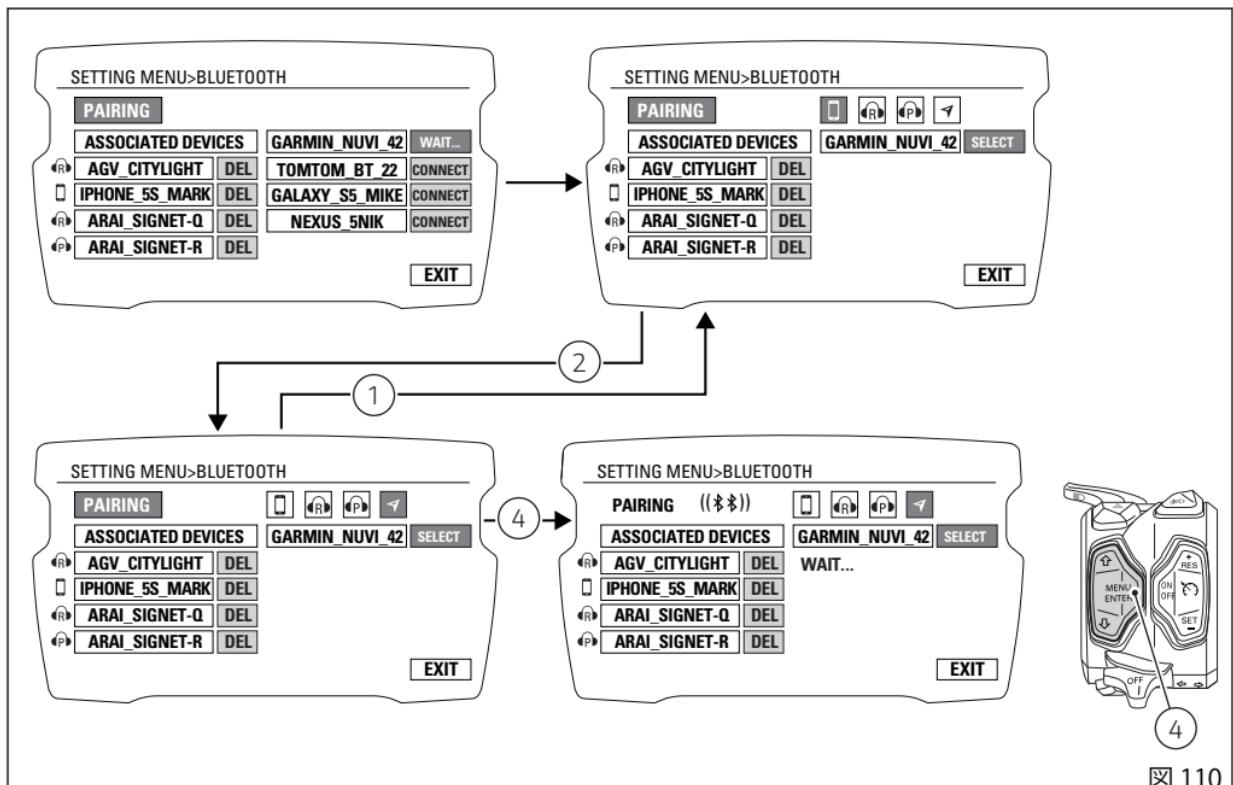
図 109

ペアリングするデバイスを選択すると、選択したデバイスに該当するラベルが "CONNECTED" から "WAIT" に代わり、ペアリングしたいデバイスのタイプを選択する必要があります。選択可能なデバイスタイプに相当する 4 つのアイコンが表示されます。

デバイスタイプは順番に次のとおりです。

- スマートフォン
- ライダーヘルメット
- パッセンジャーヘルメット
- ナビゲーター

ボタン(1)および(2)を押してデバイスタイプを選択します。ボタン(4)を押し、選択を決定します。



Smartphone

スマートフォンをペアリングする場合には、Bluetooth コントロールユニットとペアリングするためのペアリングコード(0000)の入力が必要になります。デバイスを Bluetooth コントロールユニットにペアリングする初回のみコードを入力します。

この場合、ペアリング段階で PIN 入力の指示 "INSERT PIN ON SMARTPHONE: 0000" が表示されます。

ユーザーがスマートフォンに PIN を入力すると、デバイスがペアリングされ、左側の一覧に表示されます。

ナビゲーター

Bluetooth ナビゲーターをペアリングする場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択してペアリングプロセスを完了する必要があります。

この場合、ペアリング中に "CONNECT ON NAVI" の文字が表示されます。コントロールユニットとナビゲーターとの接続に成功した時点でこの文字は消え、ナビゲーター名が左側の一覧に表示されます。

万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しない時は、ペアリングプロセスを完了することはできません。

ナビゲーターのペアリングが 90 秒以上作動している場合、すなわちプロセス中にエラーが発生した場合に

は、検出されたデバイスを選択することはできません。ペアリングを中止するのが適切だと判断された時点で "EXIT" ボタンのみの選択が可能です。

ペアリングが終了すると、ペアリングされたデバイス名が左側のデバイス一覧に表示されます。デバイス名は最初の数文字だけが表示されます。

ペアリングは機能を終了するか、検出された Bluetooth デバイスが他に存在しないと終了します。



警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記 Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

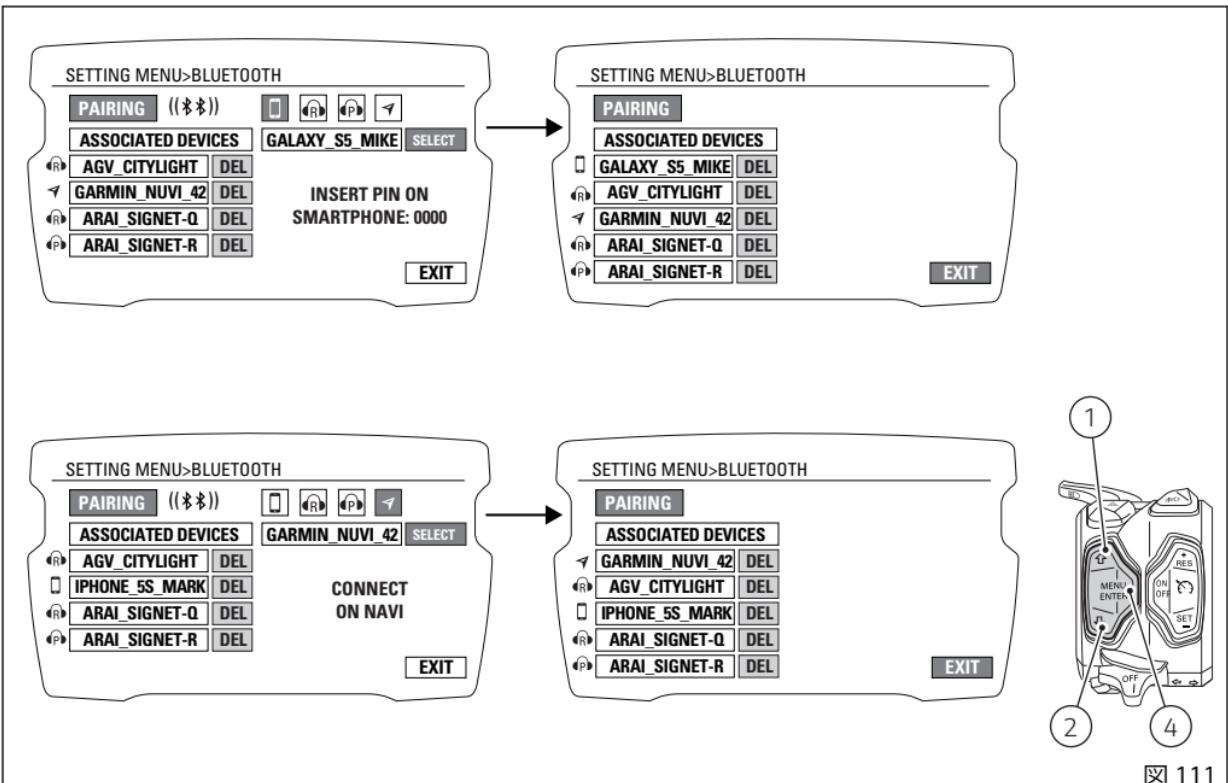


図 111

ペアリングデバイスの削除

Bluetooth設定メニューから、左側のペアリングデバイス一覧にアクセスすることができます。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、ペアリングデバイス一覧から削除したいデバイスを選択することができます。デバイスに対応するラベル "DEL" を緑色に選択したら、ボタン(4)を少なくとも 2 秒間押します。デバイスがペアリングデバイス一覧から削除されます。

ボタン(1)またはボタン(2)で "EXIT" 機能を選択し、ボタン(4)を押すと、Bluetooth設定メニューを終了して設定メニューのメイン画面に戻ります。

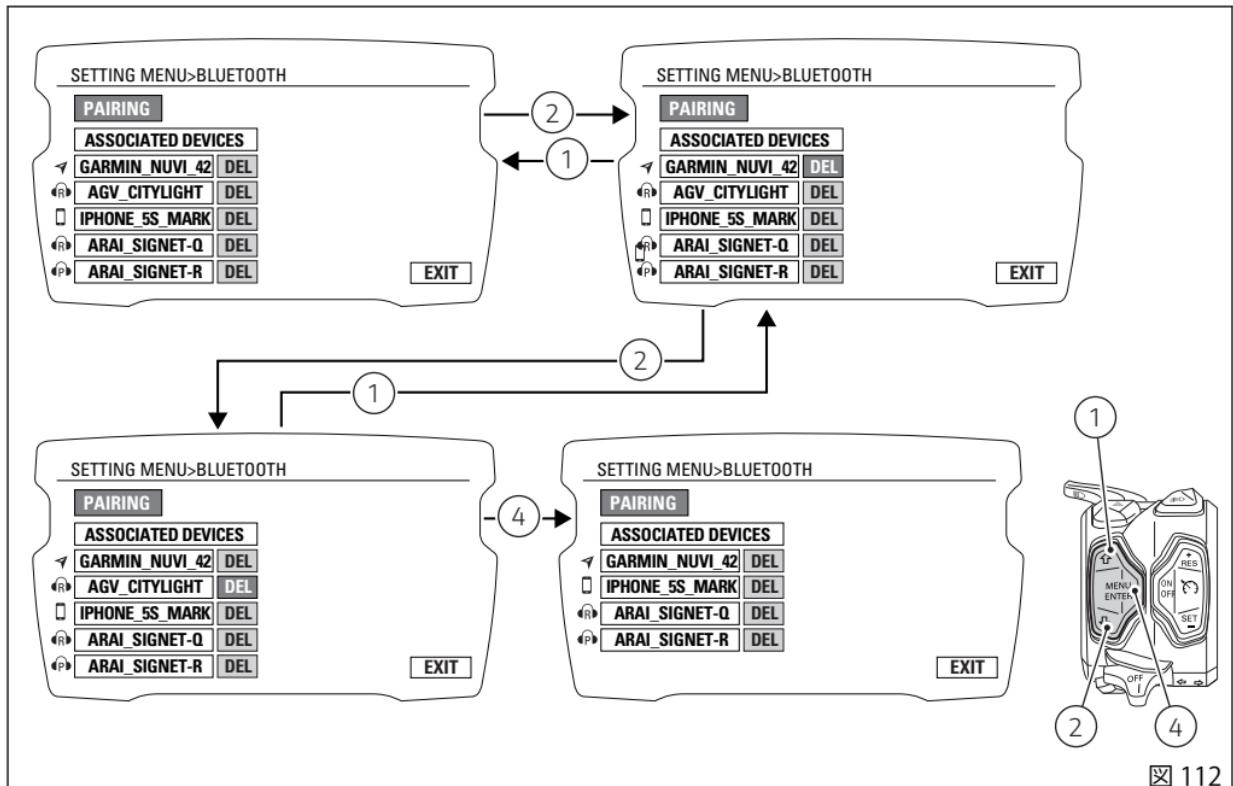


図 112

設定メニュー - 情報 (INFO)

この機能では役に立つ各種情報を表示します。

"INFO" を表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で "INFO" を表示してボタン(4)を押します。

次の情報を見るすることができます。

- BATTERY (バッテリー電圧)
- RPM (エンジン回転数表示)
- BLUETOOTH version (Bluetooth モジュールバージョン)

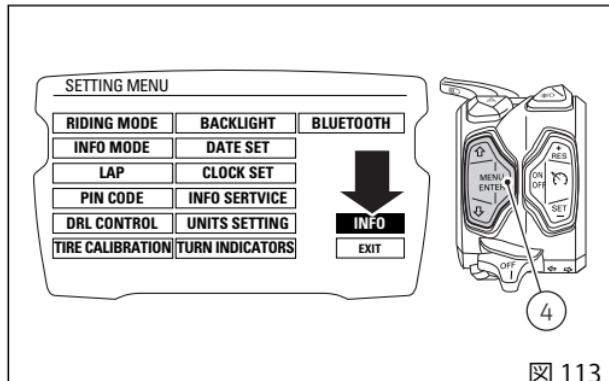


図 113

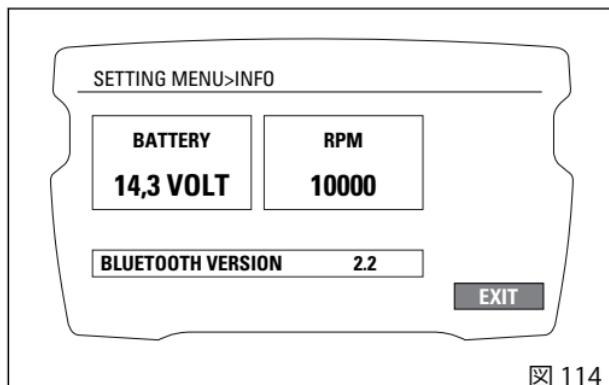


図 114

ラップタイム (LAP TIME)

LAP

インストルメントパネルは LAP 機能の状態を表示します (LAP の記録 ON または OFF)。

LAP 機能が起動しているときは、画面左上に "LAP" の文字が表示され、解除されると表示が消えます。記録中は文字が点滅します。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、CITY 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

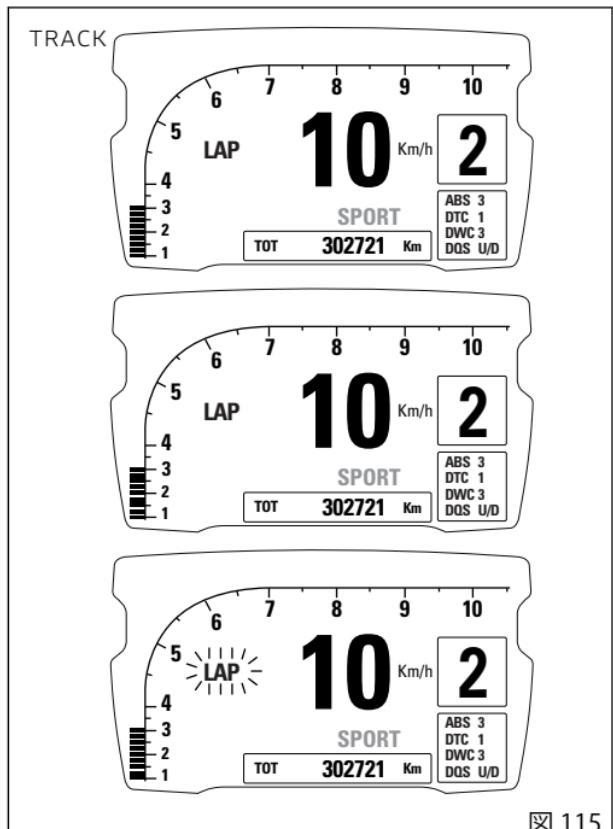


図 115

ローンチコントロール (DPL) ボタン

この機能は、ドゥカティパワーローンチ (DPL - Ducati Power Launch) 機能を起動します。

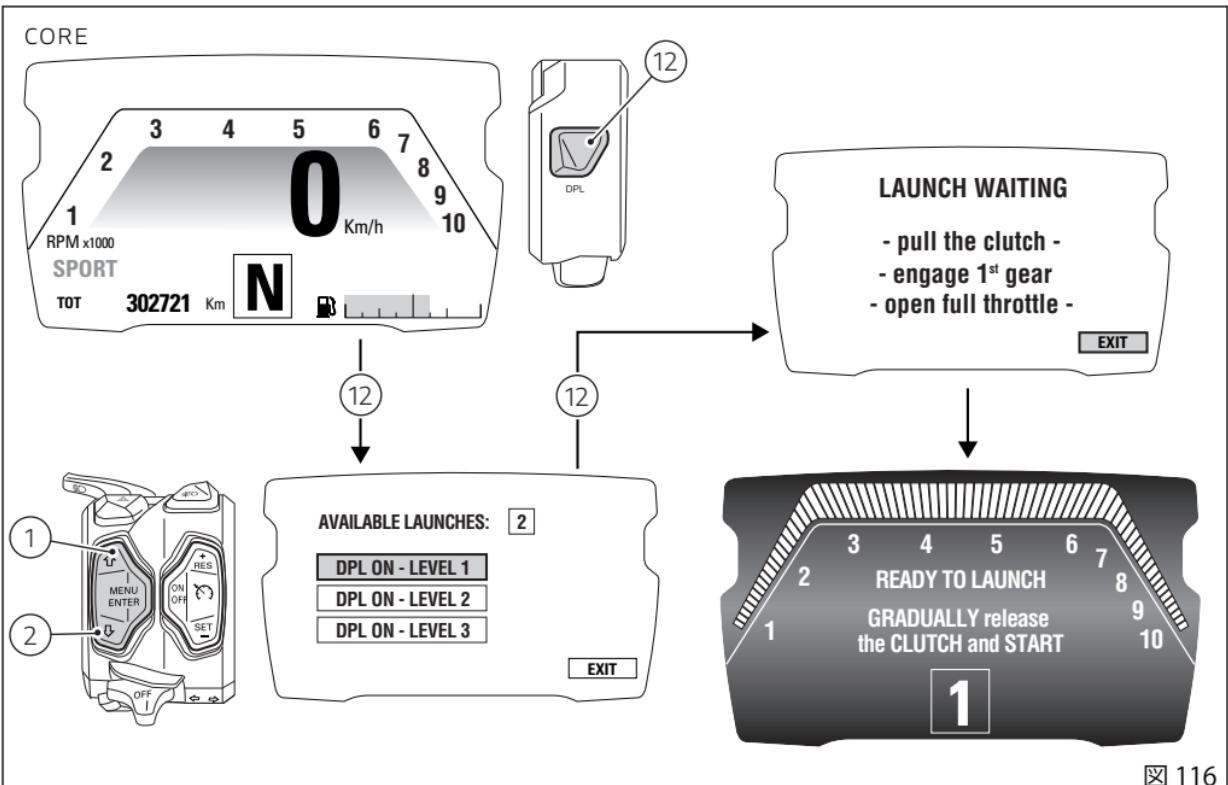
ボタン(12)を押してローンチコントロールメニューに入ります。この操作は走行速度が 5 km/h (3.1 mph) 以下の場合にのみ有効です。

ローンチコントロールメニュー内では、ボタン(1)および(2)を使用して好みのDPL レベル(1、2、3)を選択することができます。一方、ボタン(4)を 2 秒間押して、選択したレベルを設定します。

参考

このメニュー内で 10 秒間変更が行われなければ、インストルメントパネルは DPL を OFF に設定し、前の画面に戻ります。

DPL レベルが設定されると、待機画面が 2 秒間表示されます。待機画面の表示中にボタン(4)を押すと待機フェーズが中断され、インストルメントパネルはメインスクリーンに戻ります。この場合、DPL は OFF に設定されます。





参考 DTC が "OFF" に設定されている場合、DPL 機能を起動することはできません。

DTC が OFF に設定されている場合にボタン(12)を押すと、インストルメントパネルには "DTC OFF – DPL NOT AVAILABLE" が 5 秒間表示されます。5 秒が経過すると、メインスクリーンに戻ります。



参考 DPL メニューに入った時にインストルメントパネルがコントロールユニットのエラーを検出した場合、その時点で起動している表示に関係なく "LAUNCH CONTROL ERROR" の文字が 3 秒間点滅し、その後メインスクリーンに戻ります。

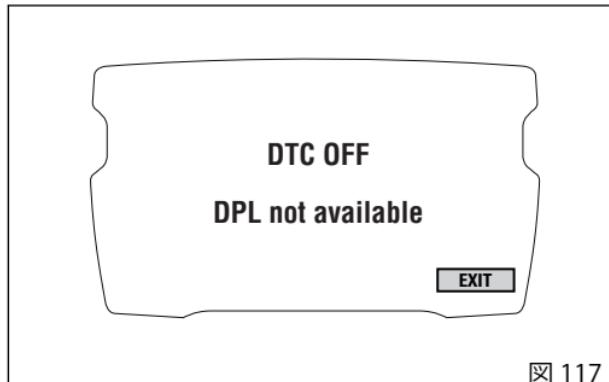


図 117

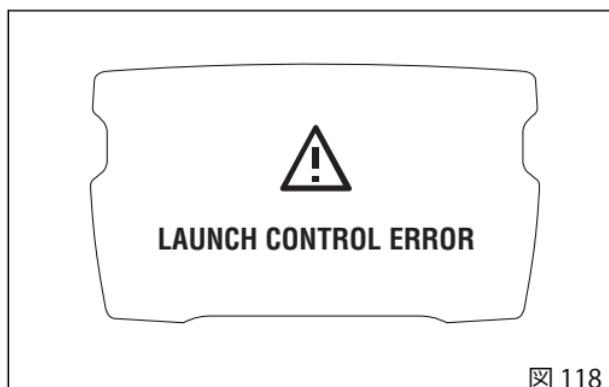


図 118



参考
利用可能なローンチがない場合、"NO LAUNCHES AVAILABLE" が画面に表示されます。



図 119

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能にしてくれます。

DPLシステムは3つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

下表は、発進時の運転タイプに適したDPL介入レベルを示します。すべてのレベルは標準装備のOEM タイヤに合わせて最適化されています。

DPL レベル	パフォーマンス	用途
1	High	非常に熟練したライダー向けに最大のパフォーマンスを發揮。システムはウィリーおよびリアホイールのスリップを可能にしますが、これらの現象発生時の速度を抑えます。
2	Medium	熟練ライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を軽減するだけでなく、これらの現象が発生した場合には大幅な介入を行います。
3	Medium	すべてのライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるだけでなく、これらの現象が発生した場合には継続的に介入を行います。

警告

DPLシステムは、路面のグリップが良好な状態の直線および平坦なルートでのみ使用してください。DPLシステムは整備された環境またはクローズドサーキット内での使用を考慮しています。このため、安全上の理由から不適切な場所での使用はしないでください。

発進方法

発進操作は、主に次の二段階に分けられます。

- 第一段階は、クラッチを完全に放していない状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、クラッチの位置および滑りに依存します。
- 第二段階は、クラッチを完全に放した状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、エンジンが输出するトルクに依存します。

DPLシステムは停止状態からの発進時の第一段階にエンジンから出力されるトルクを自動的に調整してライダーをサポートする補助システムです。発進時の理想的なエンジン回転数を維持することで、ライダーは急激なクラッチ操作ではなく、均一でソフトなクラッチ操作が可能になります。エンジントルクは第二段階においても調整されます。これにより、最大の出力を確保しながらウィリーおよびリアホイールのスリップを制限します。

クラッチの損傷を避けるため、DPLシステムは連続して実行可能な発進回数をリアルタイムで算定し、インストルメントパネルの専用メニューに表示します。発進完了ごとにカウントが1減少します。DPLシステムでは、車両の走行距離およびエンジン稼動/停止状態で経過した時間に応じてカウントが1増加します。発進可能回数がゼロでない限り、ローンチコントロールの使用が可能です。

警告

DPLシステムの使用により、エンジンおよびトランスマッisionの機械部品の寿命が短くなる場合があります。

DPLシステムは、エンジンが動作温度に達した時にのみ使用してください。

DPLのローンチコントロールを実行するには、車両が以下の条件を満たしていなければなりません。

- 走行速度 0 km/h
- 垂直姿勢
- エンジン作動
- DTCステータス ON

ローンチコントロールのカウントがゼロでない限り、ライダーはボタン(12)でDPLレベルメニューにアクセスし、インストルメントパネルで希望のDPLレベルを選択することが可能です。

レベルを選択したら、ライダーはまずクラッチを引きます。1速ギアに入れ、スロットルグリップを最大位置まで完全に開きます。

上記の一連の操作が実行されると、DPLシステムはシステムのスタート準備が整ったことを知らせる確認画面をダッシュボードに表示します。

その後、スロットルグリップを完全に開いた状態でクラッチを徐々に離します。

走行速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えた時、インストルメントパネルの表示は通常機能の画面に戻ります。ただし、発進の間は選択されているDPL レベルが常に表示されます。

クラッチが完全に解放された後で以下の条件のいずれかが検知されると、DPL システムは OFF になります。

- 走行速度が 120 km/h (74.6 mph) を超えた
- 3速ギアが入れられた

クラッチが完全に解放された後、ライダーが発進操作の中止した場合、すなわちスロットルを閉じて走行速度を 5 km/h (3.1 mph) 未満に減速した場合にも、DPL システムは OFF になります。



警告

システムはエンジンからの出力を管理しますが、クラッチを放す操作は管理しません。クラッチ操作はユーザーが制御します。

発進段階でクラッチを急激に放すと、車両の最適な動作を維持できません。また、クラッチ操作に長時間かけすぎると、クラッチが過熱し、クラッチの損傷につながるおそれがあります。



警告

ユーザーの車両上ででのポジションがシステムの動作に影響を与える場合があります。

レベルの選択に際しての注意事項

レベル 3 を選択すると、DPL システムは発進時のウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるように加入します。レベル 2 および 1 ではシステムの介入は少なくなります。

各自の運転に最も適した DPL レベルを見つけるには、システムを起動してまずレベル 3 を選択し、システムの特性を理解するために実際に発進します。その後、最善の介入レベルになるまでレベル 2、1 の順に試してください。

標準装備の OEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大き

く異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

警告

DPLはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えていたり、合理的に許容されるスピードを超えていたりするような運転に寄与するシステムではありません。

クルーズコントロール

Diavel 1260 は走行速度を一定に維持するシステム、ドゥカティクルーズコントロールを搭載しています。

この機能はクルーズコントロールの状態と設定速度を表示します。

ON/OFF ボタン(5)を押して、クルーズコントロールを起動 / 解除することができます。システムが起動すると、インストルメントパネルにクルーズコントロールランプ(A)が点灯します。

最初に起動した時点で、ドゥカティクルーズコントロールはスタンバイモードにあります。このモードでは、すべての動作条件が満たされていれば、自動的に一定に保つ設定速度を受信することができる状態になります(下記参照)。

この機能の表示については CORE 表示モードを例にあげています。TRACK、FULL、CITY 表示モードでも CORE 表示モードと類似した表示になります。

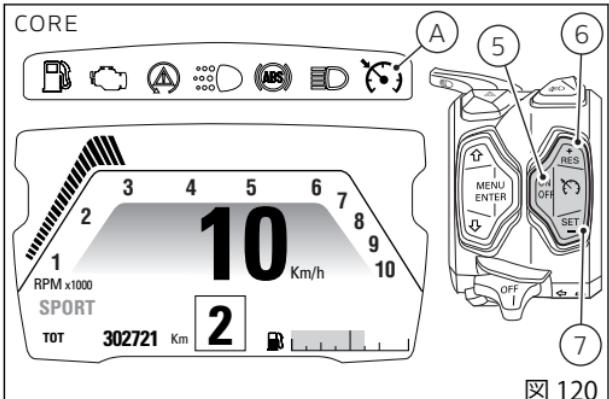


図 120

一旦システムを起動すると、SETボタン(7)を押して現在の走行速度を設定速度として設定することができます。以前に一度も設定速度を設定していない場合、SETボタン(7)の代わりにRESボタン(6)を押しても現在の走行速度を設定速度に設定することができます。この場合、システムは現在の走行速度を記録すると、スロットルを操作することなく記録した速度が維持されます。

クルーズコントロール速度が正しく設定されるとインストルメントパネルに設定速度が5秒間表示され、その後SETアイコンが点灯します。

前回に速度を設定しており、機能条件を満たしている場合にスタンバイモードからRESボタン(6)を押すと、システムはユーザーが最後に設定した速度を呼び出してクルーズコントロール機能を作動します。この場合にも、インストルメントパネルに設定速度が5秒間表示されます。

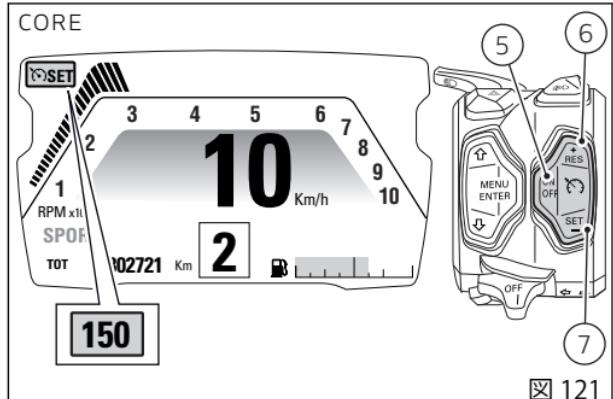


図 121

設定速度の増速および減速は、それぞれボタン(6)および(7)を押して行います。

ワン「クリック」が1km/h(0.62 mph)の増速または減速に相当します。

RESボタン(6)を押し続けると、設定速度が徐々に増加します。

SETボタン(7)を押し続けると、設定速度が徐々に増加します。

設定速度が変更される度に、設定速度がSETアイコンの代わりに5秒間表示されます。

▲ 重要

DTC(トラクションコントロール)が長時間にわたって介入すると、クルーズコントロール機能は自動的に一時停止します。

以下のすべての条件が確認された場合に限り、ドゥカティクルーズコントロールシステムを起動することができます。

- ギアが2速以上に入っている。
- 走行速度50Km/h(30 mph)以上もしくは200 Km/h(125 mph)以下。

以下の方法でドゥカティクルーズコントロールシステムを解除することができます。

- 1) ボタン(5)を押す。
- 2) フロントブレーキレバーを引く。

3) リアブレーキペダルを踏み込む。

4) クラッチレバーを引く。

「2-3-4」の操作を行うと、システムはスタンバイモードに入ります。クルーズコントロールランプは点灯し続けます。

「1」の操作を行うと、システムはOFFになります。クルーズコントロールランプが消灯します。

ドゥカティクルーズコントロールシステムは50Km/h(30 mph)～200Km/h(125 mph)の範囲で車両速度を制御します。

インフォテインメント

Diavel Lamborghini は ドゥカティマルチメディアシステム (DMS) を標準装備しています。このシステムは Bluetooth テクノロジー対応ヘッドフォンを用いて着信通話のほか、音楽を聴いたり SMS 受信通知を受け取ったりすることが可能です。

インストルメントパネルにはインフォテインメント機能の状態、すなわち Bluetooth の起動および接続デバイス(スマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーター)を表示します。

Bluetooth が起動しているときは、メインスクリーンに Bluetooth アイコン (A) が表示されます。

FULL および CITY 表示モードでは、すべてのインフォテインメント情報が表示されます。CORE および TRACK 表示モードではこれらの情報は表示されませんが、各機能ボタンを使用して通話の応答 / 拒否 / 通話終了は可能です。



警告 インフォテインメントに関連するすべての情報 (プレーヤー、電話帳へのアクセス、デバイス名など) は英文字で表示されます。

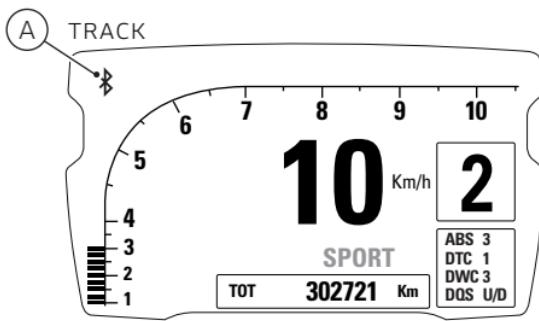
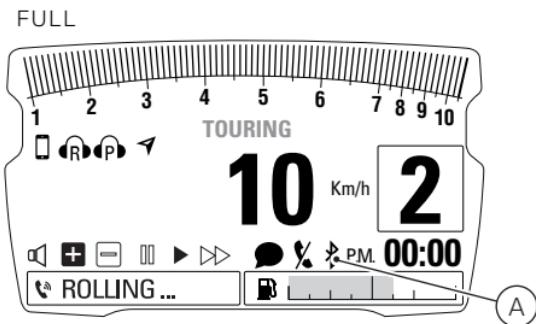
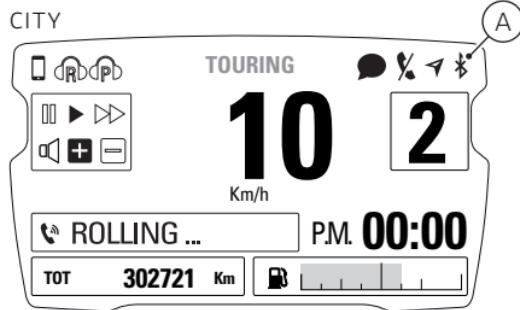
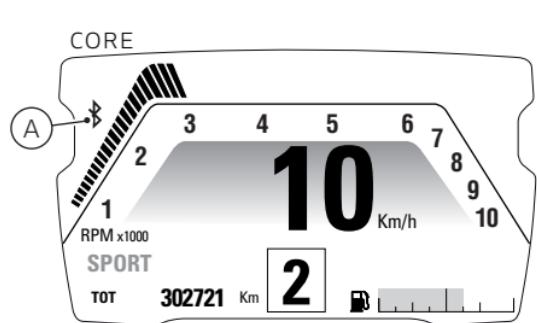


图 122

Bluetoothが起動している場合は、Bluetoothアイコンのほかにスマートフォン、ライダーヘルメットヘッドセット、パッセンジャーへルメットヘッドセット、Ducatiナビゲーターの接続デバイスについても表示されます。

デバイスは最大4台まで接続が可能です。

携帯電話

電話機能を用いて以下の操作が可能です。

- ボタン(1)およびボタン(2)を押して、着信を管理します。
- 通話の中止後5秒以内に、最後に通話していた番号へかけ直すことができます(リコール機能)。

参考

機能ボタンで電話帳に登録されている氏名/電話番号を選択して電話をかけることはできません。

着信があると(B)、枠内の青色が点滅します。着信を受けると枠内の青色の点滅が止まります。

TRACKおよびCORE表示モードでは、着信中も発信者名や電話番号は表示されません。ライダーには

Bluetoothヘッドセットから着信音が聞こえます。

着信時にプレーヤー(E)が作動している場合は、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。

ボタン(2)を押して着信を受けます。

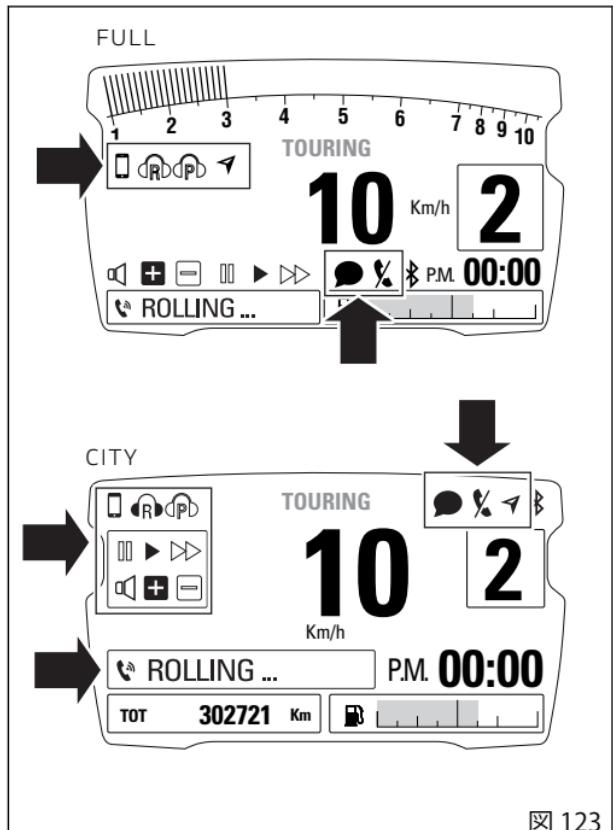


図 123

通話を終了するには、ボタン(1)を2秒間押し続けます。

メインスクリーン設定がFULLまたはCITYモードの場合には、電話をかけ直すことができるリコール機能を表す枠が通話終了後5秒間表示されます。

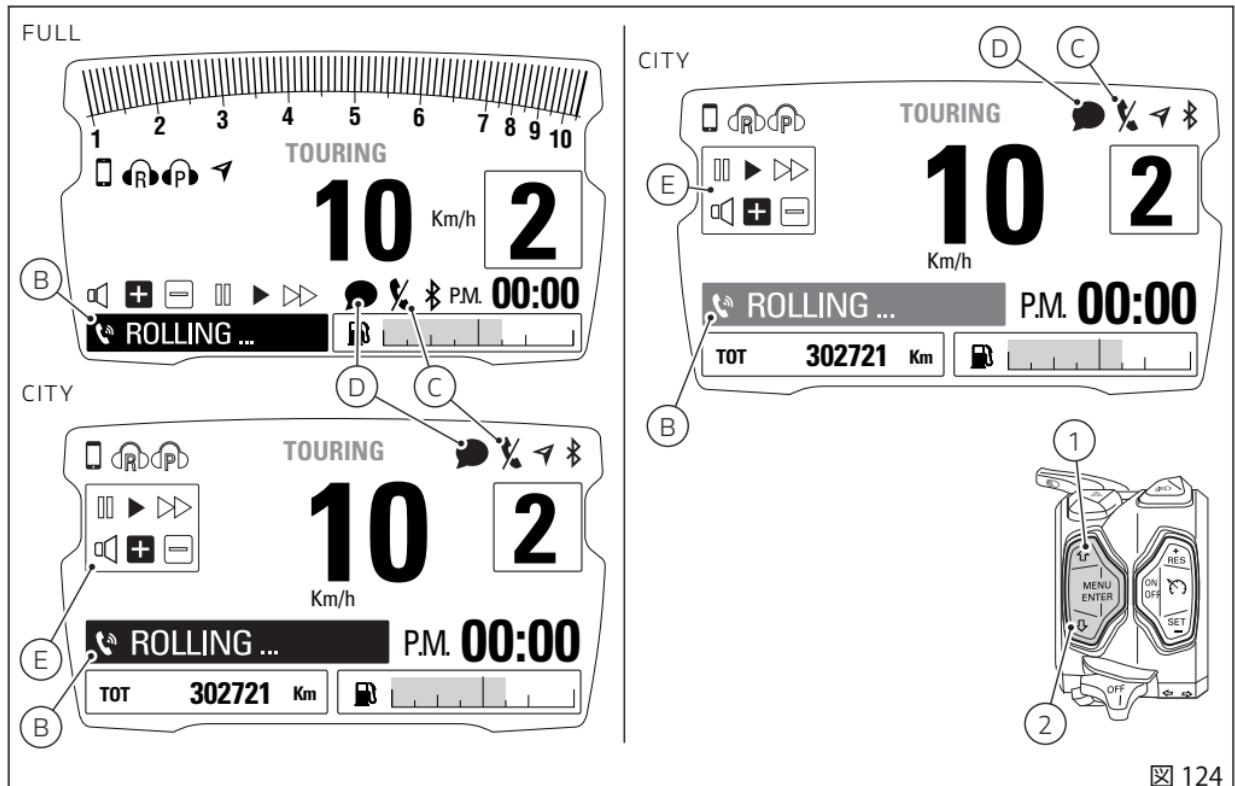
5秒が過ぎると、リコール機能枠は解除されます。

リコール機能を使うには5秒以内にボタン(2)を押します。

TRACKおよびCORE表示モードにはリコール機能はありません。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに応答しなかった着信がある場合は、不在着信マーク(C)が表示されます(一定時間)。不在着信の相手番号は表示されません。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに未読のSMS/MMS/EMAILがある場合は、未読メッセージのマーク(D)が表示されます(一定時間)。未読メッセージ数は表示されません。



プレーヤー

プレーヤーはFULLおよびCITY表示モードで起動することができます。少なくとも1台のスマートフォンが接続されていると(メインスクリーンの青色アイコン)、メニュー1内にPLAYER OFF機能(F)が表示されます。CITY表示モードにおいては、ボタン(1)を2秒間押して"PLAYER OFF"を起動させるとプレーヤーが起動します。

インストルメントパネルはメニュー1に"PLAYER ON"を表示します。FULLおよびCITY表示モードではいずれもプレーヤーのグラフィック：専用キーパッドとトラック名(E)が起動します。プレーヤーが起動すると、ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)はプレーヤー操作専用ボタンになります。

プレーヤーがONの時にインストルメントパネルがトラック名を受信しない場合、曲再生が一時停止になり、曲名が表示される枠内に"NOT AVAILABLE"の文字が表示されます。



重要
着信中、通話中、およびリコール中はメニュー1からプレーヤー機能を起動することはできません。

音量調節は以下の方法で行います。

- 音量を上げる：ボタン(1)を押します。
- 音量を下げる：ボタン(2)を押します。

プレーヤーを一時停止/連続再生するにはボタン(4)を2秒間押します。

次の曲にスキップするにはボタン(4)を押します。ボタンを押すたびに一曲ずつスキップします。

プレーヤーをONの状態にしたまま、プレーヤー操作から出るにはボタン(2)を2秒間押します。

プレーヤー操作を出てから3秒以内に"PLAYER ON"の対応するボタン(1)を2秒間押すと、プレーヤーをOFFにすることができます。メニュー1には"PLAYER OFF"の文字が表示されます。

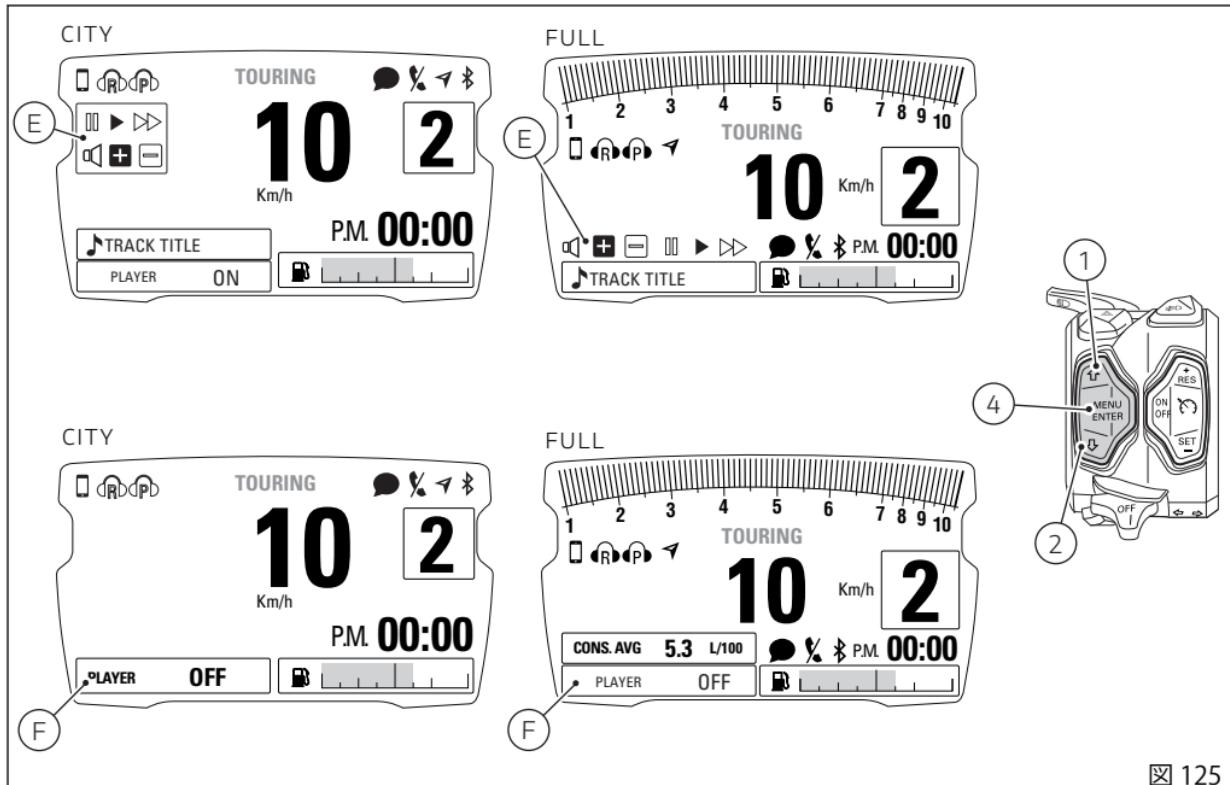


図 125

よくある質問と回答 (FAQ)

1) Eメール受信通知を受け取れません。

メール受信の通知は、携帯電話のネイティブアプリケーションに設定されている場合にのみ受け取ることができます。また、携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります (端末の OS により異なる)。

2) SMS 受信通知を受け取れません。

携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります (端末の OS により異なる)。

3) ヘッドセットを接続できません。どうしてですか？

一回ペアリングを行っている場合は、ヘッドセットを一度リセットして再び車両とのペアリングを実施してください (ヘッドセットの取扱説明書参照)。

4) 着信時、インストルメントパネルには発信者の番号は表示されますが、発信者名は表示されません (電話帳に保存している場合も含む)。

携帯電話が PBAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、携帯電話の電話帳へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります (端末の OS により異なる)。

5) インストルメントパネルからプレーヤーを起動しても、音楽がスタートしません。

プレーヤーの起動は携帯電話の設定に依存します。この場合は、インストルメントパネルからプレーヤーを起動したのち、スマートフォンから音楽再生アプリを起動してください。

6) 音楽の音が飛ぶことがあります。

デバイスの接続が悪いと、Bluetooth コントロールユニットがまだデバイスとの接続を完了しようとしているままになる場合があります。また、PBAP プロフィールおよび MAP プロフィールが有効でなければなりません。iOS の場合は、項目 7) を参照してください。Android の場合は、項目 2)、4) を参照してください。

7) iPhoneではメッセージ受信通知を受け取れません。
どうしてですか？

「設定」メニューの「Bluetooth」を選択してください。「デバイス」リスト内から「Ducati Media System」の横にある「i」を選択してください。通知の表示を有効にします。

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス(定期点検)を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

定期点検には 3 つの種類があります。

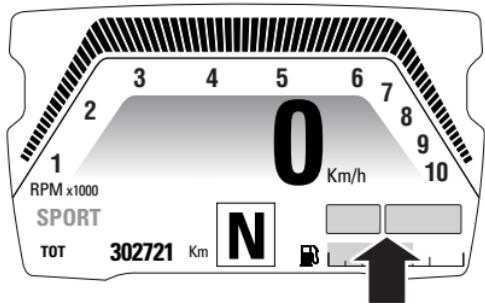
- OIL SERVICE ZERO : 最初の 1000 km (600 mi) 点検
- OIL SERVICE および ANNUAL SERVICE : オイル点検もしくは一年点検(どちらも同様の点検作業を実施します)
- DESMO SERVICE



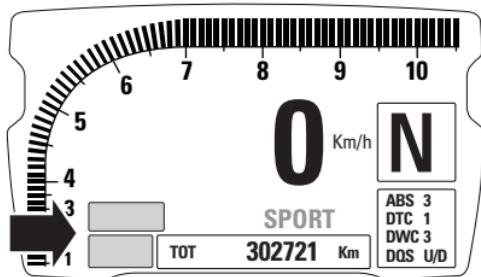
警告

ANNUAL SERVICE 機能は日付が設定されている場合にのみ利用が可能です(作動します)。

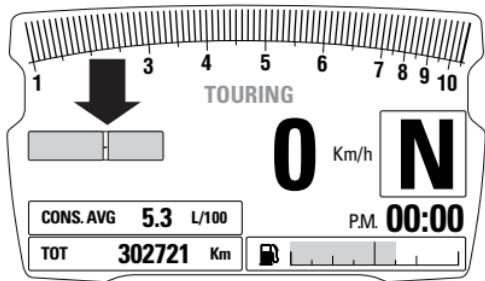
CORE



TRACK



FULL



CITY

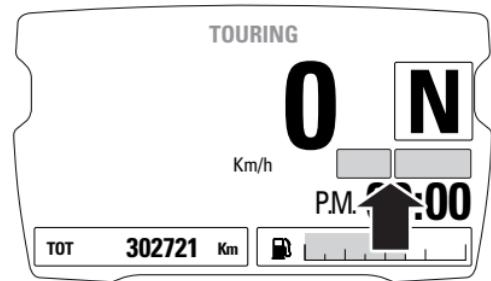


図 126

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、Oil Service (OIL) ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると表示され、Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

OIL



図 127

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE カウントダウン表示

Oil Service ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは Key-ON ごとに以下の表示を黄色で 5 秒間表示します。

- 次回の定期点検 OIL SERVICE (A) までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切るまで、定期点検までの残りのキロ数 (マイル数) をカウントします。
- 次回の定期点検 ANNUAL SERVICE (B) までの日数が 30 日を切るまで、残りの日数をカウントします。
- 次回の定期点検 DESMO SERVICE (C) までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切るまで、残りのキロ数 (マイル数) をカウントします。

点検までの正確な残りの走行距離、またはメンテナンス予定日を知るには、設定メニューに入り “INFO SERVICE” を選択します。

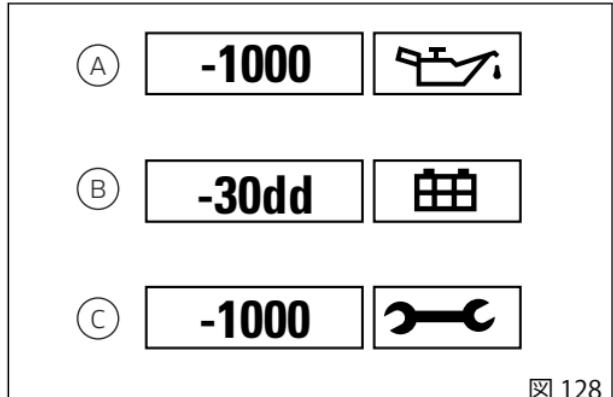


図 128

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のおうち必要なメンテナンスが表示されます。

- Oil Service (A)
- Annual Service (B)
- Desmo Service (C)

点検までの残りの走行距離、またはメンテナンス予定日を知るには、設定メニューに入り“INFO SERVICE”を選択します。

実施するメンテナンスの種類が赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて“リセット”されるまで常時表示されます。

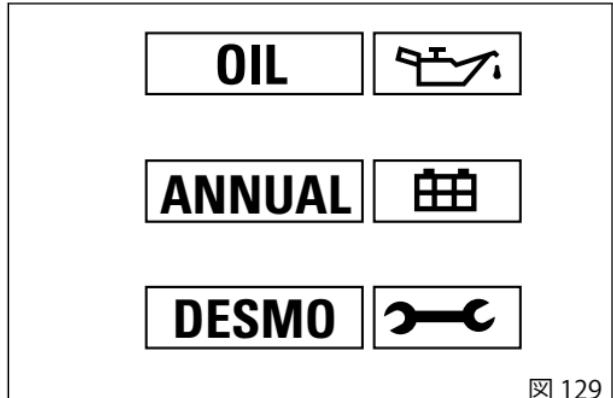


図 129

ライトモード表示 (DRL)

インストルメントパネルは、黒のアイコンの内側に "A" の文字で DRL コントロールが AUTO モードに設定されているかどうかを表示します。

DRL ランプが MANUAL モードの場合は、インストルメントパネルはアイコンを表示しません。

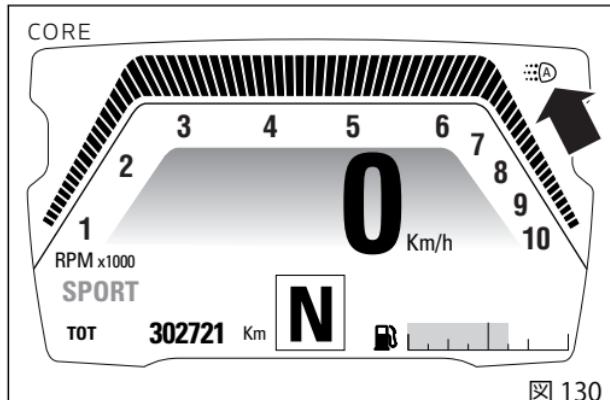


図 130

サイドスタンドの状態の表示

インストルメントパネルはスタンドの状態を表示します。サイドスタンドが下りている/開いている場合には、赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンがディスプレイに表示されます。

サイドスタンドセンサーエラーが検知されると、インストルメントパネルはサイドスタンドエクステンド/オープンを表示し、MIL ランプを点灯します。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の "SIDE STAND" の表示が点滅し、不明の状態を表します。



サイドスタンドが下りていてギアが入った状態では車両を始動することはできません。ギアがニュートラルの状態で車両を始動し、次にサイドスタンドが下りている状態でギアを入れると、車両は停止します。

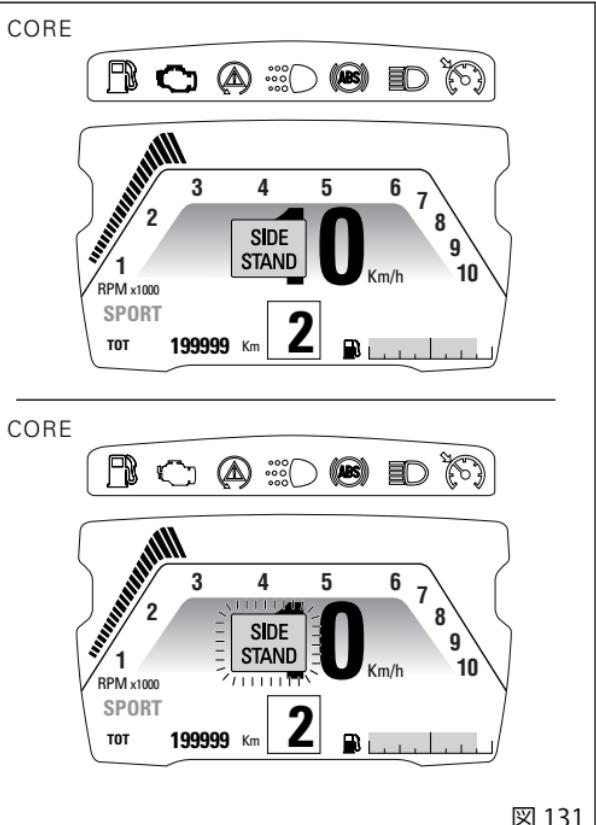


図 131

注意 / 警告 (WARNING)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告(warnings)を管理します。

KEY-ON時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。

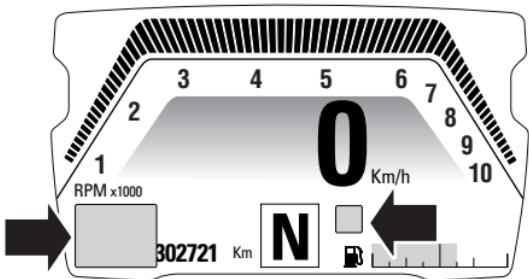
車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。警告が検知されると最初の10秒間はっきりと表示され(大きいアイコン)、その後小さく表示されます(小さいアイコン)。

複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが3秒ずつ順番に表示されます。

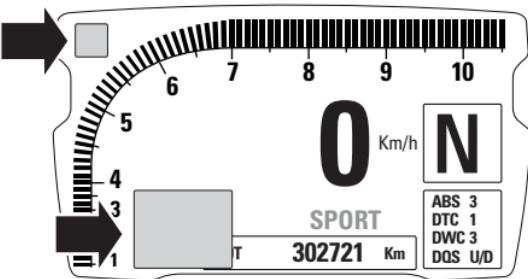
⚠ 警告

ひとつ以上の警告灯が点灯すると同時に一般的エラー警告灯が点灯する場合、一般的エラー警告灯が点灯している間は小さい警告アイコンは表示されません。警告アイコンは最初の10秒間のみ大きく表示されます。

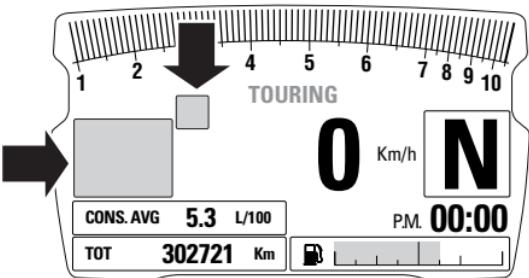
CORE



TRACK



FULL



CITY

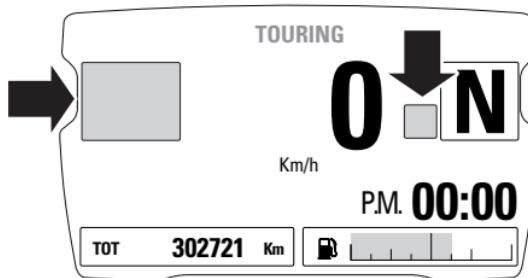


図 132

凍結

この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。

温度が 4° C (39° F) に下がると表示され、 6° C (43° F) に上がると表示が消えます。

⚠ 警告

気温が 4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が"低い"時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

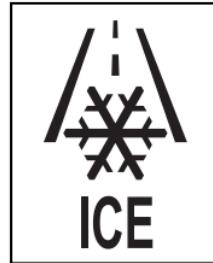


図 133

バッテリーレベルLOW(LOW BATTERY)インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。

バッテリー電圧が約11.0V以下になると表示されます。



参考

この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

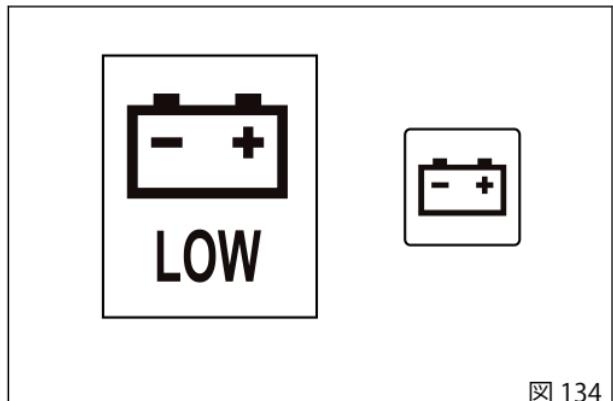


図 134

Hands Free (HF) キー無感知

Hands Free システムが車両付近に "アクティブキー" を感知できないとき、この警告が表示されます。



この場合、アクティブキーが実際に車両付近に存在するか(キーを紛失していないか)、あるいはアクティブキーが正しく作動しているかを確認してください。



図 135

Hands Free (HF) キーバッテリーレベル "LOW"
情報のやりとり、車両の起動を行うアクティブキーの
電池が切れかかっていることを Hands Free システムが
検知すると、この警告が表示されます。



この場合、早急に電池を交換してください。

電池の交換については "アクティブキーのバッテリー
の交換" を参照してください ページ 240。

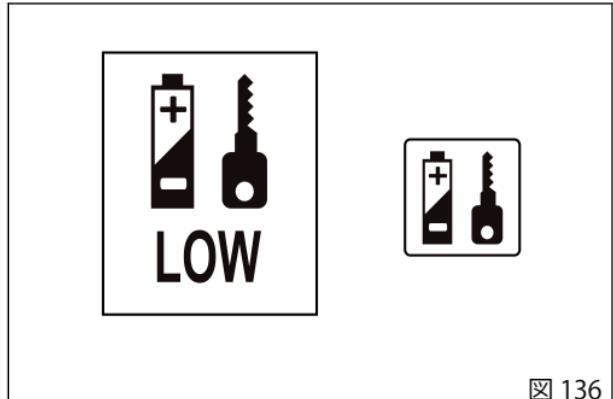


図 136

日付の入力

この機能は設定メニューから日付を入力する必要があることを通知します。



参考

この場合は一旦停車し、"日付の設定(DATESET)"機能から日付を入力してください。

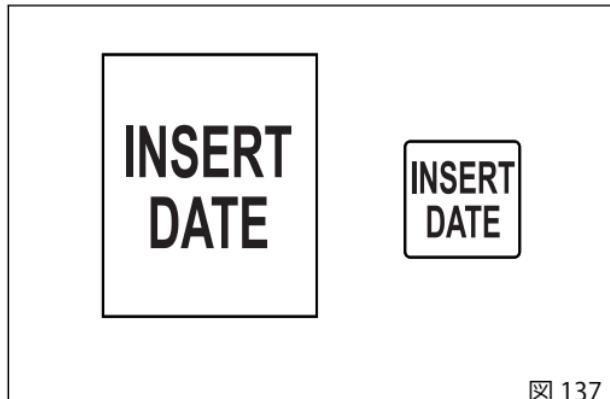


図 137

ステアリングロック解除エラー - ステアリング
ロック状態

この警告は、Hands Free システムがステアリングロックを解除できなかったことを示します。

警告

この場合は、ハンドルレバーを下まで押し下げた状態で車両の停止と再起動 (Key-OFF/Key-ON) を行ってください。もしマークが消えない(つまりステアリングがロック状態のまま)場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

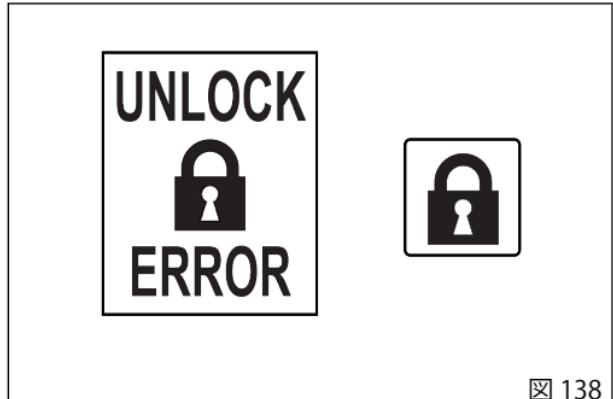


図 138

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両 Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ(B)(エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー)もしくは一般的エラー警告灯(A)(その他エラー全般)が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL (B) ランプもしくは一般的エラー警告灯 (A) が点灯します。

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

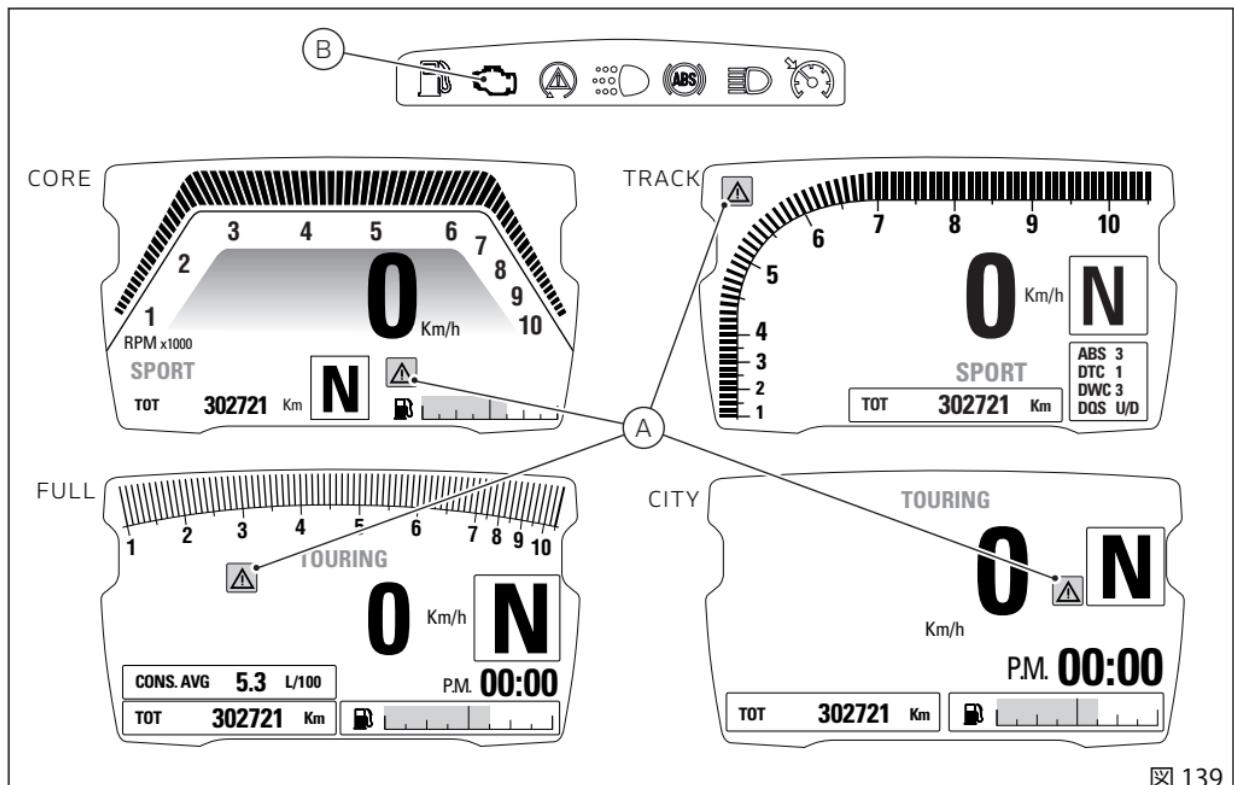


图 139

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームランプ(DRL 非搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯(OFF)したままパーキングランプのみが点灯します。

エンジンを始動するとロービームランプが自動的に点灯します。ボタン(3)のポジション(A)と(B)でロービームとハイビームの切り替えを行います。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン(3)をポジション(C)に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。

ロービーム/ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯(OFF)します。

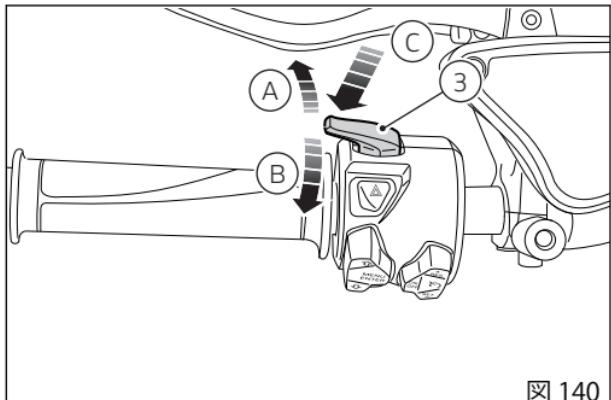


図 140

ロービーム/ハイビームランプ(DRL搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯(OFF)したままパーキングランプおよびDRLのみが点灯します。

エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されておりインストルメントパネルが外光の弱い状況(NIGHT)を検出した場合はロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況(DAY)を検出した場合にはDRLが点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。ボタン(9)を使用して、DRLとロービームランプの切り替えが可能です。

ロービームランプが点灯した場合、ボタン(3)のポジション(A)でハイビームランプも点灯することができます。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン(3)をポジション(C)に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。

ロービーム/ハイビームランプを手動で起動してから60秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯(OFF)します。

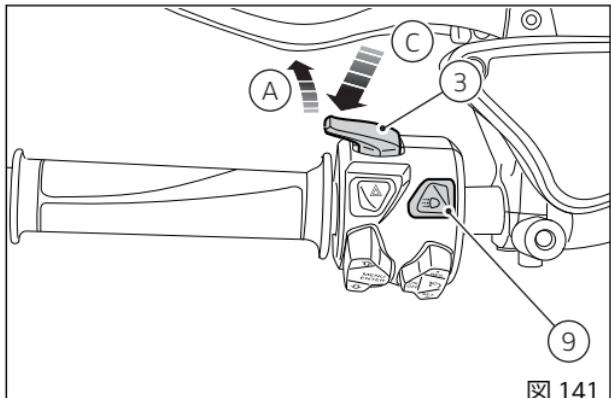


図 141

エンジン始動時のロービーム/ハイビームランプ 消灯 (DRL 非搭載バージョン)

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプが点灯(ON)している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

エンジン始動時のロービーム/ハイビームランプ 消灯 (DRL 搭載バージョン)

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRLのいずれかが点灯(ON)している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL(デイタイムランニングライト) — DRL搭載バージョンのみ

Key-On のたびに DRL が点灯します。左側スイッチにあるボタン(9)を使用して、DRL を消灯することができます。ボタン(9)をもう一度押すと、DRL は再び点灯します。

 参考

ボタン(9)が押されると、DRL は自動的に MANUAL モードに設定されます。AUTO モードに戻すには Key-OFF / Key-ON を実行するか、設定メニューの "DRL CONTROL" 機能から AUTO モードに設定します。

ボタン(3)を押すと、ハイビームランプとロービームランプが点灯し、DRL が消灯します。ランプボタン(3)を離すと、DRL が再び自動的に点灯します。

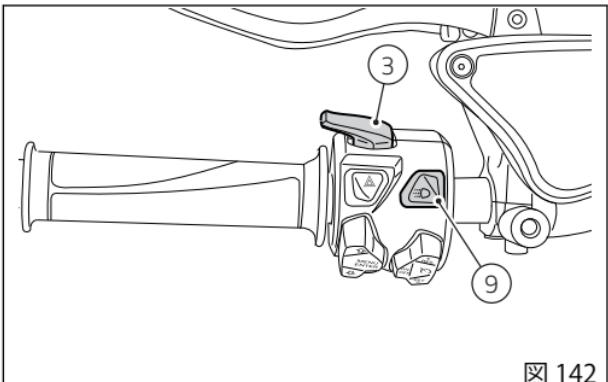


図 142

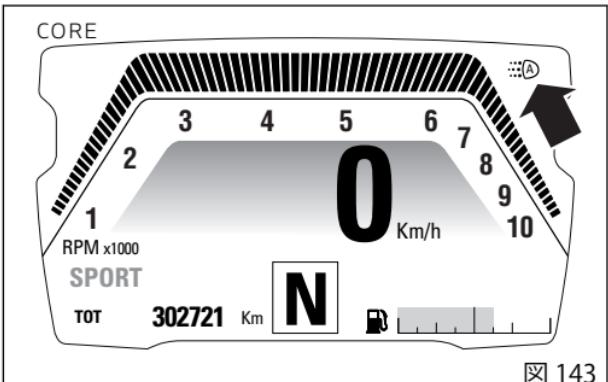


図 143

DRL AUTO モード

DRLがこのモードにある時、エンジン始動時にインストルメントパネルが外光が弱い状況(NIGHT)を検出した場合はDRLが自動的に消灯し、ロービームランプが点灯します。一方、インストルメントパネルが外光の強い状況(DAY)を検出した場合は、DRLが点灯し続け、ロービームランプが消灯したままになります。このモードでは、インストルメントパネルが検出した外光の明るさに応じて、DRLとロービームを自動的に切り替えます。ディスプレイには緑色のロゴと"A"の文字が表示されます。

警告

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時にDRLをAUTO(自動)モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

DRL MANUAL モード

DRLがこのモードにある時は、エンジンを始動してもDRLステータスは変更されません。DRLを停止/点灯するにはボタン(9)を押してください。ディスプレイには黄色のロゴと"M"の文字が表示されます。

警告

外光の特に弱い状況下(暗闇)でDRLを使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

参考

日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べてDRLの方が知覚しやすいため、DRLの日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター

左ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(I)に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(L)に押します。左側スイッチのボタン(10)を押してターンインジケーターを解除することができます。

自動解除

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケーターボタンを操作することにより、車両速度が20 km/h(12.4 mph)を超えると作動します。

ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間機能したままになっている場合にも、自動的に消灯します(200~2000 メートル(656~6562 フィート)。ターンインジケーターボタンが操作された時の車両速度による)。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

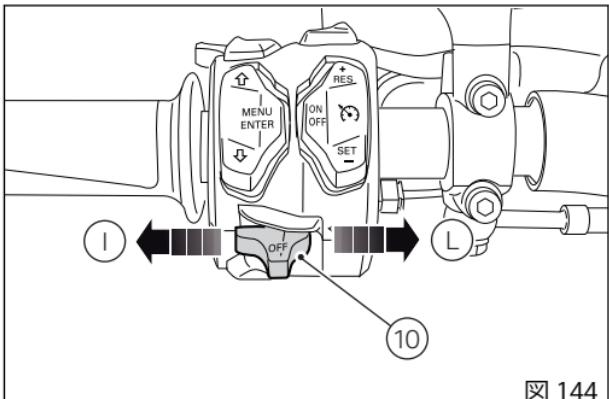


図 144



警告 自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダーステムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません(必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能(ターンインジケーターすべて点滅)

"ハザード"機能は、非常事態を知らせるために4つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン(11)を押して"ハザード"機能を作動することができます。この機能は車両が起動している場合(Key-ON)に限り起動することができます。"ハザード"機能の作動中は、4つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルのランプが同時に点滅します。"ハザード"機能は、車両が起動している状態(Key-ON)でのみボタン(11)を押して手動で解除することができます。

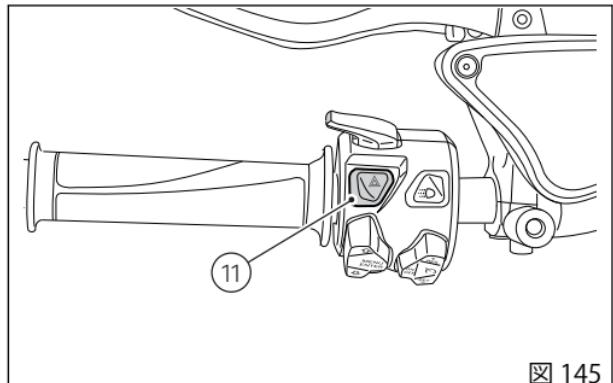


図 145

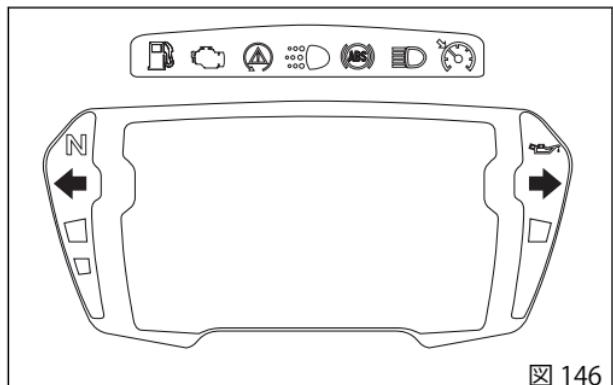


図 146

"ハザード"機能を起動してから車両を停止した場合は(キーを"OFF"位置に回す)、ハザード機能はその後2時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、2時間後ターンインジケーターは自動的に消灯します。

参考

"ハザード"機能が作動している状態でKey-ONを行うと、ハザード機能は作動したままになります。

参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考

"ハザード"機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード"機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

表示"ステアリングをロックするには起動ボタンを押してください" (Key-OFF 時)

この機能は、ステアリングロックを起動させるにはボタンを押す必要があることを示します。

車両を停止してから 60 秒以内に起動ボタンを押すと、ステアリングロック状態になります。

"KEEP PRESSED TO LOCK" の表示は、起動ボタンが少なくとも 1 秒押されると表れます。



図 147

ステアリングロック起動表示 (Key-OFF 時)

この機能は Key-OFF 時にステアリングロック状態に入ったことを示します。

正常にステアリングロック状態に入れば、ディスプレイ上に "STEERING LOCKED" が 5 秒間表示されます。

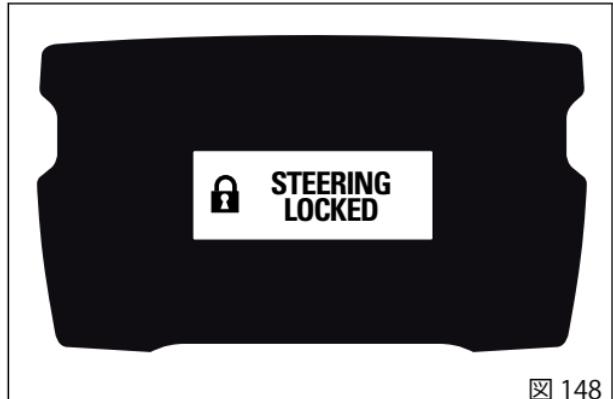


図 148

検出キーなしの表示 (Key-OFF 時)

この機能は、キーを検出できなかつたためにステアリングロックを作動することができないことを通知します。
ディスプレイには “NO KEY DETECTED” が表示されます。



図 149

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーボディには電子装置が内蔵されています。この電子装置は車両の起動時にヘッドライトフェアリングに組み込まれた特殊アンテナから送られる信号を変調します。この信号はパスワードの役割を果たし、起動のたびに変更されます。CPUがその"パスワード"によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、以下のキーが付属します。

- アクティブキー 1本(1)
- パッシブキー 1本(2)

これらのキーは、Hands Free システムにおいて複数の方法で Key-ON するためのコードを備えています。

アクティブキー(1)は通常時に使用します。キーについているボタン(A)を押すとキーの金属部分(B)が外に出来ます。

金属部分をボディ内部に押し入れて戻します。

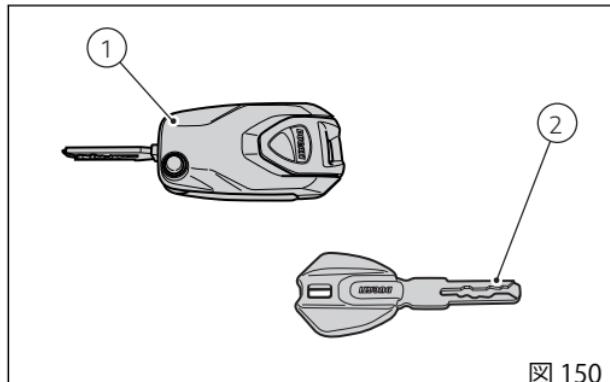


図 150

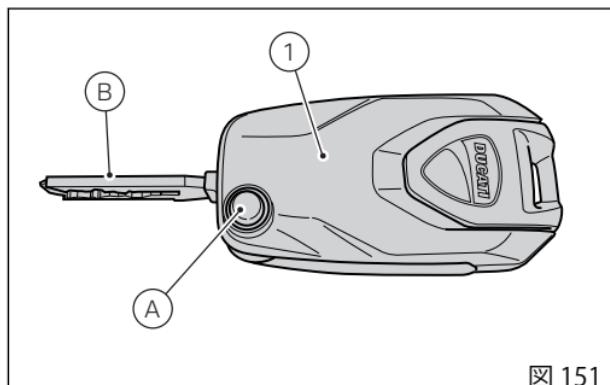


図 151

キーには、電子部品を制御するマイクロプロセッサーのRESETボタン(3)がついています。Hands Freeシステムがアクティブまたはパッシブ機能のキーを認識できないためにKEY-ONできない場合に、RESETボタンを押すだけでキーの正常な機能を再起動することができます。

アクティブキー内部には、バッテリーが内蔵されています。インストルメントパネル起動時に、キーとバッテリーマークの下に"low level"のメッセージが表示される場合はバッテリーを交換する必要があります。

参考

この場合はできるだけ早くバッテリーを交換してください。

バッテリー残量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキーモードでのみ作動します。この場合、インストルメントパネルには一切のメッセージが表示されません。

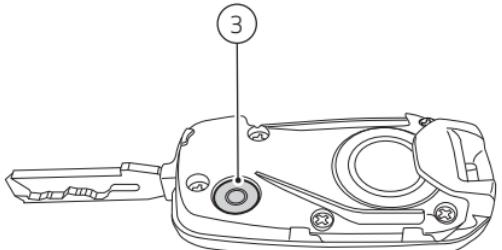


図 152



図 153

⚠ 警告

キー(アクティブキーまたはパッシブキー)をフイラー・プラグのロックやシートロックに差したまま走行しないでください。途中でキーが抜けて思わぬ事故につながるおそれがあります。また、強い衝撃はキーの機械部分や内部回路に損傷を与える可能性があります。

過酷な気象条件下でキーを挿入したまま走行することも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があります。

洗車中にキーを車両の上に放置しないでください。防水対応はしておりませんので、損傷するおそれがあります。

アクティブキーのリセット

アクティブキーをリセットするには、金属部分を開くボタン (A) を押してください。

図のように、裏側のプラスチックカバー (4) を前方に押してから持ち上げて取り外します。

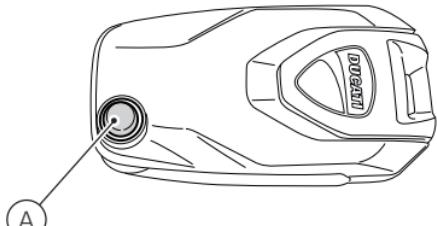


図 154

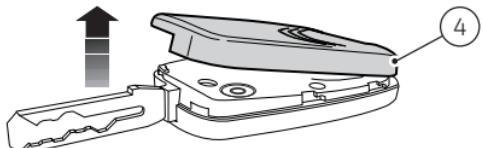
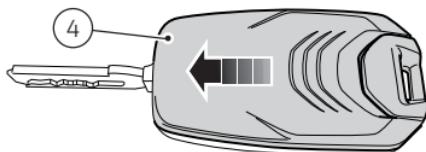


図 155

RESET ボタン(3)を奥まで届いたことを知らせるカチッと音が鳴るまで押します。
裏側のプラスチックカバー(4)を図のように後ろに軽く押しながら取り付けます。閉まったことを確認してください。

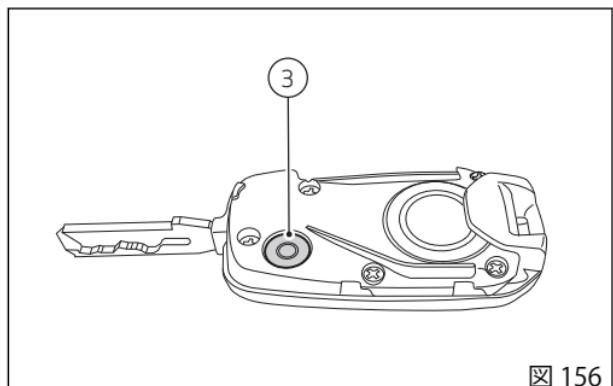


図 156

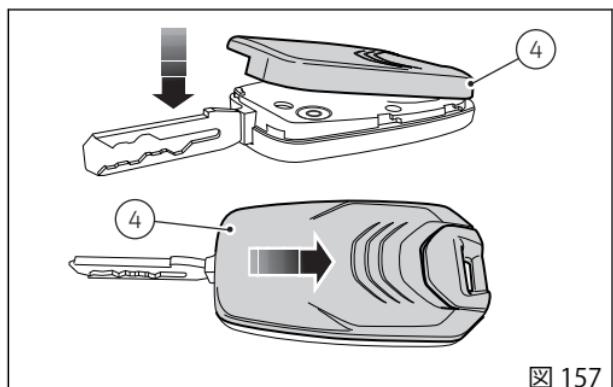


図 157

アクティブキーのバッテリー交換



交換後のキーの再設定は必要ありません。

バッテリーの金属部分を取り出します。

図のように、ボディ裏側のプラスチックカバーを前方に押し、上に持ち上げて取り外します。

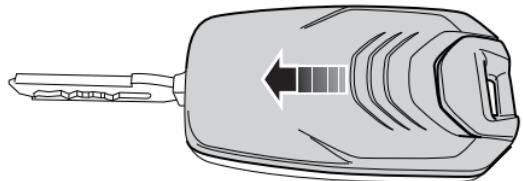


図 158

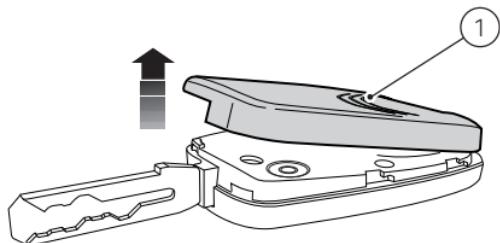


図 159

プラスチックカバーが外れたら、バッテリー保護カバー(2)を取り出します。

バッテリー(3)を取り出して、新しいバッテリーと交換します。

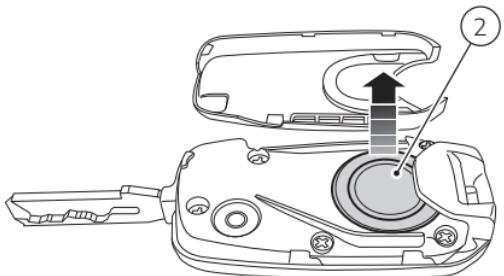


図 160

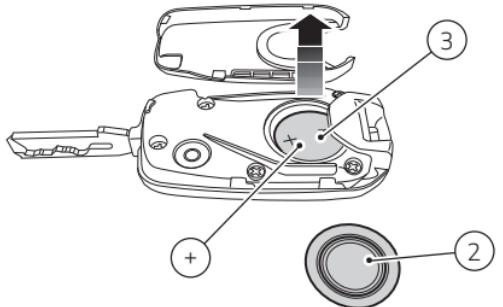


図 161

バッテリーを所定の取付位置に入れます。このとき電極に十分に注意し、プラス(+)を必ず上に向けてください。

! **重要**

指定バッテリーのみ、使用してください。
バッテリー固定用カバー(2)を取り付けます。

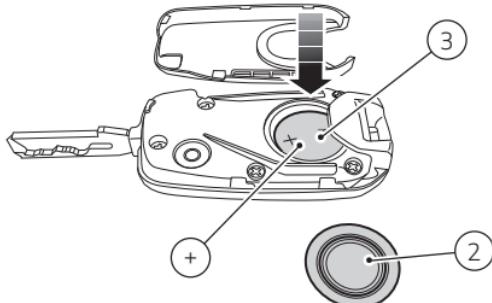


図 162

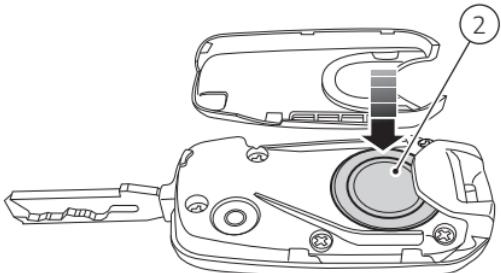


図 163

裏側のプラスチックカバーを図のように軽く押しながら取り付けます。

キーが確実に閉じられたことを確認します。

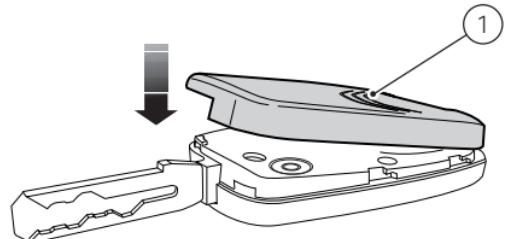


図 164

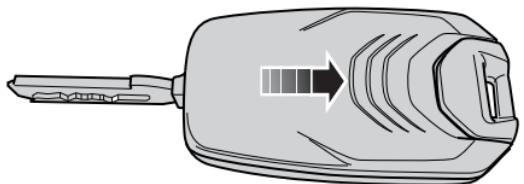


図 165

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

イモビライザー解除方法

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が起動している場合、インストルメントパネルは枠内に “INSER PIN” の文字と PIN CODE 入力用の 4 つの “0” を表示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(4)を押すと、"0"で表示される1桁のみが強調表示されます。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が"9"までひとつずつ大きくなり(+1)、その後"0"に戻ります。
- 3) ボタン(1)を押す度に数字が"1"までひとつずつ小さくなり、その後"0"に戻ります。
- 4) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

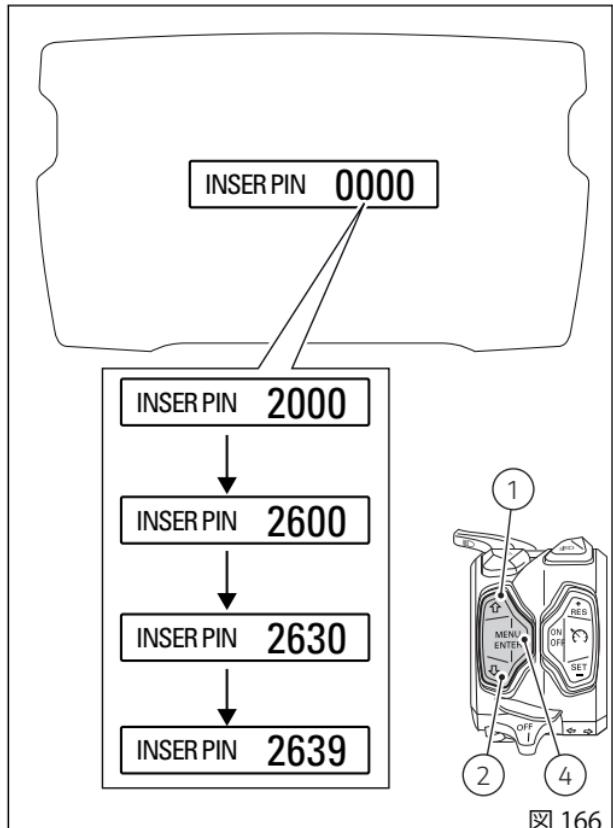


図 166

- ボタン(4)を押して4桁すべての数字を決定した後、
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "PIN CODE WRONG" を3秒間表示し、その後再び4つの "0" を強調表示します。もう一度PIN CODE を入力してください。入力可能時間は2分間に設定されています。
 - PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "PIN CODE CORRECT" を3秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならぬ時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

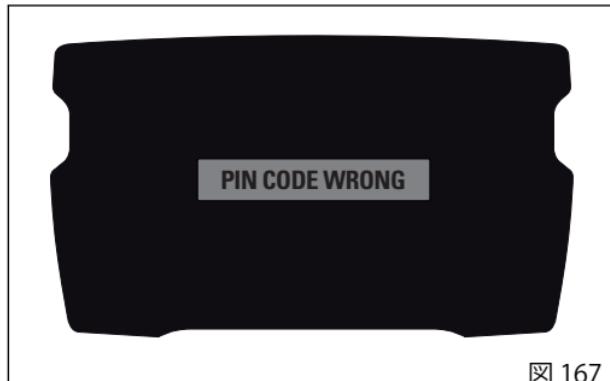


図 167

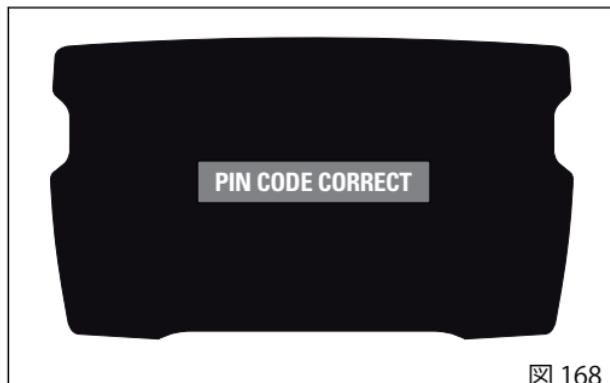


図 168

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

⚠ 警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) ハンドルバーのインストルメントパネル
- 2) Hands free システム
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) リアブレーキペダル
- 6) 右側スイッチ
- 7) スロットルグリップ
- 8) フロントブレーキレバー
- 9) ギアチェンジペダル

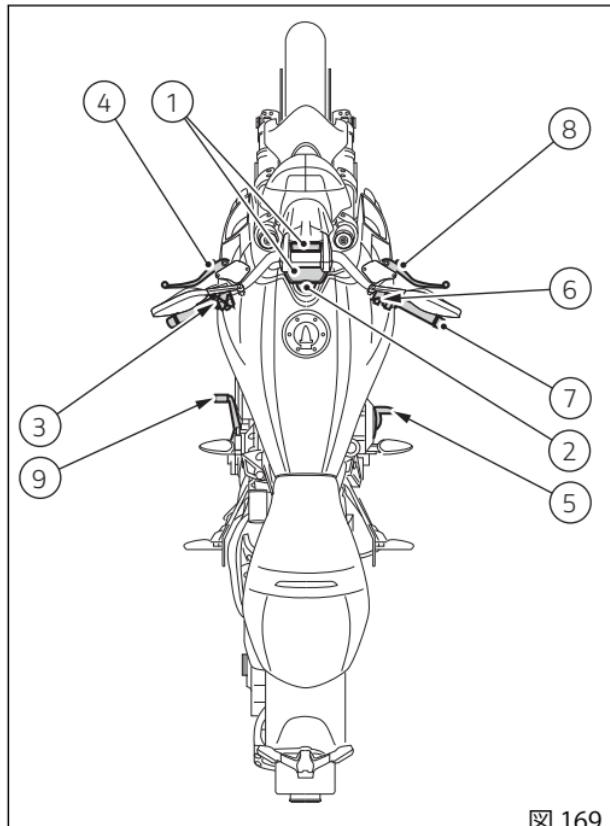


図 169

Hands Free システム

Hands Free システムは、以下で構成されています。

- 1) Hands Free ブロック
- 2) アンテナ
- 3) アクティブキー
- 4) パッシブキー
- 5) 電動フィラープラグ (オプション)

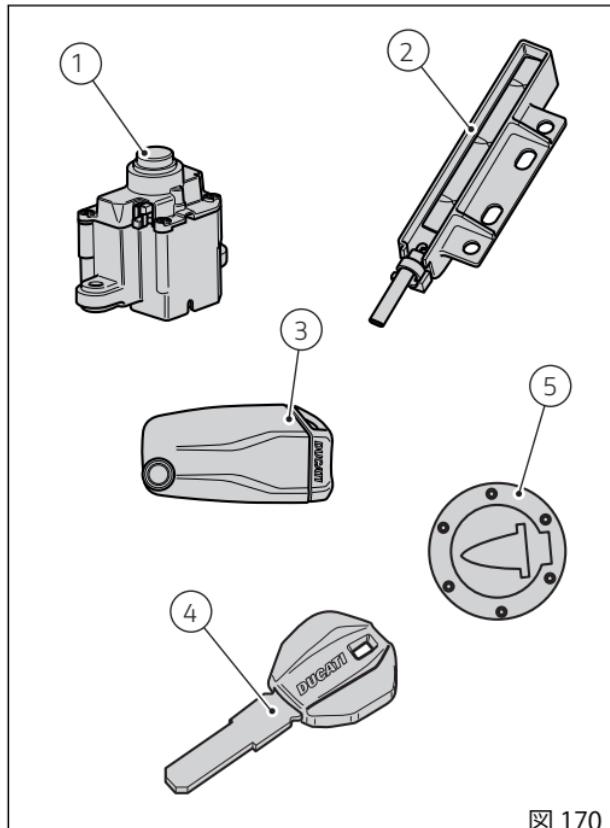


図 170



重要

Hands Free システムの正常な機能に影響を与える状況。

以下に記載する状況においては、リモコンキーが適切に機能しない場合があります。

- テレビ塔、ラジオ局、発電所、ガソリンスタンドなど強い電波を発する場所が近くにある時。
- 携帯ラジオや携帯電話などワイヤレス通信機器を持ち運んでいる時。
- 複数のワイヤレスキーが近くにある時。
- ワイヤレスキーに触れるか金属製の物におおわれた時。
- 電波を発するワイヤレスキーが近くで使用された時。
- パソコンなどの電気機器の近くにワイヤレスキーが置かれている時。

Hands Free ブロック (1) はフューエルタンクの前側にあります。

アンテナ (2) はヘッドライトフェアリング (7) 下に設けられています。

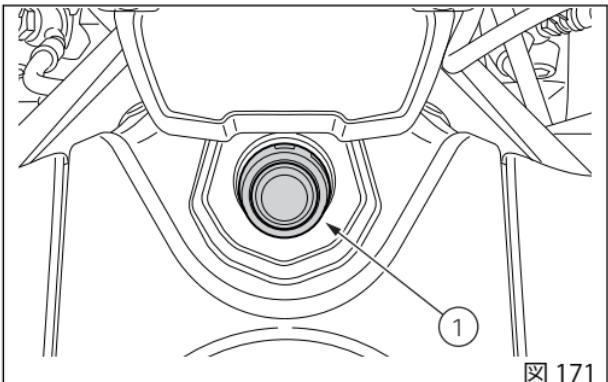


図 171

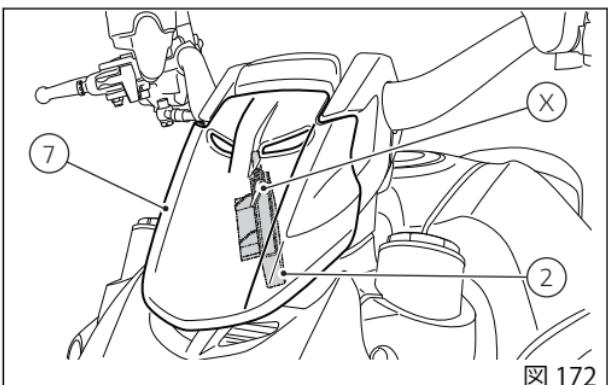


図 172

Hands Free システムの起動 "Key-ON"と停止 "Key-OFF"

Key-ON は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを起動します。

Key-ON するにはハンドルバー右側スイッチのボタン(6)、もしくは Hands Free ブロックの緊急ボタン(1)を使用します。

Key-OFF は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを停止し、エンジンを確実に停止します。

Key-OFF するにはハンドルバー右側スイッチのボタン(6)、もしくは Hands Free ブロックのボタン(1)を使用します。



ハンドルバーのボタン(6) または Hands Free ブロックのボタン(1) は ON/OFF どちらにでも使用することができます。例えば、どちらかで ON にしてもう片方で OFF にすることができ、その反対も可能です。

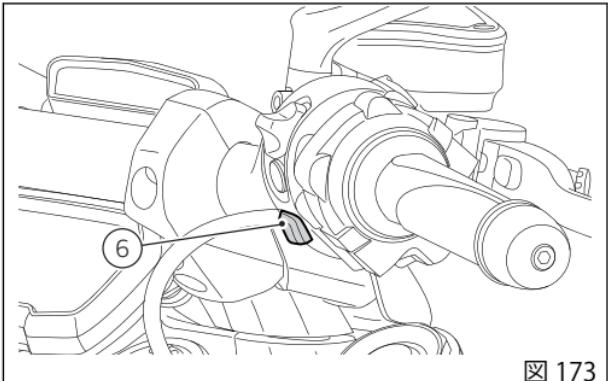


図 173

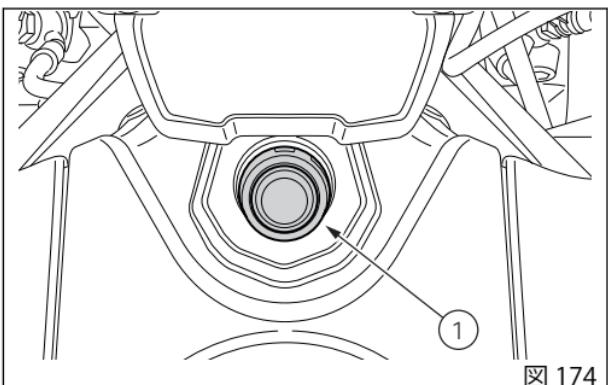


図 174

アクティブキー(3)もしくはパッシブキー(4)のいずれかがあるとき、またはPIN CODEを入力してKey-ONすることができます。

Key-OFFはアクティブキー(3)またはパッシブキー(4)がなくても可能です。

Key-OFFするには、走行速度がゼロのときにハンドルバーのボタン(6)かHands Free ブロックのボタン(1)を押します。走行速度がゼロでないときのKey-OFFは、Hands Free ブロックのボタン(1)でのみ可能です。



重要 アクティブキーは電池が切れるとパッシブキーのように作動します。作動範囲がアンテナ(2)から半径数センチ(インチ)と短くなります。

インストルメントパネルはバッテリーの消耗状態を通知します。

アクティブキーの電池が切れた場合でも、パッシブキーモードで使用することができます。

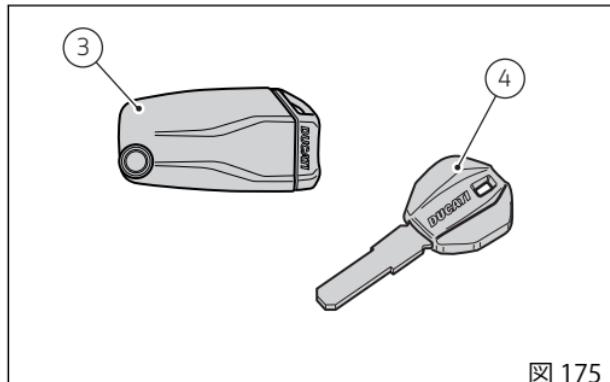


図 175

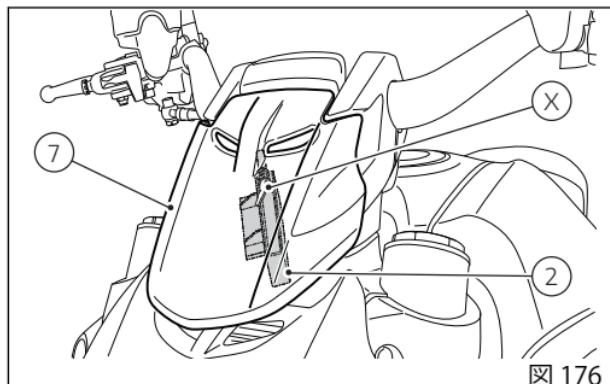


図 176

パッシブキーまたは電池の切れたアクティブキーによるKey-ONのリカバリーモード

電池の切れたアクティブキー(3)またはパッシブキー(4)の作動範囲は半径数センチ(インチ)です。そのため、ヘッドライトフェアリング(7)上のHands Freeキーのマーク(X)にいずれかのキーを近づける必要があります。ヘッドライトフェアリング(7)上のこのマークは車両前側のヘッドライト上側にあり、ヘッドライトフェアリング(7)下のアンテナ(2、(図172))の位置を示しています。

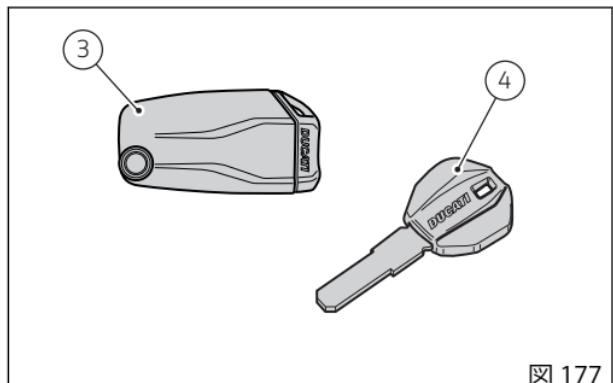


図 177



図 178

上記の操作をしても Key-ON できない場合は、Hands Free システムがアクティブキー(3)とパッシブキー(4)のいずれも検知できないことを示します。その場合は以下の手順を行う必要があります。

ヘッドライトフェアリング(7)を取り外します。ヘッドライトフェアリング(7)を保持するプレート(8)に印刷されている Hands Free キーのマーク(Y)の上にアクティブキー(3)またはパッシブキー(4)を合わせます。

!**重要**

パッシブモードで Key-ON した場合は、15秒以内にエンジンを起動してください。この時間内にエンジンが起動されないと、ヘッドライトフェアリング(7)上の Hands Free キーのマーク(X)からキーが離れたために自動的に Key-OFF してしまう可能性があります。



図 179

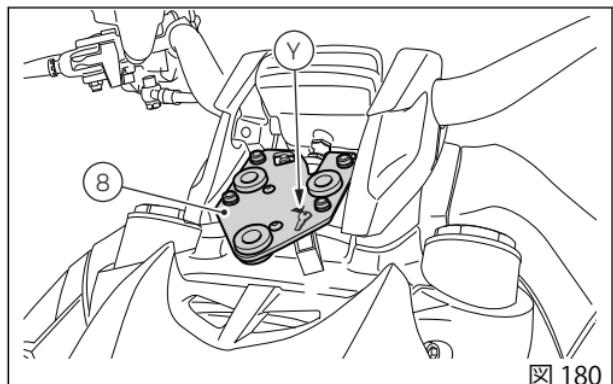


図 180

キー(3)の金属部分(A)は、フィラープラグを開けるときと、シートおよびバッグのロックに使用します。キー(3)の金属部分(A)は、ボタン(B)を押すと柄の内側に隠れます。

参考

車両がKey-ON状態にありエンジンが停止しているときにアクティブキー(3)の存在を15秒間検知できないと、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

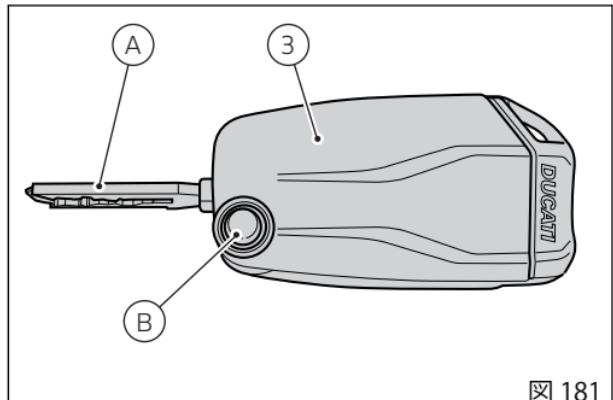


図 181

アクティブキーとハンドルレバーのボタンによる
Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、アクティブキー(3)があるときにハ
ンドルレバーのボタン(6)を押します。

参考

アクティブキー(3)の電池が切れた場合は、"パ
ッシブキーまたは電池の切れたアクティブキーによる
Key-ONのリカバリーモード"の段落を参照してく
ださい。

Key-OFFするには、ハンドルレバーのボタン(6)を押
します。走行速度がゼロであればアクティブキー(3)が
なくてもKey-OFFが可能です。

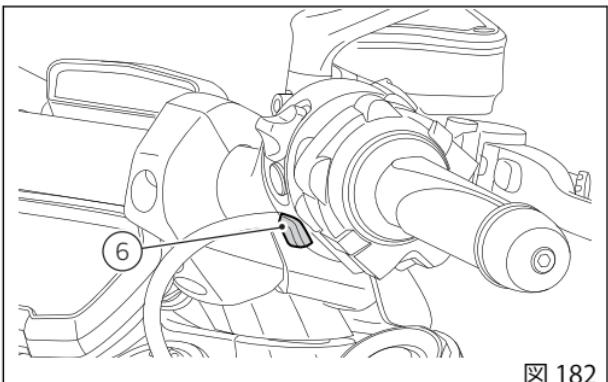


図 182

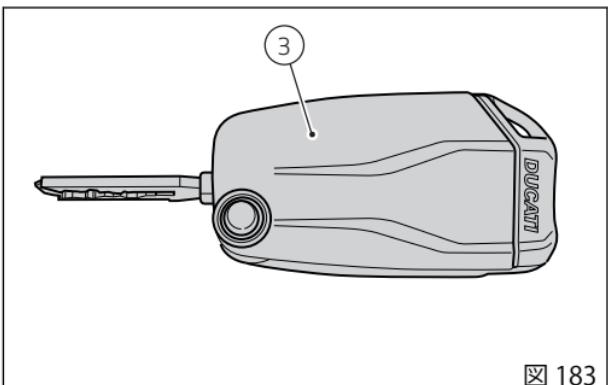


図 183

アクティブキーとHands Free ブロックのボタンによるKey-ON/Key-OFF

Key-ONするには、アクティブキー(3)があるときにHands Free ブロックのボタン(1)を押します。

Key-OFFするにはHands Free ブロックのボタン(1)を押します。キー(3)がなくてもKey-OFFが可能です。

参考

アクティブキー(3)の電池が切れた場合は、"パッシブキーまたは電池の切れたアクティブキーによるKey-ONのリカバリー mode"の段落を参照してください。

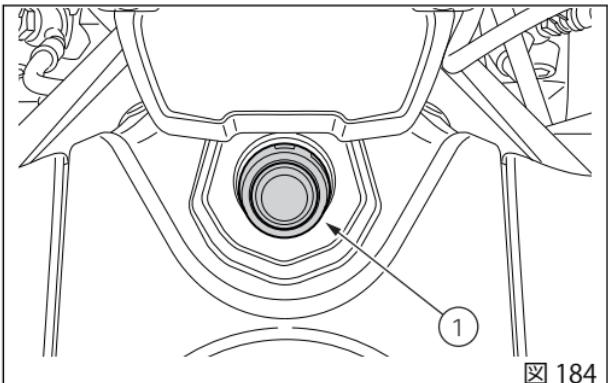


図 184

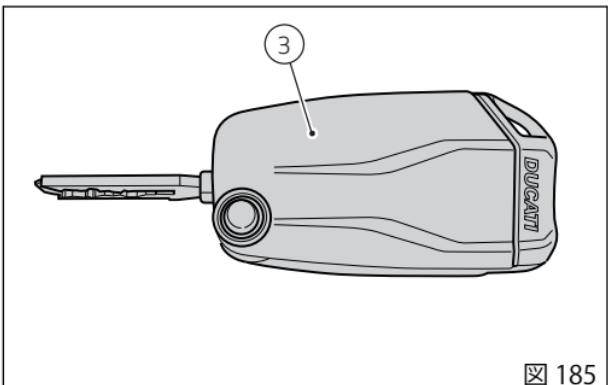


図 185

パッシブキーとハンドルバーのボタンによる
Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、パッシブキー(4)があるときにハンドルバーのグレーのボタン(6)を押します。

 **参考**

パッシブキー(4)を使用したKey-ONについては、"パッシブキーまたは電池の切れたアクティブキーによるKey-ONのリカバリーモード"の段落を参照してください。

Key-OFFするには、ハンドルバーのグレーのボタン(6)を押します。走行速度がゼロであればキー(4)がなくてもKey-OFFが可能です。

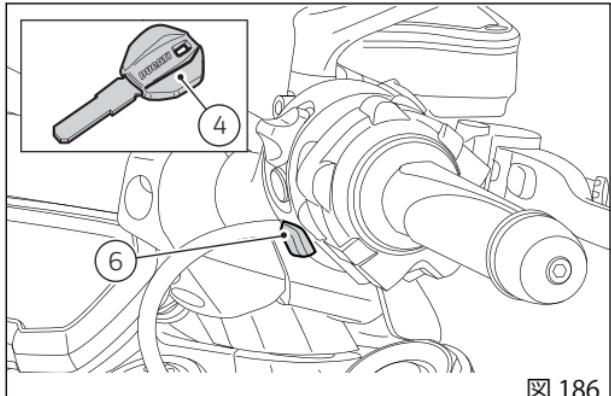


図 186

パッシブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、パッシブキー(4)があるときに Hands Free ブロックのボタン(1)を押します。

 **参考**

アンテナ(2)の近くにあるヘッドライトフェアリング(7)下の Hands Free キーのマーク(X)にパッシブキー(4)を近づけてください。

Key-OFFするには Hands Free ブロックのボタン(1)を押します。キー(4)がなくても Key-OFF が可能です。

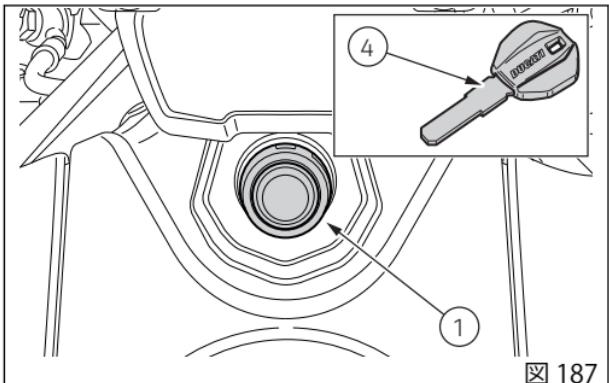


図 187

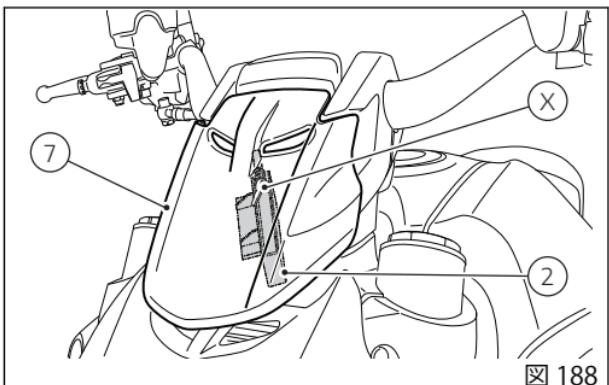


図 188

PIN CODE(イモビライザー解除)によるKey-ON/ Key-OFF

アクティブキー(3)とパッシブキー(4)がないときに
Key-ONするには、Hands Free ブロックのボタン(1)
を押して、インストルメントパネルからPIN CODEを
入力します。

Key-OFFするにはハンドルバーのボタン(6)を押します。

Key-OFFした後、次のKey-ON時にキーがない場合は
PIN CODEを入力する必要があります。

PIN CODEは車両受取り後にユーザーが入力します。
PIN CODEを入力しないとこの機能は有効になりませ
ん。

Hands Free ボタン(1)を押すと、インストルメントパ
ネルにバックライトが点灯し、円形ディスプレイに4
桁のPIN CODE入力画面が表示されます。

PIN CODEを正しく入力すると、インストルメントパ
ネルが点灯し、エンジンが始動します。

PIN CODEの入力は120秒以内に完了してください。
それを過ぎると自動的にKey-OFFします。

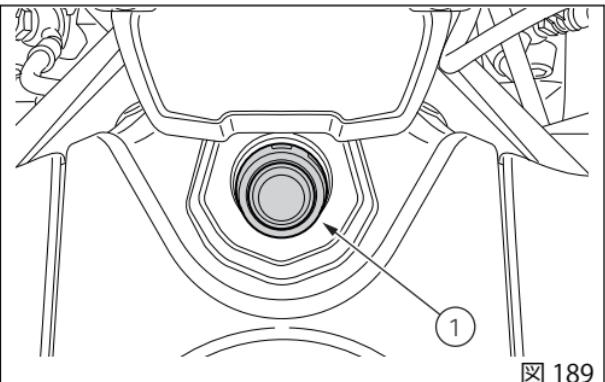


図 189

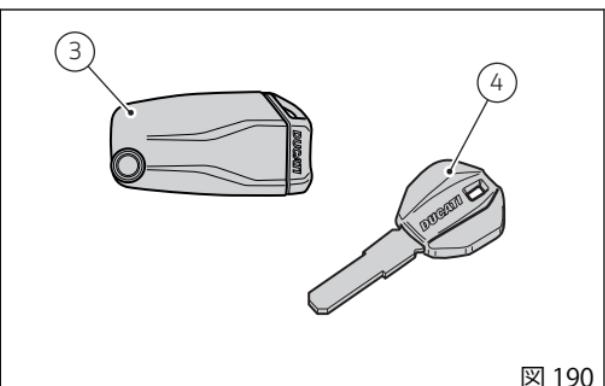


図 190

車両解除のための PIN CODE 入力機能

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、この機能を使用して車両を一時的に起動します。

通常の始動ボタンで車両を起動できない場合は、緊急用の Hands Free ボタン (1) を押してこの機能を作動させます。

ボタンを押すと、インストルメントパネルはロック解除コードの入力ページを表示します。

"PIN CODE による車両の解除" 手順を参照してください。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

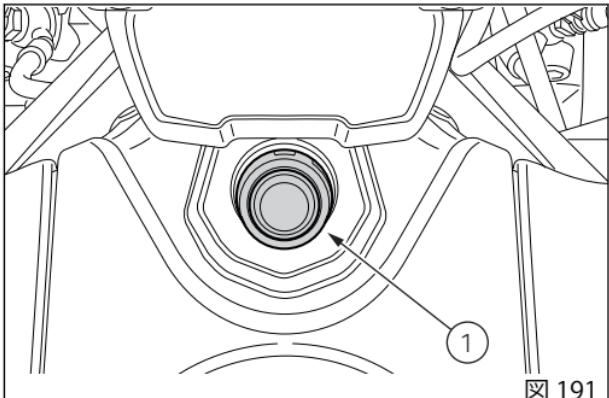


図 191

ハンドルバー左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ライトの選択、2ポジション：
 - 上(A)に押すとハイビームランプが点灯(■○)、初期位置(B)に戻すとロービームランプが点灯(○■)
 - (C) 横方向に押すと、ハイビームランプ点滅(■○)
 - (FLASH)、"START-STOP LAP" 機能
- 2) ハザード ON/OFF ボタン(ターンインジケーターすべて)
- 3) DRL 機能の起動 / 解除ボタン

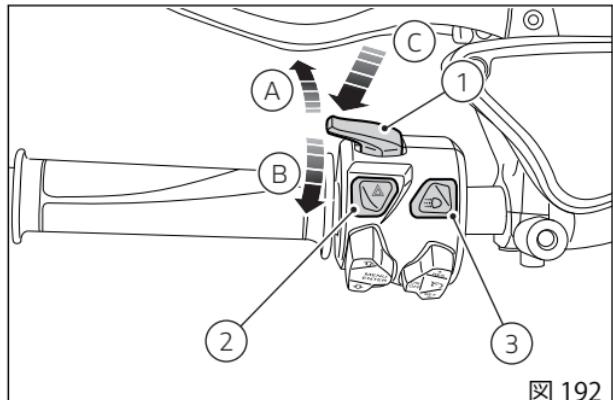


図 192

- 4) メニュー操作ボタン
 5) クルーズコントロールボタン
 6) 3ポジション、ターンインジケーター・ボタン(↔):
 - 中央 = OFF
 - ポジション(↑)= 左折
 - ポジション(↓)= 右折
 7) ターンインジケーター解除ボタン
 8) ボタン(▶)= 警告ホーン

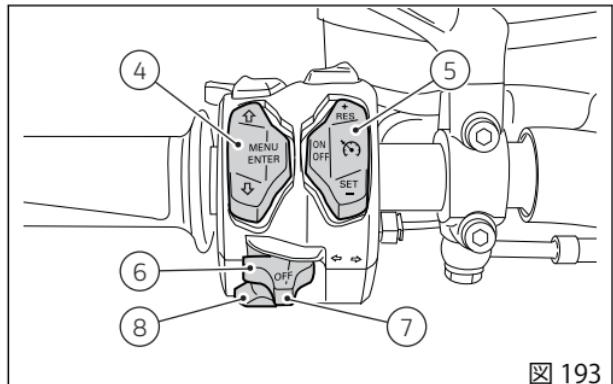


図 193

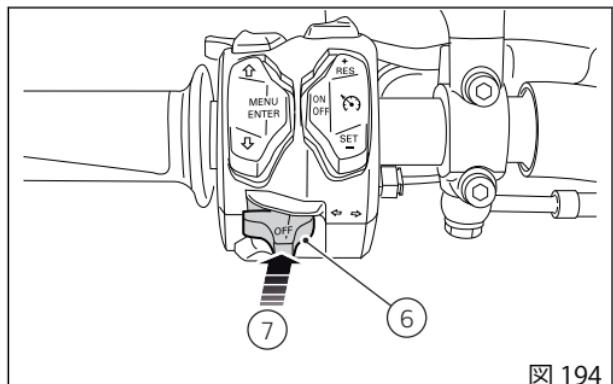


図 194

メニュー操作ボタン(4)には次の3つのポジションがあります。

- (D) メニュースクロール(メニューUP)
- (E) メニュースクロール(メニューDOWN)
- (F) メニュー決定

クルーズコントロールボタン(5)には次の3つのポジションがあります。

- (G) クルーズコントロールON/OFF
- (H) 設定速度の增速、前回の設定速度の再設定
- (I) 設定速度の減速、新しい速度の設定

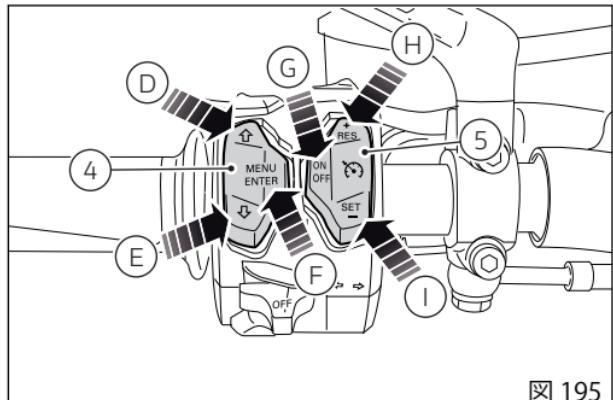


図 195

凡例

- A) ロービームランプ
- B) ハイビームランプ
- D) メニュー UP
- E) メニュー DOWN
- F) メニュー画面決定
- G) クルーズ ON/OFF
- H) 増速
- I) 減速
- 2) ハザード
- 3) DRL
- 5) クルーズ
- 6) ターンインジケーター
- 7) ターンインジケーター OFF
- 8) ホーン

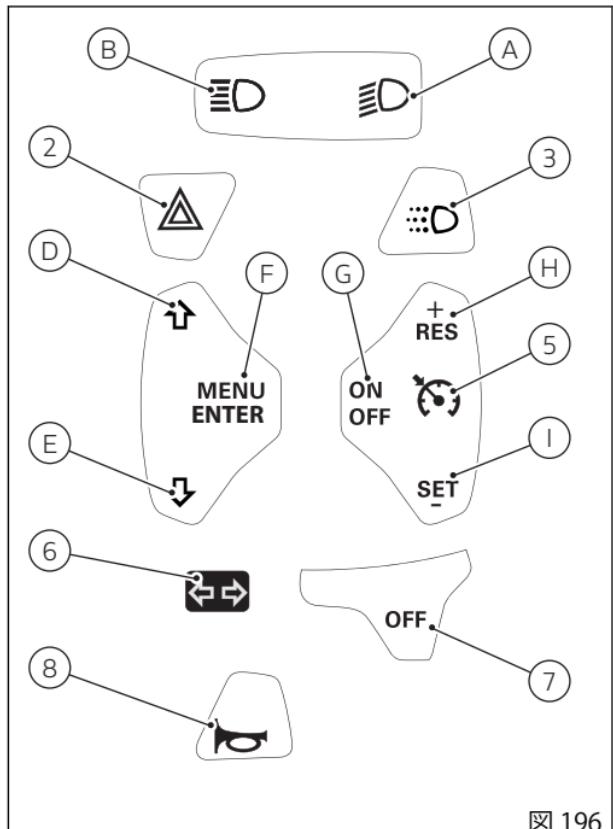


図 196

クラッチレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター(2)がついており、レバーとグリップとの間隔の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッisionの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

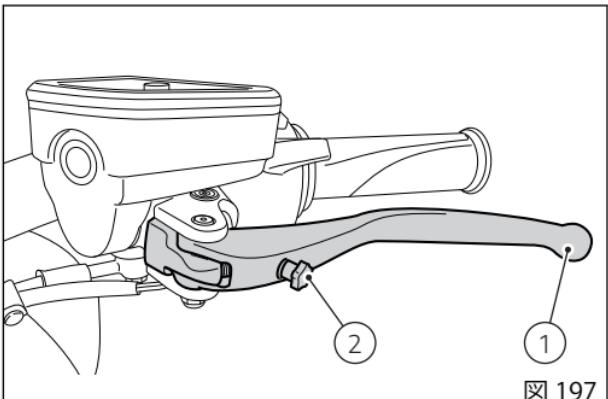


図 197

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ハンドルバー右側スイッチ

- 1) 赤色スイッチ エンジンの停止
- 2) エンジンの始動ボタン
- 3) システムの ON/OFF (Key-ON/Key-OFF) およびステアリングロック起動
- 4) ローンチコントロールボタン (DPL)

スイッチ (1) には 2 つのポジションがあります。

A) 上に押した場合：RUN ON このポジションでのみ、ボタン (2) を押してエンジンを始動することができます。

B) 下に押した場合：エンジンの停止

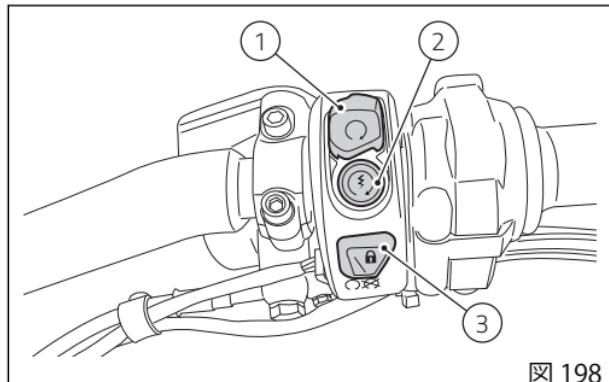


図 198

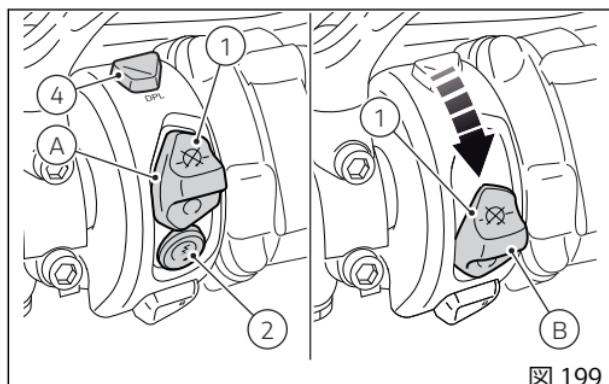


図 199

凡例

- 2) 電動エンジン始動
- 3) 電子式ステアリングロック
- 4) ローンチコントロール (DPL)
- A) RUN ON
- B) RUN OFF
- C) 車両電動起動
- D) 車両電動停止

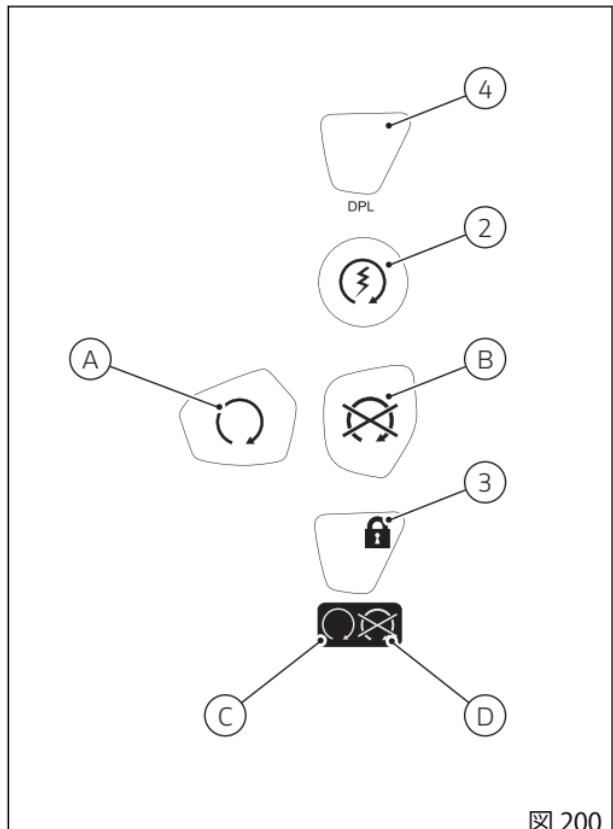


図 200

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

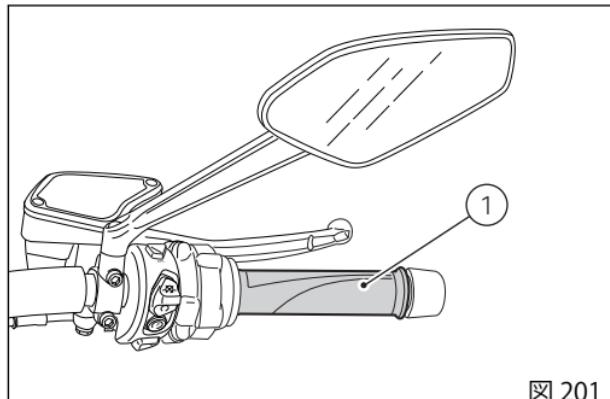


図 201

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)には調整用つまみ(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整できます。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。

時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

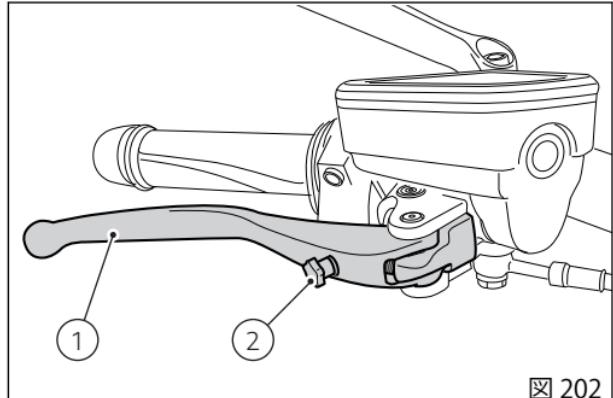


図 202

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル(1)を足で下に押してください。

制御システムは油圧式です。

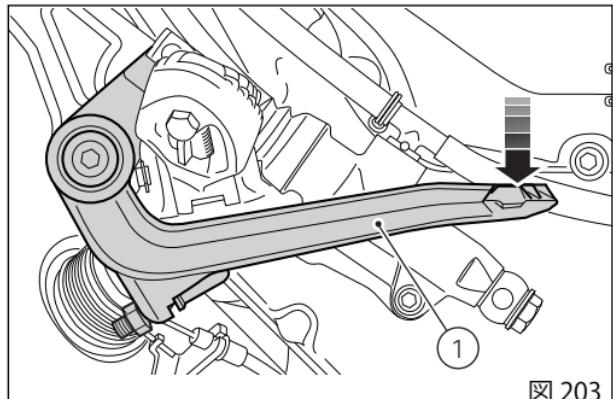


図 203

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

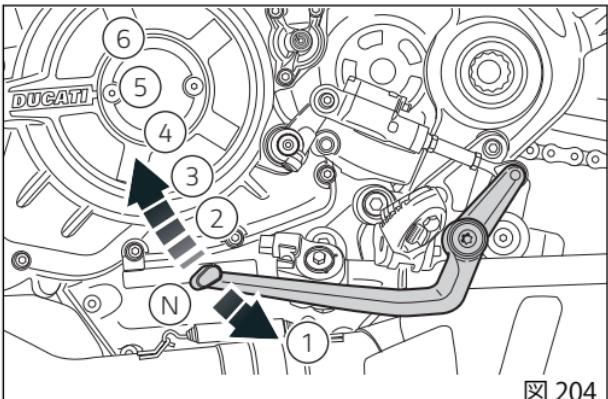


図 204

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダル

警告

ギアチェンジロッドの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

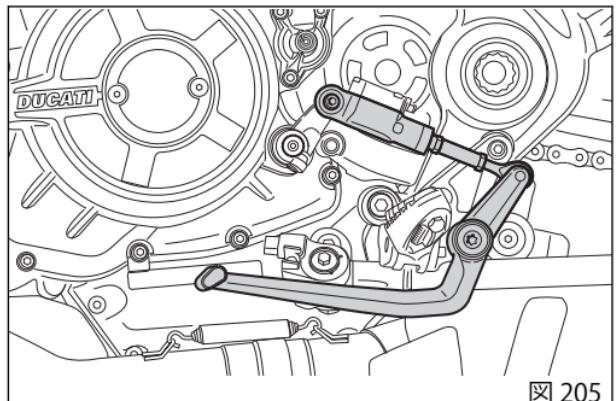


図 205

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) リアビューミラー
- 5) フロントフォークアジャスター
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒コンバーター
- 8) エキゾーストサイレンサー

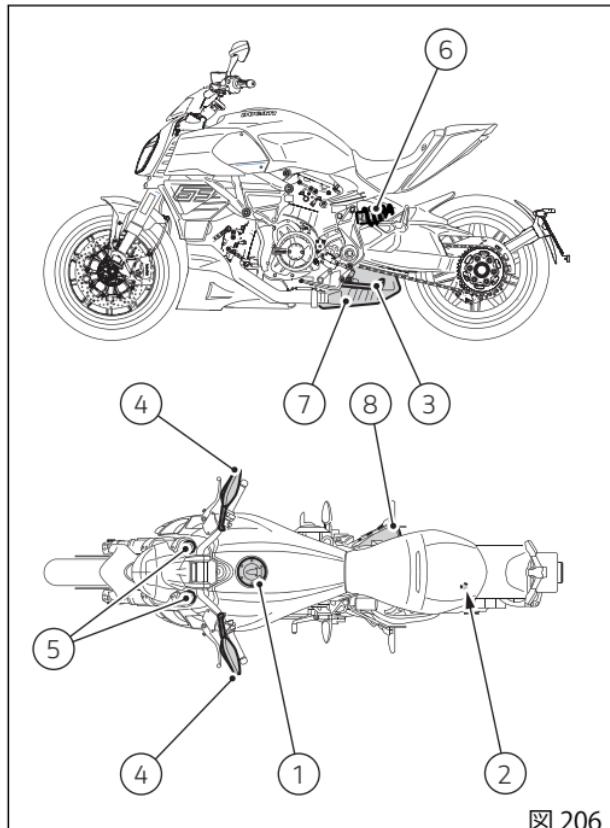


図 206

燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー(1)を起こし、アクティブキーまたはパッシュブキーをロックに差し込みます。キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。

プラグ(2)を起こします。

閉じ方

差し込んだキーでプラグ(2)を閉じ、プラグを押します。キーを抜き取り、保護カバー(1)を閉じます。



参考

キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることができます。



警告

燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

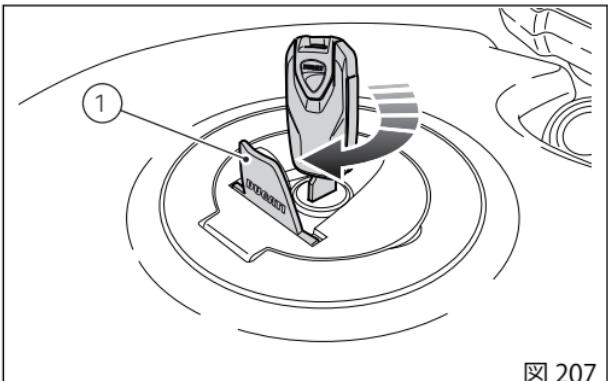


図 207

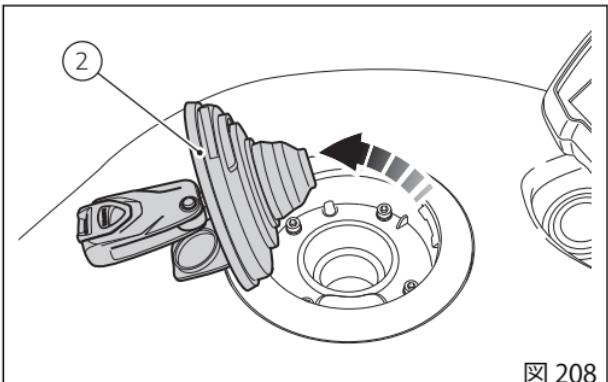


図 208

シートロック

シートの下に設置されている装置の作業を行うには、ロック(1)を操作してシートを取り外します。

シートの取り外し

ロック(1)にアクティブキーもしくはパッシブキーを差し込み、カチッと音が鳴りライダーシートのロックが外れるまで時計方向(OPEN)に回します。

ライダーシート(2)を取り外すには、後部を上に持ち上げ、後方に引き抜いて所定の位置(A)から外します。

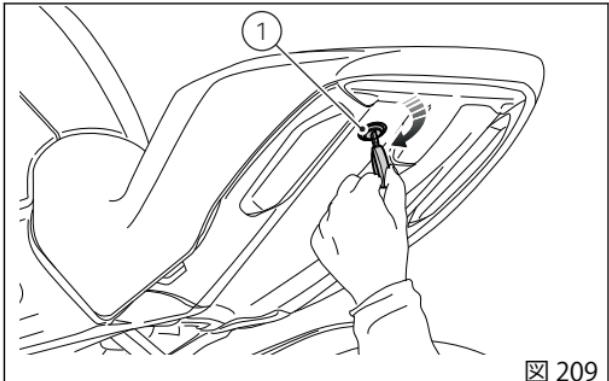


図 209

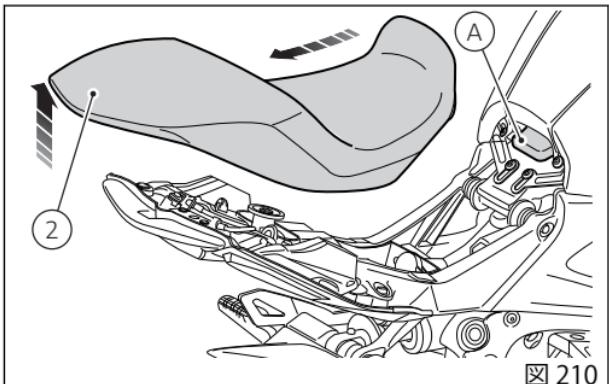


図 210

シートの取り付け

シート(2)を車両の前方にスライドさせて位置を調整します。シートのつめ(B)がフューエルタンクの所定の位置(A)に挿入されるようにします。

シートの後部を下げ、後部のピン(3)が穴(4)に入るまで前部にスライドさせ、カチッと音がしてロックがかかるまで下に押し付けます。

シートを少し上に引き、正しくロックがかかったことを確認します。

ロックからキーを抜き取ります。

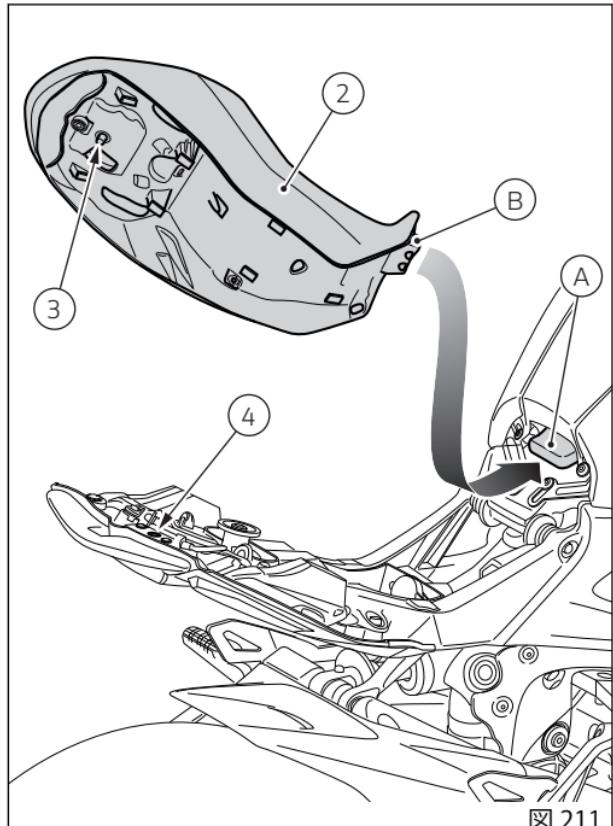


図 211

サイドスタンド



重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなつたアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

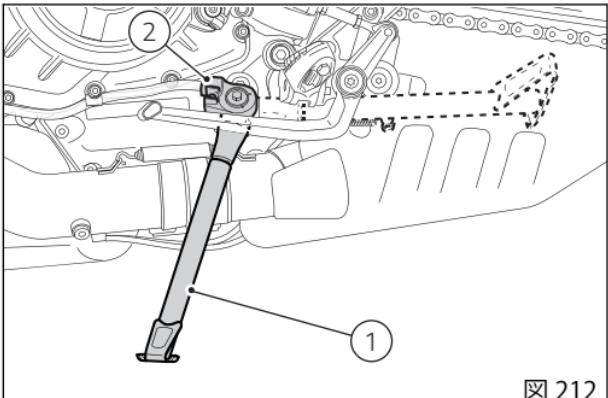


図 212



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。



参考

定期的にスタンド(内側と外側2つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

パッセンジャーハンドル

パッセンジャーハンドル(1)はバックテール内に設置されています。取り出すにはシートを取り外し("シートの取り外し"参照)、つまみ(2)を持ち上げ、同時に収納位置からハンドル(1)をいっぱいまで引き出します。



警告

使用する前に、前後に引っ張ってパッセンジャーハンドルが正しい位置に固定されていることを確認してください。

元に戻すには、つまみ(2)を持ち上げ、パッセンジャーハンドル(1)をバックテールの収納位置に完全に入るまで押します。シートを再度取り付けます("シートの取り付け"参照)。

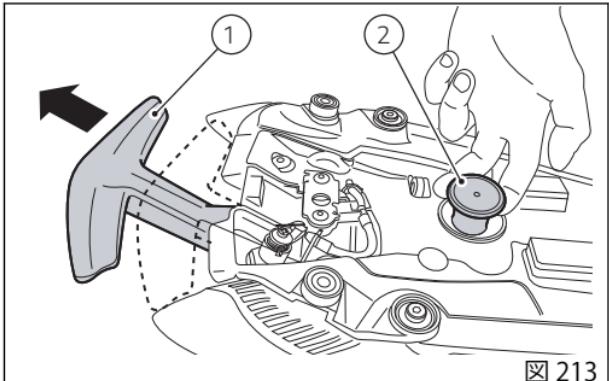


図 213

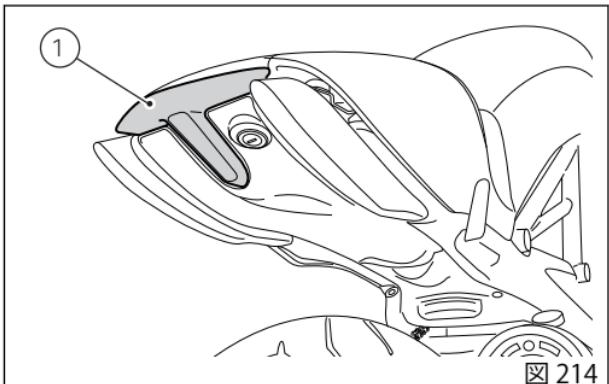


図 214

Bluetooth コントロールユニット

Bluetooth コントロールユニット (装備されている場合) により Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります (スマートフォン、ヘッドセット)。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット (音楽共有、マルチメディア再生など) の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン (Bluetooth 対応プロファイルによる) に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット (部品番号: 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン ("Ducati キット 部品番号: 981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット (部品番号: 981029498) ではライダーヘルメットからパッセンジャーへルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます (詳しくは Ducati キット (部品番号: 981029498) に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。

参考

Ducati キット (部品番号: 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロファイルをサポートしていることを確認します。

- MAP プロファイル : SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロファイル : スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

フロントフォークアジャスター

フロントフォークアジャスター

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

- 1) リバウンドダンピングの変更
- 2) スプリングプリロードの変更
- 3) コンプレッションダンピングの変更

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。

所定の六角レンチで右フォークレッグの先端にあるアジャスター(1)を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。

所定の六角レンチで左フォークレッグの先端にあるアジャスター(3)を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。

アジャスター(1)および(3)を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの1クリックに相当します。

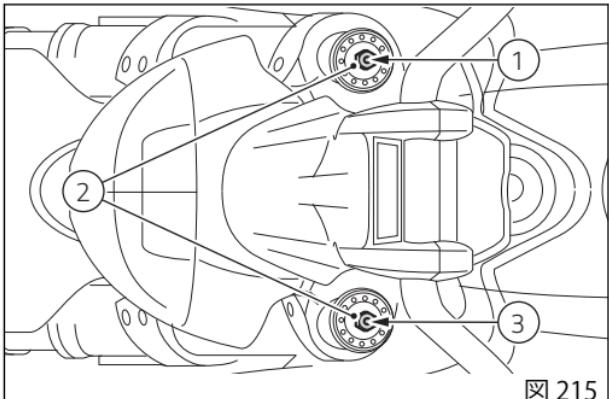


図 215

アジャスターをいっぱいに締め込むと"0"位置(すべて閉じた位置)になり、ダンピングが最強にセットされます。この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが"1"、"2"、…の位置に相当します。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、アジャスターを17 mm(0.67 in)の六角レンチで反時計回りに完全に回し、すべて開いた位置に合わせます。この位置からアジャスターを時計回りに回し、プリロードを調整します。

1回転がスプリングプリロード1 mm(0.04 in)に相当します。

標準設定は以下の通りです。-コンプレッション：-リバウンド：-スプリングプリロード：。

- コンプレッション(左レッグ)：-17クリック (すべて閉じた位置から)
- リバウンド(右レッグ)：-12クリック (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード：すべて開いた位置から4回転 (4 mm) (0.16 in)、2つの調整 (2) (左右) それぞれで行います。

パッセンジャーと荷物の最大積載時の調整：

- コンプレッション(左レッグ)：-12クリック (すべて閉じた位置から)
- リバウンド(右レッグ)：-8クリック (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード：+10回転 (すべて緩めた状態から)。



警告

アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバーアジャスター

リアショックアブソーバーアジャスター

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。リザーバータンクに設けられているアジャスター(1)は、コンプレッションダンピングを調整します。

アジャスター(3)はリアショックアブソーバー下側をスイングアームに固定する位置にあり、リバウンドダンピングを調整します。

アジャスター(1)または(3)を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

ショックアブソーバー上部の2個のリングナット(2)はスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。

下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。

すべて閉じた位置からの標準設定(時計回り)：

- リバウンド：アジャスター(3)をすべて閉じた位置から12クリック緩めます。
- コンプレッション：アジャスター(1)をすべて閉じた位置から12クリック緩めます。

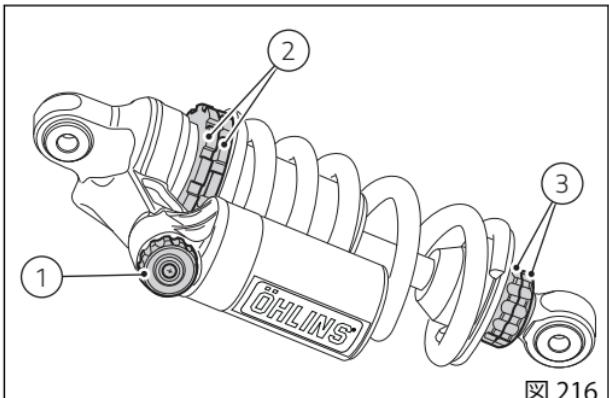


図 216

- スプリングプリロード：スプリングを完全に緩めた状態から $19 \pm 5 \text{ mm}$ ($0.75 \pm 0.2 \text{ in}$)

パッセンジャーと荷物の最大積載時の調整(推奨値)：パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整し、リバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのアジャスターを調整してください。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。

- リバウンド：すべて閉じた位置から6クリック緩めます。

- コンプレッション：すべて閉じた位置から 6 クリック緩めます。

リアショックアブソーバー調整の最大値

- リバウンド：すべて閉じた位置から 30 クリック
- コンプレッション：すべて閉じた位置から 20 クリック

警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスとオイルが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

運転の方法

急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
ドライブベルトは頻繁に点検を行ってください。

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン

最高許容回転数：

- 1) 1,000 km (621 mi) まで
- 2) 1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで

最初の 1,000 km (621 mi) まではタコメーターに注意し、5,500~6,000 rpm を決して超えないようにしてください。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km (61 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、

1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi)
この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

!**警告**

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください ("燃料の補給")。
- エンジンオイル量
クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要であれば補充してください ("エンジンオイルレベルの点検")。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
各フルードタンクのフルードレベルを点検してください ("ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検")。
- クーラント量
リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください ("クーラントの点検および補充")。
- タイヤコンディション
タイヤ空気圧と摩耗度を点検します ("タイヤ")。
- コマンド機能
ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。ランプが作動しない場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。
- ロック類
フィラープラグのロック ("燃料フィラープラグ") とシートのロック ("シートロック") を点検します。
- サイドスタンド
サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します ("サイドスタンド")。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (10、は点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h (3.12 mph) を越えた時点でランプ
が消灯して、ABS システムが正常に作動していること
を示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連
絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール(1)とリアフォニックホイール(2)が汚れていないことを確認します。

!**警告**

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時にはABSシステムがうまく機能しない場合があります。システムをOFFにしておくことをお勧めします。

!**警告**

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

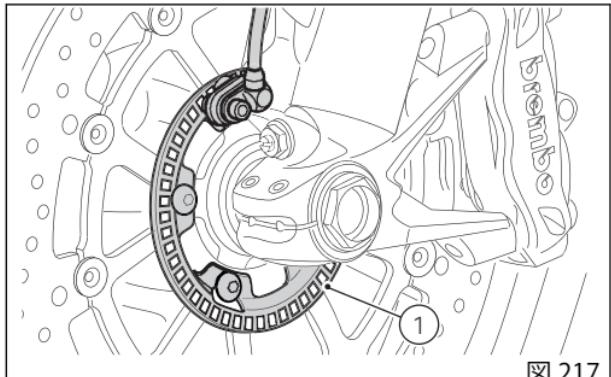


図 217

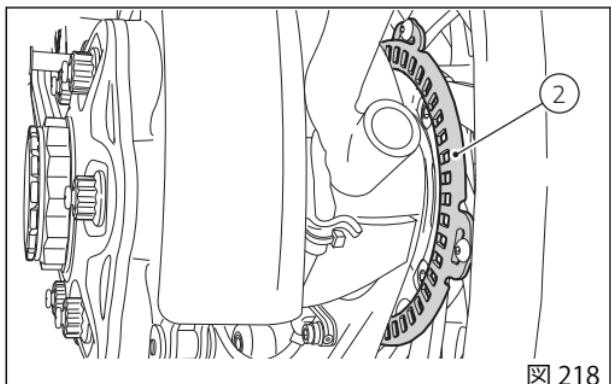


図 218

エンジンの始動 / 停止

警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

アクティブキーまたはパッシブキーがあることを確認します。ハンドル右側の赤色スイッチ(1)を上に動かして車両を "Key-ON" (Hands Free システムとすべての電子デバイスの起動) し、ボタン(2)を押します。インストルメントパネルは初期化と車載システムの点検を開始し、下から上の順に全ての警告ランプを数秒間点灯します。この点検の後、緑色のランプ(3)と赤色のランプ(4)のみが点灯します。

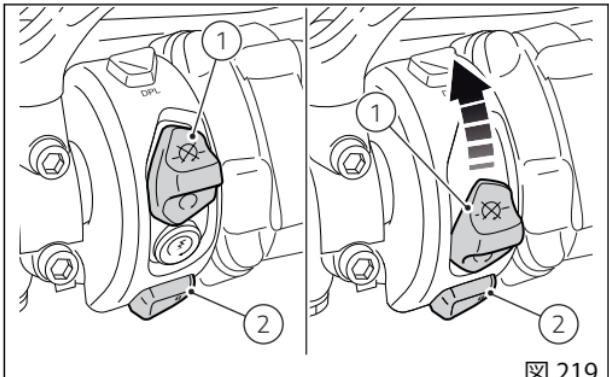


図 219

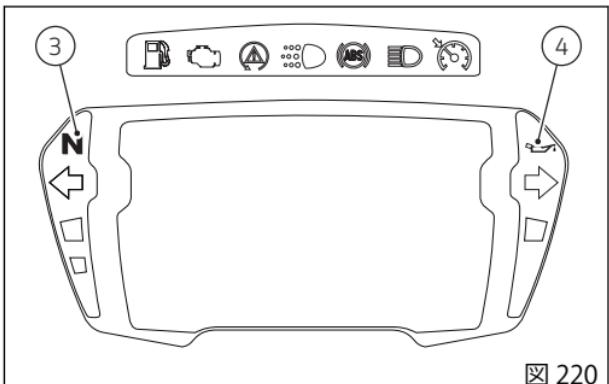


図 220

!**警告**

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

Key-ON してもエンジンを始動していない状態で 10 秒間アクティブキーが感知できないと、システムは自動的に Key-OFF します。

!**参考**

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

ボタン(5)が見えるように、赤色スイッチ(1)を上に動かします。ボタン(5)を押してエンジンを始動します。

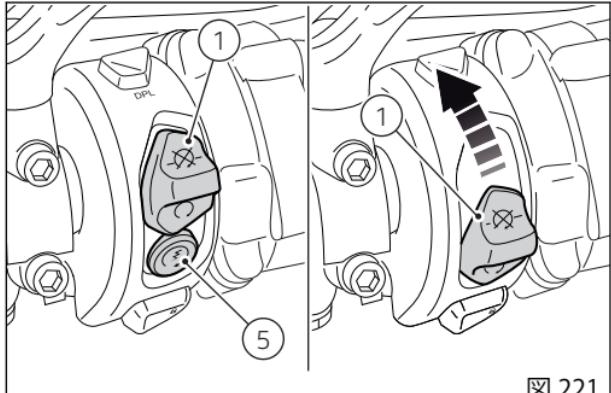


図 221

! 重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

オイル圧警告灯の赤色ランプ(4、図 220)はエンジン始動後数秒で消灯します。

ハンドルの赤色スイッチ(1)をRUN OFF に合わせてエンジンを停止します。Hands Free システムとすべての車載電子デバイスの起動については、「Hands Free システム」の章も参照してください。

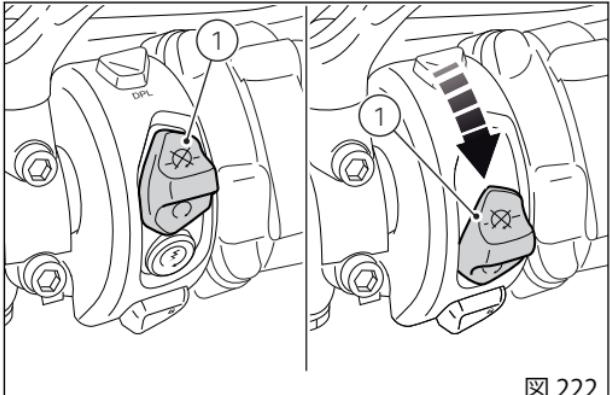


図 222



重要

Hands Free システムの正常な機能に影響を与える状況。

以下に記載する状況においては、リモコンが適切に機能しない場合があります。

- テレビ塔、ラジオ局、発電所、ガソリンスタンドなど強い電波を発する場所が近くにある時。
- 携帯ラジオや携帯電話などワイヤレス通信機器を持ち運んでいる時。
- 複数のワイヤレスキーが近くにある時。
- ワイヤレスキーに触れるか金属製の物におおわれた時。
- 電波を発するワイヤレスキーが近くで使用された時。
- パソコンなどの電気機器の近くにワイヤレスキーが置かれている時。

Hands Free ブロック (7) の位置。

アンテナ (6) の位置。

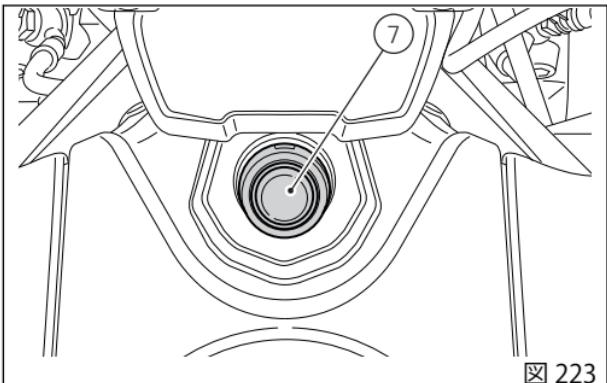


図 223

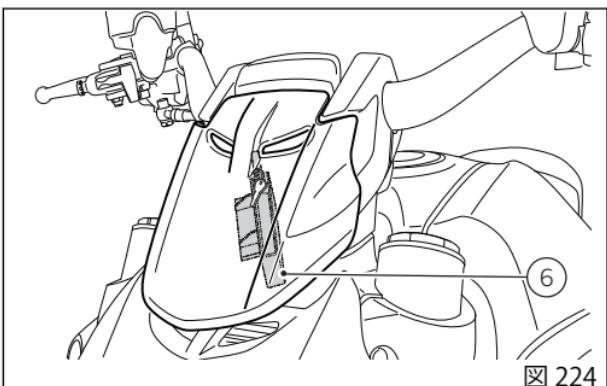


図 224

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。

続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Diavelが搭載するABSシステムは、車両を倒した状態においてもABS機能が作動する「コーナリング」機能も備えます。この機能は、車両の傾斜角度に応じてフロントブレーキとリアブレーキに作用します。車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で、車輪のロックおよびスリップを防止することを目的としています。

インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベルOFFを選択すれば、システムの解除が可能です。

警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。急激に過度の力を掛けてフロントブレーキコマンドを操作しないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります(ABS搭載の場合でも)。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱やベーパーロック(ブレーキフルードの過熱)を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

赤色スイッチ(1)を下に動かし、エンジンを停止します。

ボタン(2)を押して車両をKey-OFFします。

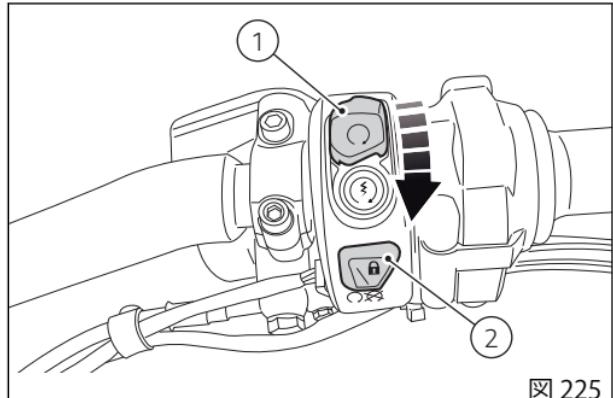


図 225

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。ハンドルを左か右にいっぱいに切ります。エンジンを切つてから60秒以内にこの動作を行うと、ステアリングロックを起動することができます。

ステアリングロックを起動させたい場合は、ステアリングを左か右にいっぱいに切った状態でボタン(1)を3秒間押し続けます。1秒後、インストルメントパネルには"KEEP PRESSED TO LOCK"のメッセージが2秒間表示され、その後ステアリングロックがかかります。3秒後にステアリングロックが正常にかかると、インストルメントパネルには"STEERING LOCKED"のメッセージが表示されます。

ロックがかからない場合は、ドゥカティ正規サービスセンターにご連絡ください。



警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

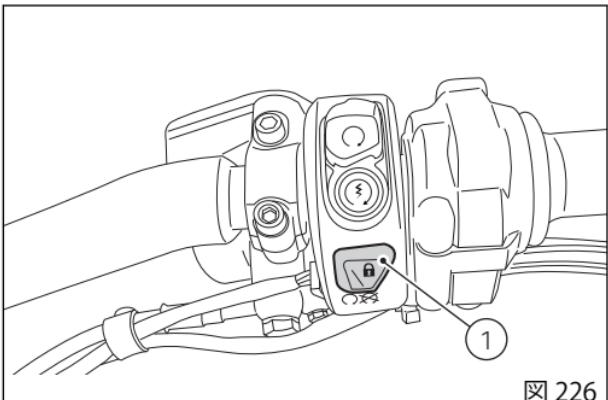


図 226



警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック(ディスクロック、リアスプロケットロック等)は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。

キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。

キャップを開けている時にシューという音が聞こいたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。

このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

! 警告

オクタン価が95以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

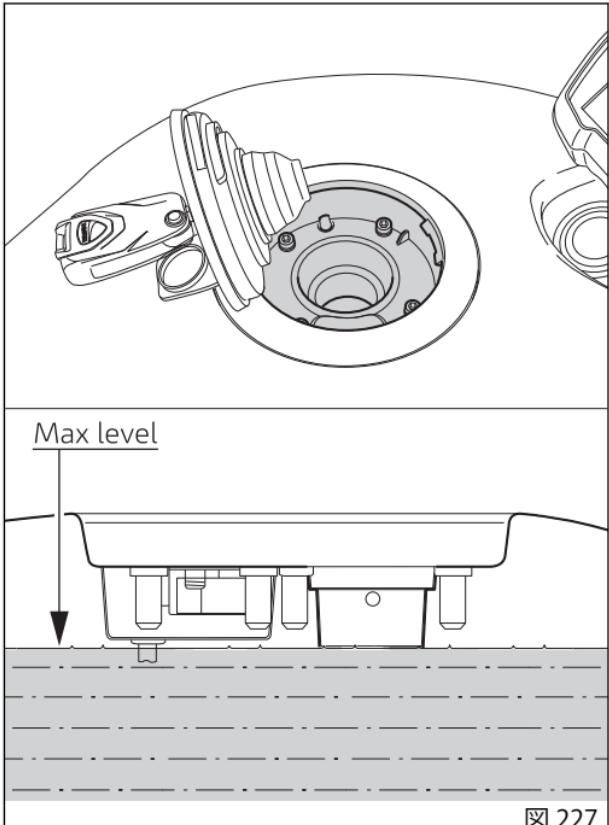


図 227



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

シート(1)の下には、以下の工具から構成されるツールキット(2)が装備されています。

- ヒューズ用ピンセット
- ドライバー
- ドライバーのハンドル
- パイプレンチ 14/16 mm (0.55/0.63 in)
- スパナ 8/10 mm (0.31/0.39 in)
- 六角レンチ 3 mm (0.12 in)
- 六角レンチ 5 mm (0.20 in)
- 六角レンチ 6 mm (0.24 in)

ツールキットを取り出すには、シート(1)を取り外します。

車両付属品：

- シートカバー

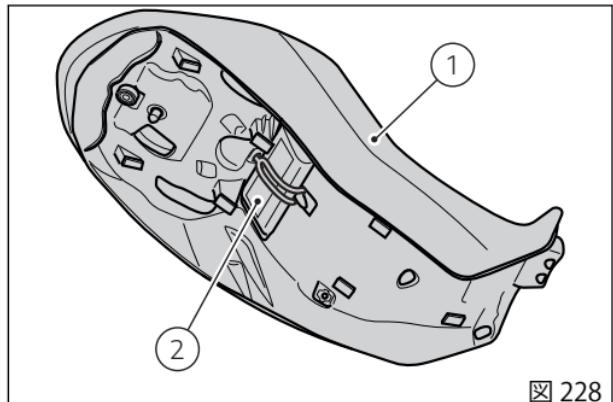


図 228

主な整備作業とメンテナンス

エアフィルターの交換



重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

リザーバータンク(1)は、フューエルタンクの下にあります。クーラントレベルが車両左側のタンク横に記載されているMINおよびMAXの目盛り間にあることを確認します。

目盛りを確認するには、ハンドルバーを右に回し、車両を完全に平らな場所に立てて駐車してから、図のように確認します。

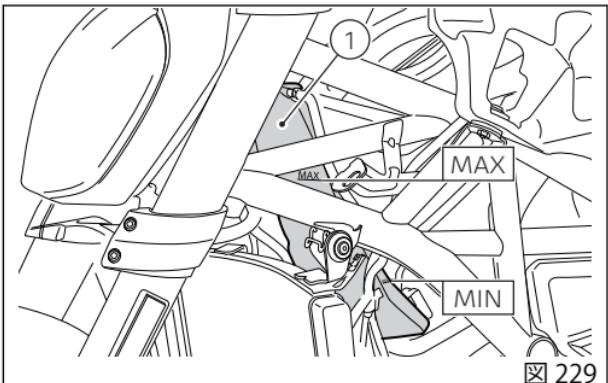


図 229

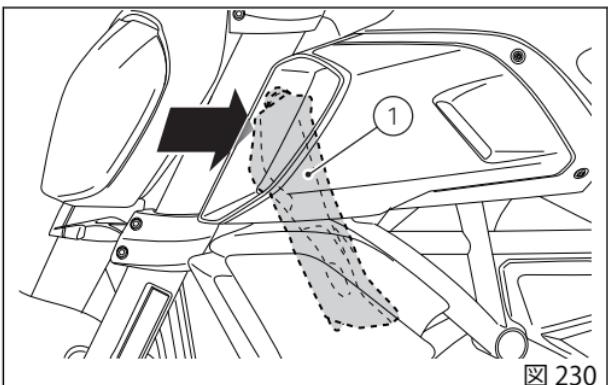


図 230

車両左側にあるリザーバータンクのフィラープラグ(2)を緩めて外し、不凍液ENI Agip Permanent Spezialを薄めずにMAXのレベルになるまで補充します。

キャップ(2)を閉めます。

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます(-20°C/-4°Fから凍結し始めます)。

冷却回路の容量：2.5 リットル (0.66 ガロン)

フィラーキャップ(2)の作業を行うには、ハンドルバーを左に回します。

!**警告**

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラントや蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあります。

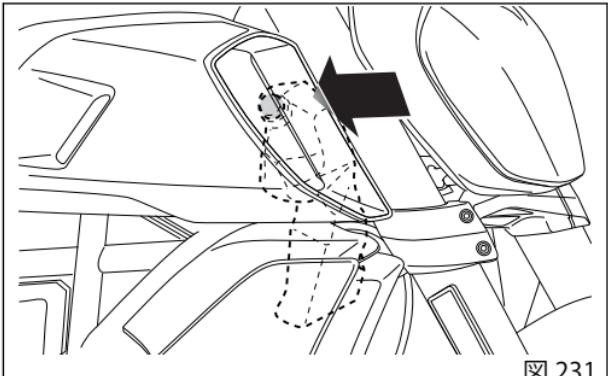


図 231

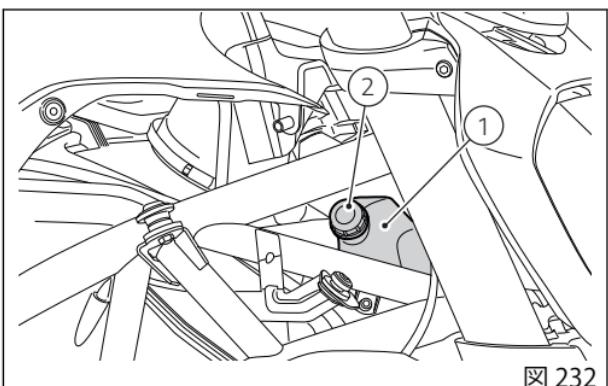


図 232

クラッチ/ブレーキフルードレベルの点検

フルードのレベルは、絶対にクラッチ(1)およびフロントブレーキ(2)の各タンクのMIN目盛以下になってはいけません。

一方、リアブレーキフルードタンク(3)では、レベルがMINおよびMAXの目盛り間にあることを確認します。

フロントブレーキフルードタンクおよびクラッチフルードタンクを(図233)に示します。

リアブレーキフルードタンクを(図234)に示します。フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

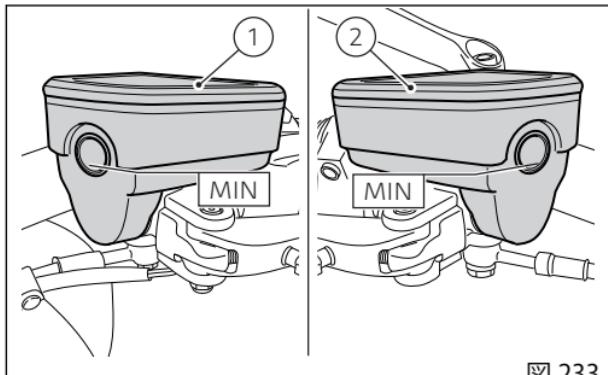


図 233

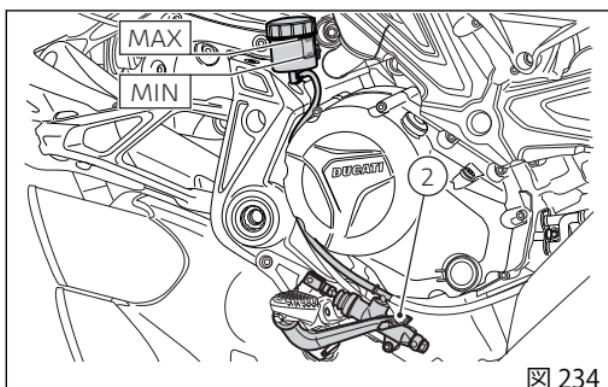


図 234

警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えるので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。

これらの液体は腐食性での損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノックングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください (最低レベルの 3 mm (0.12 in) 上)。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。

どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mm (0.04 in)になっている場合は、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

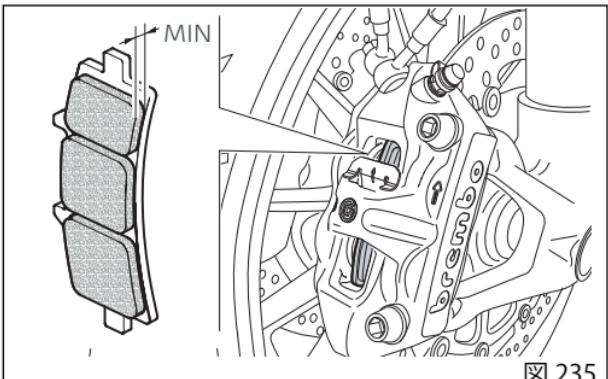


図 235

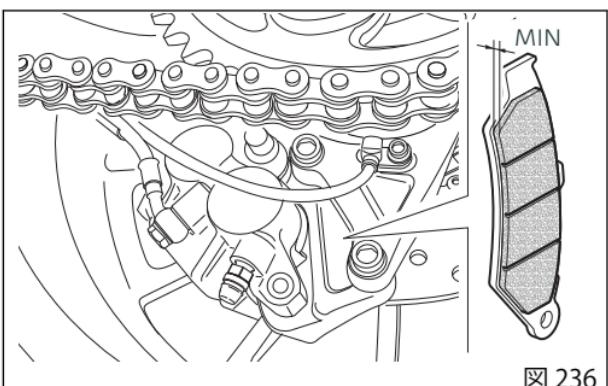


図 236

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。



重要

バッテリーはアンダーフェアリングに収納されています。バッテリーの取り外しについては、必ずDucati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

以下の手順でスクリューを緩めて外し、右アンダーフェアリング(A)およびエアコンベヤー(B)を取り外します。

- エレクトリカル部品ボックスにサイドを固定しているスクリュー(1)
- センターアンダーフェアリングに下部を固定している2本のスクリュー(3)
- センターアンダーフェアリングを右アンダーフェアリングに固定しているスクリュー(3)
- 前部固定スクリュー(4)。

クイックファスナー(C)を取り外します。

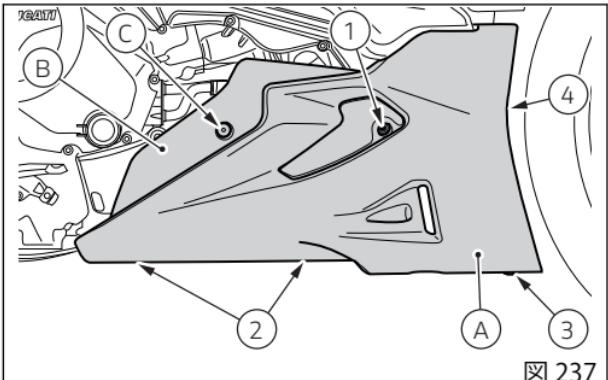


図 237

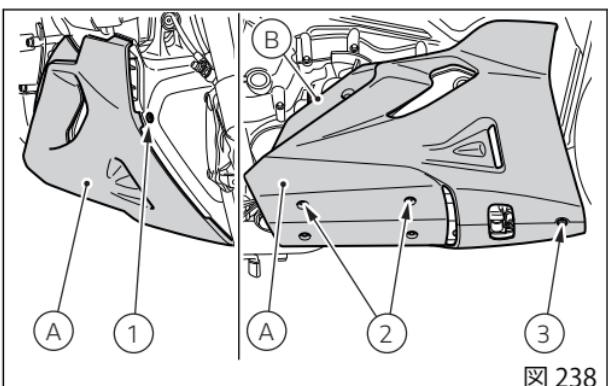


図 238

次に、2本のスクリュー(5)を緩めて外し、バッテリーマウントブラケット(6)を取り外します。

所定の収納位置からバッテリー(7)を抜き取り、2本のスクリュー(8)を緩めて外します。スクリューは必ずマイナス端子(-)を先に外してください。

陽極ケーブル(9)、ABS 陽極ケーブル(10)を陽極から、陰極から陰極ケーブル(11)を外します。



警告

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源から遠ざけてください。



警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーを 0.9A で 5~10 時間充電します。

充電は換気の良い場所で行ってください。

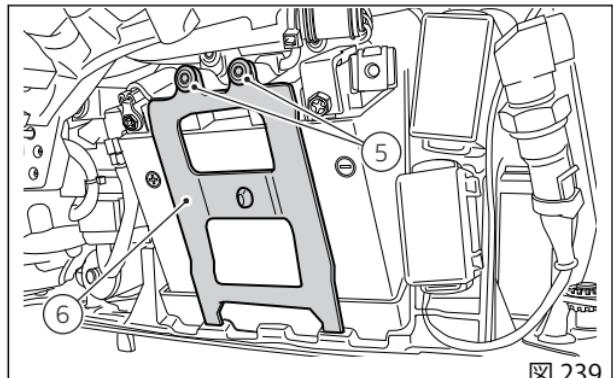


図 239

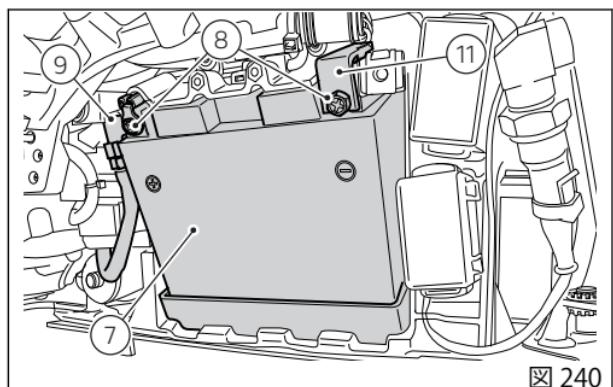


図 240

端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。

▲ 重要

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

ABSシステムのプラスケーブル(10)をプラスケーブル(9)の上に置き、スクリュー(8)をその上に差し込みます。

前もってABSケーブル(10)と組み立てておいた陽極ケーブル(9)をバッテリーの陽極に、陰極ケーブル(11)をバッテリーの陰極に接続し、スクリュー(8)を差し込みます。

電極の2本のスクリュー(8)を $4\text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付け、酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。

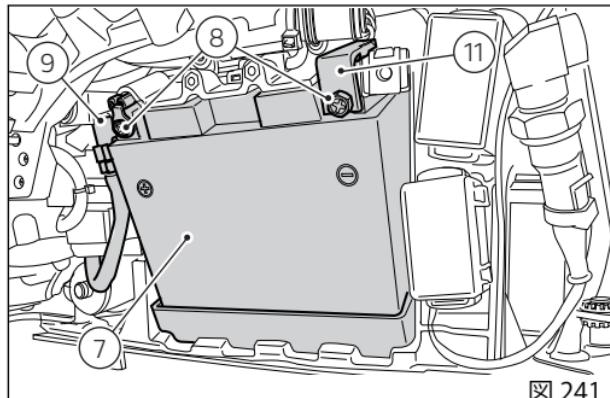


図 241

バッテリーマウントブラケット(6)の先端をエレクトリック部品マウント上の所定の位置(D)に挿入して取り付けます。

2本のスクリュー(5)を差し込み、 $5\text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

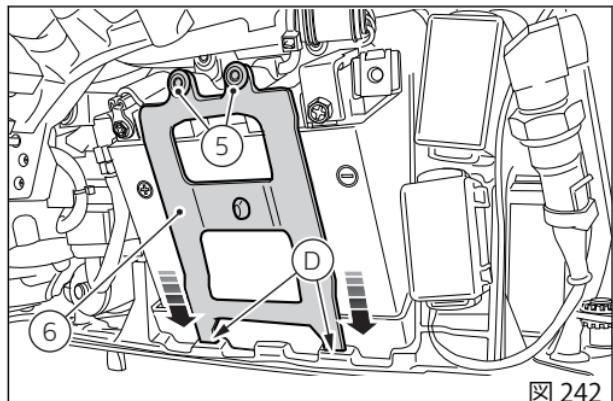


図 242

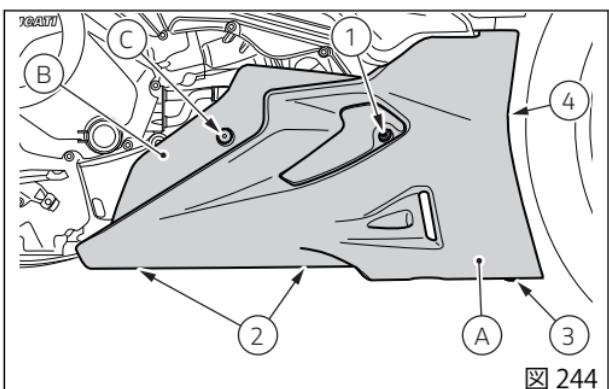
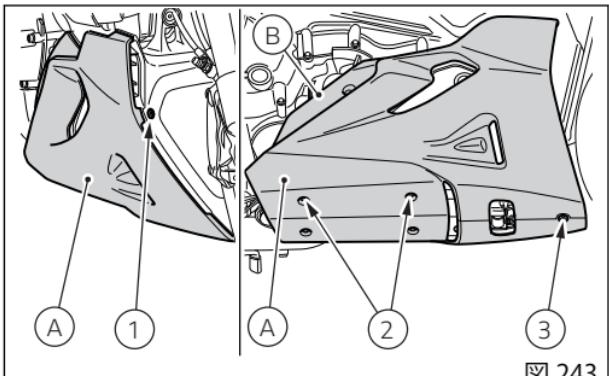
エアコンベヤー (B) および右アンダーフェアリング (A) を再度配置し、以下のように固定します。

- エレクトリカル部品ボックスにサイドを固定するスクリュー (1) を差し込みます。
- センターアンダーフェアリングに下部を固定するスクリュー (2) を差し込みます。
- センターアンダーフェアリングを右アンダーフェアリングに固定するスクリュー (3) を差し込みます。
- 前部固定スクリュー (4) を差し込みます。

スクリュー (1)、(2)、(3) を $4\text{Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

スクリュー (4) を $4\text{Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

クイックファスナー (C) を配置します。



バッテリー充電の維持

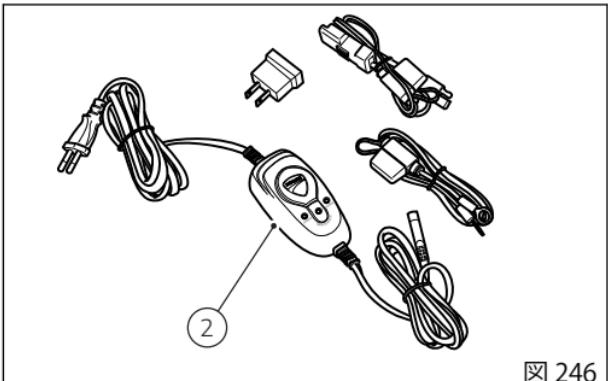
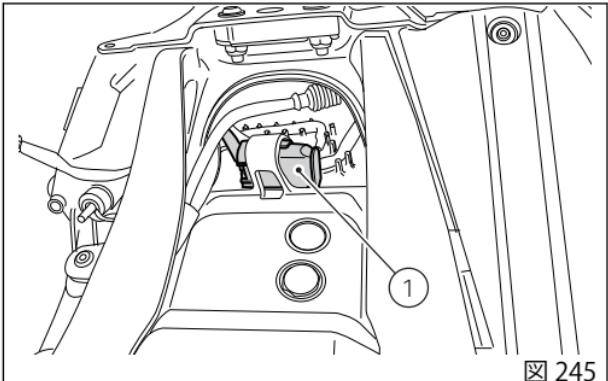
車両には所定の充電器(2)(バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A-多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX-日本、中国、オーストラリアのみ)を接続することができるコネクター(1)が装備されています。充電器は当社の販売店でお求めいただけます。



本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。



所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。





参考

車両を長期間使用しない場合は(およそ30日以上)、ドゥカティ純正バッテリーメンテナー(バッテリーメンテナーキット 部品番号: 69924601A(各国)またはバッテリーメンテナーキット 部品番号: 69924601AX(日本、中国、オーストラリアのみ))をご使用いただくことをお勧めします。ドゥカティ純正バッテリーメンテナーは内蔵エレクトロニクスが電圧をモニターし、最大1.5A/hの充電が可能です。メンテナーを車両後部に設けられた診断ソケットに接続します。



参考

Ducatiが認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなしが保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。

サイドスタンドで車両を支えて駐車します。

チェーンスライダーを固定するスクリュー (C) の前に測定ツールを置き、チェーンが止まった休止位置で、スイングアームに対して直角にピン (B) 中央のチェーンリンクまでの距離を測定します。

測定値は、 $A = 31 \sim 33 \text{ mm}$ ($1.22 \sim 1.30 \text{ in}$) でなければなりません。



重要

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

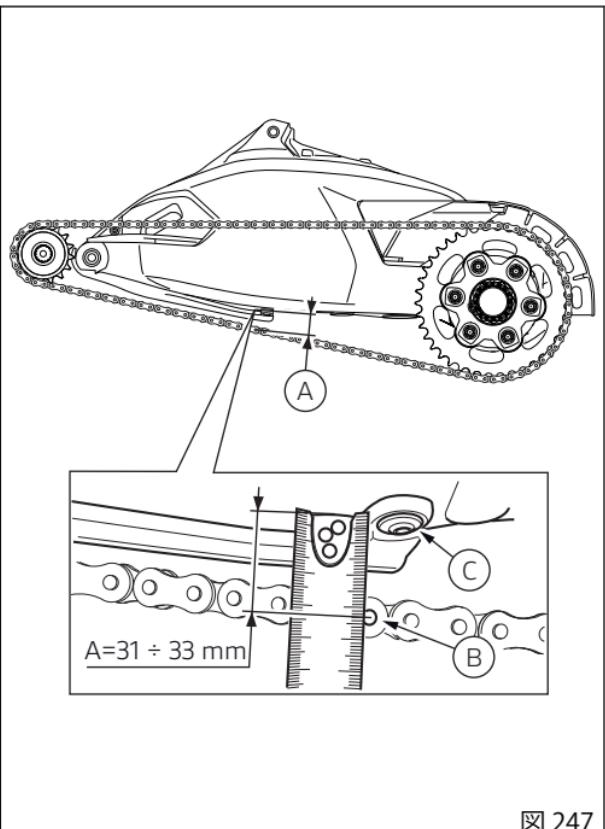


図 247



重要

ドライブチェーンが張りすぎている、もしくは緩みすぎている場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



重要

チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。



重要

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするために、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。



警告

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー(1)の正しい締め付けが重要です。

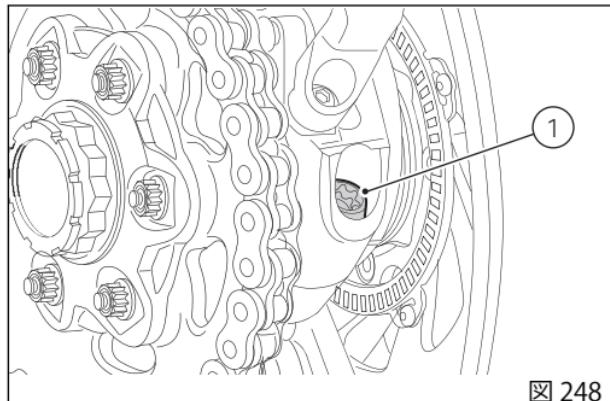


図 248

チェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つオーリングガスケット付きチェーンが装着されています。

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。



警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。



警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

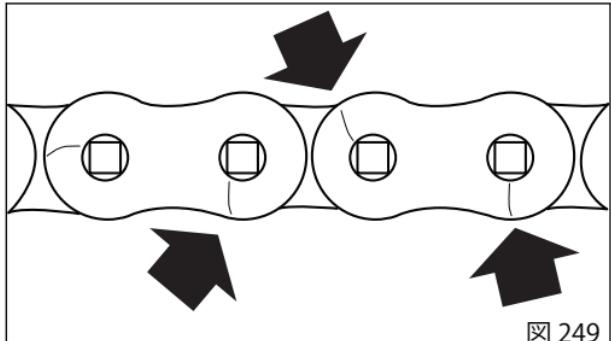


図 249

ドライブチェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

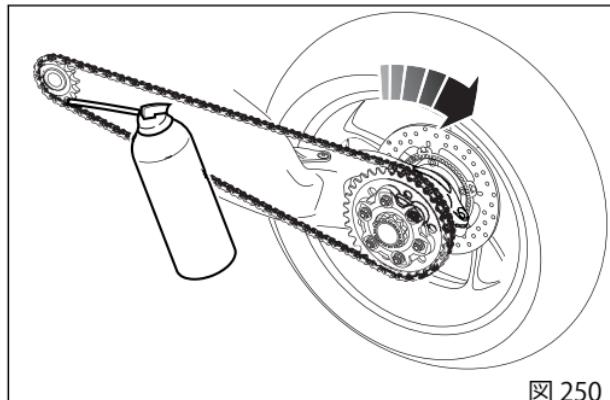


図 250

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所(2)で、潤滑剤(1)のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部(5)に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング(4)および外側のプレート(6)を潤滑します。

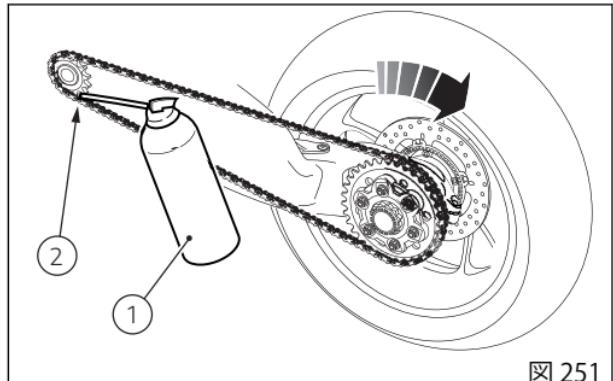


図 251

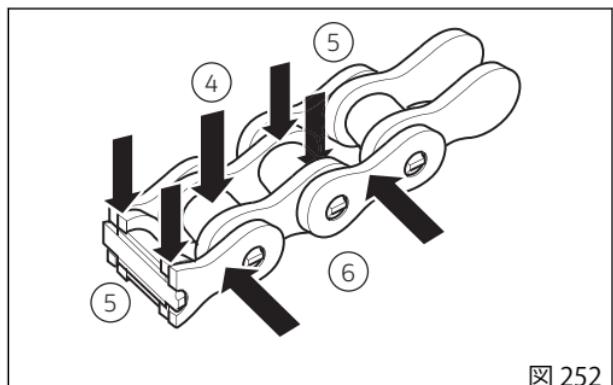


図 252

潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

!**重要**

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

!**重要**

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 毎に行ってください。外気温度が高い (40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁 (約 400 km (248 マイル) 毎) に潤滑を行ってください。

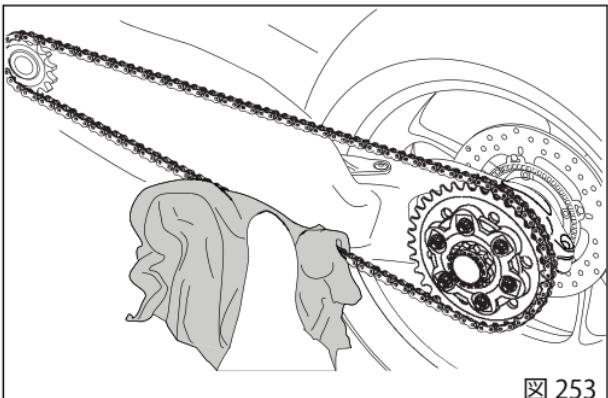


図 253

ハイビーム/ロービーム電球の交換

ヘッドライト

ヘッドライトにはすべて LED 電球が使用されています。

図にはロービームランプ(LO)、ハイビームランプ(HI)、パーキングランプ(1)の位置を示しています。ランプの電圧値および電力値は"エレクトリカルシステム"の項に記載されています。



重要

ヘッドライト電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

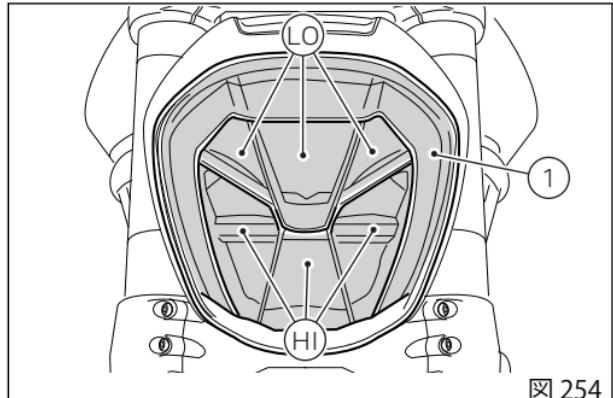


図 254

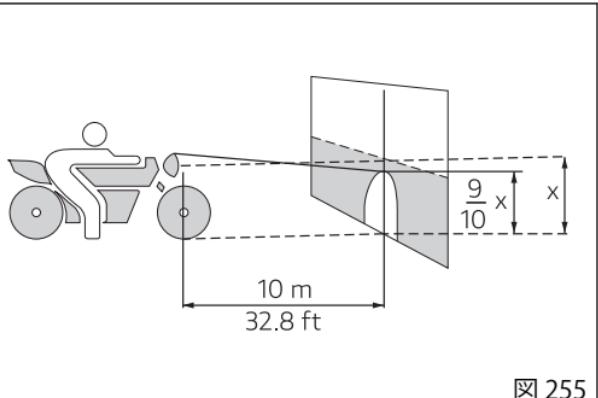
ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートル(32.8フィート)の場所で縦軸に対して垂直にして、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドラムプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。

この点検は薄暗い場所で行ってください。

ロービームを点灯します。

光の照射領域の高さ(暗い部分と照射部分との境界の上限)が、地上からヘッドラムプの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。



参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

垂直方向のロービームライト光軸調整はスクリュー(1)を操作して行います。垂直方向のハイビームライト光軸調整はスクリュー(2)を操作して行います。

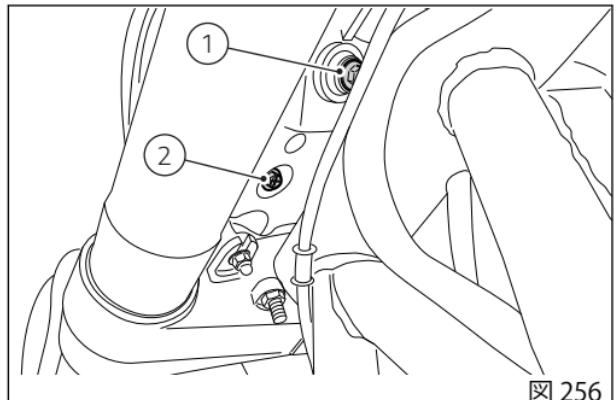


図 256

リアビューミラーの調整

ポイント(A)を押しながらミラーを手動で調整します。

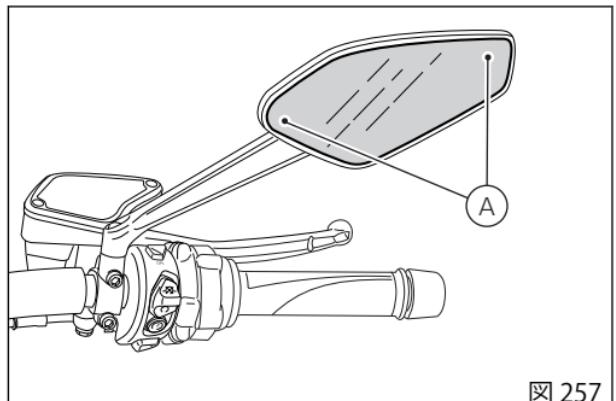


図 257

タイヤ

フロントタイヤ空気圧：

2.50 bar (250 kPa - 36.26 PSI) (ライダーのみ)

2.6 bar (260 kPa - 37.71 PSI) (タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方)

リアタイヤ空気圧：

2.50 bar (250 kPa - 36.26 PSI) (ライダーのみ)

2.9 bar (290 kPa - 42 PSI) (タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方)

タイヤの空気圧は外気温度や高度によっても変化します。

高度の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行ってください。

重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar (2.9 ~4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどのABSシステム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S、図 258) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

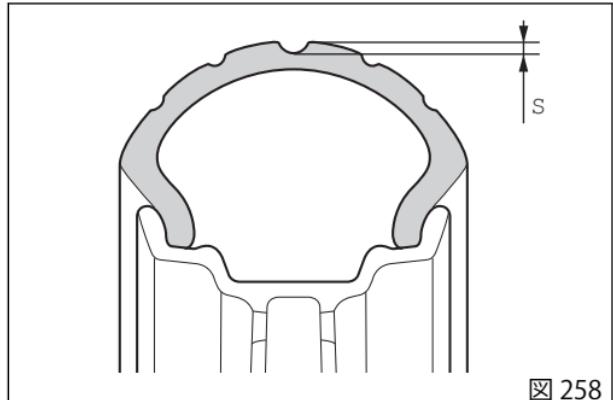


図 258

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社規定オイルはSAE 15W-50/JASO MA2のみで、推奨オイルはShell Advance 4T Ultra 15W-50(JASO: MA2、API: SN)です。

フィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

1) オイルレベル点検はエンジンが熱い状態で実施します。そのため少なくとも20~30分間走行した後すぐに実施しなかった場合は、もう一度エンジンを温める必要があります。

エンジンが冷めた状態であればエンジンを始動し、最低でもラジエーターファンが二回連続して作動するま

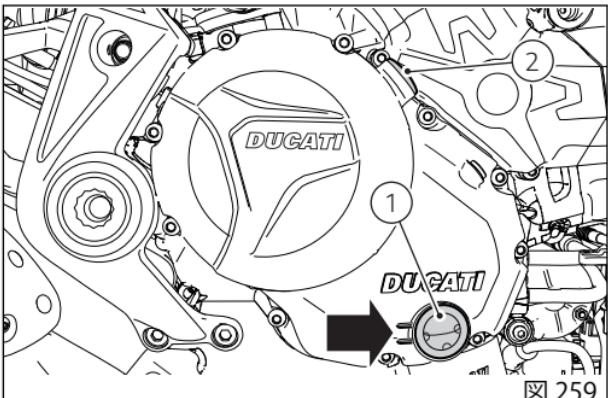


図 259

でエンジンを温めてください(エンジンオイルがオイル通路に沿って潤滑にオイルパンまで到達するには、オイルが熱くなければなりません)。

エンジンを温めている間は、車両をサイドスタンドで駐車していてもかまいません。

2) エンジンを停止し、オイルが完全にオイルパンに戻るまで10~15分待ちます。

3) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。

4) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。

5) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。

警告

MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

警告

可変バルブ機構を備える車両では、エンジンを停止した時に一定量のエンジンオイルがヘッドに滞留することがあり、完全にオイルパンに流れるまでにある程度の時間がかかります。これによりオイルレベルを正しく測定できないことがあります。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SN
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

点検を実施することで、エンジン動作が良好な状態であることを確認することができます。

スパークプラグの点検および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

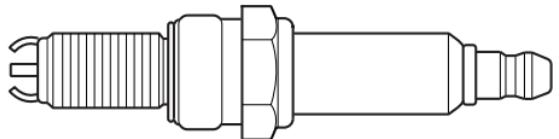


図 260

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

 研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

重要

 走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高压洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

 洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じことがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンターを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けしてください。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

参考

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。

結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。

車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、イスラエル等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

車両の運搬

別の車でモーターサイクルを運搬する前に、安全に関する以下の指示に従ってください。

- 1) 確実に固定されていない物やアクセサリーを車両から取り外してください。
- 2) 運搬に使用する車に対して真っすぐになるように前輪を進行方向に向けて配置し、前輪が動かないように適切に固定してください。
- 3) ギアを1速に入れてください。
- 4) 固定用ベルトを使用してください。固定用ベルトは硬い部品(フレームなど)の位置で固定するようにし、ハンドルバー(またはハーフハンドルバー、装備に応じる)や破損する危険のある部品(グリップ、リアビューミラーなど)には取り付けないでください。
- 5) ベルトやロープが車両の塗装部品をこすらないように取り付けてください。
- 6) 運搬中に路面からの振動に対する車両の動きが少なくなるように、可能であれば、サスペンションを部分的に圧縮された位置に設定してください。

ロープをハンドルバーに固定しないでください。

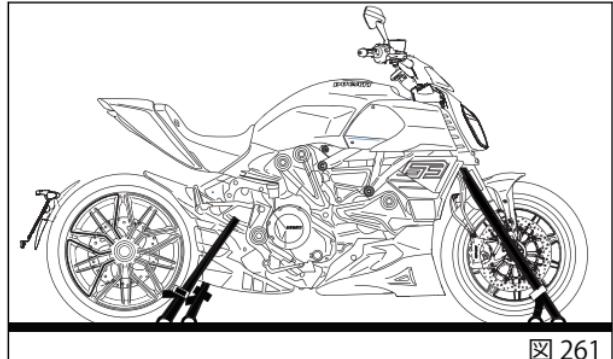


図 261

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイルx1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
DDS 2.0による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインタークフィルター清掃	●						-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
ウォーターポンプベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	-
ヘッドの金属メッシュフィルター付きキャップの清掃						●	-
エアフィルターの清掃			●		●		12
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●		12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	-
ホイールハブベアリングの点検				●		●	-
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ摩耗点検(チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット)			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	-
フロントフォークオイルの交換					●		-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検(装備している場合)		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検				●		●	-
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
クーラントレベルの目視点検、冷却回路の密閉状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
電気安全装置の作動点検(サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
安全装置 (ABS、DTCなど)、クルーズコントロール装置、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類(サービスブック)への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス



重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
月	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠) : 246 kg (542.34 lb)
車両重量 (液体類、バッテリーを含まない) : 220 kg (485.02 lb)
車両総重量 (最大負荷重量) : 440 kg (970 lb)

! 警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

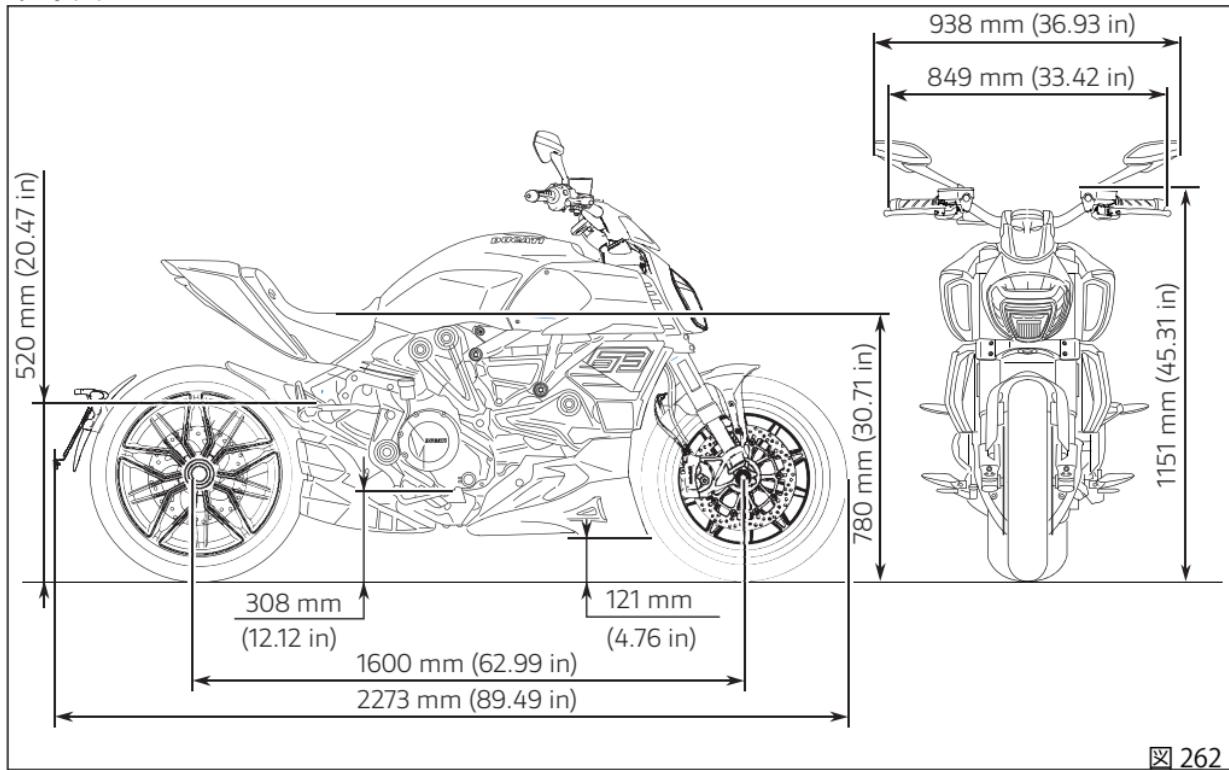


図 262

補給

補給

タイプ

燃料タンク、リザーブ 4 リットル (0.88 オクтан価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL 17 リットル UK ガロン) を含む	V-Power を使用してください。	(3.74 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ -	ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/ JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、 API : SN) です。	4.2 リットル (0.92 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッ チ	-	-
電極保護液	配線用スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	648 cc (39.54 cuin) (各レ ッグ)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めず に使用)	2.5 リットル (0.55 UK ガロン)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

ドゥカティテスタストレッタ DVT 1262、L型二気筒、シリンダー当たりバルブ4個、デュアルスパーク、水冷式、デスマドロミック可変タイミングシステム。バイパスバルブ内蔵ギア式オイルポンプおよびオイルクーラー。

ボア：106 mm (4.17 in)。

ストローク：71.5 mm (2.82 in)。

総排気量：1,262 cm³ (77.01 cuin)

圧縮比：13.1±0.5:1

クランクシャフト最高出力、規制(EU)No.134/2014
添付X、kW/HP：

116.7 kW / 158.7 HP / 9,500 rpm

クランクシャフト最高出力、規制(EU)No.134/2014、
添付X、kW/HP、ベルギー/フランスバージョンの
み：

74 kW / 100.6 HP / 6,500 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制(EU)No.134/2014

添付X：

129.2 Nm / 13.2 Kgm / 7,500 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制(EU)No.

134/2014、添付X、ベルギー/フランスバージョンの
み：

123.6 Nm / 12.6 Kgm / 4,500 rpm

最大回転数：10,300 rpm



重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。



参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

潤滑システム

バイパスバルブ内蔵ギア式オイルポンプおよびオイルクーラー。

タイミングシステム

デスマドロミックシステム：シリンダーごとに4本のバルブを、8本のロッカーアーム(4オープニングロッカーアーム、4クロージングロッカーアーム)と吸排気ともに可変タイミング機構(DVT)を搭載する2本のカムシャフトが制御。スペーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

デスマドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング(アップ) ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング(ロア) ロッカーシム
- 4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング(ロア) ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ
- 8) 可変タイミング機構
- 9) アクチュエーター

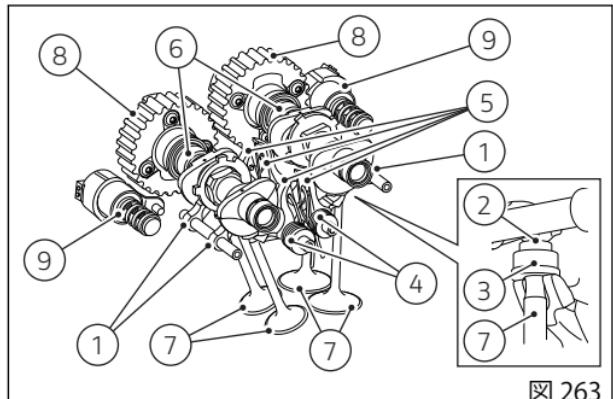


図 263

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK

タイプ：MAR9A-J

燃料供給

BOSCH 製エレクトロニックインジェクションシステム。

スロットルボディタイプ：フルライドバイワイヤシステムを備えた橙円タイプ Ø56 mm (2.20 in)

スロットルボディ直径：56 mm (2.20 in)。

シリンダーごとのインジェクター数：1

インジェクター孔数：10

ガソリン燃料：95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキの ABS (アンチロックブレーキ) システムは「コーナリング Evo」機能も備え、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ディスク径：320 mm (12.59 in)。

ハウジング材質：黒色ステンレス

ディスク厚：4.5 mm (0.18 in)。

ディスクの摩耗限界：4 mm (0.16 in)。

ディスクブレーキング面積：263 cm² (40.77 in²)

ハンドルバー右側レバーによる油圧制御、レバーとグリップとの間隔調節用アジャスター付き。

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO

フロントブレーキキャリパータイプ：M4.32モノブロッククラジアルマウント

キャリパーのピストン数：4

キャリパーピストン径：Ø32 mm (1.26 in)

キャリパーパッド材質：TOSHIBA TT 2182 FF

ブレーキレバーポンプシリンダー径：18 mm (0.71 in)。

リア

穴あき固定ディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ディスク径：265 mm (10.43 in)。

ディスク厚：6 mm (0.24 in)。

ディスクの摩耗限界：5.4 mm (0.21 in)。

ディスクブレーキング面積：220 cm² (34.1 in²)

車体右側ペダルによる油圧コントロール

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO

リアブレーキキャリパー：2ピストン

キャリパーのピストン数：2

キャリパーピストン径：Ø30 mm - Ø32 mm (1.18 in - 1.26 in)

ポンプタイプ：PS13

ポンプ径：13 mm (0.51 in)。

ブレーキパッド材質：TOSHIBA TT 2182 FF



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。

万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスマッision

湿式多板クラッチ、油圧式制御、プログレッシブセルフサークル機構およびスリッパークラッチ機構付

スパーギア付きトランスマッision (ギア比 1.84:1)

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/43

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：
33/61

トランスマッision：6速ギア、ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/DOWN EVO

変速比：

1速 37/15

2速 30/17

3速 27/20

4速 24/22

5速 23/24

6速 22/25

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー：DID 525 HV3

リンク数：112

重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

本車両の競技用仕様への変更をご希望のお客様には、Ducati モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報をご提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与えるおそれがあります。

フレーム

スチール製トレリスピップフレーム。

キャスター角：27°

ステアリングアングル：左側 34° / 右側 34°

トレール：120 mm (4.72 in.)

ホイール

フロント

Electron Gold 軽合金鍛造リム

寸法：3.50" x 17"

リア

Electron Gold 軽合金鍛造リム

寸法：8.00 x17"

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：120/70-ZR17 M/C (58W) TL

メーカーおよびタイプ：Pirelli Diablo Rosso III

リア

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：240/45-ZR17 M/C (82W) T

メーカーおよびタイプ：Pirelli Diablo Rosso III

サスペンション

フロント

メーカー：Ohlins。

Ø48 mm (1.89 in) 油圧式倒立フォーク、TiN コーティング、リバウンド/コンプレッションダンピング調節可

フロントホイールトラベル：120 mm (4.72 in.)

リア

メーカー：Ohlins。
リバウンド/コンプレッションダンピングとスプリングプリロードが調整可能なフルアジャスタブル
ストローク：62.5 mm (2.46 in)。
リアホイールトラベル：130 mm (5.12 in)。

エキゾーストシステム

エキゾーストパイプおよびステンレス製デュアルサイレンサー。

ラムダセンサー：2

触媒コンバーター：2

カラーバリエーション

フレーム

- パウダーベース グレー：Akzo Nobel EP050V
- ベース Elektron ゴールド：PPG *0367
- マットクリア：PPG D8115

ホイールリム

- パウダーベース グレー：Peter Lacke P09809-C
- ベース Elektron ゴールド PPG *0367
- パウダークリアーマット：PPG PCAT19101

小物入れ

- ホワイトベース：Palinal 873AC001
- ベース Elektron ゴールド PPG *0367
- マットクリア：PPG D8115

サイドフューエルタンクカバー(スチール)

- ベース グレー：PPG D821
- ベース Gea グリーン：PPG *0366
- マットクリア：PPG D8115
- グラフィック入りカーボン製フェアリング**
- パウダークリアー：Tiger 250/00113
- グロッシークリア：PPG D880
- ベース グレー：PPG D821
- ベース Gea グリーン：PPG *0366
- マットクリア：PPG D8115
- 見えるカーボンフェアリング**
- パウダークリアー：Tiger 250/00113
- グロッシークリア：PPG D880

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

密閉型バッテリー：

12V 10Ah

ジェネレーター：

14V 490W 35A

電子レギュレーター：

30A ヒューズで保護

ヘッドライト

ロービーム LED 電球タイプ：LED (13.5V - 24.3W) 4

個

ハイビーム LED 電球タイプ：LED (13.5V - 18.9W) 5

個

パーキングランプ LED タイプ：LED (13.5V - 6.2W) 5

個

ターンインジケーター

フロントターンインジケーター：LED (13.5V - 4.7W)

リアターンインジケーター：LED (13.5V - 2.06W)

ハンドルバースイッチ

テールランプ

パーキングランプ：(13.5V - 0.3W)

LED ストップランプ：(13.5V - 1.4W)

ナンバープレートランプ：LED (13.5V - 0.7W)

テールランプ

パーキングランプ：(13.5V - 0.3W)

LED ストップランプ：(13.5V - 1.4W)

ナンバープレートランプ：LED (13.5V - 0.7W)

インストルメントパネル

インストルメントパネル：3.55 inch

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはアッパーヒューズボックスとロアヒューズボックス内に13個、スターターコンタクター上に1個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズ(S)があります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

アッパーヒューズボックス(A)およびロアヒューズボックス(B)はエレクトリック部品ボックスの右側、バッテリー横に設けられています。

ヒューズボックスで作業を行うには、右アンダーフェアリングを取り外します。取り外し手順は「シートロック」の章をご覧ください。

ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

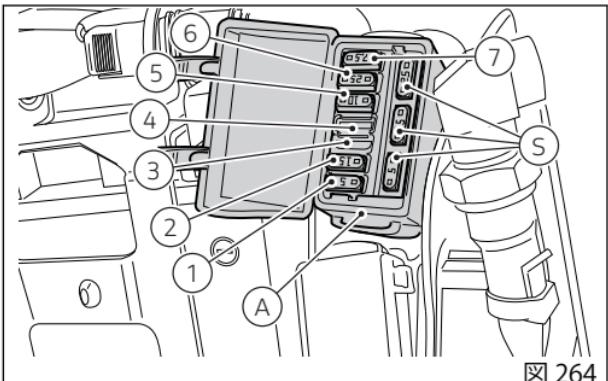


図 264

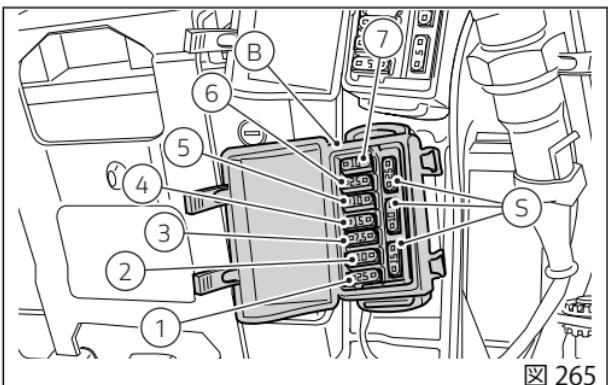


図 265

アッパーヒューズボックス凡例 (A)		
配置	保護装置	容量
1	KEY EMS / ABS / IMU	5 A
2	KEY DSB / BBS	15 A
3	-	-
4	-	-
5	KEY アクセサリー	10 A
6	+30 Hands Free	25 A
7	+30 診断 / 充電	7.5 A

ロアヒューズボックス凡例 (B)		
6	+30 ABS UBMR	25 A
7	+30 ABS UBVR	10 A

ロアヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
1	+30 EMS LOAD リレー	25 A
2	+30 フューエルポンプ リレー	10 A
3	+30 スターターリレー	7.5 A
4	+30 インストルメント パネル	15 A
5	+30 Black Box システム (BBS)	10 A

メインヒューズ(C)(30A)はスターターコンタクター上に設置されています。

メインヒューズを交換するには、保護キャップを取り外してください。

切れたヒューズは、インナーフィラメント(F)が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすことがあります。

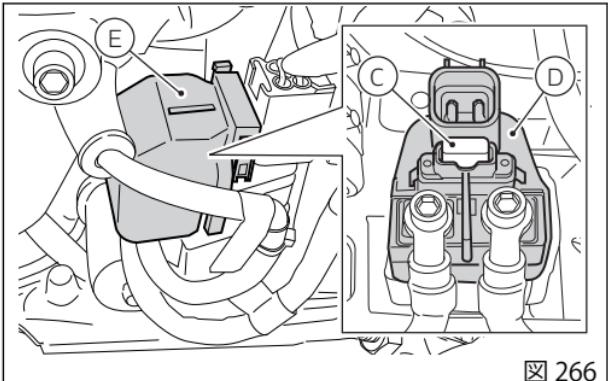


図 266

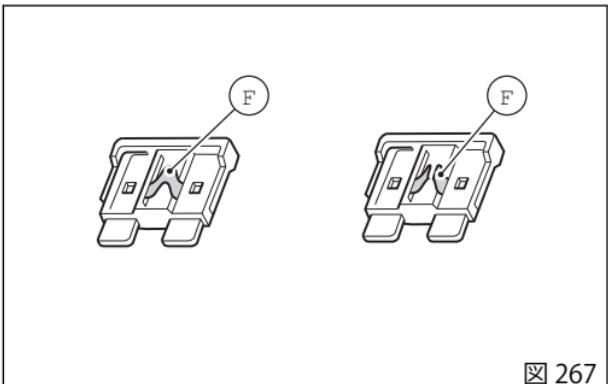


図 267

定期点検メモ

定期点検メモ

キロメートル	マイル	ドゥカティサービス名	走行距離	日付
1,000	600			
15,000	9,000			
30,000	18,000			
45,000	27,000			
60,000	36,000			

A standard linear barcode consisting of vertical black bars of varying widths on a white background.

91375191JA



Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG